

第3章 発掘・確認・立会調査

I 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業 発掘調査

- 1) 県庁構内委員会室棟改築工事
- 2) 県庁構内前庭地点
- 3) 別館改修工事本館一別館間渡り廊下基礎撤去
- 4) 県庁舎耐震化等整備事業（防災新館北側・東側）
- 5) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内東門周辺地点）
- 6) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内西門周辺地点）

第3章 発掘・確認・立会調査

I 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業 発掘調査

1-1) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業 県庁構内委員会室棟改築工事に伴う確認調査

調査地点：県庁構内委員会室棟 調査期間：平成24年5月28日～平成24年6月1日

調査面積：7m² 調査担当者：今福利恵・御山亮済

県庁構内委員会室棟は、甲府城内においては楽屋曲輪の東端にあり、月見櫓台下の西側に該当する。江戸時代の絵図によると湯が湧いていたと想定される場所である。昭和6年に県庁舎が現在の場所に建設される前には、明治33年から甲府中学校が建っており、調査区は甲府中学校の敷地内とも重複する。

発掘調査を実施するにあたり、委員会室棟の外周にある幅約3mの植栽帯の南側・東側・北側を対象として、建物に直行するように1～7号の試掘坑（第19～21図）を設定し確認調査を行った。

建物南側の3箇所の試掘坑について、1号試掘坑では、土管理設等の攪乱はあるものの地表面下約50cmに甲府城期の旧地表面が存在しており、瓦が出土する包含層が約30cm堆積していた。

2号試掘坑では、雨水枠や土管等が埋設されており、ほぼ全面が攪乱された状況であった。3号試掘坑では、溝とU字溝による電気配線が認められたが、これ以外では地表面下約50cmに甲府城期の旧地表面が存在し瓦等が出土した。

建物東側では、二箇所に試掘坑を設置した。4号試掘坑は、雨水枠やU字溝電気配線等がほぼ全体にわたって認められた。5号試掘坑では、中央部にU字溝と石板蓋による電気配線、鉄管等が認められたが、試掘坑の東側と西側では地山が残されていた。明確な遺物の包含層は確認されなかった。

建物の北側では2箇所に試掘坑を設置した。6号試掘坑では、現地表下130cm程掘り下げたが、攪乱層が続いている。この試掘坑の南側で一部に石敷きによる整地層がみられたが、その直上はガレキがあり近代以降のものと思われる。7号試掘坑では、現地表から150cm以上掘り下げ、一部に地山層が認められるものの、ほぼ攪乱層が続いていた。

確認調査の結果、委員会室棟南側は電気設備等の攪乱が存在しているものの、厚さ約30cmの瓦を含む**遺物包含層**が残っていることから**発掘調査による記録保存が必要である**と判断し、東側については立会調査、北側については保護措置不要にて対処することとした。

1-2) 県庁構内委員会室棟改築工事に伴う 1次発掘調査

調査地点：県庁構内委員会室棟 調査期間：平成25年1月21日～2月20日 調査面積：約136m²

調査担当者：今福利恵・御山亮済

県庁舎耐震化等整備事業の一環として県庁構内委員会室棟改築工事に伴う1次発掘調査を実施した。

1月21日に重機による表土剥ぎを実施し、翌22日より人力による掘り下げを開始した。作業により生じた堆土は場内にて処理し、2月18日に人力による掘り下げ作業および重機による埋め戻し作業を終了し、2月20日までに機材等を撤収して現場での作業を終了した。

表土剥ぎでは、試掘調査の結果より現地表面から約50cmまで重機による掘削を実施し、以下、人力による掘り下げを行った。江戸期の甲府城を含む瓦が多量に出土したほか、近代の土間状地盤、石組み水路2条、溝1条、瓦溜りを検出した。その他、陶管列4条、雨水枠1基、鉄管1本、配線U字溝2条等の現代のインフラが見られた。

瓦溜りなどから出土した瓦は甲府城期のものを含むが、近代以降に帰属するものも多く見られた。水路や溝などは甲府城期の遺構を近代以降に利用している可能性もあるが、**今回の発掘調査では甲府城期と明確にわかる遺構は確認できなかった**。

土間状地盤は地表面直下の黒色土層の下にあり、ピンク色の堅緻な地盤で、調査区東端部にて検出された。地盤の表面からは近代に帰属すると思われる瓦や磁器が出土しており、明治期以降の地表面と思われる。2条の石

組み水路は約 8m の間隔で南北方向に 2 列平行して見られた。この水路は陶管により接続されており、水路内には同様の竹樋が検出されたことから同時期に設置されたものと思われる。深さ約 15cm の溝は 1 号石組み水路の約 2m 西側にあり、南北方向で検出されている。溝内には径 20cm 程度の礫が大量に投棄されて埋め戻されていた。溝南端部には地山を旧地表面より約 80cm の深さまで掘り込まれた土坑があり、溝内に投棄された礫の隙間に土坑内には粘土が堆積していたが、時期・性格は不明である。

これらの遺構を検出した旧地表面では、広範囲にわたり瓦の堆積が確認されたが、瓦は細かい破片となったものが多く、明治期以降に人為的に瓦を碎いて敷設したものと思われる。

今回の発掘調査で出土した瓦は甲府城期のものを含むが、近代以降に帰属する瓦も多く見られた。2 列の石組水路は甲府城期に構築されたものを再利用した可能性もあるが、今回の発掘調査では、甲府城期と明確にわかる遺構は確認できなかった（第 22 ~ 25 図）。

出土遺物は瓦が大半を占め、その他陶磁器類などプラスチックコンテナ収納箱 20 箱（推定重量約 500kg）である。



2月12日 調査風景



2月14日 西から東方向



2号石組み水路



1号石組み水路

1.3) 県庁構内委員会室棟改築工事に伴う 2次発掘調査

調査地点：県庁構内委員会室棟 調査期間：平成 26 年 2 月 12 日～3 月 24 日 調査面積：約 160m²

調査担当者：今福利恵・塩谷風季

2 次発掘調査区は、平成 24 年度の 1 次発掘調査地点のすぐ北側の委員会室棟直下である。確認調査の成果を踏まえて遺物包含層が残っている可能性のある土間状範囲を対象に約 160m² の調査を行った。2 月 12 日に重機による表土剥ぎを実施し、同月 13 日より人力による掘り下げを開始した。作業により生じた排土は場内にて処理し、3 月 20 日までに人力による掘り下げ作業を終了し、3 月 24 日までに機材等を撤収して現場での作業を終了した（第 26、27 図）。

地表面直下の表土は、近現代の陶磁器類やコンクリート塊がみられる黒色土層である。この表土を掘り下げる

と、遺物包含層の暗褐色砂質土であり、石敷き遺構の直上は黄色砂が約5cm堆積しており、調査区内ではピンク色の堅緻地盤が検出された。

調査の結果、1段の石積み列4列（H25石列1～4）と石敷き遺構1基、石列による水路1列（H25-1号溝）、溝状遺構2条（H25-2～3号溝）、瓦溜りを検出した。石積み列に囲まれたところで石が敷き詰められた石敷き遺構がており、そこに南西側へ向かう石列の水路がつくられていた。石積み列には水平方向の黒色付着物がみられ、水路とあわせて水場に関する遺構と思われる。実際は周囲に広がっていたものと思われるが、旧委員会室棟により削平されていたため全体像は明らかではないが、江戸時代の絵図との照合では湯が出る場所にはほぼ一致し、温泉に関する遺構の可能性がある。また当該地からは瓦や陶磁器片を中心とした遺物が出土している。石敷き遺構は素材に円礫や角礫を用いているが、共通して平らな面が上になるように配されている。**最大長約15m**だが、前記したように、旧委員会室棟によって削平されているため一部が残存していたものである。石列の水路（H25-1号溝）は全長約12mで北東から南西方向に平行して検出されているが、**北東側は岩盤をV字状に掘り、中間部は2列の石列で水路をつくり、南西側は岩盤を利用して水路としている。**覆土中からは近代の遺物は混入しておらず、**帰属時代は甲府城期であると想定される。**溝状遺構内には陶管とその直下から細い針金が巻かれた竹管（樋）が南北方向に検出されており、明治期以降に設置されたものであると想定される。

今回の発掘調査で出土した瓦は甲府城期のものを含むが、溝状遺構は甲府城期に構築されたものを再利用した可能性もある。出土遺物は瓦が大半を占め、その他陶磁器類などプラスチックコンテナ収納箱25箱（推定重量500kg）である。

平成26年3月17日に、県文化財保護審議会史跡部会の委員に出土遺構について、埋蔵文化財センターの発掘調査担当者が説明を行った。



石敷き遺構



H25-1号溝



石積み列（H25石列1）に残された黒色付着物



石積み列（H25石列2）に残された黒色付着物



史跡部会委員への遺構説明



石敷き遺構（西から東へ撮影）

1-4) 県庁構内委員会室棟改築工事に伴う試掘確認調査

調査地点：委員会室棟 調査期間：平成 26 年 4 月 7 日 調査面積：約 15m² (対象面積約 70m²)

調査担当者：正木季洋・塩谷風季

本事業は、県庁舎耐震化等整備事業（委員会室棟建設）に伴う試掘確認調査であり、平成 26 年 4 月 2 日に行われた現地協議に基づき、委員会室棟建設予定範囲の北東部、旧鉄塔東側の埋蔵文化財の残存状況を確認するため、調査を実施した（第 38 図）。

今回の確認調査では、調査対象地内に長さ約 2.7～5.6 m、幅約 0.9～1.5 m、深さ約 0.85～1.5 m のトレンチ（試掘溝）を 3箇所（1～3 T）設定し、重機による掘削後、人力により遺構確認と土層観察を行った。

土層堆積状況は、1 T 東側及び 2 T においては地表から埋土層（採石）・明治以降のレンガ等を含む黒色土層・明治期の造成層の順に堆積し、2 T では明治期の造成層下に岩盤層が確認されている。また、1 T 西側・2 T 西端・3 T では鉄塔建設時の掘削とみられる擾乱層が確認されている。

1 T 東側では、地表から約 8.5 cm 下の明治期の造成層下において東西方向にのびる石組み水路が確認されているが、西側は擾乱により失われている。

2 T では地表から約 12.0 cm 下の明治期の造成層下において岩盤層を確認しており、北部において岩盤が落ち込んでいる状況を確認している。

2 T に直行する形で設定した 3 T では、地表下約 15.0 cm 以下まで擾乱を受け、2 T で確認された岩盤層も掘削を受けている状況である。

調査結果

1 T 中央部～2 T 以東の範囲には埋蔵文化財が残っていると判断できる。よって周囲の掘削には事前に保護措置が必要となる。

1-5) 県庁構内委員会室棟改築工事に伴う 3 次発掘調査

調査地点：県庁構内委員会室棟 調査期間：平成 26 年 4 月 14 日～6 月 30 日 調査面積：約 300m²

調査担当者：正木季洋・塩谷風季

3 次発掘調査地点は、江戸時代の絵図では「湯」・「水湯」・「湯出ル」・「入湯場」などの記載とともに方形ないしは円形の遺構の記載がある地点である。

3 次発掘調査は、2 次発掘調査によって確認された温泉関連施設と推定される石敷き遺構の広がり等を確認することを目的とし、2 次発掘調査区周囲の追加調査を実施することとなった。また、同年 4 月 7 日に行われた委員会室棟建設範囲北東部の確認調査によって石組み水路遺構が確認されたことにより、北東部の調査も合わせて実施した（第 26 ～ 38 図）。



H25 石列 1



H26- 1号溝（左）中央は H26- 1号暗渠



H26- 1号溝



H26- 1号溝の底の石敷き

2次発掘調査によって確認された石敷き遺構の周囲は、旧委員会室棟の基礎やコンクリート埋設管等によりすでに掘削され、石敷き遺構に接続する遺構は確認されなかった。平成25年度で確認された石敷き遺構内と石組み水路遺構(H26-1号溝)周辺の土壤を採取し、蛍光X線分析による成分の比較を実施したところ、遺構内の土壤は遺構外より硫黄の割合が高い状況が認められた。この硫黄は温泉由来のものであるのか自然によるものであるのか不明な状況であるが、絵図・文献・同時期の温泉関連遺構の調査事例との比較とあわせて、石敷き遺構は、「湯」・「温泉」に関連した遺構である可能性が高いといえる。

4月7日の確認調査により発見された石組み水路遺構(H26-1号溝)は、北から西方向に屈曲しており、東側は鉄塔基礎により破壊されている状況を確認した。石組み水路遺構(H26-1号溝)からは時期を特定する瓦等の出土品はなかったが、石材に加工された状況から江戸時代前期に構築されたものと考えられる。また、水路中央部では、水路上に蓋状の石が置かれており、土層の堆積状況などとあわせると暗渠であった可能性が高い。



H26- 1号土坑遺物出土状況



H26- 1号土坑遺物出土状況



H26- 2号溝



石敷き遺構（写真中央）



調査風景



サンプリングの協議



遺構の全体写真①



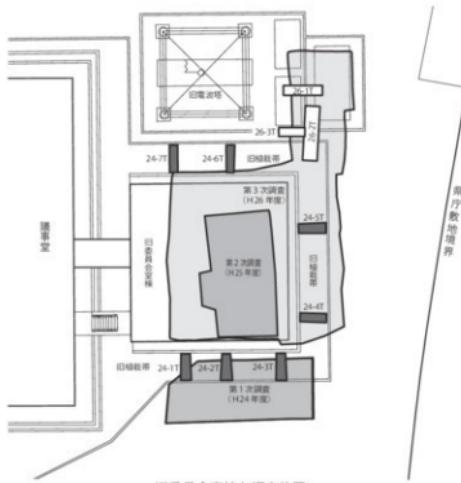
事業課及び学術文化財課への遺構説明



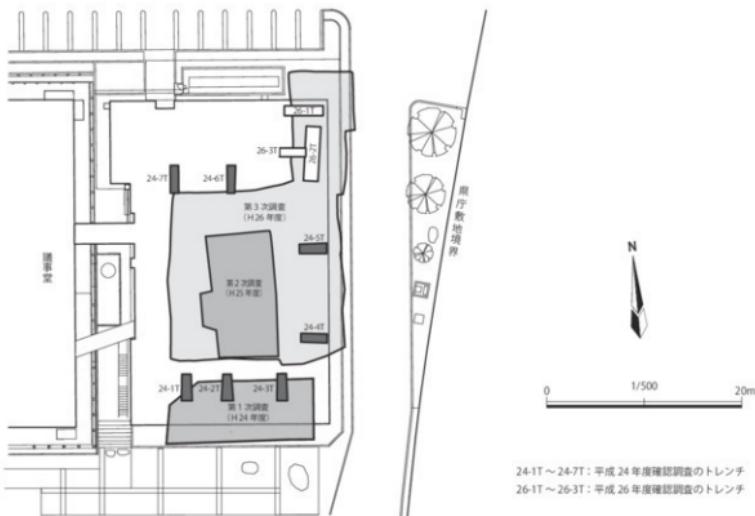
遺構の埋設保存



遺構の全体写真② 空撮



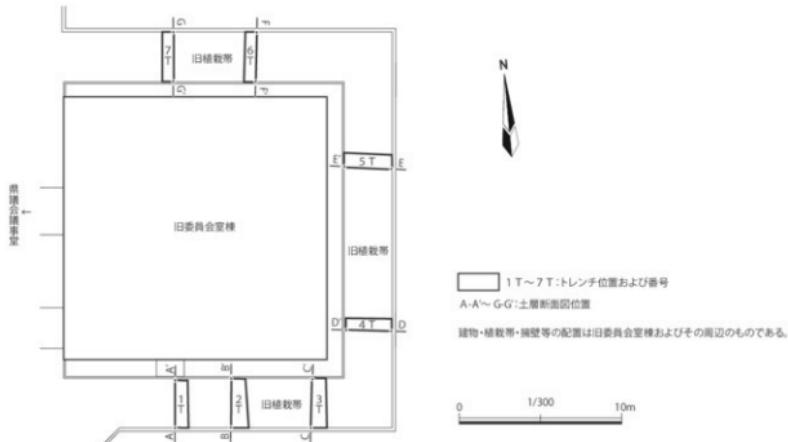
旧委員会室棟と調査位置



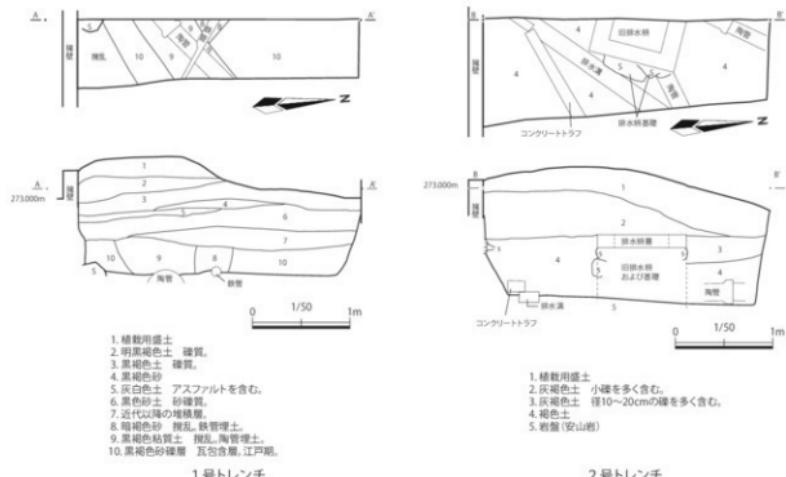
改築後委員会室棟と調査位置

24-1T～24-7T：平成24年度確認調査のトレント
26-1T～26-3T：平成26年度確認調査のトレント

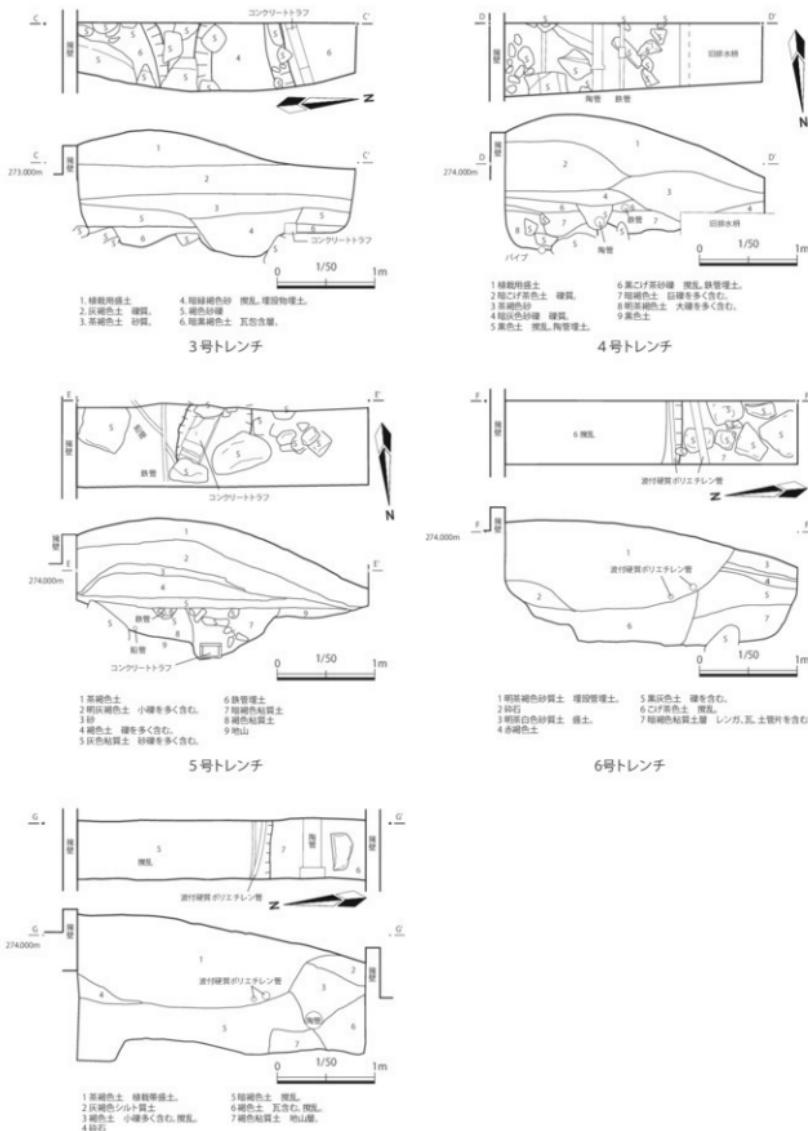
第19図 平成24～26年度委員会室棟調査位置図



平成24年度委員会室棟確認調査レンチ位置図



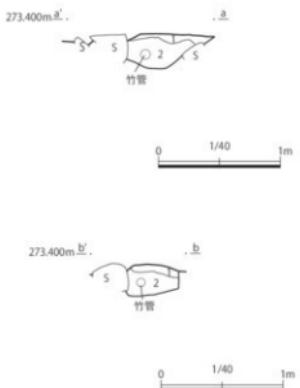
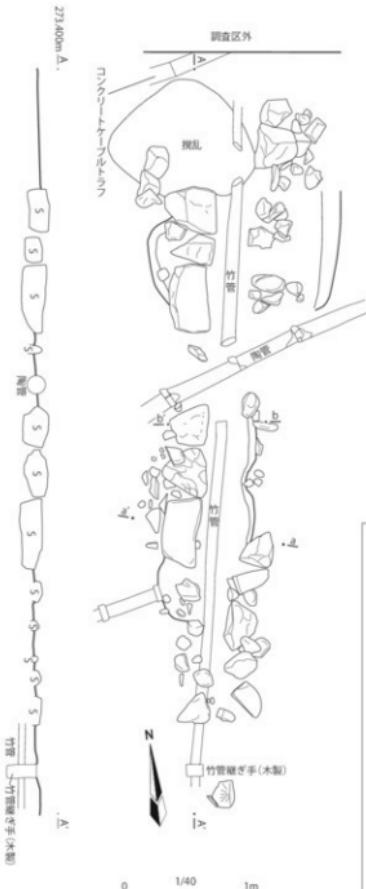
第20図 平成24年度委員会室棟確認調査 レンチ位置図・レンチ平面図・土層図〔1〕



第 21 図 平成 24 年度委員会室棟確認調査 トレーニング平面図・土層図〔2〕



第22図 平成24年度委員会室棟第1次調査全体図

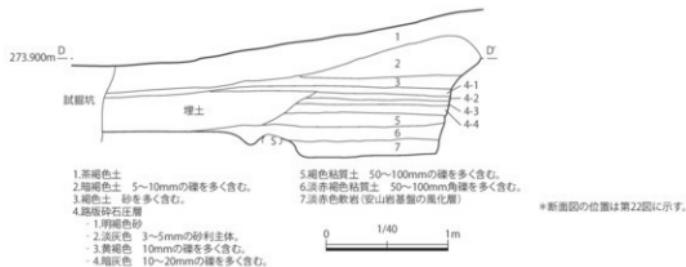


1号石組水路

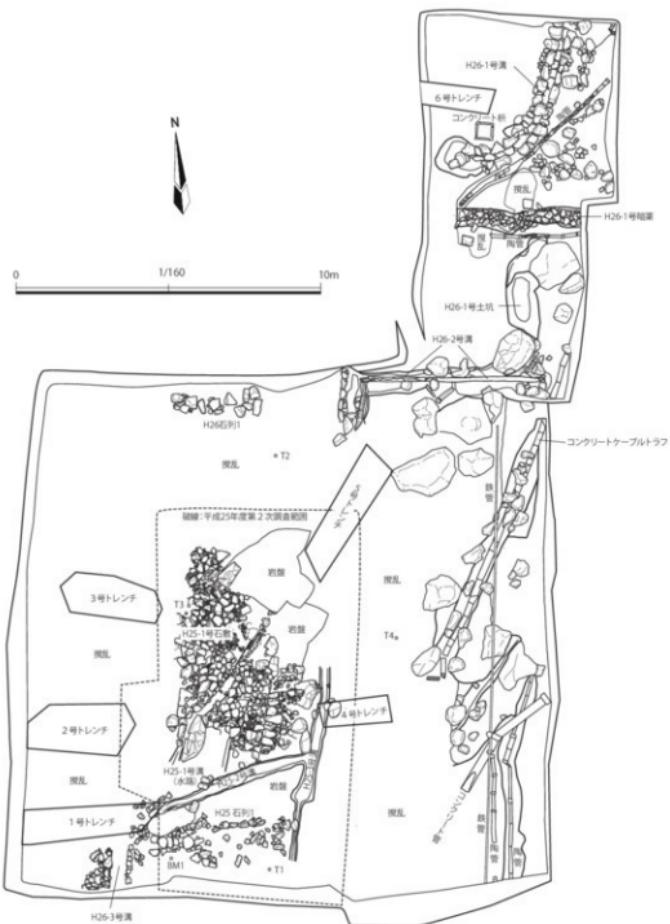
2号石組水路



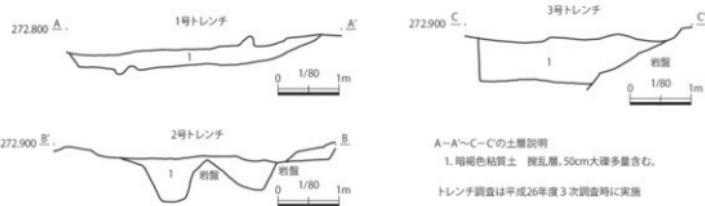
第24図 平成24年度委員会室棟第1次調査 溝・土坑・瓦列



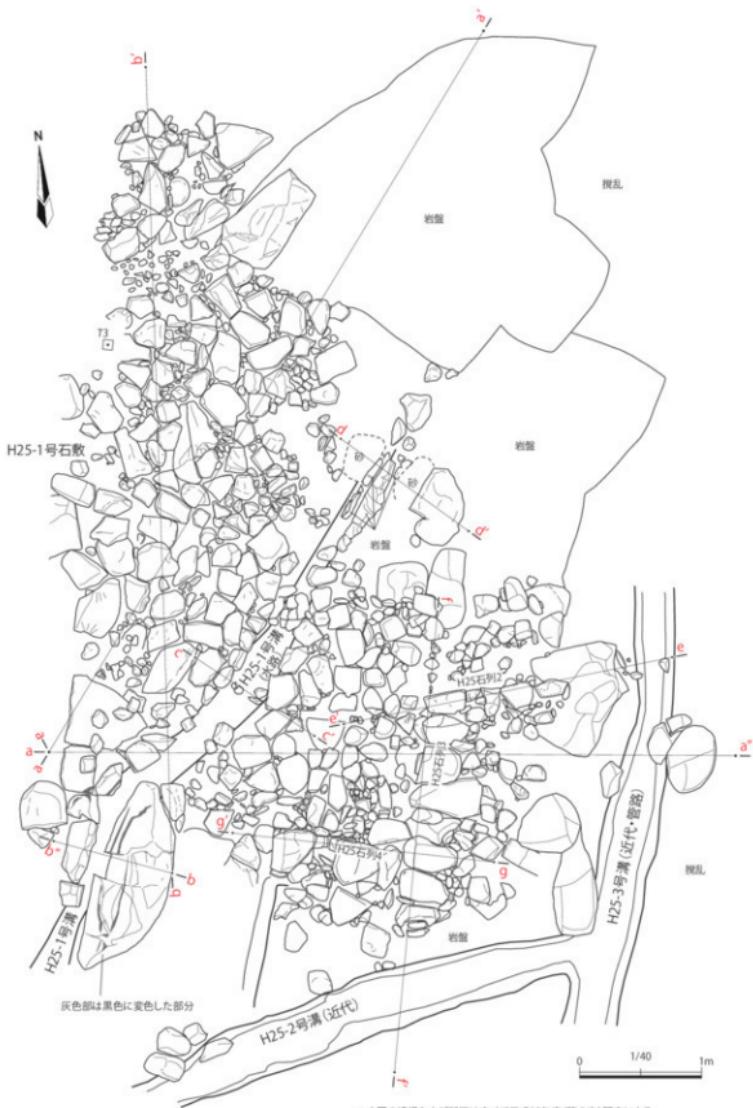
第25図 平成24年度委員会室棟第1次調査 基本土層図（調査区北壁東側土層堆積状況）



破線の内側は平成25年度第2次調査の範囲
1号～6号トレーナーは平成26年度3次調査時

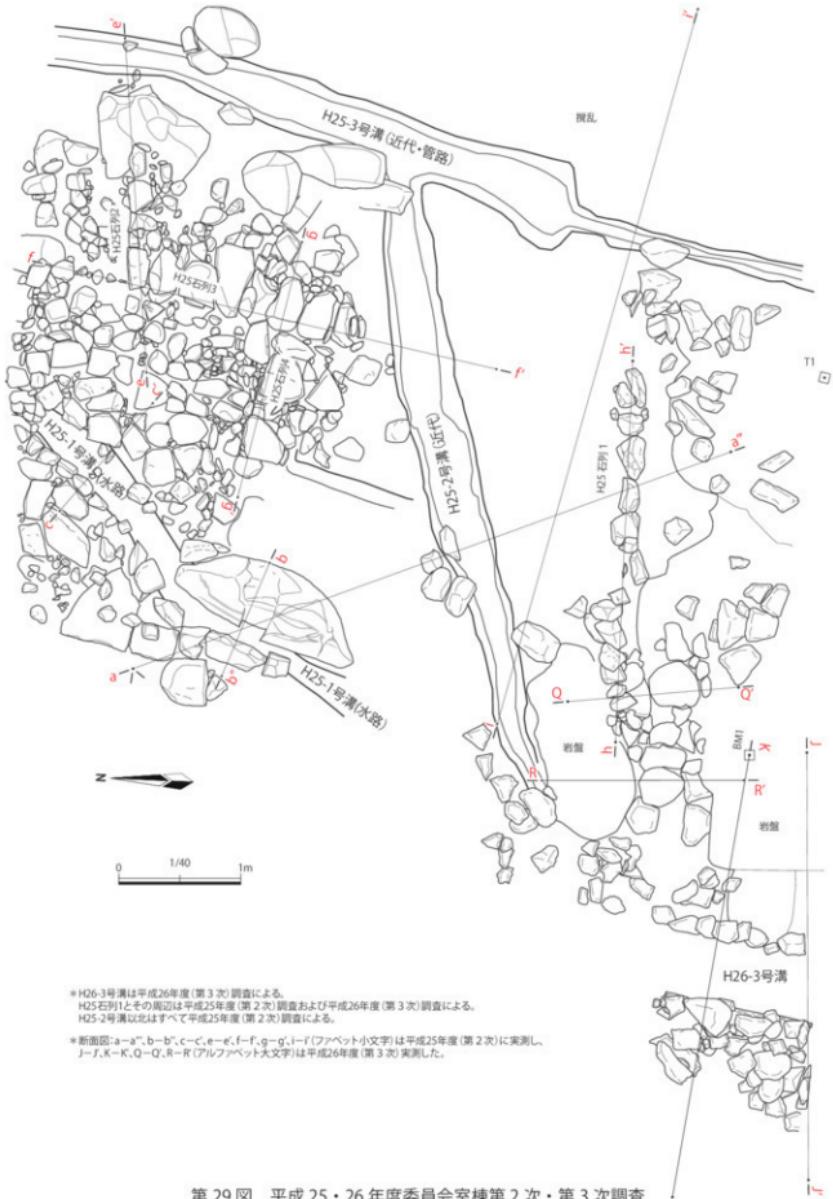


第27図 平成25・26年度委員会室棟第2次・第3次調査 南西部平面図・1号～3号トレンチ土層図



*本図の造構および断面はすべて平成25年度(第2次)調査による。

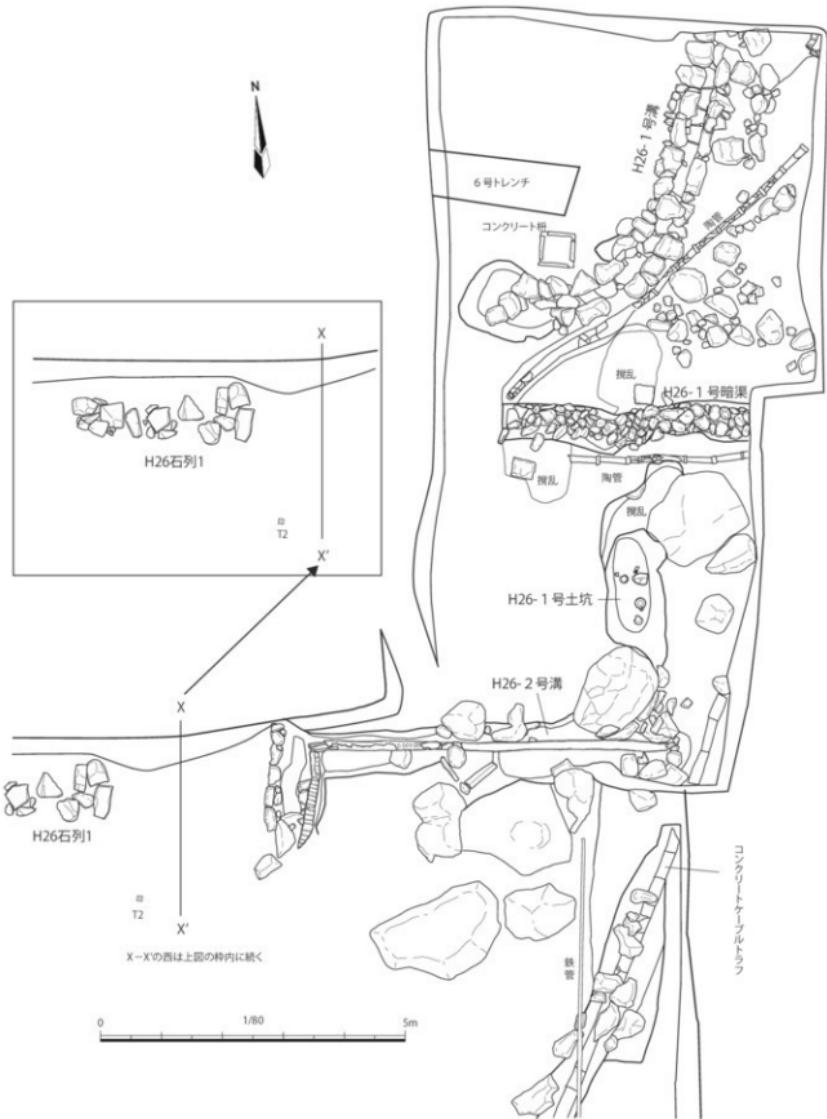
第28図 平成25・26年度委員会室棟第2次・第3次調査
H25-1号石敷・H25-1号溝・H25石列2・H25石列3・H25石列4平面図



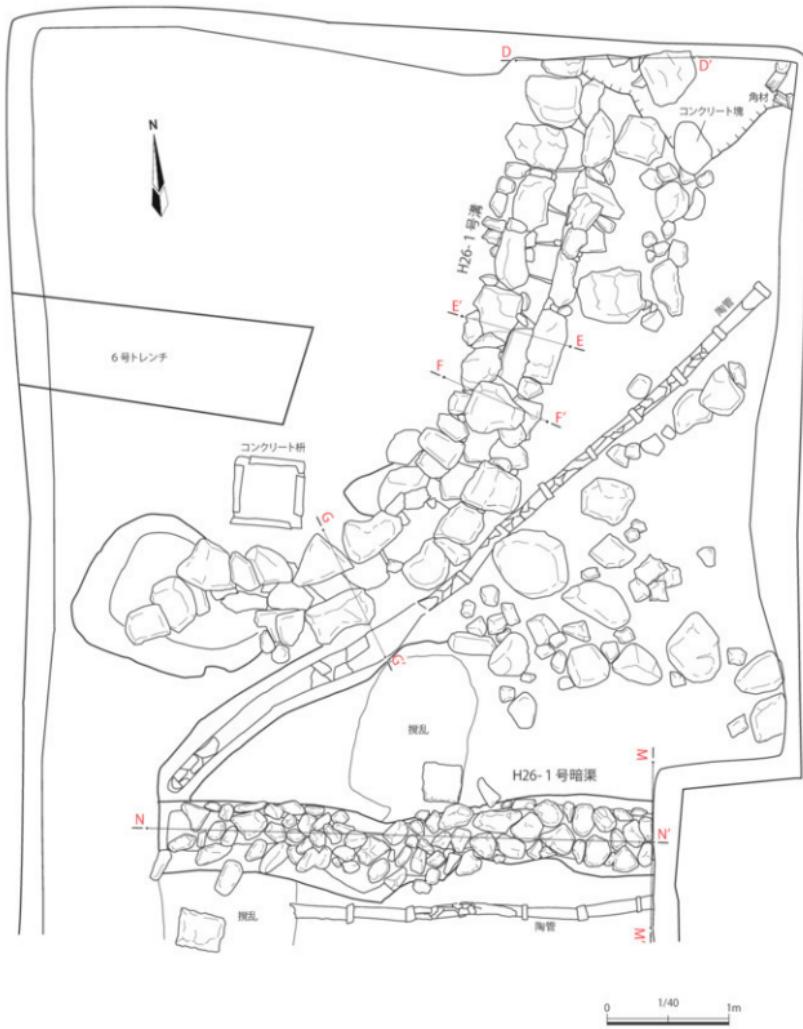
* H26-3号溝は平成26年度(第3次)調査による。
 H25石列1とその両辺は平成25年度(第2次)調査および平成26年度(第3次)調査による。
 H25-2号溝以北はすべて平成25年度(第2次)調査による。

* 断面図:a-a'',b-b'',c-c'',e-e'',f-f'',g-g'',l-l''(アルファベット小文字)は平成25年度(第2次)に実測し、
 j-j'',k-k'',q-q'',r-r''(アルファベット大文字)は平成26年度(第3次)実測した。

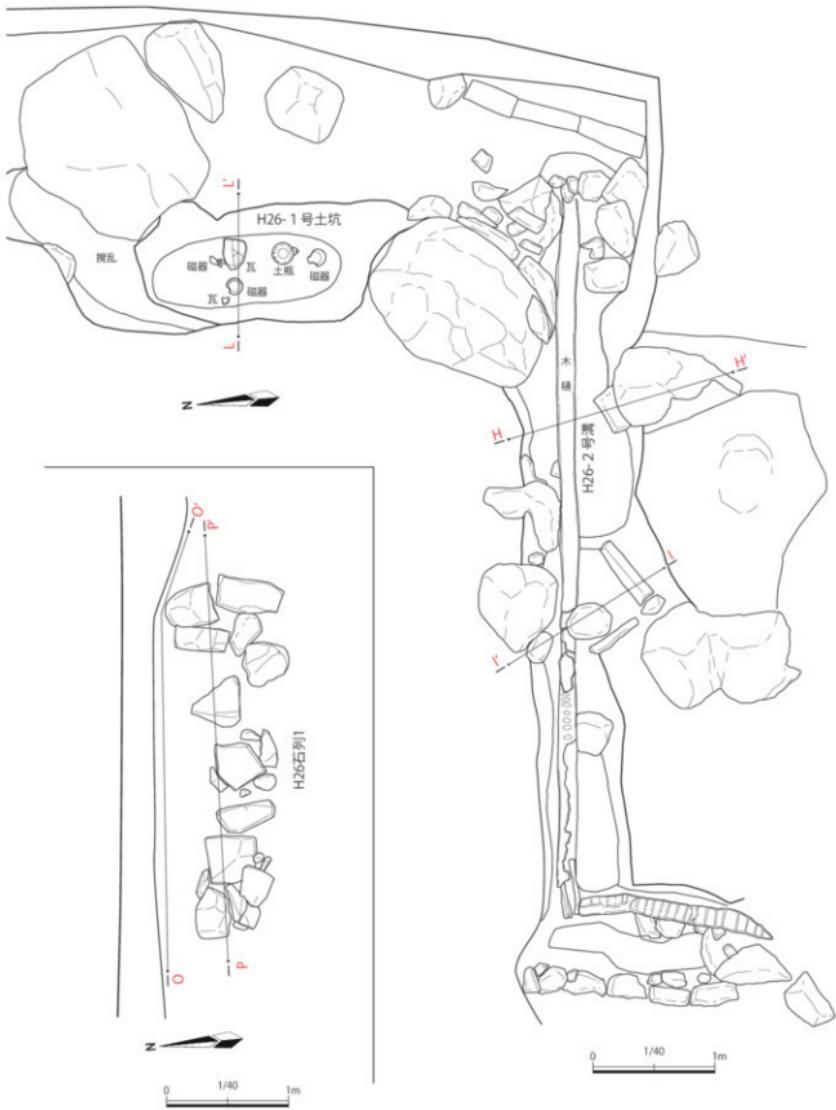
第29図 平成25・26年度委員会室棟第2次・第3次調査
 H25-2号溝・H25-3号溝・H25石列1・H26-3号溝平面図



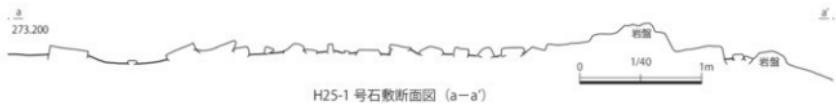
第30図 平成25・26年度委員会室棟第2次・第3次調査 北東部平面図



第31図 平成26年度委員会室棟第3次調査 H26-1号溝・H26-1号暗渠平面図



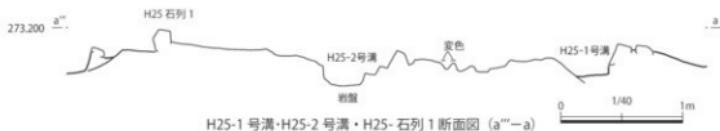
第32図 平成26年度委員会室棟第3次調査 H26-2号溝・H26-1号土坑・H26-石列1平面図



H25-1号石歓断面図 (a-a')



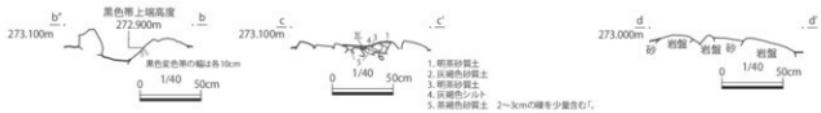
H25-1号溝・H25石列3・H25-3号溝断面図 (a-a'')



H25-1号溝・H25-2号溝・H25-石列1断面図 (a'''-a)



H25-1号溝・H25-1号石歓断面図 (b-b')

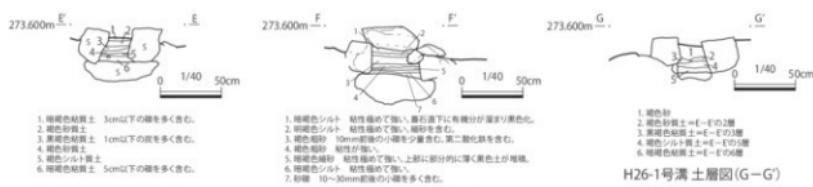
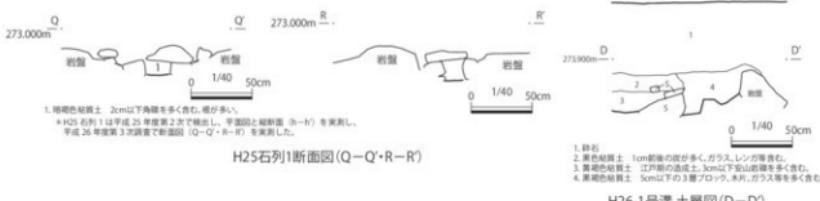
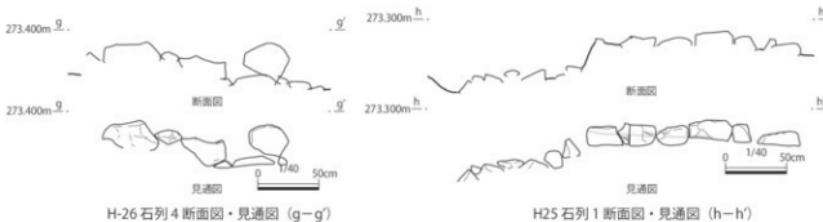
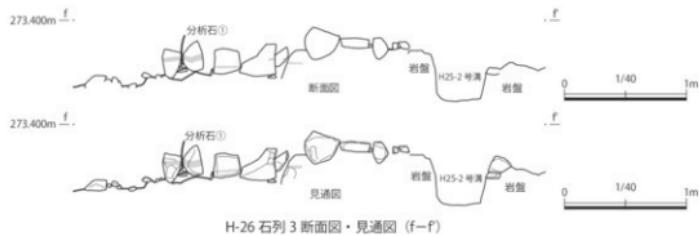


H25-1号溝土層図・断面図 (b''-b c-c' d-d')



土層図・断面図・見通図の位置は第28図に示す。

第33図 平成25・26年度委員会室棟第2次・第3次調査 土層図・断面図・見通図 (1)

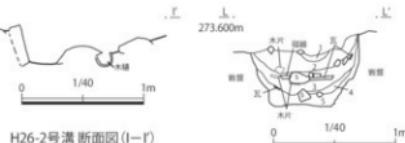


H26-1号溝 土層図 (E-E')

H26-1号溝 土層図 (F-F')

* 土層図・断面図・見通図の位置は第28回・第29回・第31回に示す。

第34図 平成25・26年度委員会室棟第2次・第3次調査 土層図・断面図・見通図〔2〕



H26-2号溝 断面図 (I-I'')

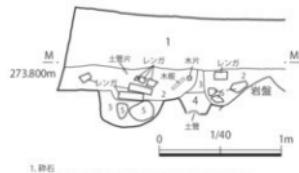
- 褐色色粘質土 3cm以下下角縫を多く含む。
- 褐色色粘質土 3cm以下下角縫を多く含む。
- 褐色色粘質土 3cm以下下角縫を多く含む。
- 褐色色粘質土 3cm以下下角縫を多く含む。
- 褐色色粘質土 2cm以下下角縫を多く含む。
- 褐色色粘質土 10cm以下の角縫を多く含む。

H26-2号溝 土層図 (H-H')

H26-1号坑 土層図 (L-L')



H26-3号溝南壁土層図 (J-J'')

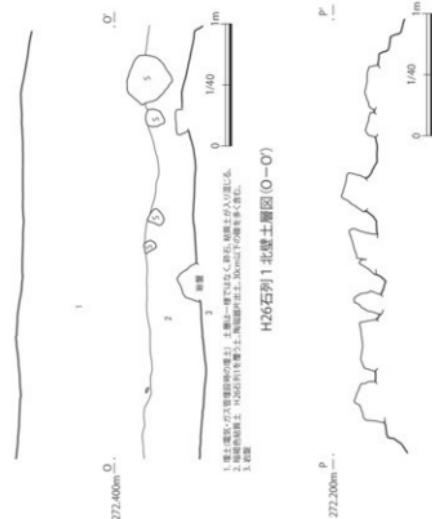


H26-1号坑暗渠土層図 (M-M'')

- 褐色色粘質土 3cm以下下角縫を多く含む。
- 褐色色粘質土 5cm以下の角縫を多く含む。
- 褐色色粘質土 2cm以下の角縫を多く含む。
- 褐色色粘質土 5cm以下の角縫を多く含む。
- 褐色色粘質土 3cm以下の角縫を多く含む。
- 褐色色粘質土 1cm以下の角縫を多く含む。



H26-1号暗渠断面図 (N-N'')

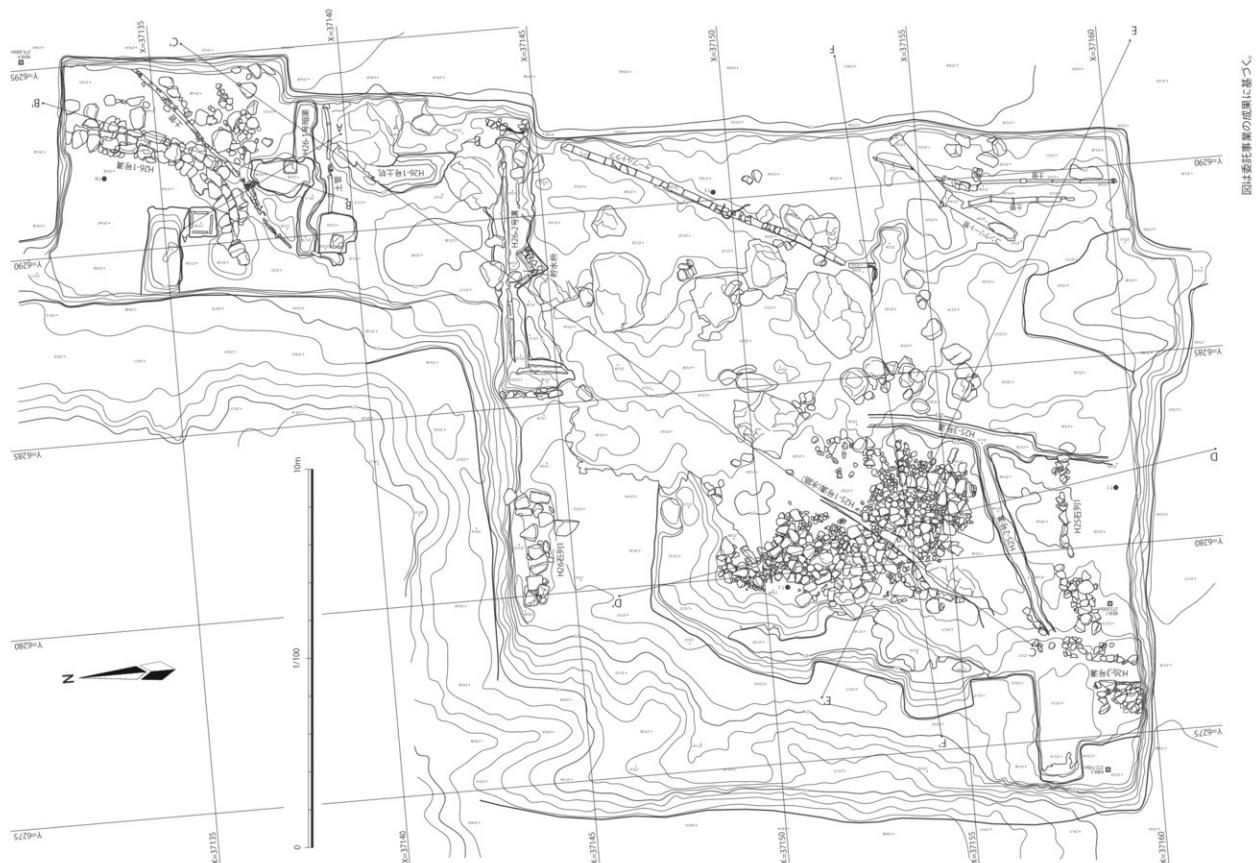


H26石列1 北壁土層図 (O-O'')

272.200m P-

* 土層図・断面図・見通図の位置は第 29 図・第 31 図・第 32 図に示す。

第 35 図 平成 25・26 年度委員会室棟第 2 次・第 3 次調査 土層図・断面図・見通図 (3)



図は委託事業の結果に基づく。

第36図 平成25・26年度委員会室棟第2次・第3次調査 航空写真測量による平面図



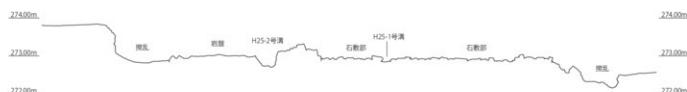
A-A'



B-B'



C-C'



D-D'



E-E'

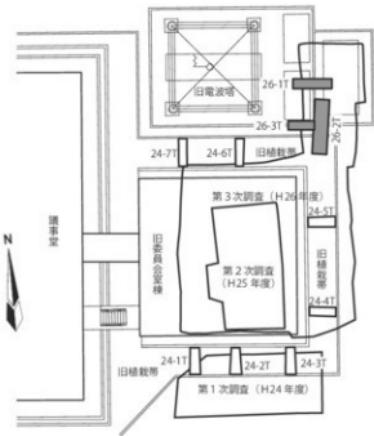


F-F'

図は委託事業の成果に基づく。
断面図の位置は第36図に示す。



第37図 平成25・26年度委員会室棟第2次・第3次調査 航空写真測量による断面図



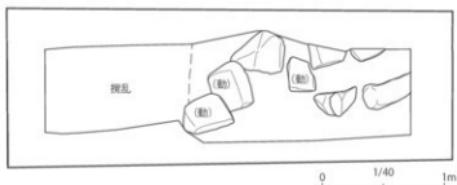
旧委員会室棟とトレンチ位置図

■ 26-1T ~ 26-3T : 平成 26 年度確認調査トレンチ地点および番号

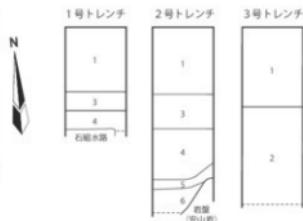


改築後委員会室棟とトレンチ位置図

0 1/500 20m

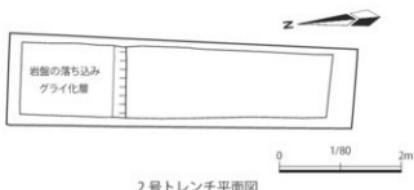


1号トレンチ平面図



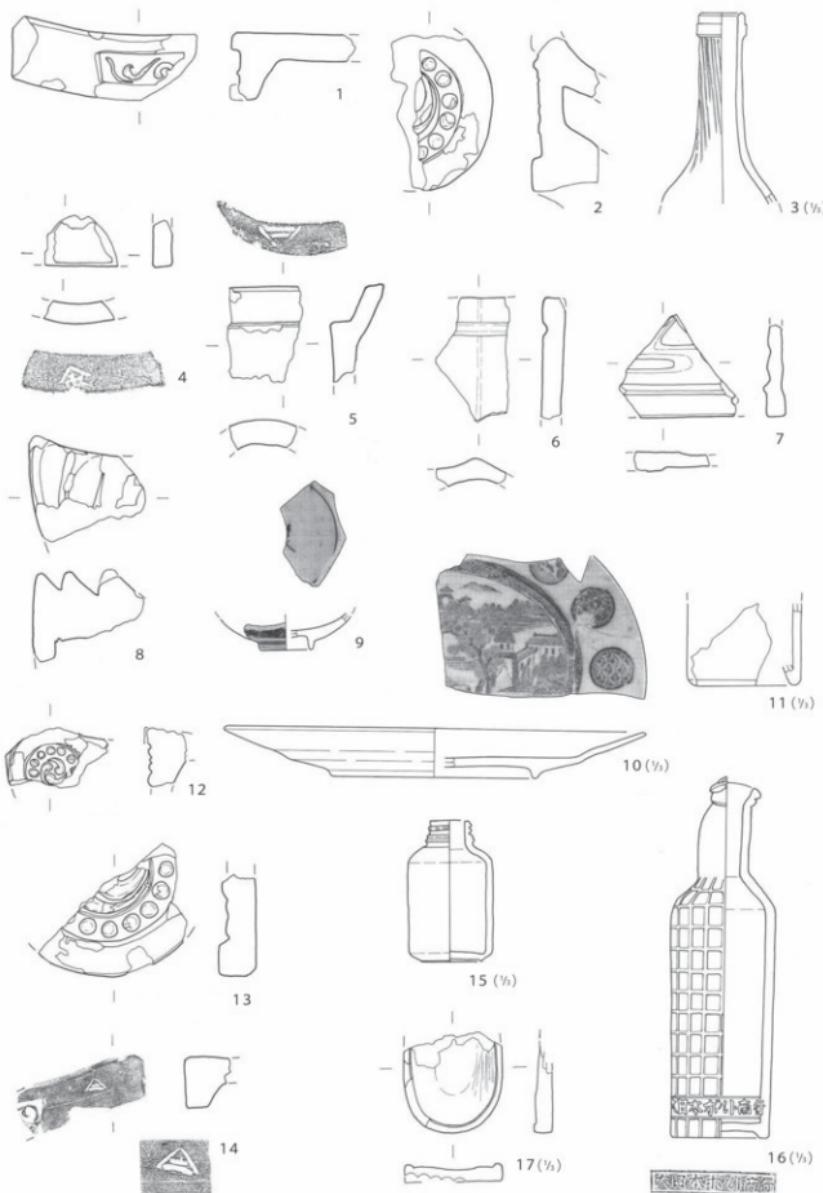
1.鉄石
2.緑褐色土(複屈) コンクリート塊等を含む。
3.黒褐色土 レンガ等を含む。近代の造成層。
4.褐色土 近代の造成層。
5.褐色粘質土
6.褐褐色土 グライル。

1~3号トレンチ模式土層図

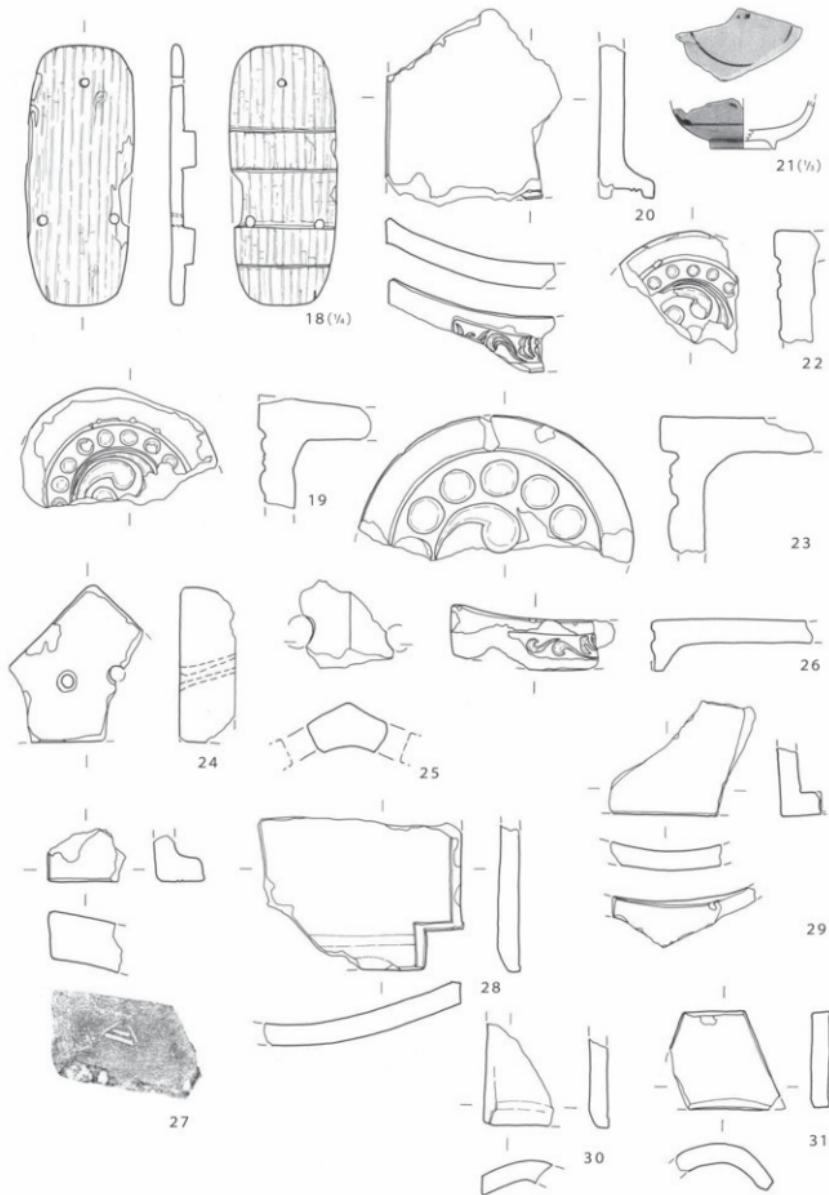


2号トレンチ平面図

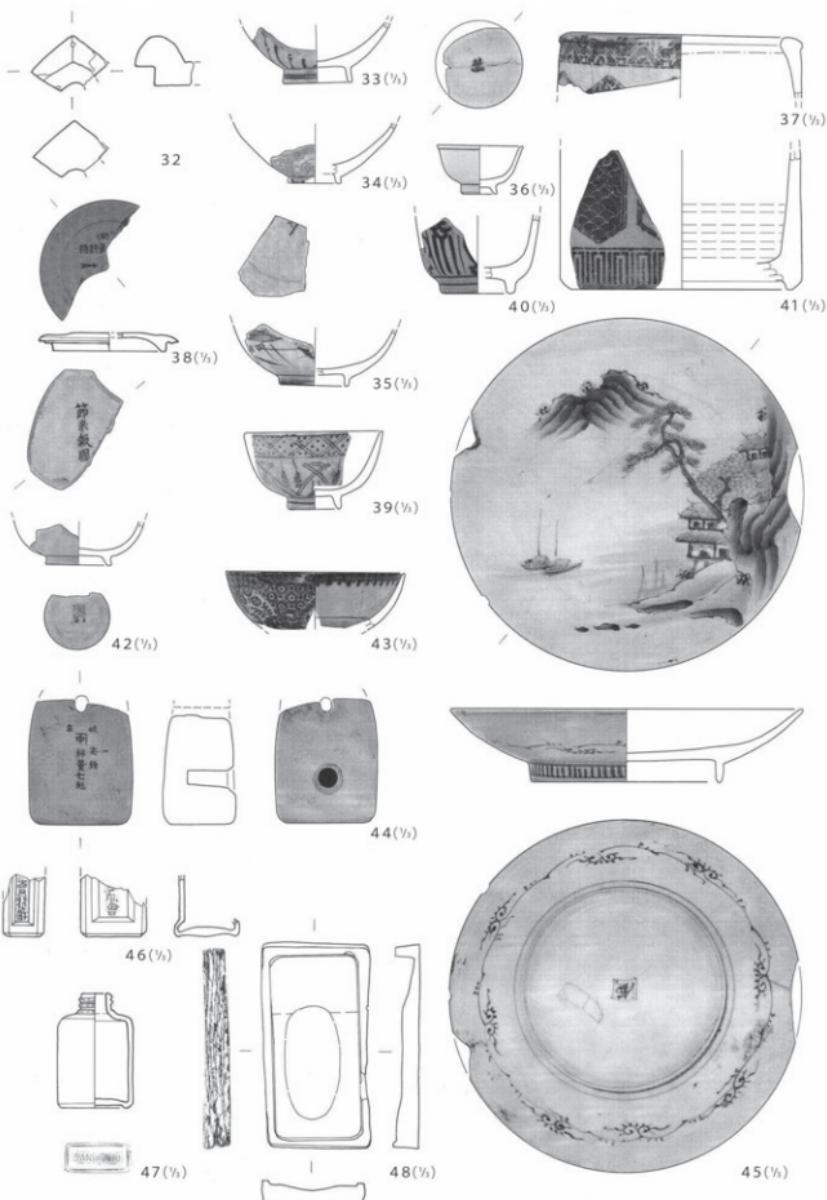
第38図 平成26年度委員会室棟確認調査 位置図・トレンチ平面図・模式土層図

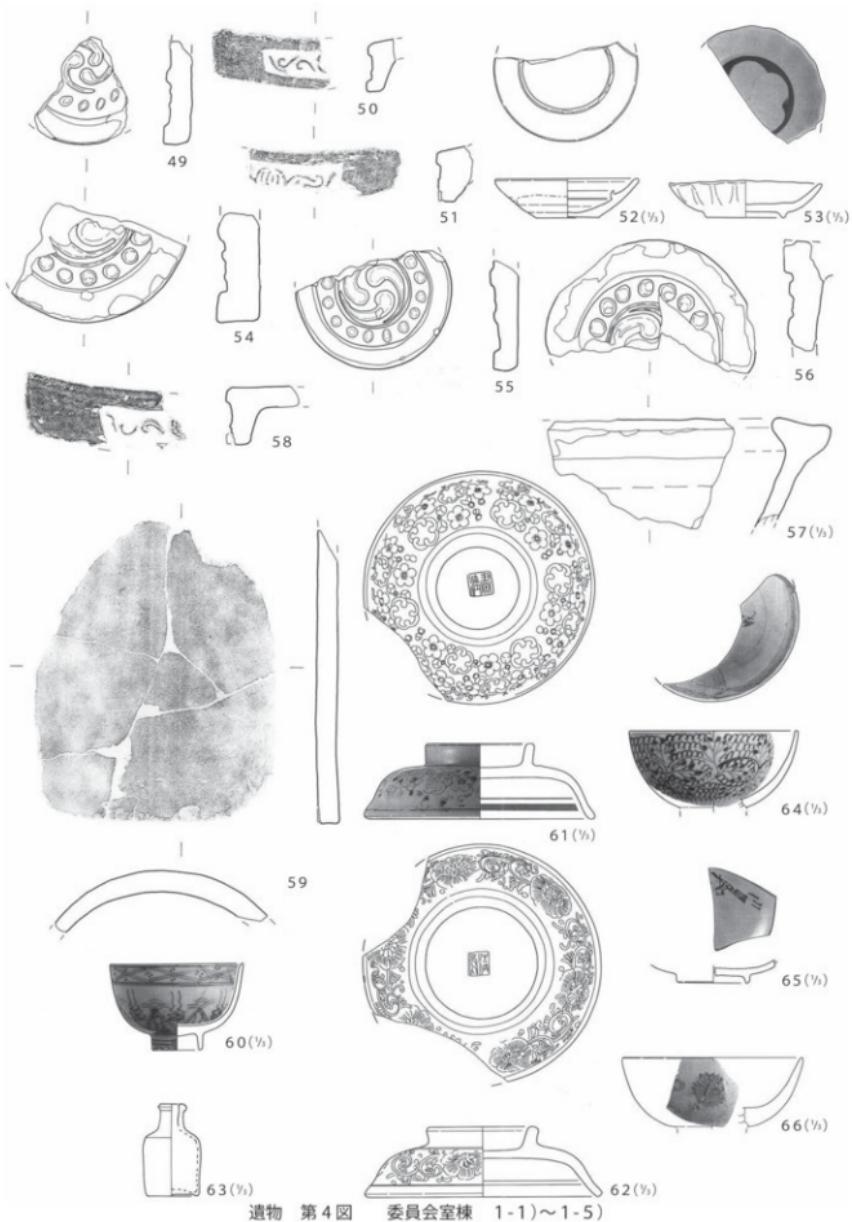


遺物 第1図 委員会室棟 1-1)~1-5)



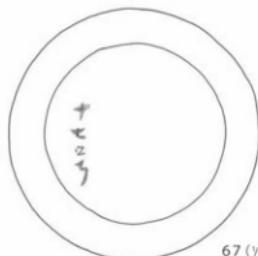
遺物 第2図 委員会室棟 1-1)~1-5)



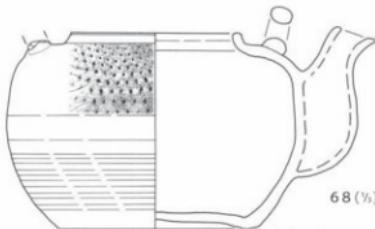


遺物 第4図

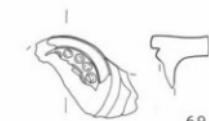
委員会室棟 1-1)~1-5)



67 (1/2)



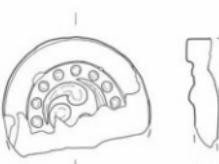
68 (1/2)



69



70



71



72 (1/2)



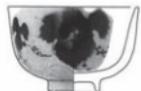
73 (1/2)



74 (1/2)



75 (1/2)



76 (1/2)



72 (1/2)



78

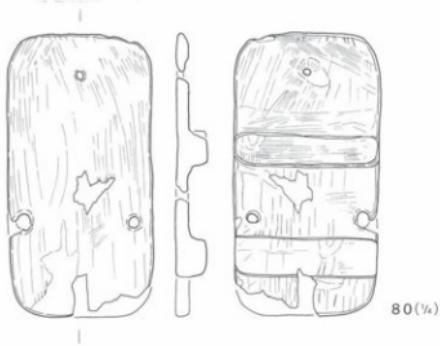


79

77 (1/2)

遺物 第5図

委員会室棟 1-1)~1-5)



遺物 第6図 委員会室棟 1-1)~1-5)

コプターによる空中写真撮影および3次元測量を実施した。

なお、**石敷き遺構**は委員会室棟の基礎構造を変更することにより、現地に埋設保存されることとなり、保存域を土嚢により区画し、遺構直上に寒冷紗を敷設後、山砂にて保護層を設け、山砂内に「この下に文化財あり」と記載したPPシートを敷いた。H26-1号溝は一部が基礎により破壊がおよぶことから、構築石にナンバーを付けた上で取り外し、調査区内の工事掘削による影響のない地点に埋設し、6月19日に実施された基礎建設のための掘削工事に際しては立会調査を実施した。

今回の調査では、瓦を中心とした遺物が出土しており、総量はプラスチックコンテナ収納箱18箱である。

なお、分析に関する取り扱いについて、平成26年4月22日に成分分析を実施するにあたり資料のサンプリング方法、サンプリングの数量、サンプリングの場所等々を現地にて協議を行い、4月25日にサンプリング作業を実施した。5月1日には史跡部会委員、事業課及び学術文化財課に遺構の出土状況などについての説明及び協議を実施した。

平成26年5月16日、石敷き遺構について現地で樅原考古学研究所から指導助言をいただいた。

平成26年6月2日、県教委長並びに教育次長に現地にて説明。

平成26年6月3日、記者説明会を実施。

平成26年7月5日には、遺構を埋め戻す前に県民の方を中心として午前と午後の二回に分けて現地説明会を実施し、約250名の参加者を得た。

石組み水路遺構（H26-1号溝）周辺では、明治期以降に構築された暗渠（H26-1号暗渠）や土管排水遺構などが多数確認されており、江戸時代以降、調査区周辺から湧き出る水を処理するための施設が複数構築されていた状況がみられる。

その他の遺構として、石敷き遺構の北側では石列（H26-1号石列）、北東部では溝状遺構（H26-2号溝）、南西部では石組み水路（H26-3号溝）が確認されており、出土遺物や層序から明治期以降に構築されたものと考えられる。このうちH26-2号溝は、南側を旧委員会室棟の基礎により破壊されていたが、溝内に桶状の木を組み合わせた管を有しており、2次発掘調査により確認されたH25-3号溝となつがっていたと思われる。

発掘作業員による掘削・記録作業は5月16日で終了し、5月26日～29日にはラジコンヘリ





27



28



29



31



44



48



28



29



47



48



50



51



54



55



49



56



58



59



57



63

写真図版 2 委員会室棟 1-1) ~ 1-5)



67



68



69



70



71



78



79



80

写真図版 3 委員会室棟 1-1) ~ 1-5)

2-1) 甲府城跡県庁構内前庭地点 確認調査

調査地点：県庁構内 調査期間：平成 27 年 4 月 27・28・30 日、5 月 1・8・20 日、6 月 8 日

調査担当者：浅川一郎・正木季洋・久保田健太郎

外構整備工事により噴水施設が建設される前庭地点においては、南北方向の石垣や能舞台が存在することが推測されており、円滑な工事着手のために事前に遺構の有無を確認するための調査を実施した。

調査は既存の樹木・白鳳石が除去された後に、6 本の調査トレンチを設定し、重機により掘り下げながら人力による遺構・遺物の確認を行った（第 39～42 図）。

1・2 トレンチは前庭北東部で、南北方向の石垣の存在が推定される地点に設定した。1 トレンチでは地表下 20cm で割石層を確認した。この割石層は今後の外構工事の中で掘削が及ぶことから、サブトレンチを設定し、工事掘削深度まで掘り下げを行ったところ、底面付近の割石層下部から近代陶磁器が出土しており、割石層は近代に堆積したものであることが判明した。また、この付近では近世の遺構は工事掘削範囲より上部には存在しないことも確認した。

2 トレンチでは地表下 90cm で平瓦を蓋状に敷き詰めた石組み水路を確認した。水路西側には安山岩の割石群を確認した。割石群の中に石垣または水路の構築材と思われる 1m 大の石を確認した。石組み水路・割石群とともに工事掘削深度よりも深いため、工事により破壊が及ばないことを確認した。



1 トレンチ 割石



2 トレンチ 水路・割石

3 トレンチは前庭南部で、能舞台の北東角が推定される位置に設定した。地表下 45cm には丸瓦を土管状に組み合わせた遺構が見つかったが、同一層からは近現代の磁器等が見つかっており、近現代に設置されたものと考えられる。その下部は 65～90cm まで黄褐色土と暗褐色土による近代以降の版塗層があり、版塗層の下部、地表下 90cm の地点からは江戸期のものと思われる瓦溜りを確認した。今後の工事による掘削は版塗層中までであり、江戸期の瓦溜りに破壊が及ばないことを確認した。



3 トレンチ 瓦溜り



5 トレンチ 石列



石垣全景（南西から）



石垣と水路の全景（北東から）



石垣西面



石垣西面



石垣西面にある矢穴

4 レンチは前庭西辺に沿ってレンチを設定し、地表下約 1.3m まで掘削を行った。地表下 50cm から底面まで 3 レンチで確認した近代以降の版築層が堆積しており、この付近では工事掘削深度までに江戸期の遺構面が存在していないことを確認した。

5 レンチは前庭中央部、井戸遺構の存在が推定される地点に設定した。地表下 50 ~ 95cm で近代以降の版築層を確認し、版築層下の江戸期の面において南北方向の石列を確認した。工事による掘削は版築層中までであり、江戸期の石列に破壊が及ばないことを確認した。



1号石組み水路北端



1号石組み水路（南から）



1号石組み水路南端の木桶の出土状況



2号石組み水路（南から北方向）



2号石組み水路（西から東方向）



石垣と1号石組み水路（南から北方向）



6月24日 史跡部会の指導



調査区全景（南東から北西方向）



内堀と調査区（楽屋曲輪 南西から北東方向）

6トレンチは前庭西側、南北方向石垣西面付近に推定される地点に設定した。地表下約50cmで南北方向の石垣を確認し、今後の噴水施設工事により石垣に掘削が及ぶ可能性があることを確認し、石垣の規模、残存状況などを把握するための発掘調査(前庭地点発掘調査)を実施することとなった。なお、石垣の西側は石垣上面まで近代以降の版築層が堆積している。

2-2) 甲府城跡県庁構内前庭地点 発掘調査

調査地点：県庁構内 調査期間：平成27年6月15日～7月30日 調査面積：約390m²

調査担当者：浅川一郎・正木季洋

平成27年6月8日に外構整備工事に伴い実施した確認調査により、南北方向の石垣の一部を確認した。今後実施される噴水施設の設置工事による掘削が、検出された石垣に及ぶ可能性があることから、噴水施設範囲において、石垣の規模、残存状況などを把握するための発掘調査を実施した(第43～57図)。

調査の結果、石垣は調査区域内で南北方向に約22m、東西方向に約2m、高さ最大約1mの規模で残存している状況を確認した。石垣石材の加工の状況から江戸時代に何回か改修された様子がうかがわれ、石垣上部は近代以降に加工が行われた割石が多く見られる。江戸時代中期の絵図では、今回の調査地点の西側に政庁(政務を行う場所)や能舞台が描かれており、今回見つかった石垣は、甲府城楽屋曲輪内の政庁や能舞台があったエリアを区画するものと考えられる。また、甲府城内においては大規模な水路遺構が石垣の東側に沿って造られており(1号石組み水路)、水路南端部底面では木桶が埋設されていた。木桶が埋設されていた1号石組み水路の長さは22m、内幅は65cm、深さは桶の確認面で47cmを計測する。



26年7月5日の現地説明会



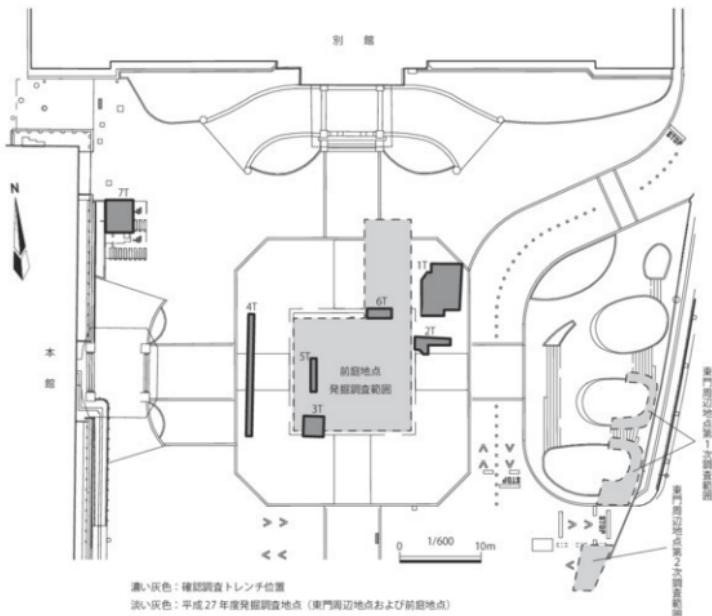
現地説明会



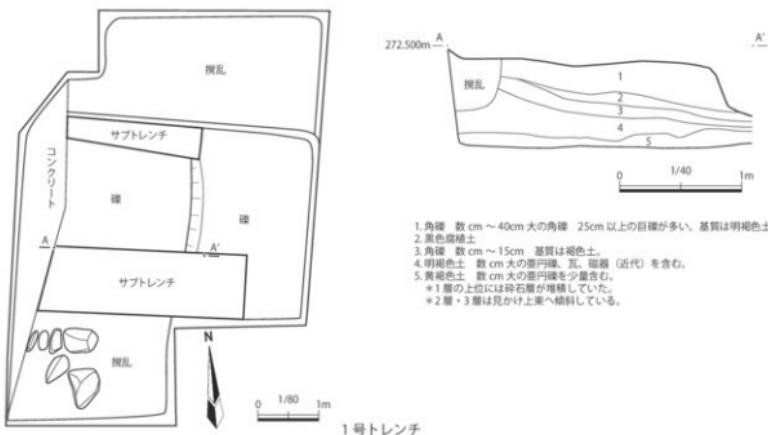
遺構の保護作業と埋め戻し



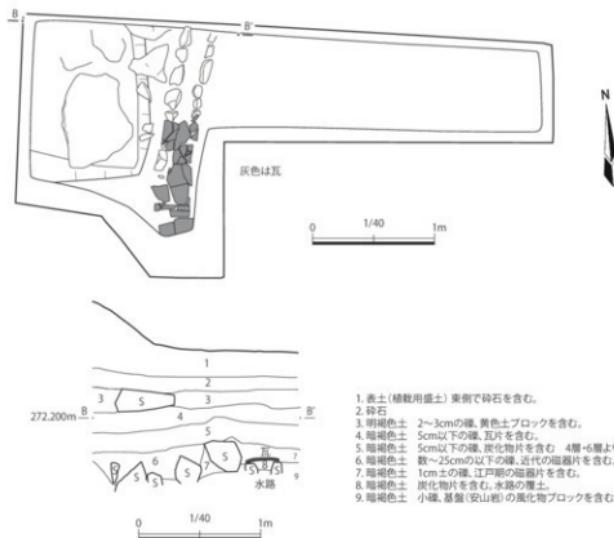
調査区全景（左上の建物は本館、右の建物は別館）



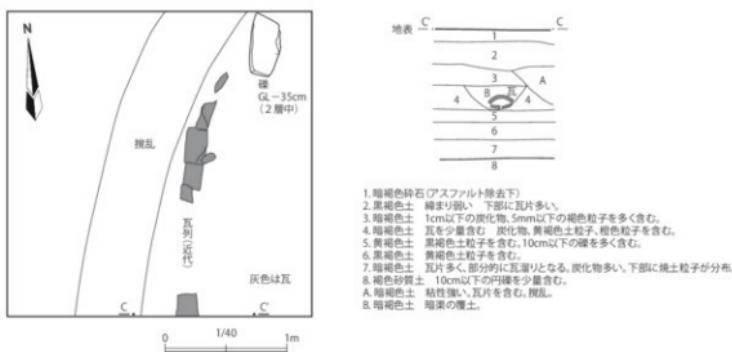
トレーン位置図



第 39 図 平成 27 年度外構整備確認調査 トレーン位置図・1号トレーン



2号トレンチ

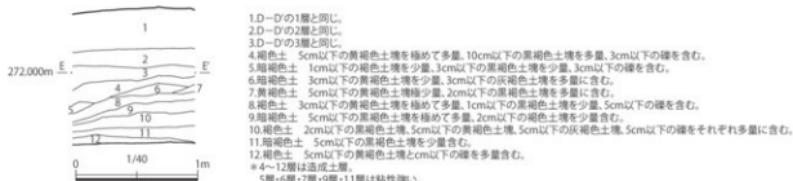


3号トレンチ

第40図 平成27年度外構整備確認調査 2号トレンチ・3号トレンチ



0 1/100 2m



4号トレンチ

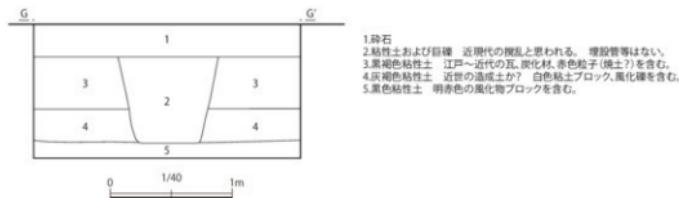
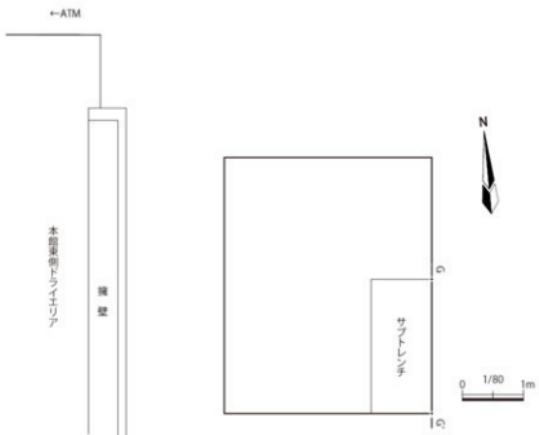


0 1/40 1m

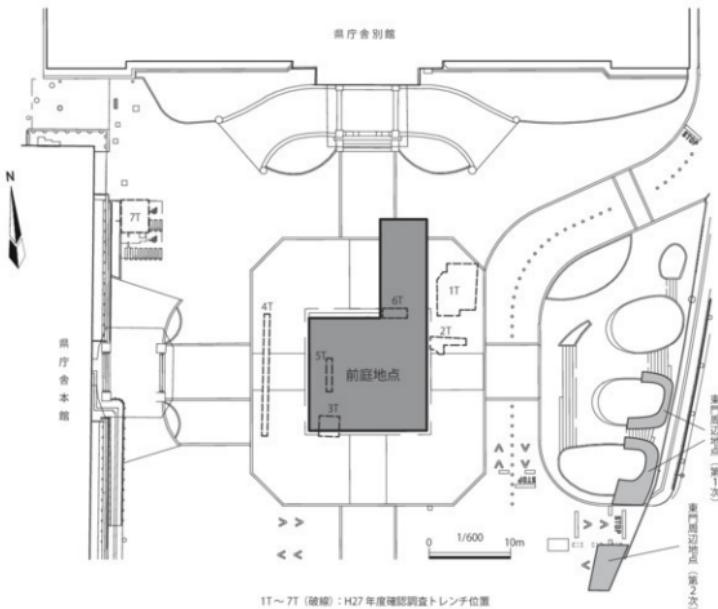


5号トレンチ

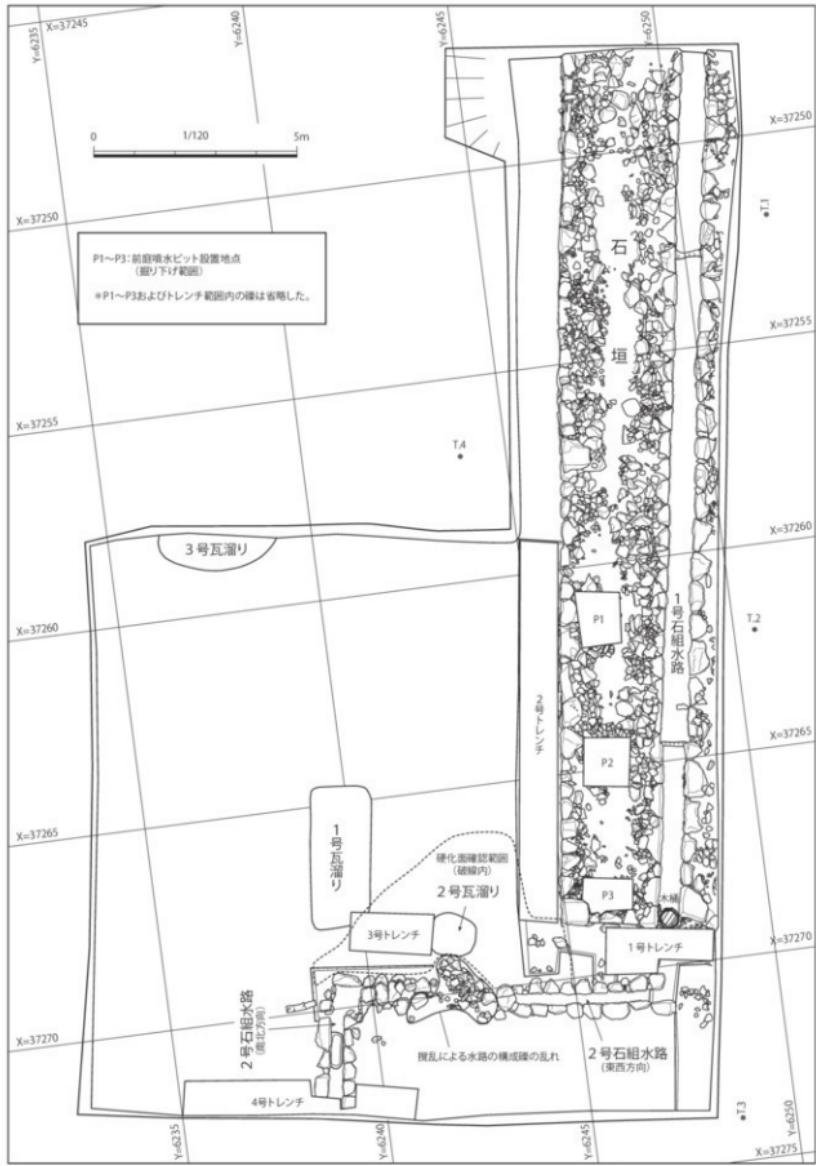
第41図 平成27年度外構整備確認調査 4号トレンチ・5号トレンチ



第42図 平成27年度外構整備確認調査 7号トレンチ



第43図 平成27年度前庭地点 調査位置図



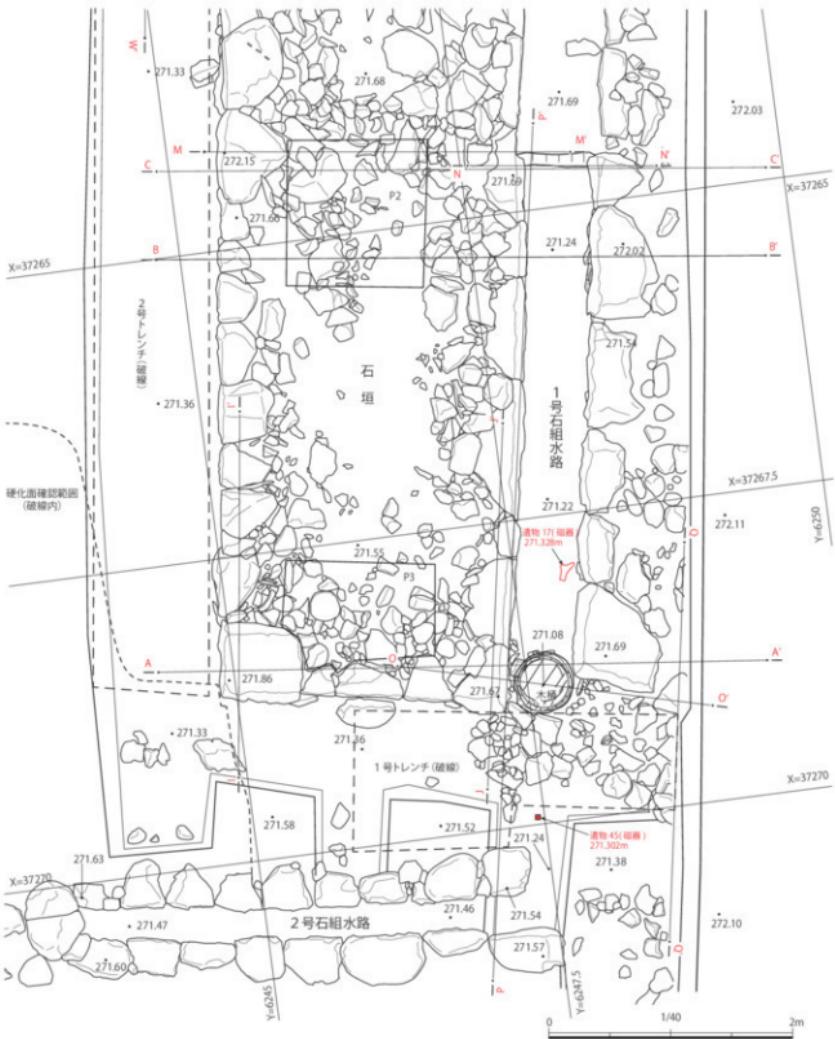
第44図 平成27年度前庭地点 全体図



第45図 平成27年度前庭地点 石垣・1号石組水路〔1〕(北部)



第46図 平成27年度前庭地点 石垣・1号石組水路〔2〕(中部)

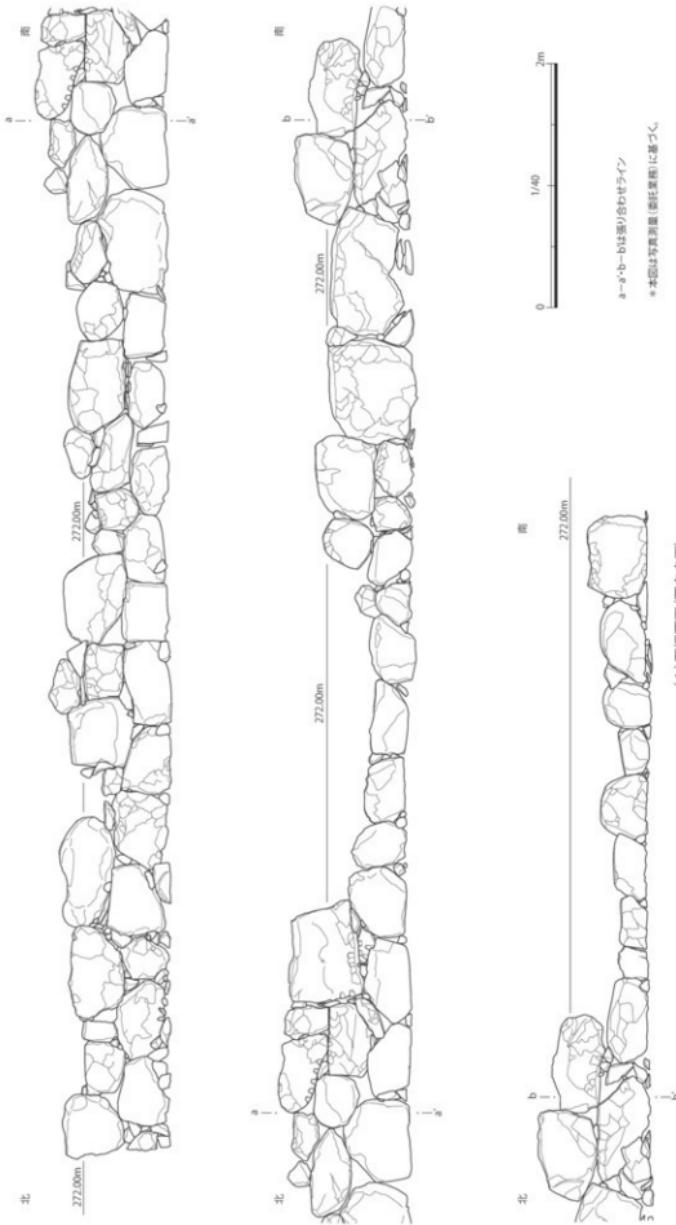


*P2-P3は前庭噴水ピット設置地点(図下り部分)

*1号トレンチ・2号トレンチは掘削後に拡張したため設定範囲を破綻で示した。

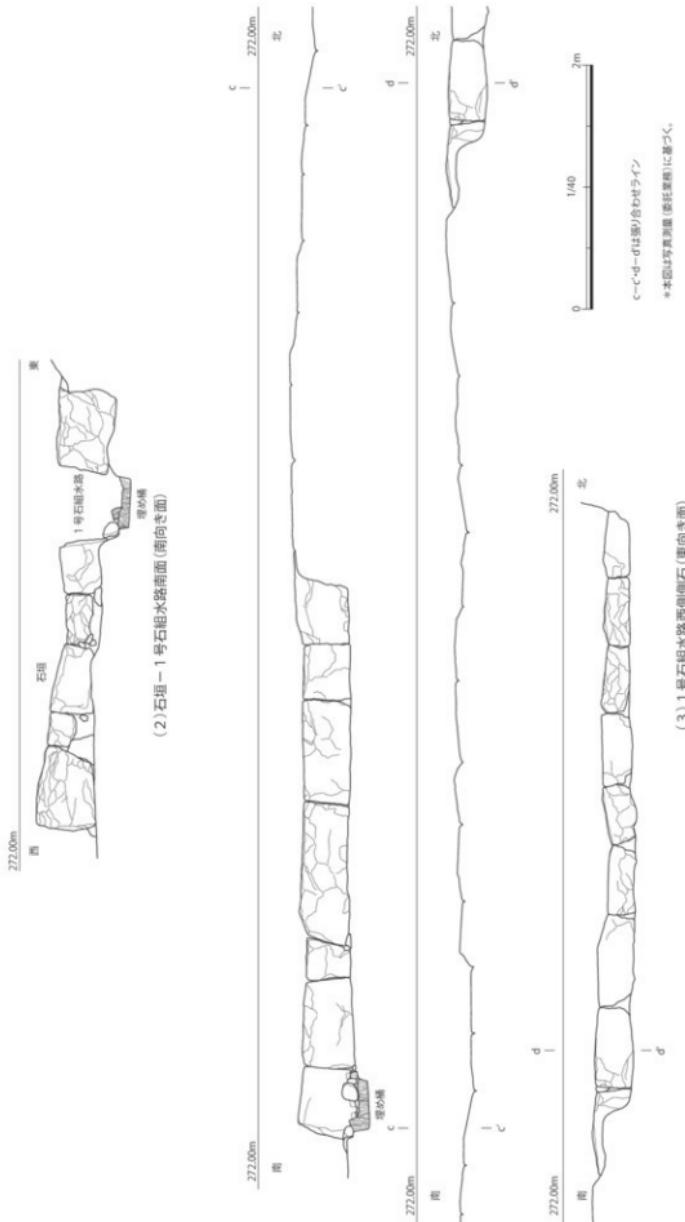
*碑分布は写真測量(委託業務)に基づく。

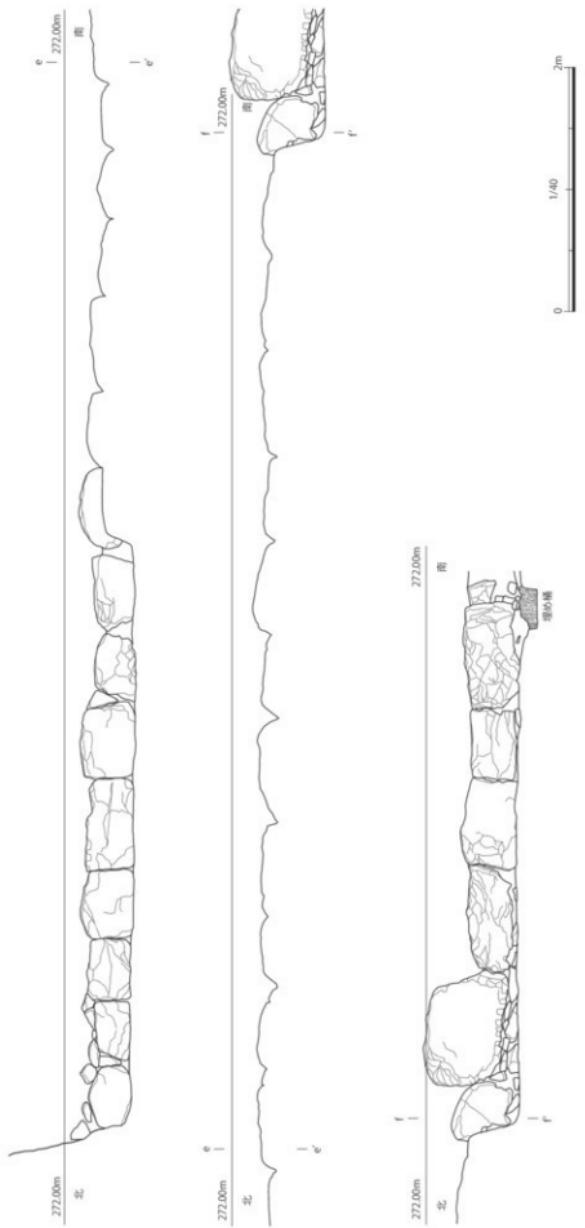
第47図 平成27年度前庭地点 石垣・1号石組水路〔3〕(南部)



第48図 平成27年度前庭地点 石垣-1号石組水路立面図(1)

第49図 平成27年度前庭地点 石垣—1号石組水路立面図〔2〕



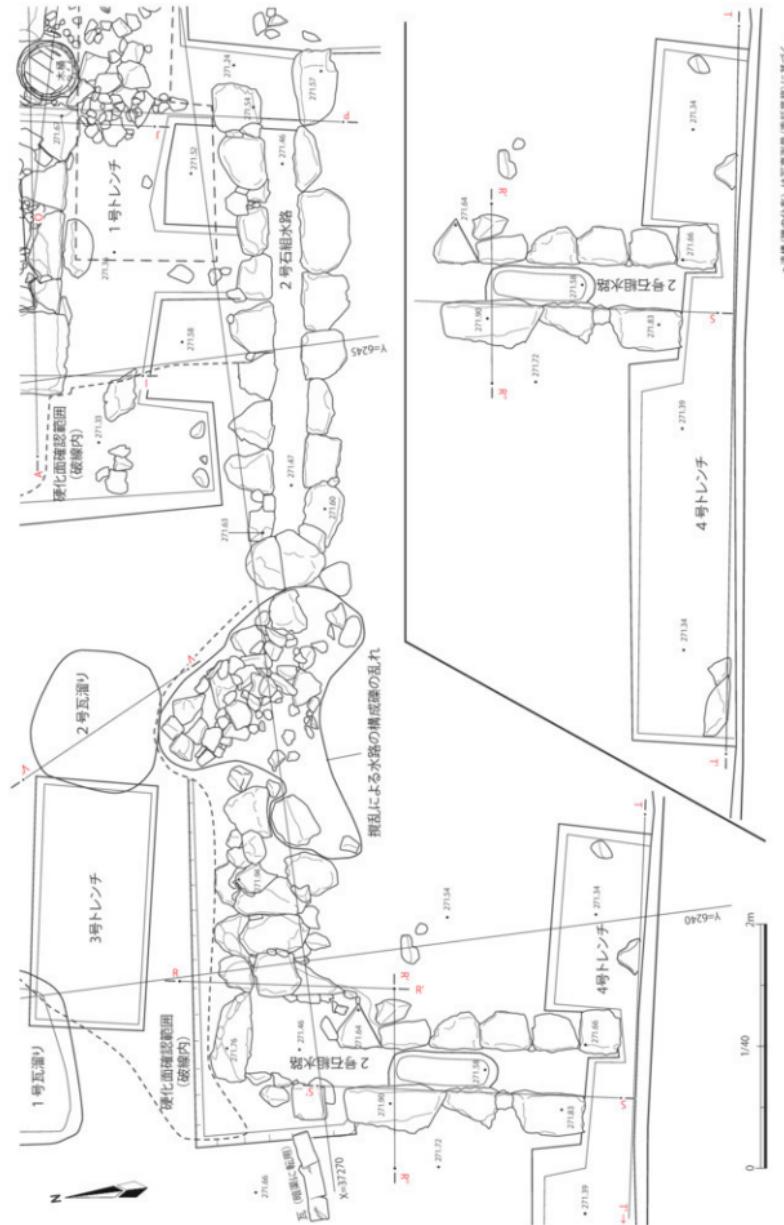


e-e'-f-f'は張り合せライン

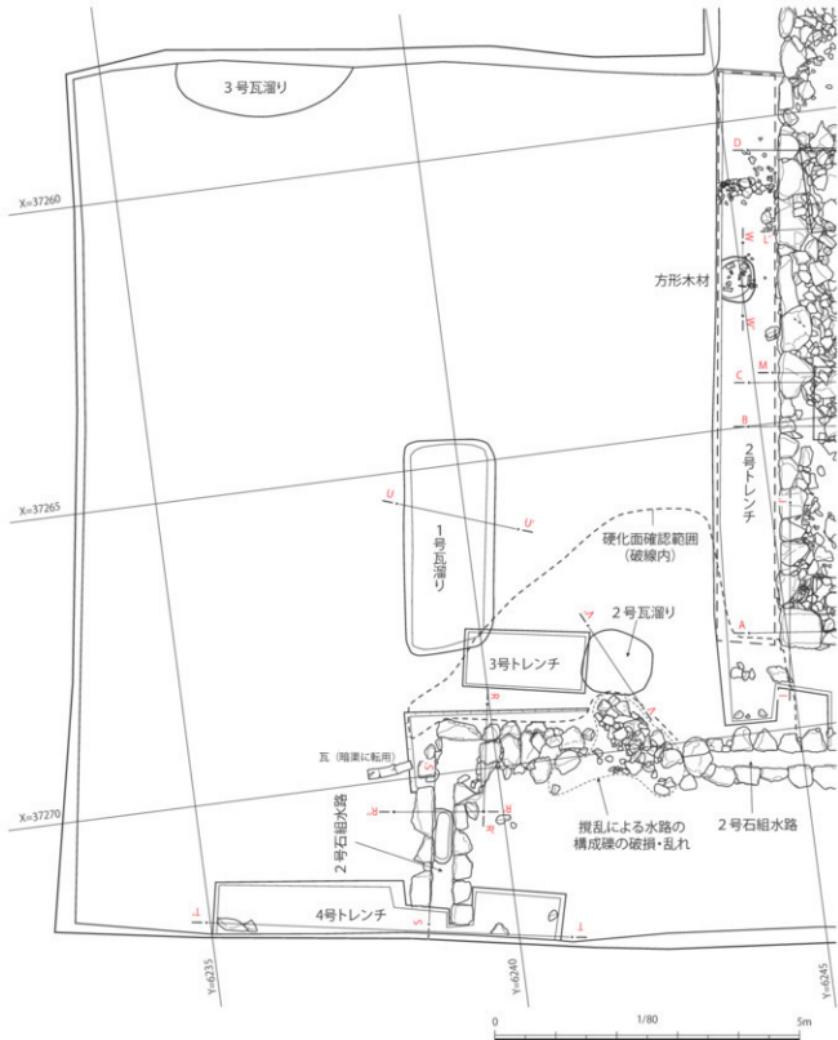
*本図は写真測量(縮尺原図)に基づく。

(4) 1号石組水路東側側石(西向き)

第50図 平成27年度前庭地点 石垣-1号石組水路立面図(3)



第51図 平成27年度前庭地点 2号石組水路平面図



* 2号トレンチは掘削後に拡張したため設定範囲を破線で示した。

* 造構(礫の分布)は写真測量(委託業務)に基づく。

第 52 図 平成 27 年度前庭地点 南西部（瓦溜り）



石垣 - 1号石組水路断面図 (A-A')



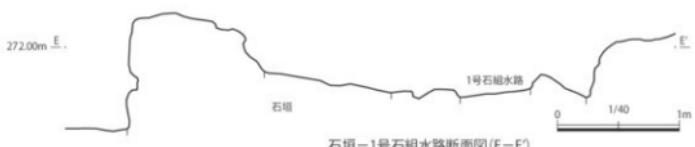
石垣 - 1号石組水路断面図 (B-B')



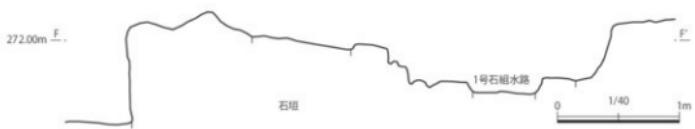
石垣 - 1号石組水路断面図 (C-C')



石垣 - 1号石組水路断面図 (D-D')



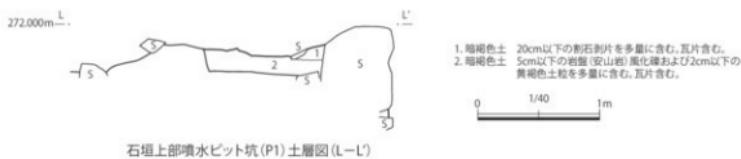
石垣 - 1号石組水路断面図 (E-E')



石垣 - 1号石組水路断面図 (F-F')

*A～Fは写真測量(委託業務)に基づく。
断面図の位置は第45図・第46図・第47図に示す。

第53図 平成27年度前庭地点 土層図・断面図・見通図〔1〕



*G-G'～J-J'は写真測量(委託業務)に基づく。
新図の位置は第45回・第46回・第47回に示す。

第54図 平成27年度前庭地点 土層図・断面図・見通図〔2〕

272,600m²,

K-

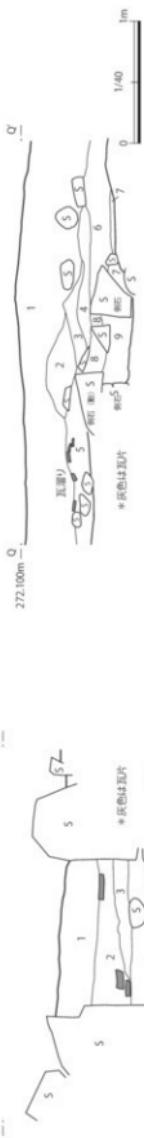


第 55 図 平成 27 年度前庭地点 土層図・断面図・見通図〔3〕

271,800m N.

Q-

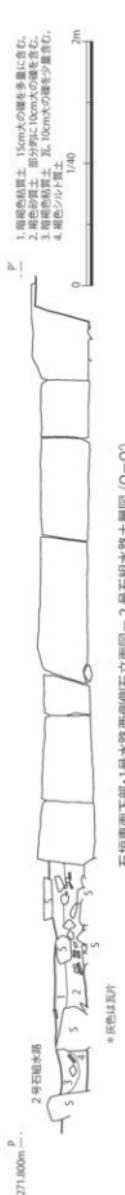
272,100m Q-



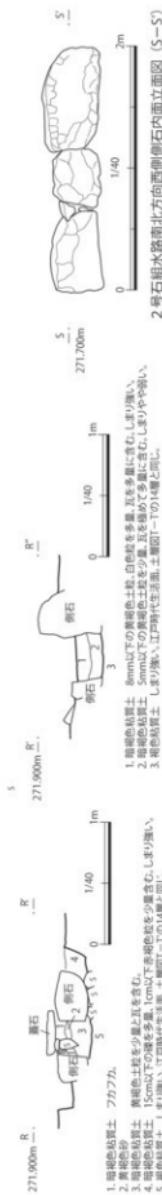
1 号石組水路土層図 (N-N')

1 号・2号石組水路会合部付近東壁土層図 (R-R')

*断面図の位置は第45回・第46回・第47回に示す。



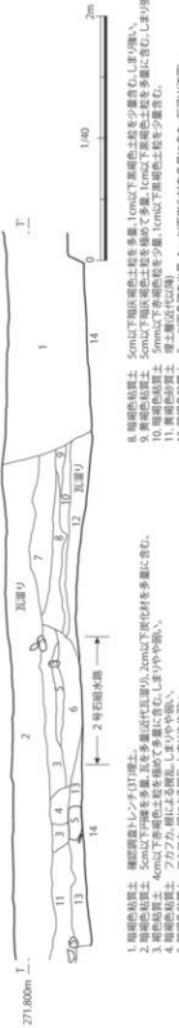
第56図 平成27年度前庭地點 土層図・断面図・見通図〔4〕



2号石組水路南方向土層図 (R'-R')

2号石組水路北方向西側石内面立面図 (S-S')

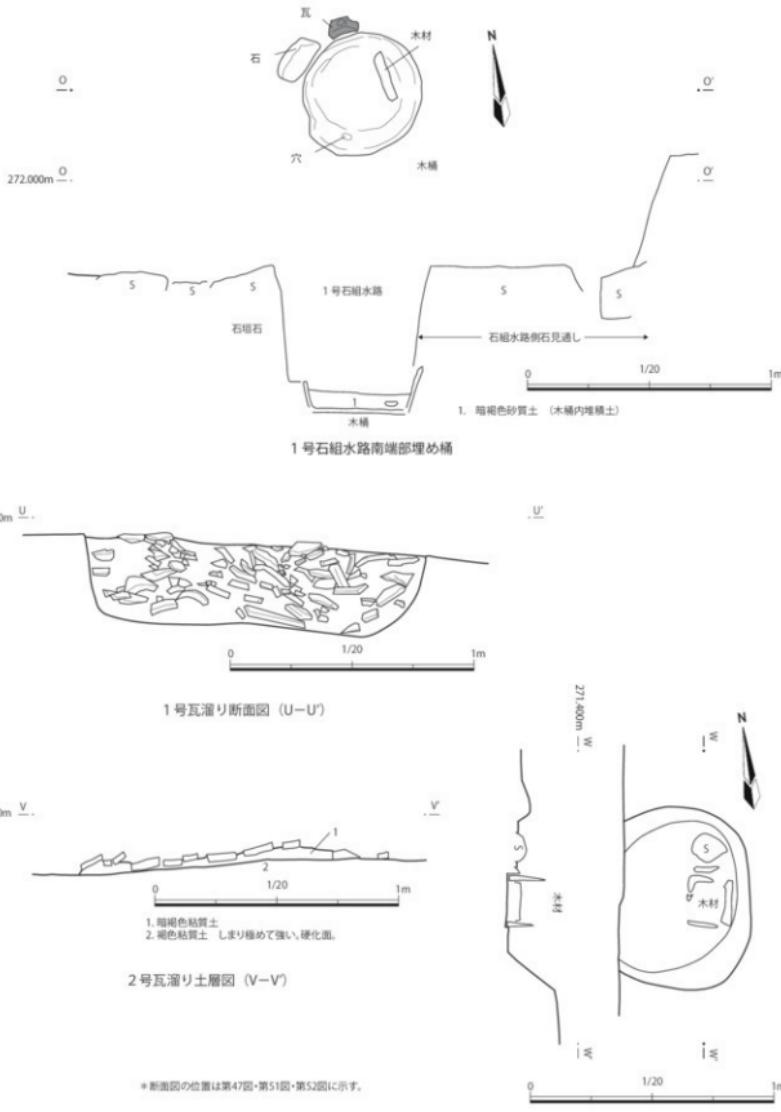
2号石組水路北方向西側石内面立面図 (S-S')



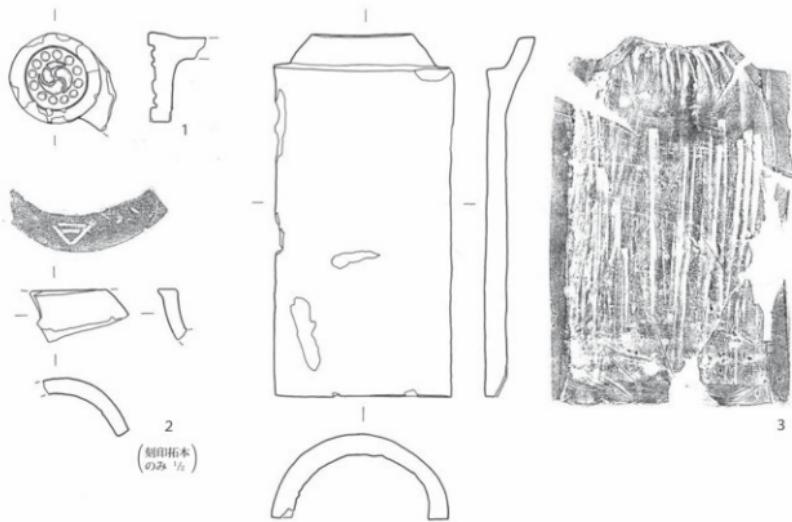
4号トレンチ・2号石組水路南壁土層図 (T-T')

*断面図の位置は第4回・第5回・第2回に示す。

1. 岩礁の粘土質土 15cm以下の層を多量に含む。
2. 黄褐色粘土質土 5cm以下黄褐色土を含む。10cm以下黄褐色土を多量に含む。
3. 黄褐色粘土質土 4cm以下黄褐色土を含む。10cm以下黄褐色土を多量に含む。
4. 黄褐色粘土質土 フカフカの層によく現れ。じりやや張る。
5. 岩礁の粘土質土 フカフカの層によく現れ。じりやや張る。
6. 岩礁の粘土質土 5cm以下黄褐色土を多量に含む。
7. 岩礁の粘土質土 5cm以下黄褐色土を多量に含む。じりやや張る。
8. 岩礁の粘土質土 5cm以下黄褐色土を多量に含む。
9. 黄褐色粘土質土 1cm以下黄褐色土を多量に含む。
10. 黄褐色粘土質土 1cm以下黄褐色土を少量。
11. 黄褐色粘土質土 土壌中に砂利を含む。
12. 喀斯特灰質土 5cm以下喀斯特灰質土を多量に含む。
13. 喀斯特灰質土 5cm以下喀斯特灰質土を多量に含む。
14. 岩礁の粘土質土 5cm以下岩礁の粘土質土を多量に含む。



第 57 図 平成 27 年度前庭地点 瓦溜り・1号石組水路南端埋め桶・石垣西面付近方形木材



遺物 第7図 前庭地点 2-1)~2-2)



写真図版4 前庭地点 2-1)、2-2)

である標高 272.600m まで表土を除去し、精査を行ったが、近・現代の瓦溜り以外に遺構は確認されなかった。

南北方向の石垣は当初設計では噴水ピット設置時の掘削および表面舗装時の掘削により影響を受けることになっていたが、6月 24 日に開催された文化財保護審議会史跡部会の指導を基に、石垣上部の噴水ピット設置の掘削は、近代以降の削石二次堆積範囲のみを掘削とし、舗装は基礎構造を変更して、埋設保存することとなった。

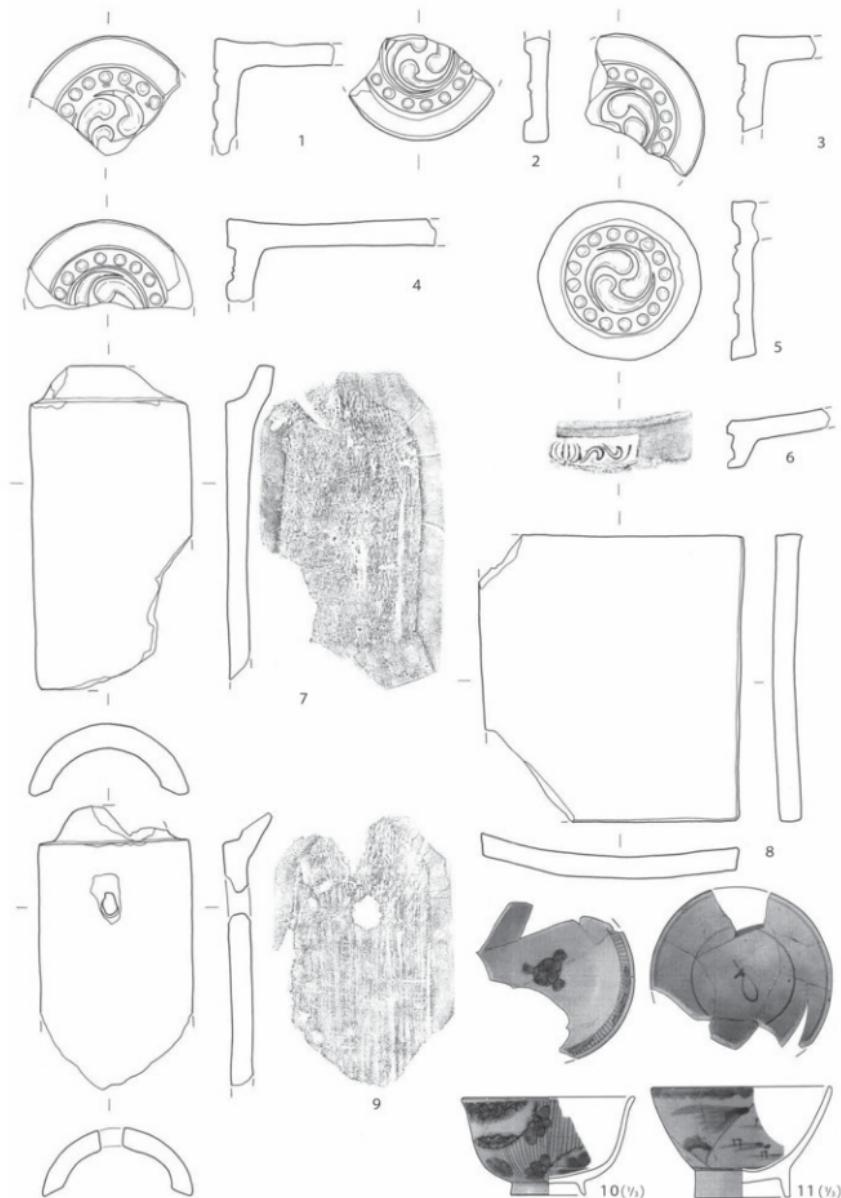
7月 25 日にはドローンによる 3 次元測量等の委託業務を実施し、27日に噴水ピット部二次堆積範囲を掘り下げ、**28日に PP シートによる遺構保護作業を実施**した。また 29 日・30 日の 2 日間で埋め戻し作業および機材撤収を実施し調査を終了した。

木桶は水路の底面を掘り下げる設置される。残存する木桶側板の最大長（高さ）は 21cm で、最小は 7cm である。桶の直径は底板で 40cm を計る。

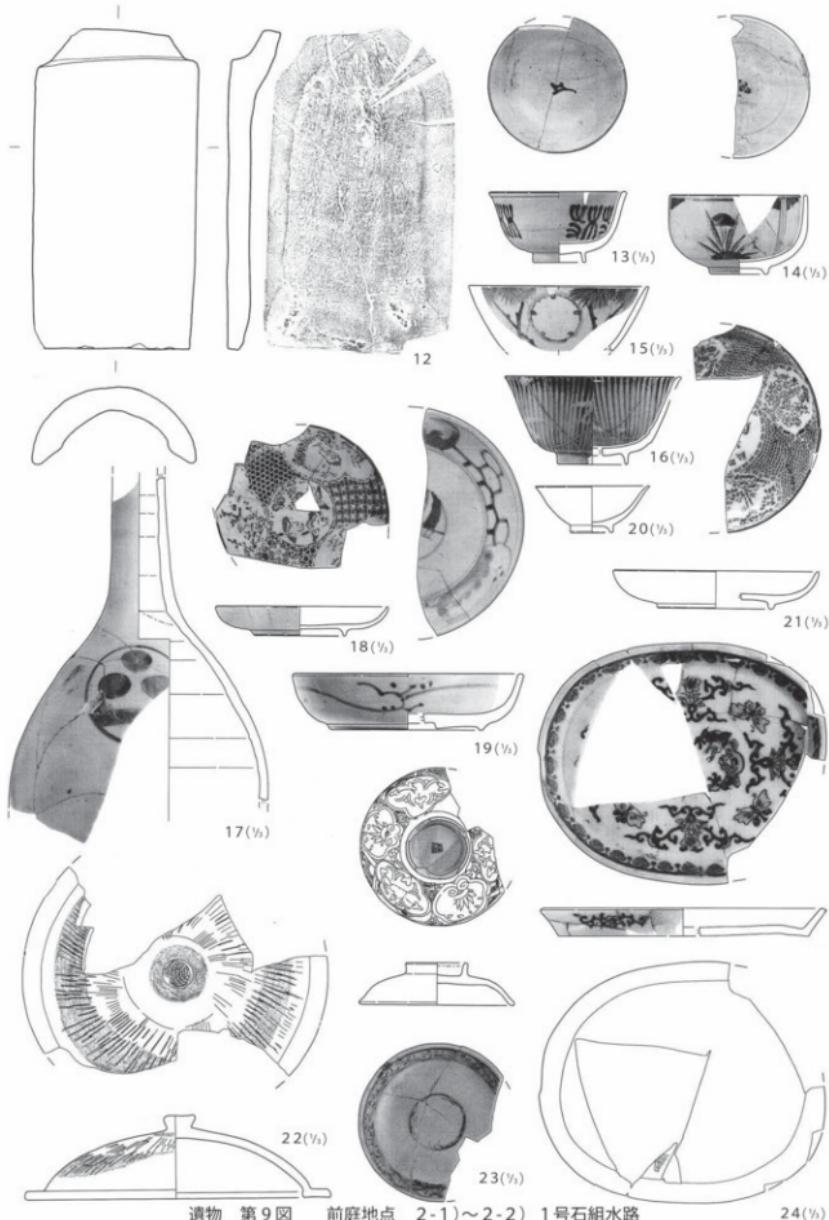
江戸時代中期の絵図である『楽只堂年録』では桶の付近に「是より外ホリマテ埋下水」と記載されており、水路を流れてきた水が、水路南端部から地下水路をとおって外堀に流れ込んでいるものと推測される。

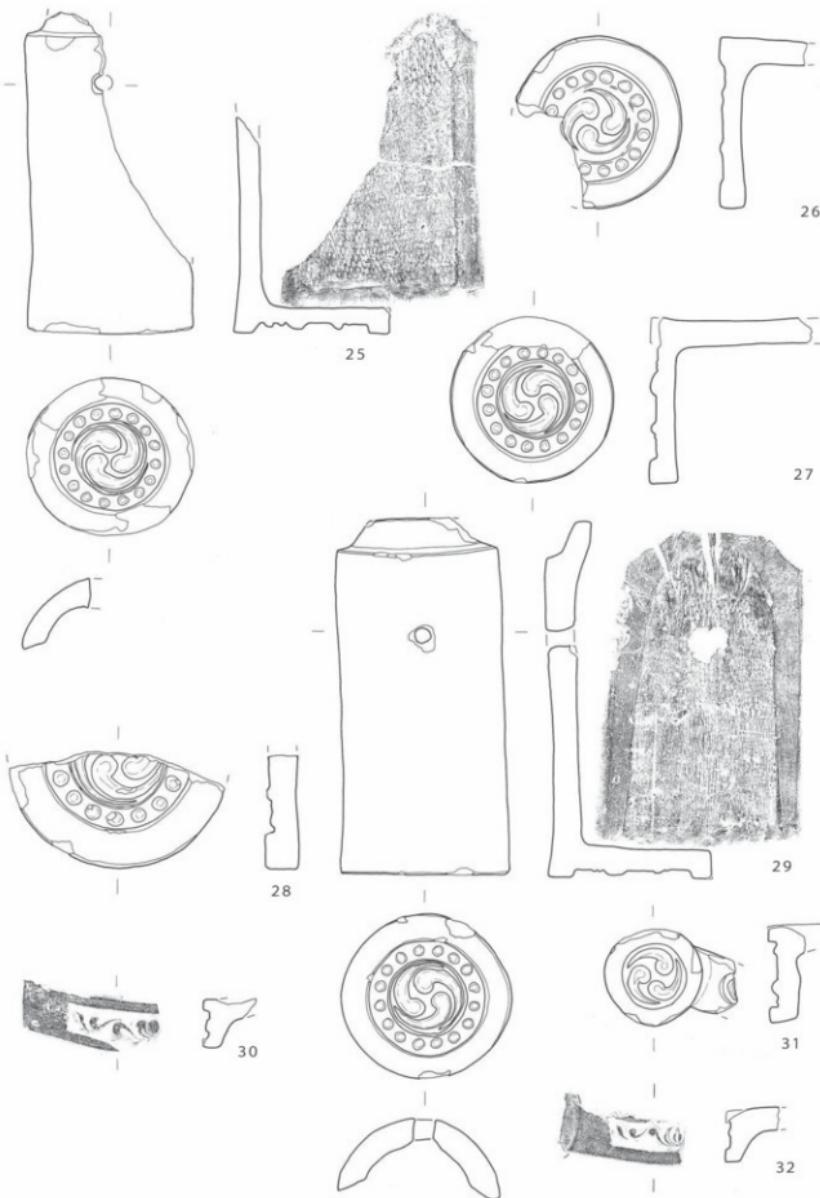
石垣の南側には、東西方向の石組み水路（2 号石組み水路）を確認したが、検出した肩位が近代の面にあり、江戸期の甲府城内の遺構にほとんど使用されない河原石などを水路構築材に使用していることなどから、甲府城廃城後に構築されたものと思われる。

また、石垣西側では噴水施設の最大掘削深度

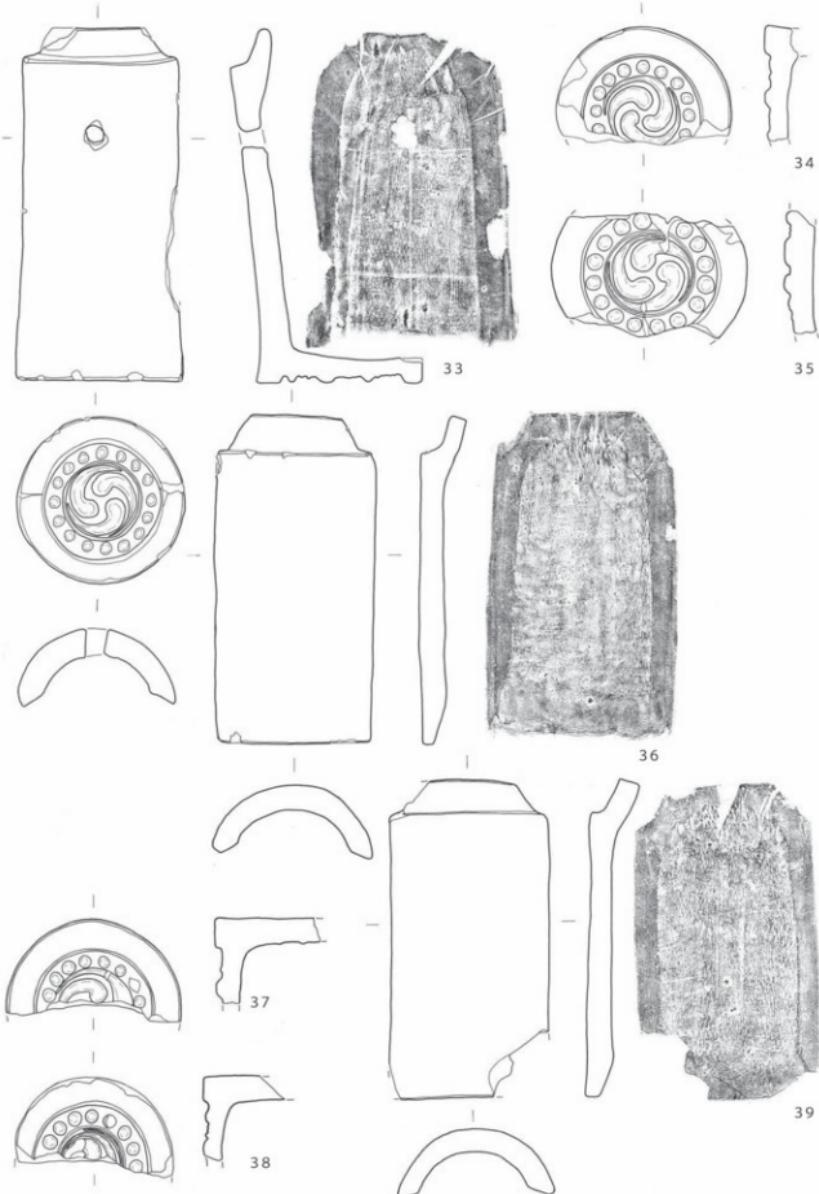


遺物 第8図 前庭地点 2-1)～2-2) 1号石組水路

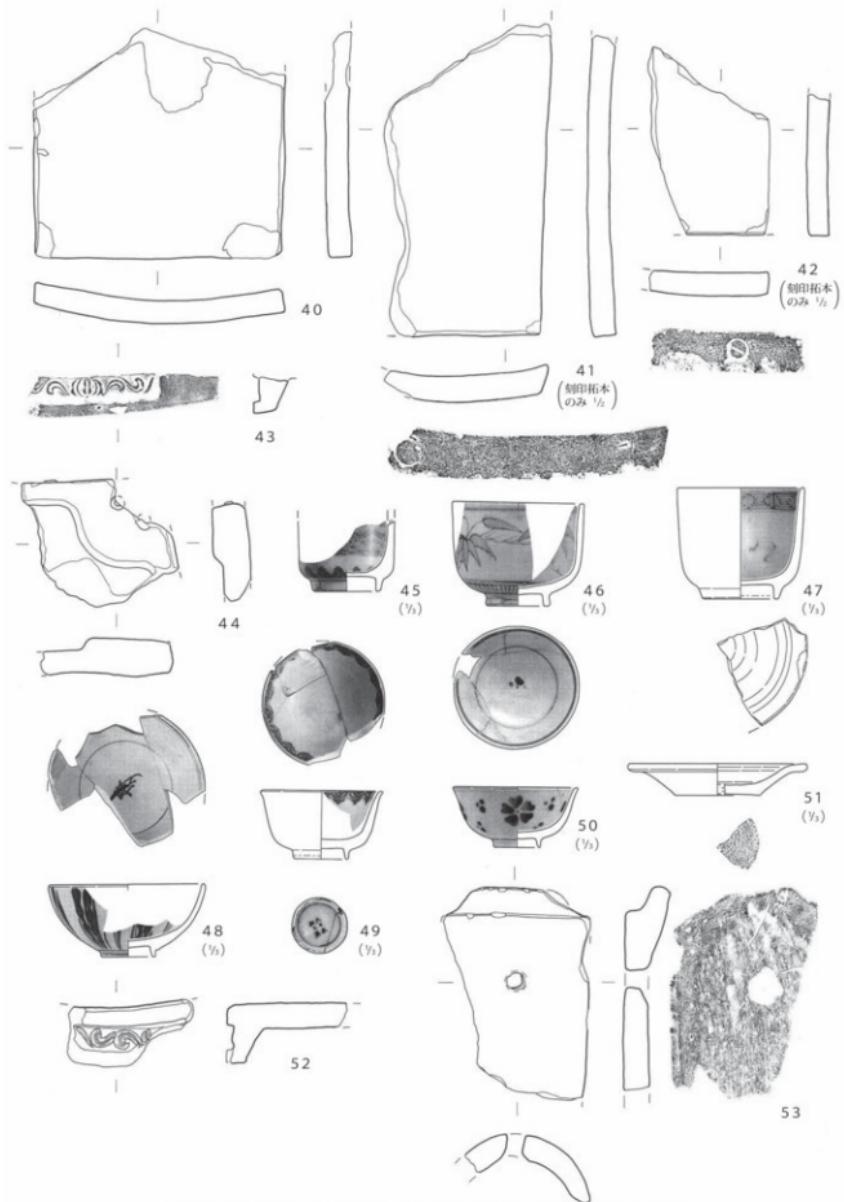




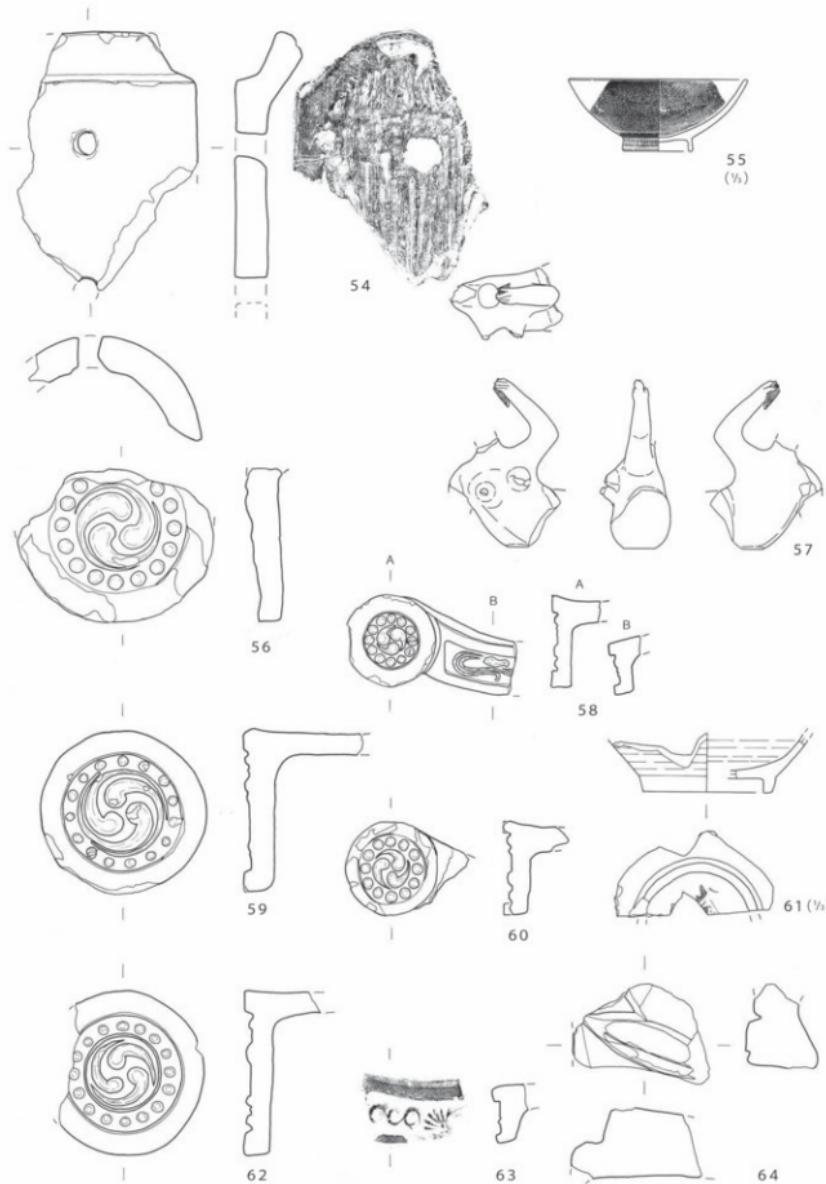
遺物 第10図 前庭地点 2-1)~2-2) 1号石組水路



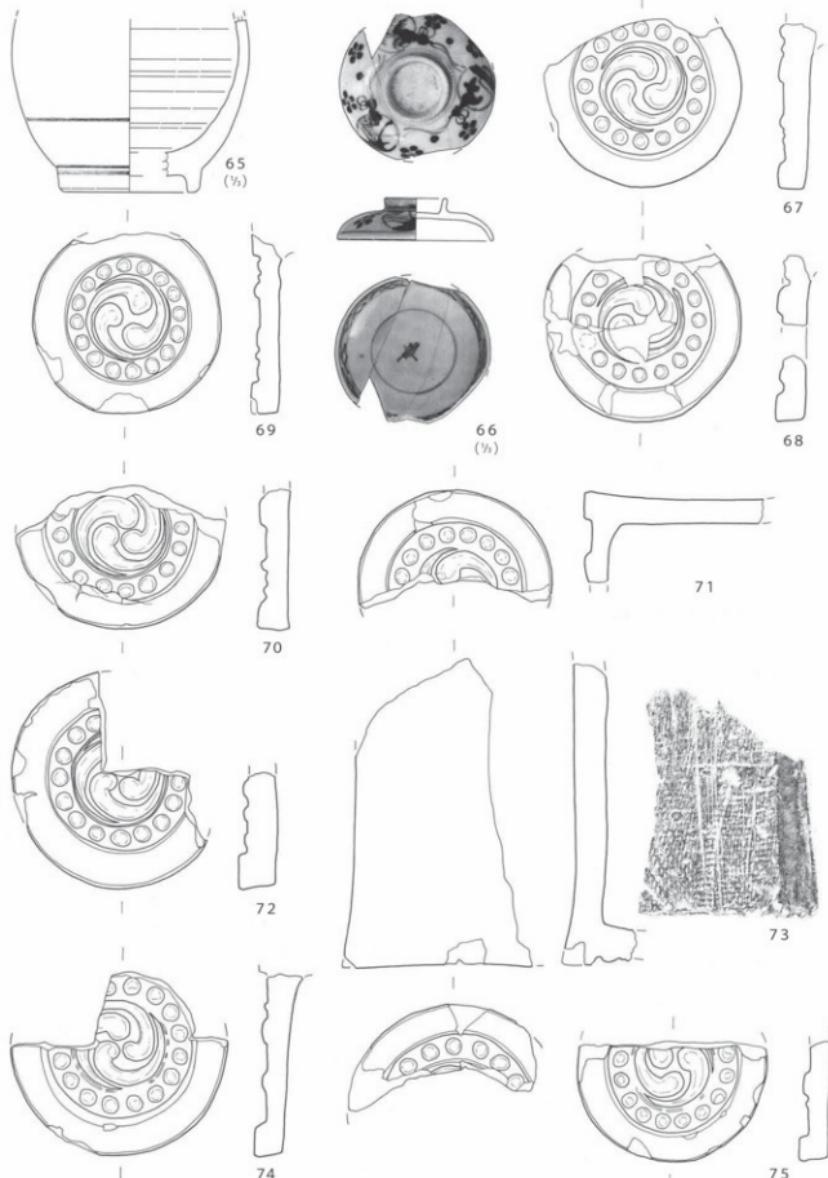
遺物 第11図 前庭地点 2-1)~2-2) 1号石組水路



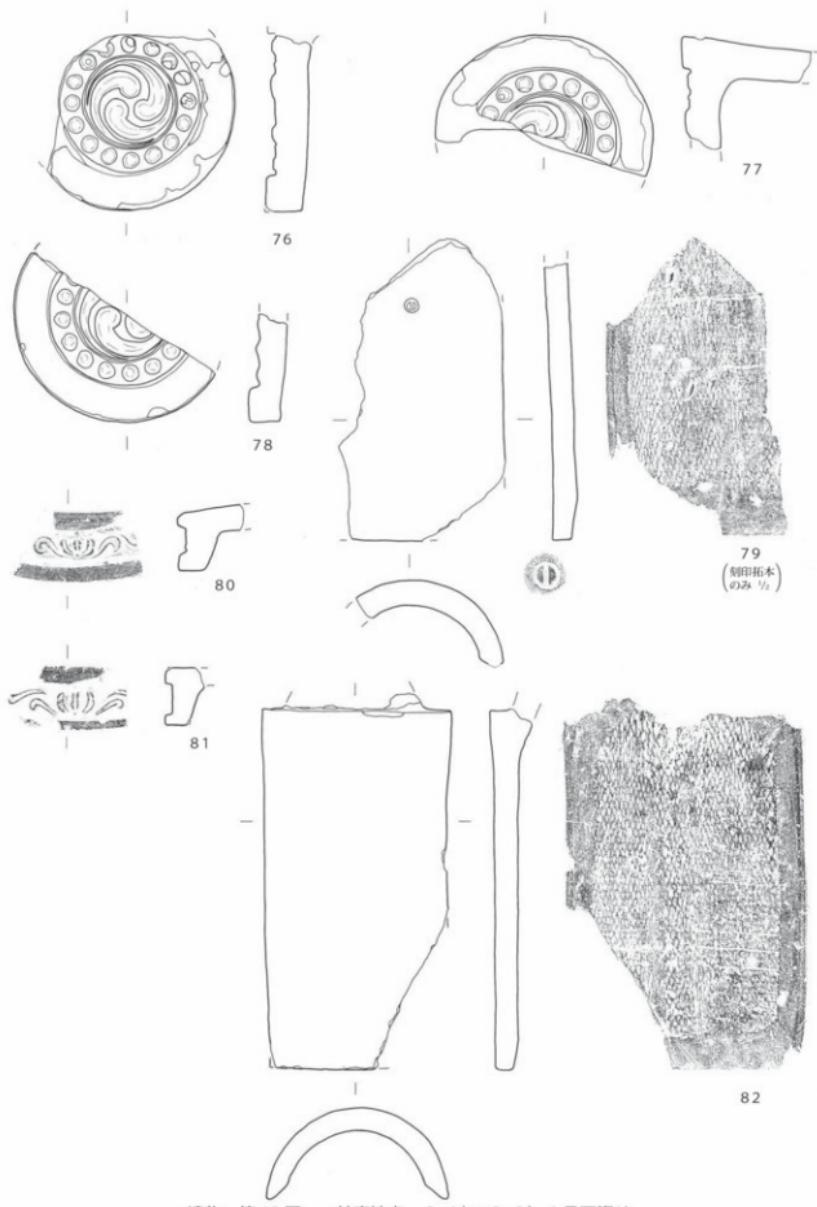
遺物 第12図 前庭地点 2-1)~2-2) 1号、2号石組水路

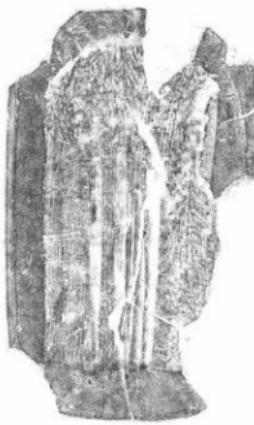
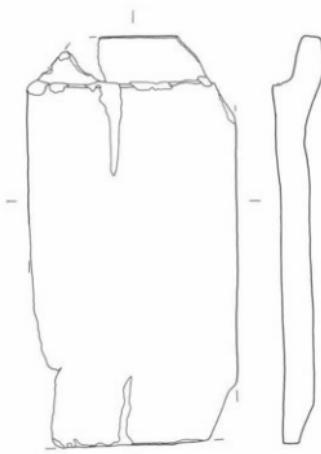


遺物 第13図 前庭地点 2-1)~2-2) 2号石組水路、石垣、トレンチ



遺物 第14図 前庭地点 2-1)~2-2) レンチ、1号瓦溜り

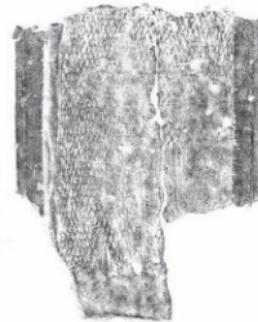
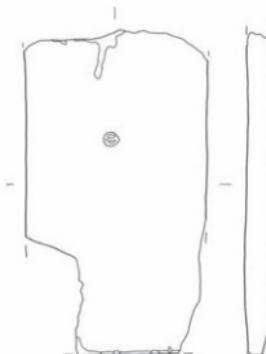




83



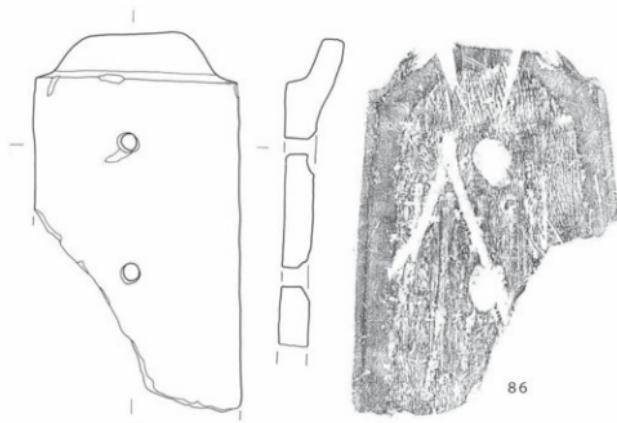
84
(のみ $\frac{1}{2}$)



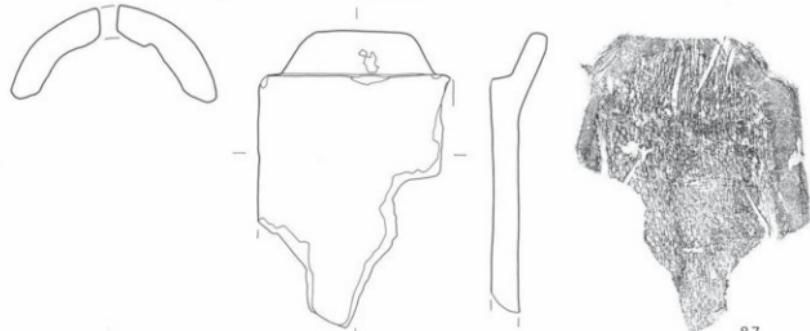
85
(のみ $\frac{1}{2}$)



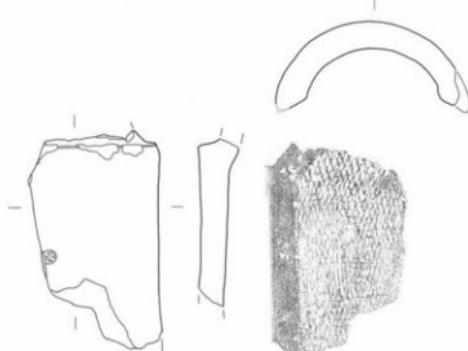
遺物 第16図 前庭地点 2-1)~2-2) 1号瓦溜り



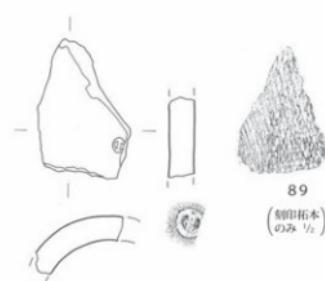
86



87



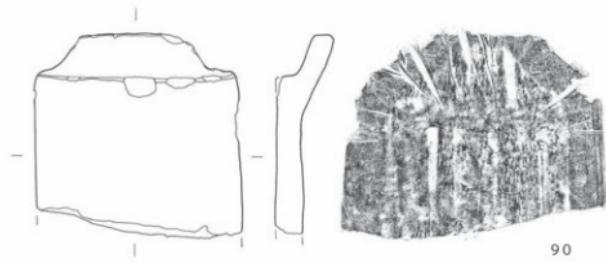
88

(鉢印拓本
のみ $\frac{1}{2}$)

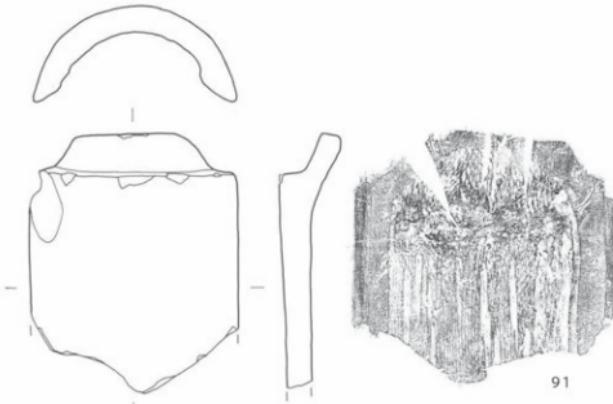
89

(鉢印拓本
のみ $\frac{1}{2}$)

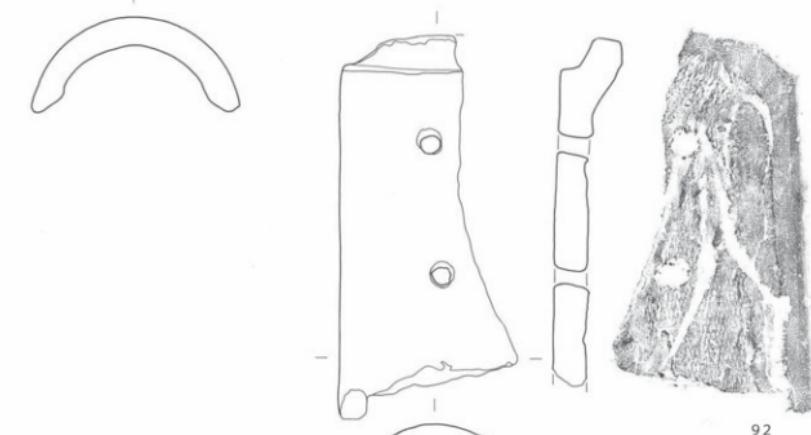
遺物 第17図 前庭地点 2-1)~2-2) 1号瓦溜り



90

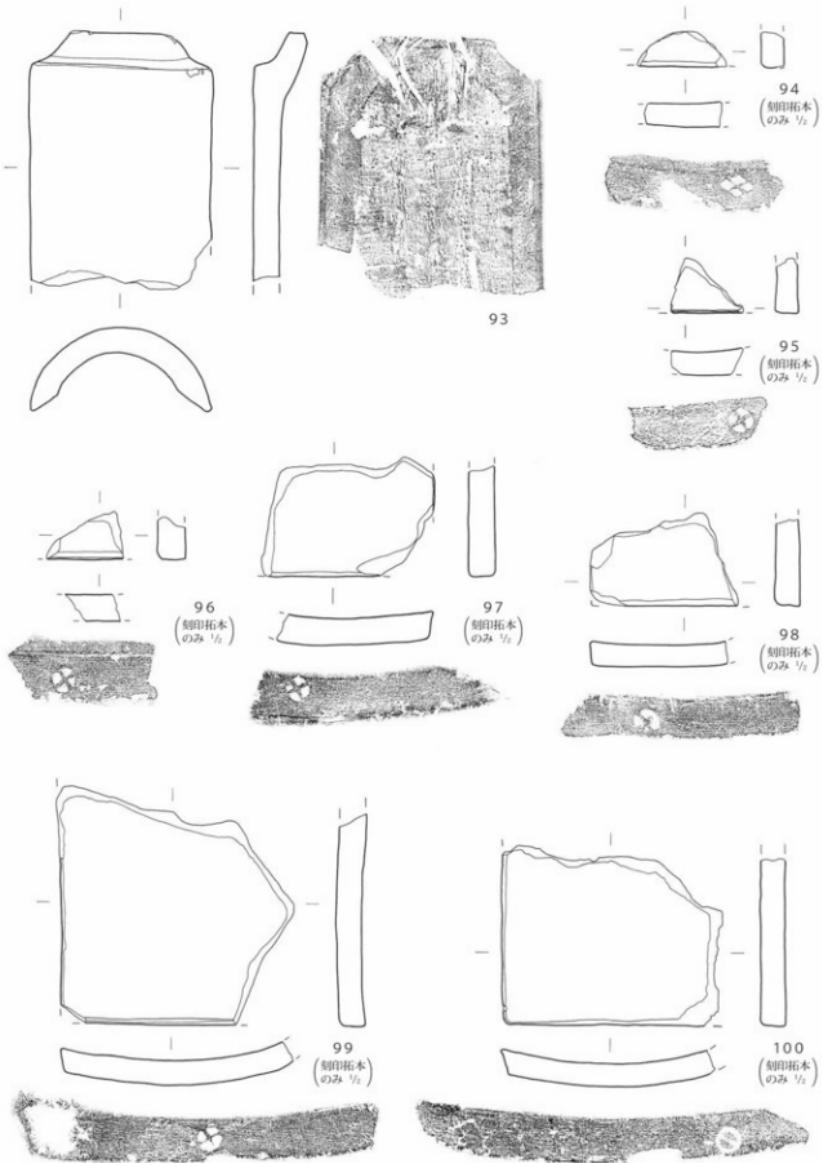


91

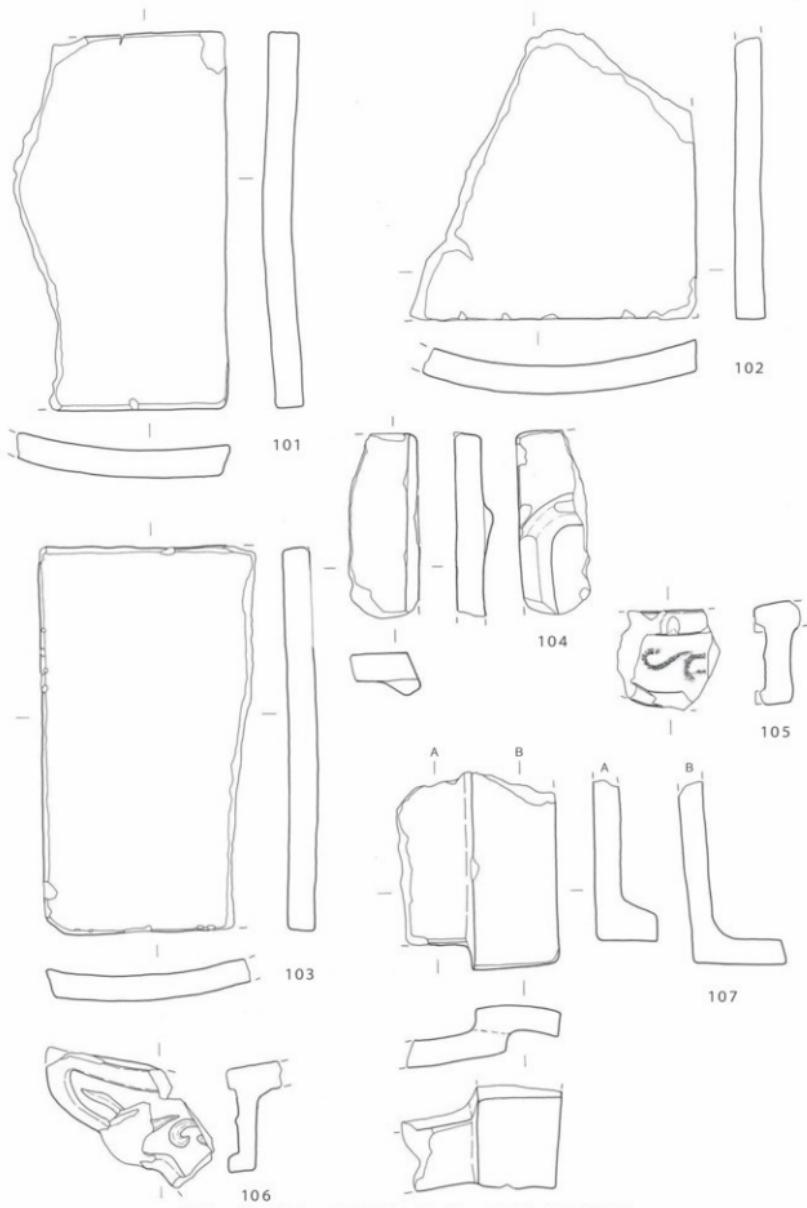


92

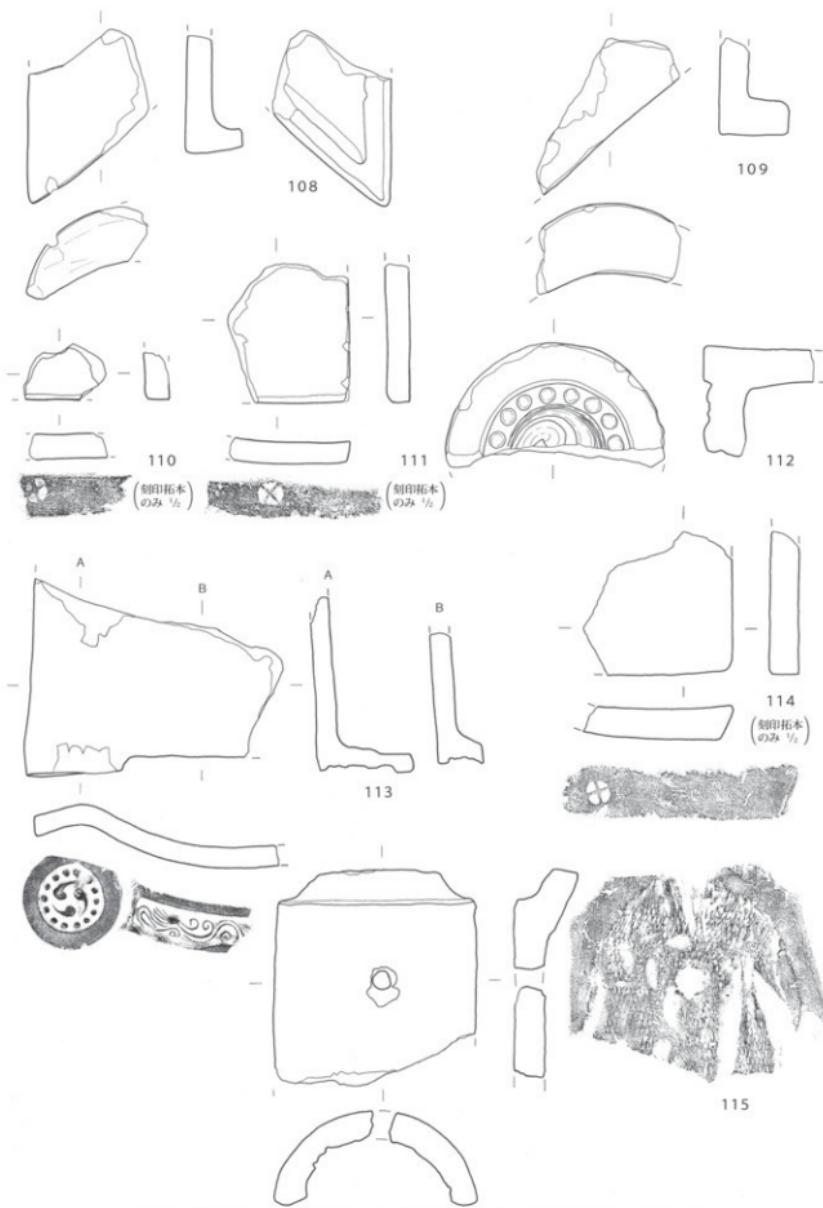
遺物 第18図 前庭地点 2-1)~2-2) 1号瓦溜り



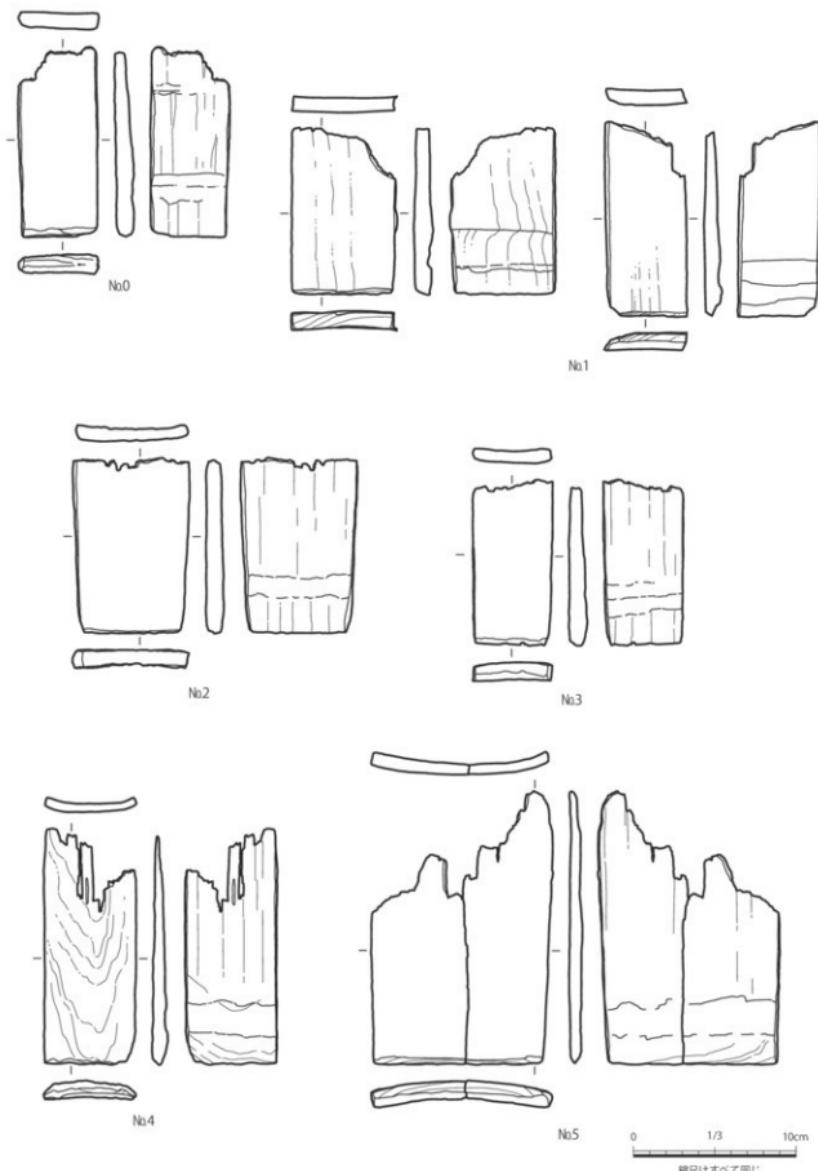
遺物 第19図 前庭地点 2-1)~2-2) 1号瓦溜り



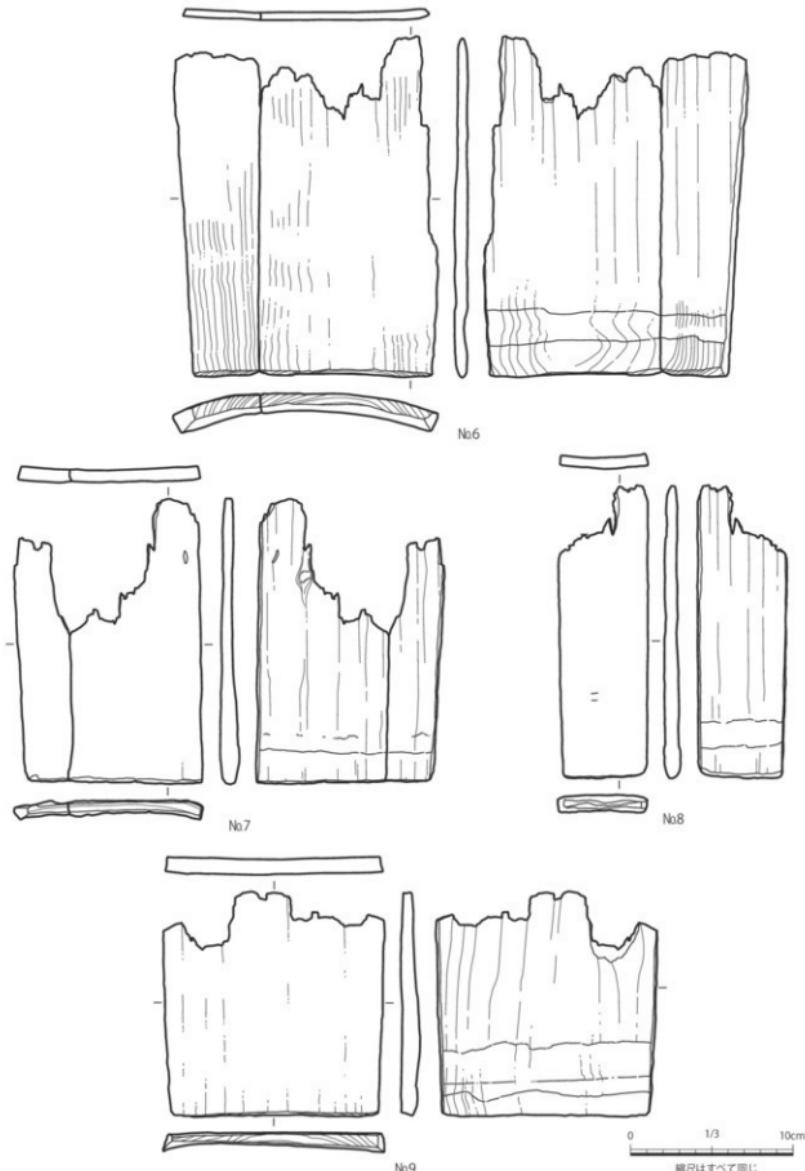
遺物 第20図 前庭地点 2-1)~2-2) 1号瓦溜り



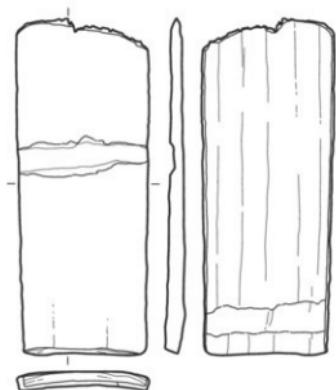
遺物 第21図 前庭地点 2-1)~2-2) 2、3号瓦溜り、表土一括



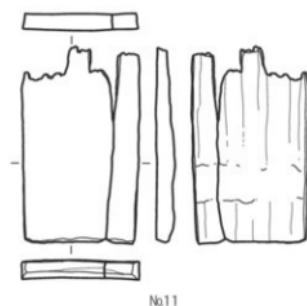
遺物 第22図 木桶(側板材)



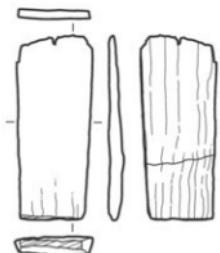
遺物 第23図 木桶(側板材)



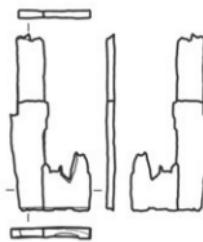
No.10



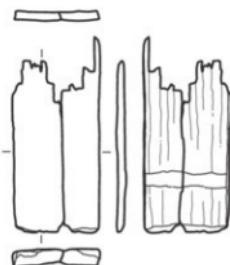
No.11



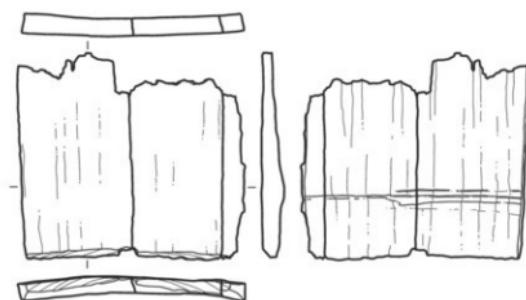
No.12



No.13



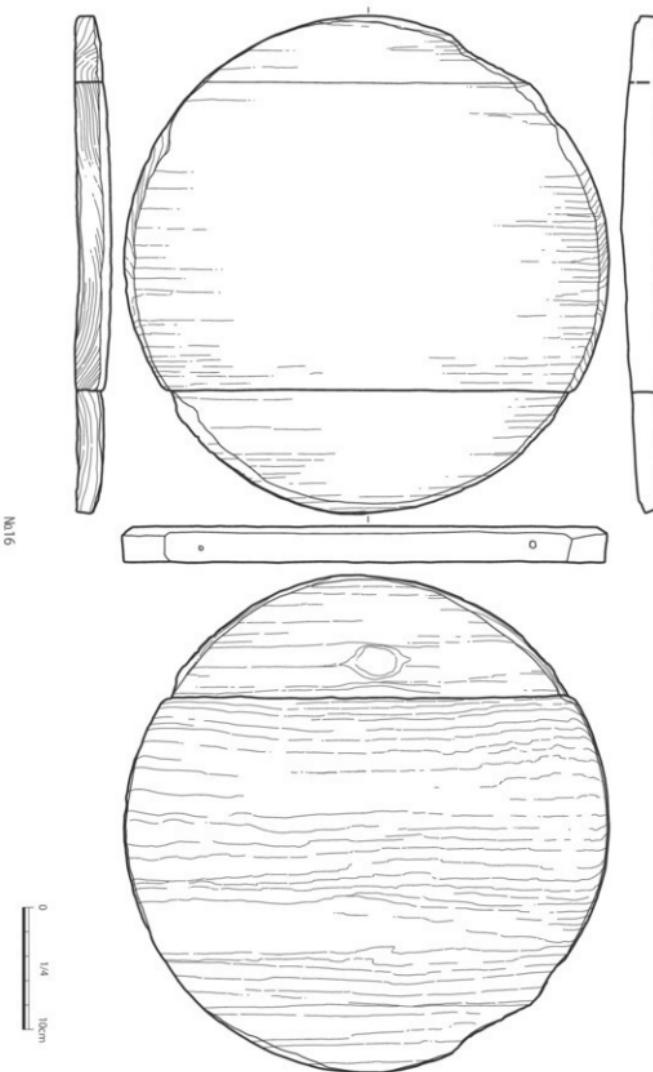
No.15



No.14

0 1/3 10cm
縮尺はすべて同じ

遺物 第24図 木桶(側板材)



遺物 第25図 木桶(底板材)



写真図版 5 前庭地点（1号石組水路）



写真図版 6 前庭地点（1号、2号石組水路、石垣、トレンチ、1号瓦溜り）



71



72



73



74



76



77



78



80



81



79



82



83



85



84



86



87



88



89



92



90



91



93



94



95



写真図版 8 前庭地点（1号、2号、3号瓦溜り、表土一括）



写真図版 9 前庭地点 木製品（木桶）

3-1) 別館改修工事本館一別館間渡り廊下基礎撤去に伴う立会調査（立会番号 25-06・07）

調査地点：県庁構内 調査期間：平成 26 年 2 月 5 日～2 月 8 日 調査面積：100m²

調査担当者：今福利恵・宮里学・塩谷風季

本館と別館西側を結ぶ渡り廊下の基礎撤去に伴い、掘削予定範囲の立会調査を実施することとなった。調査予定場所は甲府城跡楽屋曲輪の西よりであり、現状は県庁舎別館の西側に隣接するところである。原則的に新規の掘削ではなく、既存施設の基礎部分までの撤去を目的とするものであり、**甲府城に関する遺構・遺物の遺存状況を確認すべく立会調査を実施し**、写真等による記録を行った。

2 月 5 日より 2 月 8 日にかけて既存施設の基礎部分の撤去が断続的に行われた。渡り廊下の土間および柱基礎の撤去が行われた。土間直下の地表下 30 ～ 40cm まで玉石があり、その下は土層となる。周囲に柱基礎は 2 カ所にあり、北側 2 本、南側 4 本となる。基礎周りは地表下 120cm まで掘削されており搅乱されている。柱基礎下にはコンクリート杭が 2 本ずつ打ち込まれていた。事業課によると渡り廊下はさらに地表下 200cm 程の掘削を行うとのことであり、コンクリート杭の上端 100cm 程を撤去する指示があったが、**埋蔵文化財未調査区域**であることから中止を指示し、**埋蔵文化財調査を要請した**。本館に接続する部分についての土間撤去は、既存基礎の撤去のみでありそれ以上の掘削はなかった。

調査結果

既存基礎のみの撤去であり、それ以上の掘削は行っていないが、特に**土間下は埋蔵文化財が遺存している可能性がある**。また西側に隣接する駐輪場では平成 23 年度の発掘調査において当該地区は、地表下 200cm 以下までは地山層が確認できないほど深くまで造成層であることがわかっている。よって**土間下のみならず柱基礎が**あった部分についても**埋蔵文化財が残っている可能性がある**。今後の工事で地表下 200cm 程掘削するとのことなので当該箇所については埋蔵文化財調査が必要となる。



5月26日



5月29日



6月4日 1区全景

3-2) 別館改修工事本館一別館間渡り廊下基礎撤去に伴う立会調査（立会番号 25-12）

調査地点：県庁構内 調査期間：平成 26 年 3 月 11 日 調査面積：約 5m² 調査担当者：今福利恵

基礎造成予定地より直徑 60cm の管が想定されたことにより、その位置を確認するための立会を行った。

掘削地点の西側のコンクリート土間下（地表下 160cm）で管を検出した。掘削範囲においては他にも管路があり、地表下 110cm までは掘削されていた。



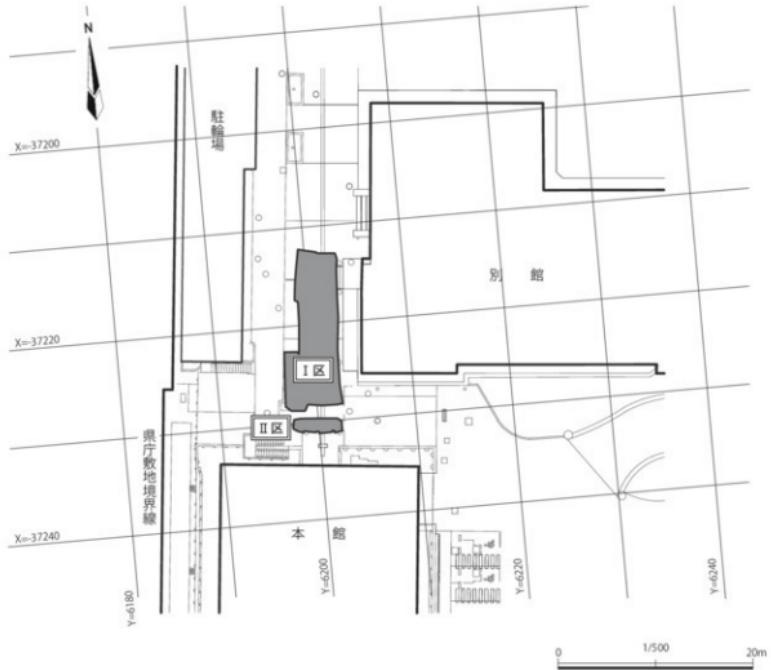
6月12日



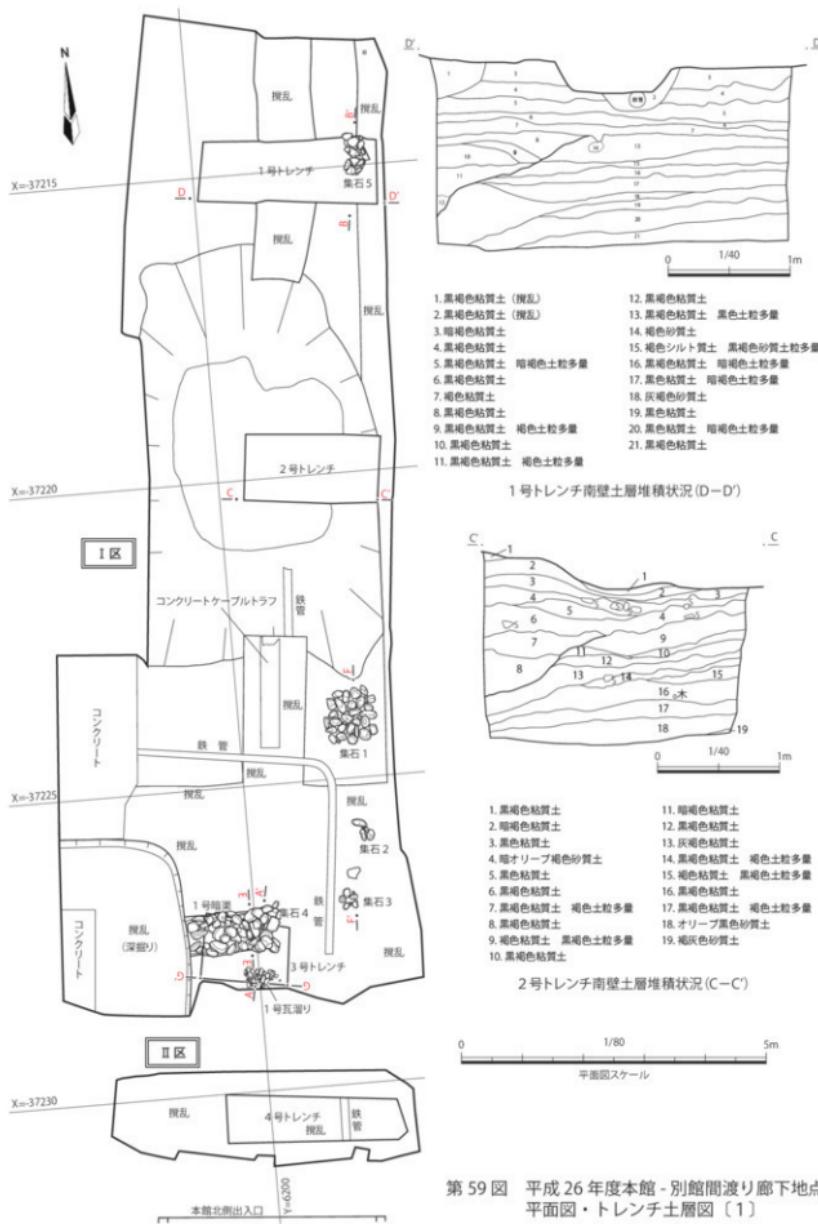
6月13日 2号トレンチ土層断面

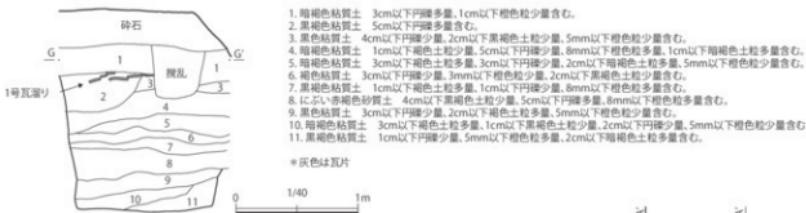


6月16日 1号トレンチ

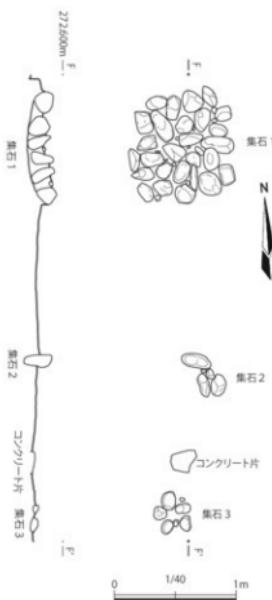


第 58 図 平成 26 年度本館 - 別館間渡り廊下地点 調査位置図

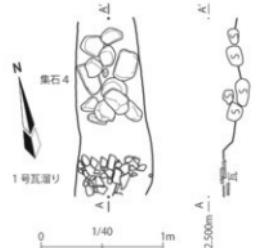




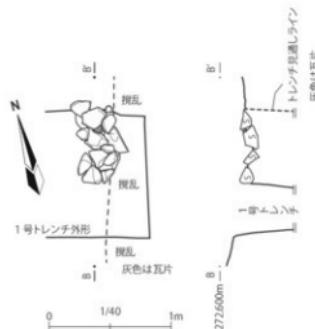
3号トレンチ土層図



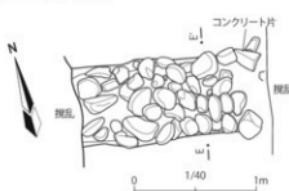
集石 1・集石 2・集石 3 平面図・断面図



集石4・1号瓦溜り平面図・断面図

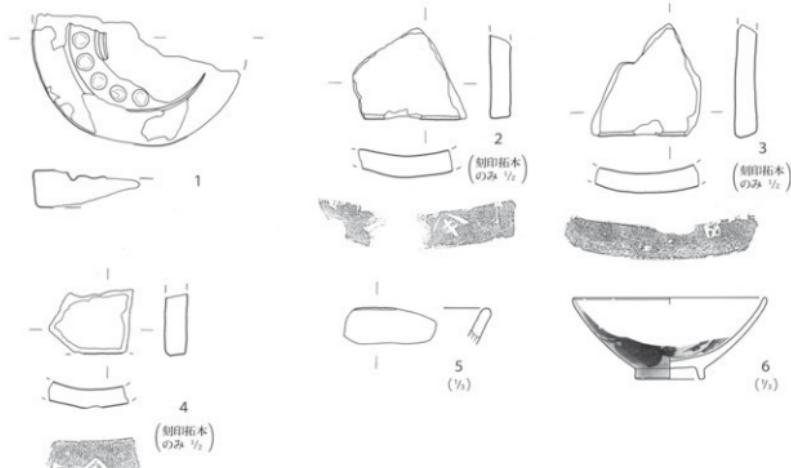


集石5 平面図・断面図



1号館梁平面図・断面図

*断面図の位置は第59図に示す



遺物 第26図 本館-別館間渡り廊下 3-1)~3-3)

3.3) 別館改修工事本館一別館間渡り廊下建設に伴う発掘調査

調査地点：県庁構内 調査期間：平成26年5月26日～6月30日 調査面積：100m²

調査担当者：正木季洋

平成26年2月に実施した渡り廊下基礎撤去工事の立会調査により、埋蔵文化財が存在している可能性が認められたため、調査面積約100m²の発掘調査を平成26年5月26日～6月30日の間で実施した。

調査は、県庁内の通路確保の都合から、2回に分けて実施した。調査区は南北方向に延びていること、また通路の確保のために北側を1区とし、南側を2区とした(第58～60図)。

1区では東西方向のトレンチを3本設定し(1～3号トレンチ)、掘削後に土層観察を行ったところ、土塀の版築層と思われる造成土層を確認した。1・2号トレンチでは土層中に東に向かって傾斜する層が確認されており、古い段階の土塀の端部の可能性がある。造成層中からは江戸期の瓦がわずかに出土したほか、平安時代の土師器片も出土している。また、1区南側は造成層上に水道管などの後世の搅乱を受けているものの、集石や瓦溜りが確認されており、検出土層や出土遺物から明治期以降に構築されたと考えられる。2区では表土除去後、4号トレンチを設定し掘削を行ったが、電気配管や雨水配水管などにより搅乱を受けていたため、1区で確認された造成層は確認されなかった。

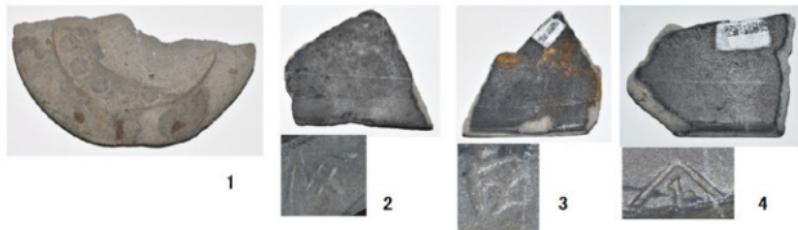


6月21日 2区表土掘削



6月23日 2区全景

発掘調査作業員による調査・記録作業は6月25日で終了し、6月26日には調査区の埋め戻しを行い、27～30日に機材・施設等の撤去をもって発掘作業を終了した。室内における基礎的整理作業は、平成27年1月14日～2月27日まで実施し、図面等記録類の整理を実施した。



写真図版 10 本館－別館間渡り廊下 3-1)～3-3)

4-1) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う防災新館北側 発掘調査

調査地点：県庁構内防災新館北側 調査期間：平成25年4月22日～27日 調査面積：約78.15m²

調査担当者：今福利恵・宮里学・塩谷風季・花形裕

県庁舎耐震化等整備事業（防災新館北側）における埋設配管工事に伴い、掘削予定範囲の発掘調査を実施することとなった。この場所は、当所が平成22年度発行した『甲府城跡・楽屋曲輪地点』によると、甲府城大手番所南側石垣に面した遺物集中区に該当する。4月19日に学術文化財課、管財課、工事関係機関者、埋蔵文化財センターによる事前協議が行われた。敷設工事で広く掘削するエリア①については本調査とし、エリア②③④⑤は狭小地のため立会いを実施し、遺構の遺存状況を把握した上で原則現地保存を行い、現地保存ができない箇所については記録保存を行うこととした。

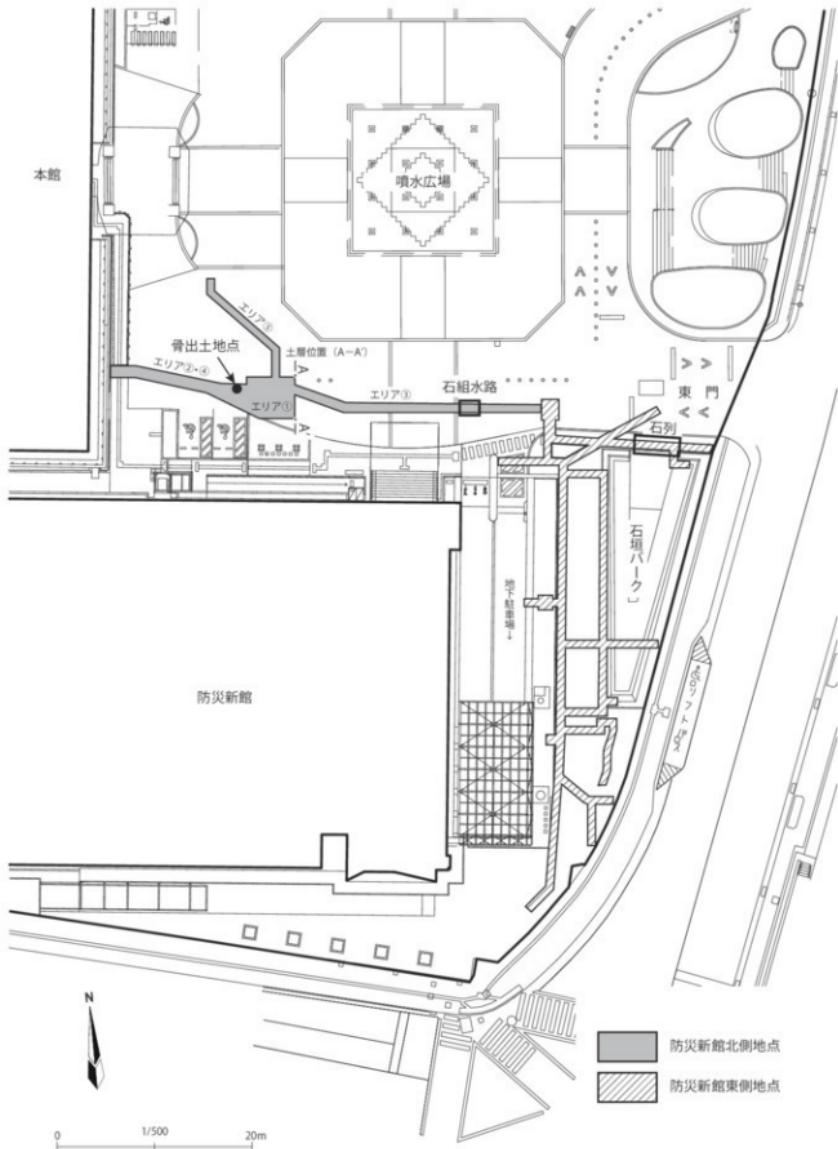
それぞれのエリア地点は、エリア①は防災新館正面のハンドホール地点、エリア②、④は新館正面の西側の東西方向に伸びる配管、エリア③はハンドホールから東側に伸びる配管、エリア⑤はハンドホールから本館へ伸びる配管地点である。

発掘調査は4月22日にエリア①の重機による表土剥ぎを実施し、人力による掘削作業を行い、土壤堆積等の記録をした。4月23日にエリア②④を重機による表土剥ぎを実施し、土壤堆積等の記録をした。4月24日は配管のため掘削はない。4月25、26日にエリア③は重機による表土剥ぎを実施し、遺構・遺物が認められ、保護措置をとった。4月27日にエリア⑤に立会いを行い、土壤堆積等の記録をした。重機による埋め戻しは、エリア①②④は25日に行い、エリア③は26日、エリア⑤は27日に終了した。4月30日に機材等を撤収して現場での作業を終了した（第61・62図）。

調査成果

重機による表土剥ぎにおいて、昭和中頃の県庁舎建設に伴って整地された面が現地表面より約70cmまで検出された。炭化物を多く含んだ約2cm厚の灰層が検出され、戦時の際の炭化材や灰を埋めたものと思われる。

エリア①は、北東区で現地表面より約70cmまで整地層が確認され、北東側一部を除いて下半が壊乱であったが、瓦や陶器などを検出した。東壁は整地層を確認するために一部深く掘削を行い、現地表面より約100～170cmで直径約50～60cmの安山岩と小礫の凝灰岩を検出した。東方向へ続いていると思われるが性格は不明で、180cmまでの掘削とした。また、130cm程から骨が出土（第4章参照）した。この骨の端部には金属片が確認され、その性格は不明である。エリア②④では、現地表面より約70cmの粘性土層から遺物が散発的に出土したが遺構は認められず、現地表面より約80cmまでの掘削とした。エリア③は、エリア①より東10mで現地表面から約60cmより遺物が多量に出土し始め、ここから東10mまでを保護区域として60cmまでの掘削とした。



第 61 図 平成 25 年度防災新館北側地点・東側地点 調査位置図・遺構位置図

また保護区域より東で80cmの深さで南北に伸びると想定される安山岩の石列2列の一部を検出した。この石列は前記の『甲府城跡・楽屋曲輪地点』で確認された石列2列と同一のものと思われる。確認できた石列幅は約40cm、深さ約30cmである。石列2列は2段目の石まで残存していた。石列2列の遺存状況を把握し、保存措置を行うこととなった。また石列2列より東側は現地表面より80cmで搅乱が広がり瓦を出土したが、ハンドホール設置箇所で、120cmまでの掘削とした。エリア⑤では、現地表面より約70cmより瓦が散発的に出土した。直径約70cmの礎石状の石が検出されたが、石材が花崗岩であることから県庁舎に関係するものと思われる。掘削は80cmまでとした。

一部現地表面より90cmまで搅乱されている場所があるものの、現地表面より約70cm以下の整地層中に瓦などが遺存していると判断される。石列2列は山砂で保護層を設け、土嚢袋を敷いた上で埋め戻し、現地にて埋設保存した。出土遺物量は陶磁器や瓦類など、プラスチックコンテナ収納箱にて3箱と土嚢袋3袋である。



4月26日エリア③



4月26日エリア③水路石列検出状況



4月26日エリア③石列の埋設保存



4月27日エリア⑤礎石状石材を確認

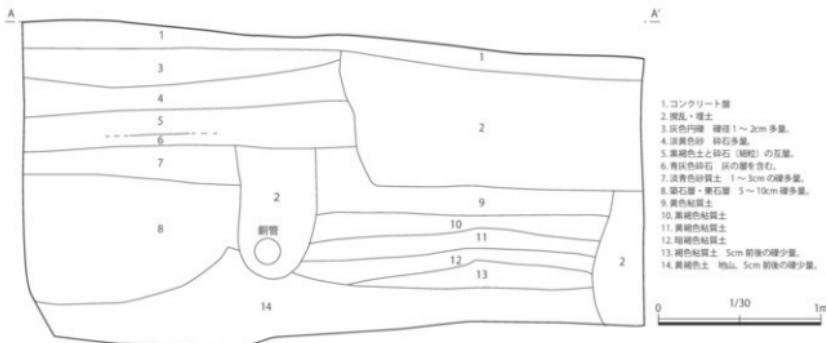
4-2) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う防災新館東側 立会調査

調査地点：県庁構内防災新館東側 調査期間：平成25年5月21日～平成25年6月5日

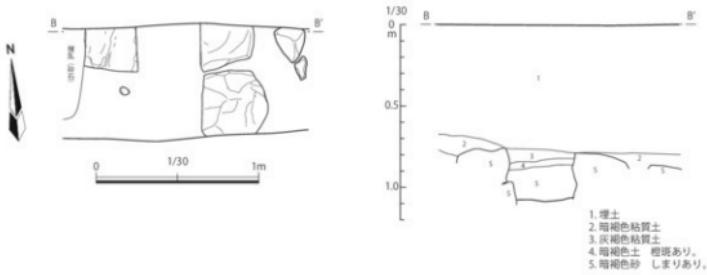
調査面積：約131m² 調査担当者：今福利恵・塙谷風季

県庁舎耐震化等整備事業（防災新館東側）における埋設配管工事に伴い、掘削予定範囲の発掘調査を実施することとなった。この場所は当所が平成22年度に発行した『甲府城跡・楽屋曲輪地点』によると、甲府城大手門石垣に該当し、今回の工事範囲はこの発掘調査区の外側に位置する。5月20日に学術文化財課、管財課、工事関係者、埋蔵文化財センターによる事前協議が行われた。設計では上下水管と電気配線を個別に掘削する計画であったが、石垣を保存するために可能な限り掘削を一本化する事とした。立会いは5月21日から6月5日に重機による掘削を実施し、適宜写真と図面による記録を行った。

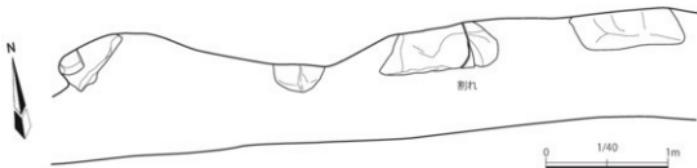
5月21日に重機による表土剥ぎを実施し、石垣に関連する石または転石等の大きい礎（石列）が検出され、



防災新館北側エリア①東壁土層図 (A-A')



防災新館北側エリア③石組水路平面図・土層図



防災新館東側石列平面図

第62図 平成25年度防災新館北側地点・東側地点 土層図・石組水路・石列

写真と記録を行った。5月22日は前日に検出された石に**保護措置**を行った。5月23、24日に重機による表土剥ぎを実施し、土壌堆積等の記録を行った。5月27日に前出の報告書で確認された**石垣が検出**されたため、立会い及び工事作業を休止し、翌日に菅財課、学術文化財課、工事関係者、山梨県埋蔵文化財センターの4者で現地協議を行う事とした。5月28日に前記の4者での**現地協議の結果**、これ以上の掘削を行わない事とし、設計



5月21日



5月21日 石垣に関連する礫の全体検出状況

変更を行い、**石垣を保存**する事となった。5月30日に設計変更後の計画を、菅財課、学術文化財課、工事関係者、埋蔵文化財センターの4者で現地にて確認を行い、石垣の保護措置を実施した。6月5日に重機による掘削を実施し、適宜写真と図面による記録を行った。



5月22日 石垣に関連する礫の保護措置の状況



5月27日 石垣に関連する礫の埋設保存状況



5月28日 保護措置の協議



5月30日 石垣を養生し埋設保存とした

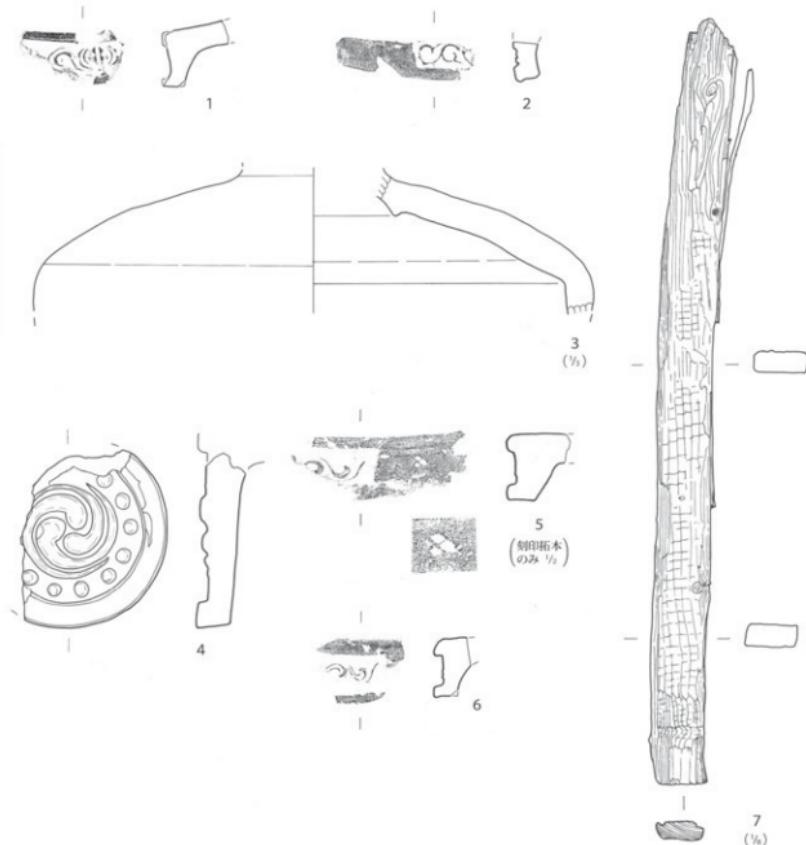
調査成果

5月21日に重機による掘削において、**現地表面より約30cmから大きさ約50～100cmの石垣に関連する石、または転石等の大きい礫（安山岩）が検出された**。5月22日に埋蔵文化財が埋蔵していることが分かるように、

埋文と書いたシートを石の上にかけて、山砂をかけて養生して保護措置を行った。

5月23日に電気配線接続のため、一部深く掘削を行ったところ現地表面より約80cmまで搅乱層、現地表面より約80～130cmまで江戸期の整地層、現地表面より約130～160cmまで地山が確認された。

現地表面から江戸期の整地層まで瓦や陶器などを検出した。5月24日に重機による掘削において、5月20日の現地協議を踏まえ、現地表面より約40cmで電気配線と上下水管の各掘削範囲を一本化し、掘削範囲を最小限にした。5月27日に前出の報告書で確認された石垣が現地表面より約70cmで検出されたため、5月28日に皆賀課、学術文化財課、工事関係者、埋蔵文化財センターの4者で現地協議を行い、設計変更を行い、石垣を保存する事となった。5月30日に前記の4者で設計変更後の確認を行い、①石垣パーク（県庁東側正門の南側に設置された施設の呼称）の縁石の規格を変更する。②埋設には碎石から山砂に変更する。③埋文シートを敷設後、石垣の保護層は25cm、13cm、7cmと傾斜に沿って設けること。を確認し、現地にて埋設保存した。6月4日までに工事関係者が利用する仮設トイレと電圧設備の移設が完了し、6月5日に重機による掘削を実施した。遺物



遺物 第27図 防災新館北側、東側 4-1)～4-2)

は確認されなかつたが掘削範囲は写真と図面による記録を行つた。出土遺物量は陶磁器や瓦類など、プラスチックコンテナ収納箱（法量：30×46×25cm）にて4箱である。



写真図版 11 防災新館北側・東側 4-1)、4-2)

5-1) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内東門周辺地点）に伴う第1次発掘調査（立会番号 27-10）

調査地点：県庁構内東門周辺 調査期間：平成 27 年 4 月 16 日～27 日 調査面積：約 40m²

調査担当者：浅川一郎・篠原真史・正木季洋・久保田健太郎

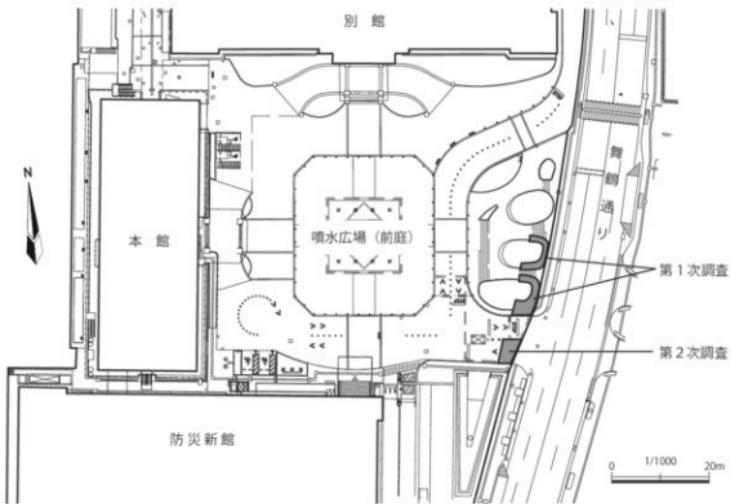
平成 27 年 4 月 12 日に外構整備事業において実施された県庁敷地境の既存擁壁撤去工事の立会調査により、石垣構築材と思われる石材を確認した。今後実施される樹木の根回り擁壁工事により、検出石材の一部を掘削する可能性があることから、石材の性格などを把握するための発掘調査を実施した（第 63～66 図）。

調査結果

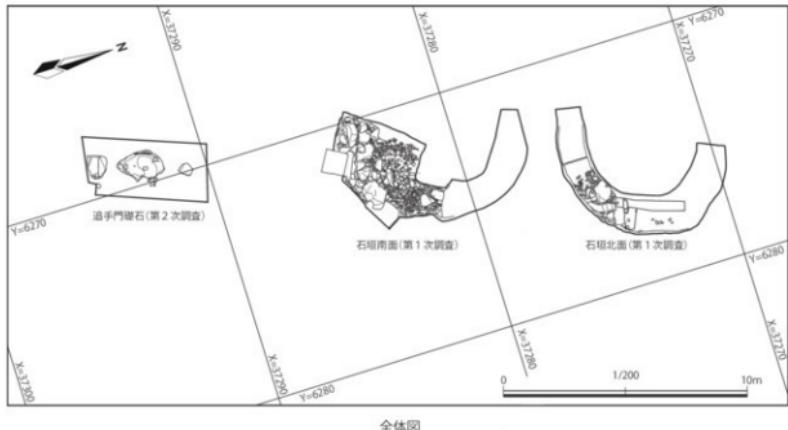
甲府城追手櫓門の北側に隣接する東西方向にのびる石垣南面と北面の一部が確認された。南面と北面ともに残存する石垣は、一番下の根石付近の部分と思われる。石垣裏側では栗石が詰められており、南面では根石から約 4m の範囲まで栗石が広がっていた。石垣は自然石やほとんど加工されていない石材を使用する野面積みであることから、甲府城築城当時のものと考えられる。周囲には、近代の加工痕のある石材や破片が散乱するなど、甲府城廢城後に石垣を取り壊した痕跡も認められた。

当初設計では、樹木の根回り擁壁設置工事により南面石垣の根石および裏栗層を掘削することとなっていたが、4 月 23 日に開催された文化財保護審議会史跡部会の指導をもとに設計を変更し、裏栗層の一部は除去し、その他の石垣・根石は埋設保存することになった。

4 月 24 日に委託業務による測量用写真撮影を実施し、27 日に遺構保護作業および調査機材の撤収を実施して調査を終了した。



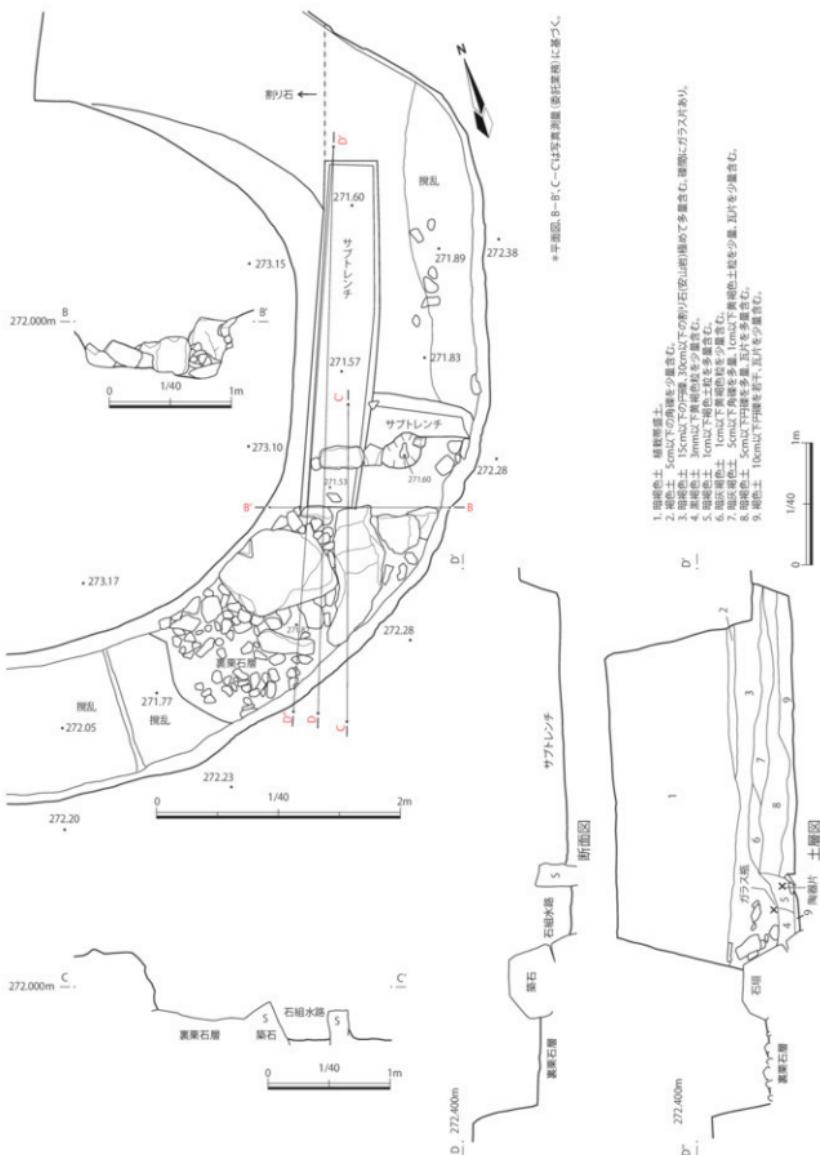
調査位置図



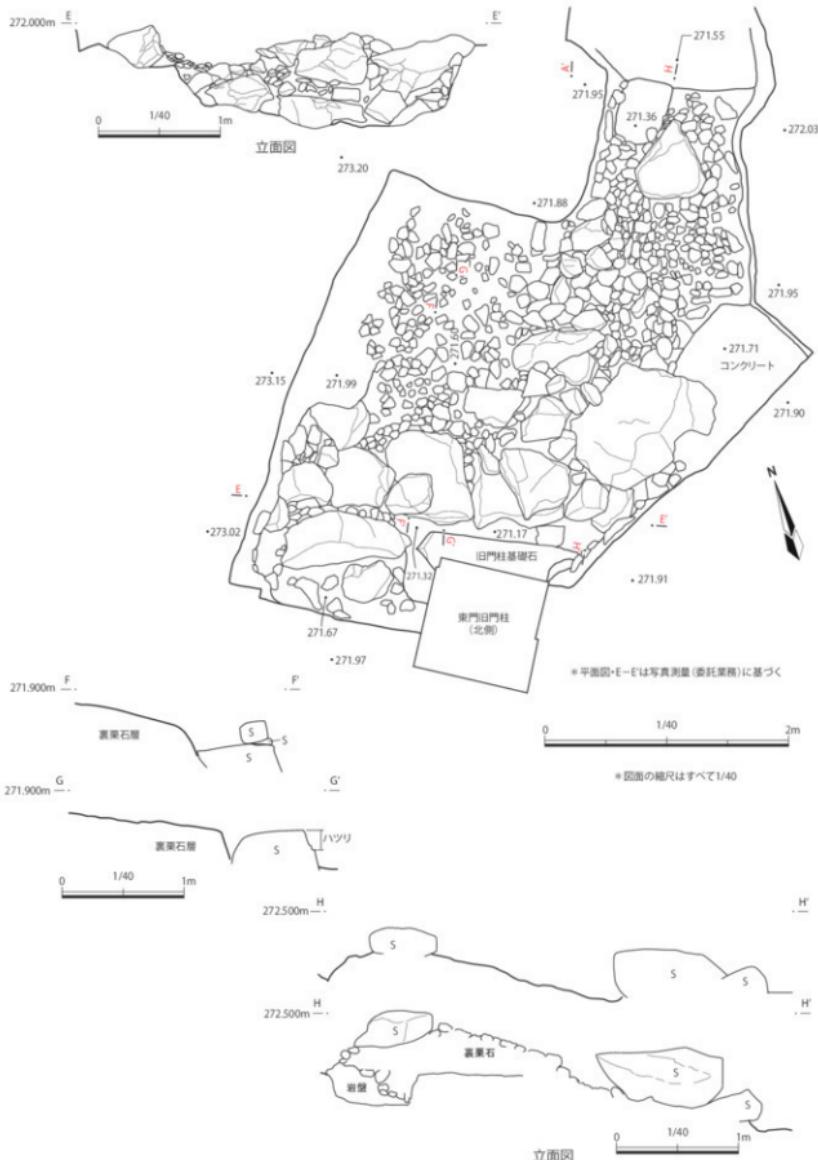
第 63 図 平成 27 年度東門周辺地点第 1 次・第 2 次調査位置図・全体図



第64図 平成27年度東門周辺地点第1次・第2次調査平面図



第 65 図 平成 27 年度東門周辺地点第 1 次調査 石垣北面



第 66 図 平成 27 年度東門周辺地点第 1 次調査 石垣南面



4月22日 北面石垣と石垣前面の水路（北から）



4月23日 南面石垣（西から）



4月24日 石垣北面北の割り石（西から）



4月24日 石垣北面（南から）

5-2) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内東門周辺地点）に伴う第2次発掘調査（立会番号27-35）

調査地点：県庁構内東門周辺 調査期間：平成27年9月10日～18日 調査面積：約12m²

調査担当者：浅川一郎・正木季洋

平成27年9月10日に外構整備工事において実施された側溝設置工事の立会調査により、礎石と思われる石材2石を確認した。現地は明治時代の初め頃まで甲府城追手門（櫓門）が存在していたとされる地点であり、今後の工事内容によっては、検出石材の一部が掘削される可能性があることから、礎石の規模などを把握するため発掘調査を実施した（第63・64・67図）。



4月24日 石垣北面周辺



4月23日 史跡部会現地指導



5月28日 石垣南面埋設保存状況



5月28日 石垣南面埋設保存完了

調査結果

2石の石材は、甲府城追手櫓門の正面側に設置されていた礎石であることが明らかにされた。北側の礎石上部には門の柱を立てた長方形のホゾ穴と、扉の軸を支える軸摺穴（じくぎりあな）があり、甲府城築城期のものと考えられる。土層観察によると礎石東側は明治以降に掘削を受け、その時石材が割られたものと思われる。

当初設計では、礎石部分に側溝が設置される予定であったが、9月10日の文化財保護審議会史跡部会の指導をもとに、現地に礎石を埋設保存するため側溝の設計を変更することとなった。

9月15日には測量用写真撮影委託業務を実施し、18日にPPシートによる遺構保護作業および砂・碎石による埋め戻しを行い調査は終了した。



9月11日 磂石検出状況



9月15日 磂石遺構検討会



9月11日 磂石のホゾ穴と軸摺穴



9月11日 磂石に刻まれた溝



9月18日 磐石の埋設保存の準備



9月14日 報道機関への現地説明



9月24日 側溝の設計変更により磐石を保護し、埋設保存とした。



6) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内西門周辺地点）に伴う発掘調査（立会番号 27-50）

調査地点：県庁構内西門周辺 調査期間：平成 27 年 11 月 4 日～9 日 調査面積：約 10m²

調査担当者：浅川一郎・正木季洋

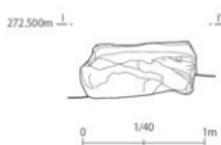
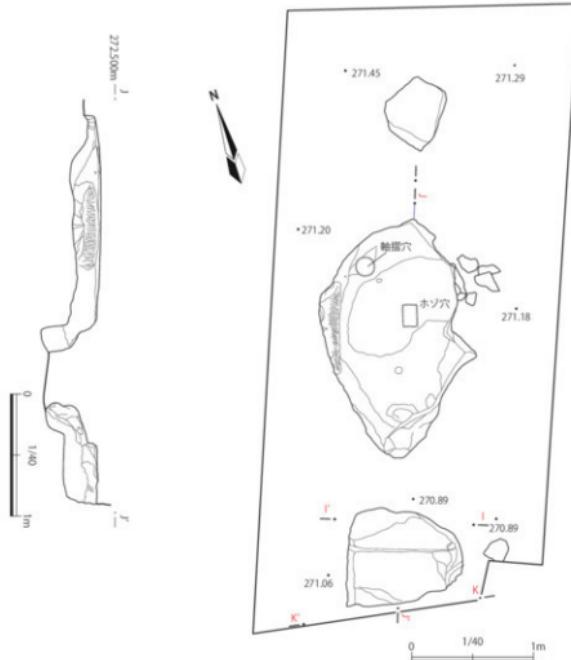
平成 27 年 10 月 30 日に外構設備工事の立会調査により、**石垣と思われる石材を確認**した。今後の工事による保護法方などを検討材料として規模等を把握する必要があることから発掘調査を実施した（第 68・69 図）。

調査結果

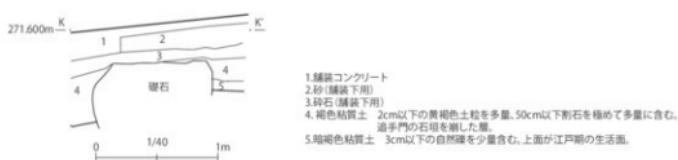
南北方向に約 200cm、確認された高さ約 150cm の規模で、矢穴などの**石材加工**の状況から**甲府城築城期に構築された石垣**と考えられる。調査地点は、江戸時代中頃の絵図では南北方向の石垣と東西方向の石垣が重なる入り口と呼ばれる凹んだ角形状の部分と推定されるが、調査では東西方向の石垣は確認されず、さらに南北方向の石垣は南側には続いていない状況であった。

この石垣上部には電気配管や緑地帯の縁石が設置される予定であったが、設置深度を変更することにより**現地に埋設保存**されることになった。

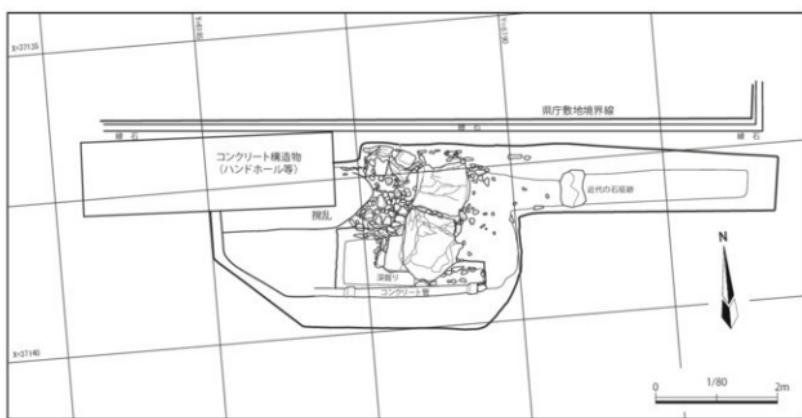
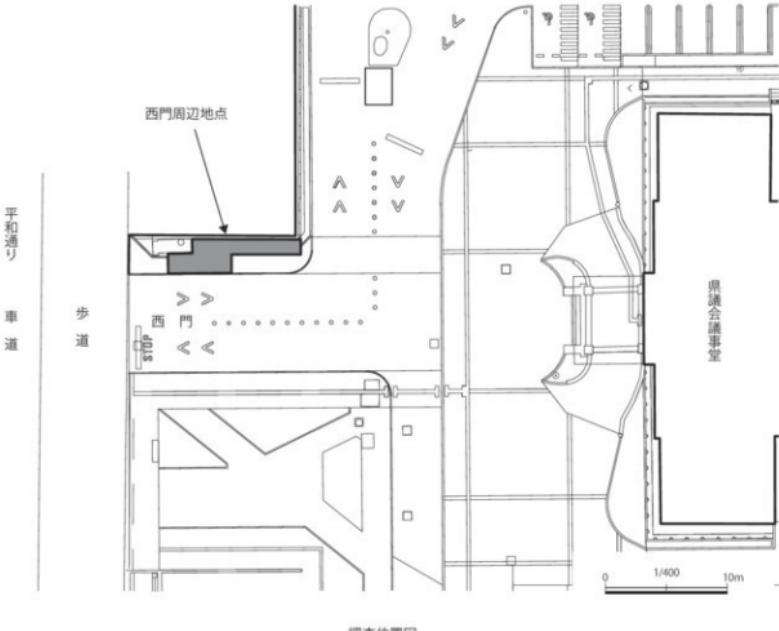
11 月 9 日には、測量用写真撮影委託業務および PP シートによる遺構保護作業を行い、調査を終了した。



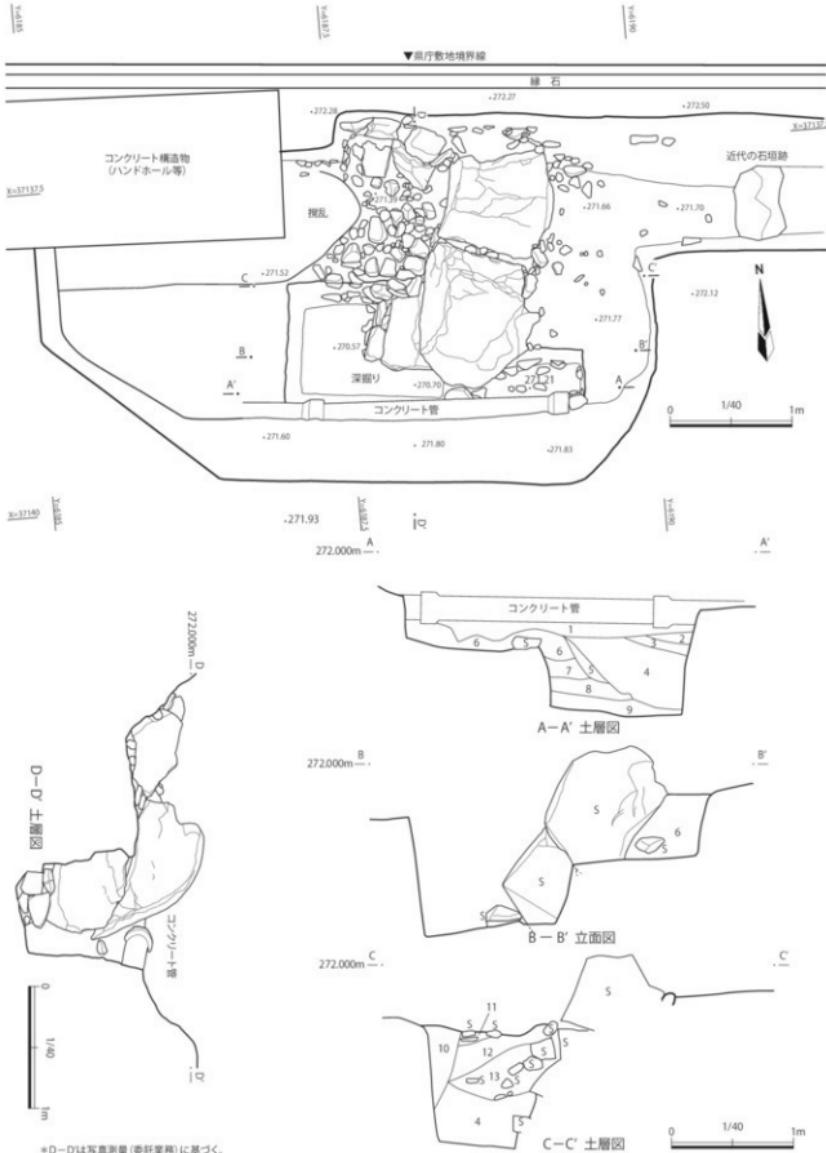
*平面図、I-I'、J-J'は写真測量(委託業務)に基づく



第67図 平成27年度東門周辺地点第2次調査 追手門礎石



第 68 図 平成 27 年度西門周辺地点 調査位置図・全体図



第 69 図 平成 27 年度西門周辺地点 平面図・土層図・立面図



11月4日



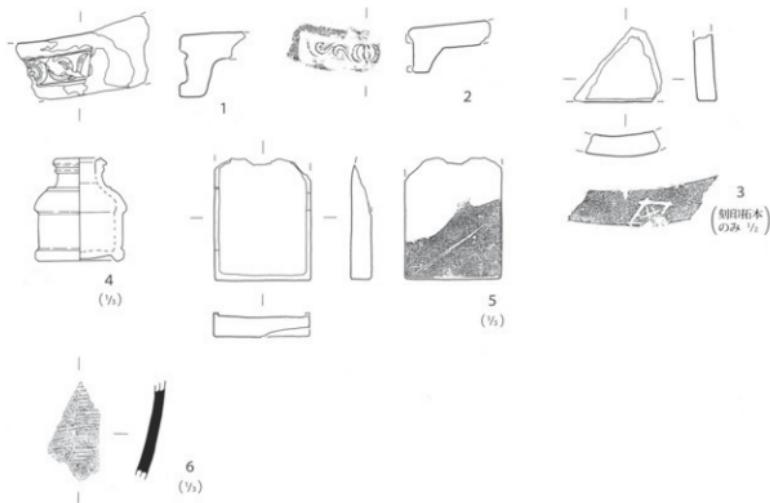
11月5日



11月4日 調査風景



11月5日 調査風景



遺物 第28図 東門、西門周辺 5-1)～5-2) 6)



写真図版 12 東門・西門周辺 (5-1)、(5-2)、(6)

II 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業 確認調査

- 1) 甲府城下町遺跡県庁舎耐震化等整備事業（春日別館）
- 2) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内外構整備工事）

II 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業 確認調査

1) 甲府城下町跡遺跡県庁舎耐震化等整備事業（春日別館）に伴う確認調査

調査地点：甲府市丸の内二丁目 25 調査期間：平成 24 年 6 月 14 日 調査面積：約 40m²

調査担当者：今福利恵・御山亮済

県庁春日別館跡地は、甲府城跡二の堀の西外側に該当する箇所であり、上府中上水に隣接するところに所在している。県庁舎耐震化等整備事業に伴い、県庁春日別館の跡地利用計画により現状の県立図書館駐車場となっている箇所の埋蔵文化財の遺存状況を把握するために確認調査を行った。調査にあたっては敷地東西方向に試掘坑を平行するように二本設置し、表土・盛土を重機にて、さらにその下層は人力にて掘り下げ、精査を行って調査を進めた（第 70 図）。

基本的な層序は以下のとおりである。I 層とする表土は約 20cm の碎石層で、さらに二層に分かれ。II 層は 40cm の近代～現代の遺物を包含する暗褐色土である。III 層は 15cm の暗褐色粘質土で近代の遺物が多く出土している。IV 層は 30cm の橙斑が多く見られる褐色粘質土で、江戸時代の水田床土と思われる。V 層は暗灰色粘質土で橙斑が見られる。VI 層は砂を含む青灰色粘質土で湧水が見られる。

なお、IV 層および V 層、VI 層からは遺物は出土していない。

1 号試掘坑は、対象区域南側に幅約 1m で東西方向約 18m の掘削を行った。西端は甲府上水に接するため深めに掘削を行い、関連する遺構の有無を精査した。精査の結果、地表面から約 80cm で水田床土と思われる褐色粘質土層（IV 層）を確認したため、III 層上面まで重機により掘削して人力による掘り下げを行ったが、明治以降の陶磁器類および金属製品等、近代の遺物が出土したのみで江戸期の遺物は認められなかった。また甲府上水から離れた試掘坑の東端でも深く掘削を行い土層の確認を行った。1 号試掘坑の東端では、レンガによる建物基礎が検出され、地表面から約 1.7m まで確認したが、さらに下まで続くと思われる。建物基礎の西側では近世以降と思われる杭列を確認した。1 号試掘坑からは江戸期に帰属する遺構は確認されなかった。

2 号試掘坑は、対象区域北側に幅約 1m で東西方向約 22m の掘削を行った。1 号試掘坑同様、試掘坑西端を深く掘り下げ、関連する遺構の有無を精査した。2 号試掘坑では、V 層上面まで重機で掘削し、その下層は人力による掘り下げを行った。また、1 号試掘坑と同様に 2 号試掘坑東端を深く掘り下げた。東端北壁で井戸枠の一部を確認した。井戸は幅 15cm 程の縦板を竹で結いた井戸枠が用いられ、その周囲をレンガで囲っている。また井戸の基礎はレンガ敷きでコンクリートにより固められていることから、近代以降の春日別館に伴うものと思われる。この井戸の西側では 1 号試掘坑で確認された杭列の続きと思われる杭列を検出した。精査の結果、2 号試掘坑からも江戸期に帰属する明確な遺構および遺物は確認されなかった。

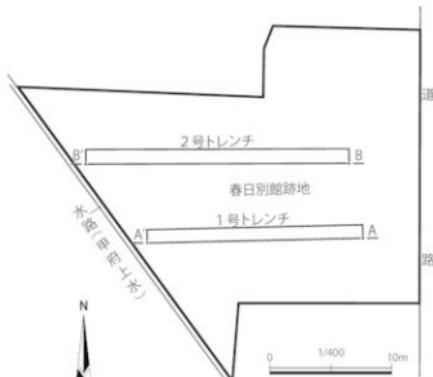
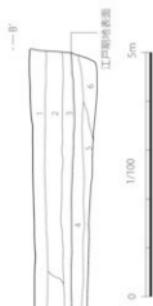
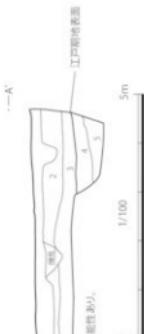
調査結果

春日別館跡地東側は、近代以降の建物基礎や井戸により搅乱されていたが、その他の面でも江戸期の遺構や遺物が検出されなかったことから、保護措置は不要である。

試掘作業は 1 号試掘坑の掘削の後、実測および写真等の記録作業を行い、終了次第 2 号試掘坑に着手した。2 号試掘坑の掘削および実測、写真等の記録作業を行った後、速やかに 1・2 号試掘坑の埋め戻しを重機にて行い、6 月 15 日に機材を撤収し、現場での作業を完了した。



遺物 第 29 図 春日別館 II-1)



第 70 図 平成 24 年度春日別館跡地試掘調査 位置図・平面図・トレンチ土層図

2) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内外構整備工事）に伴う試掘確認調査

調査地点：県庁北別館周辺 調査期間：平成26年10月27日～11月4日、12月20・21日

調査面積：約74m² 調査担当者：正木季洋・柴田亮平

本事業は、県庁舎耐震化等整備事業（外構整備工事）に伴う試掘確認調査であり、県庁北別館周辺の埋蔵文化財の状況を確認するため、調査を実施した。この地点は、甲府城内の柳門周辺及び楽屋曲輪北部と清水曲輪・屋形曲輪南部に位置する。調査は対象地内にトレーナーを9箇所（1～9T）設定し、重機による掘削後、人力により遺構確認と土層観察を行った（第71～76図）。

- ・1T(平成26年10月27・28日) 掘削深度は1.1mで、遺構検出深度は0.85mで門脇石垣と瓦溜りを確認。
- ・2T(平成26年10月27日) 掘削深度は1.4mで、遺構検出深度は0.8mで土塁を確認。
- ・3T(平成26年10月28日) 掘削深度は1.1mで、遺構検出深度は0.9mで裏栗を確認。
- ・4T(平成26年10月29日) 掘削深度は1.3mで、遺構検出深度は0.9mで土塁を確認。
- ・5T(平成26年10月30・31日) 掘削深度は1.4mで、遺構検出深度は0.6～1mで石垣、裏栗、瓦溜りを確認。
- ・6T(平成26年11月2日) 掘削深度は0.45mで、遺構は検出されなかった。
- ・7T(平成26年11月4日) 掘削深度は0.45mで、遺構検出深度は0.45mで階段を確認。
- ・8T(平成26年12月20日) 掘削深度は1.5mで、遺構は検出されなかった。
- ・9T(平成26年12月21日) 掘削深度は0.4～0.6mで、遺構検出深度は0.4mで石垣根石の痕跡を確認。



10月27日 1T



10月27日 1T



10月27日 1T 埋設保存状況



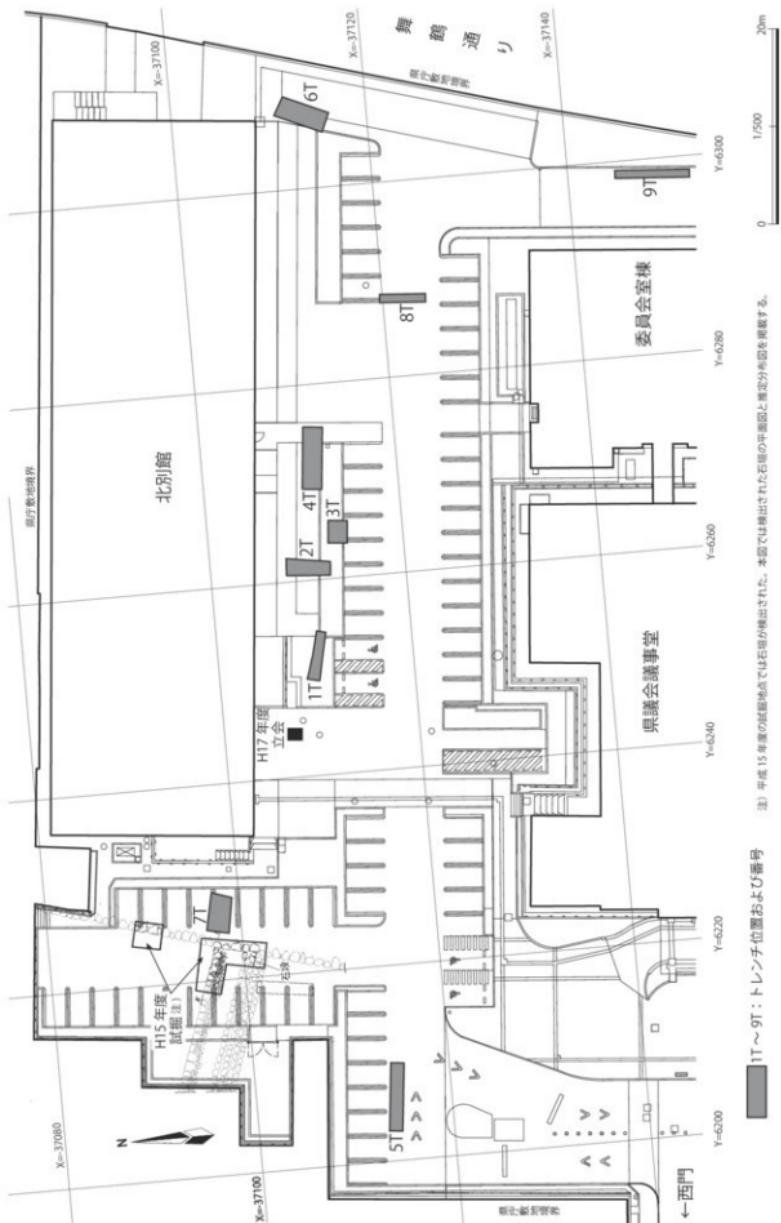
10月27日 2T 土塁を確認



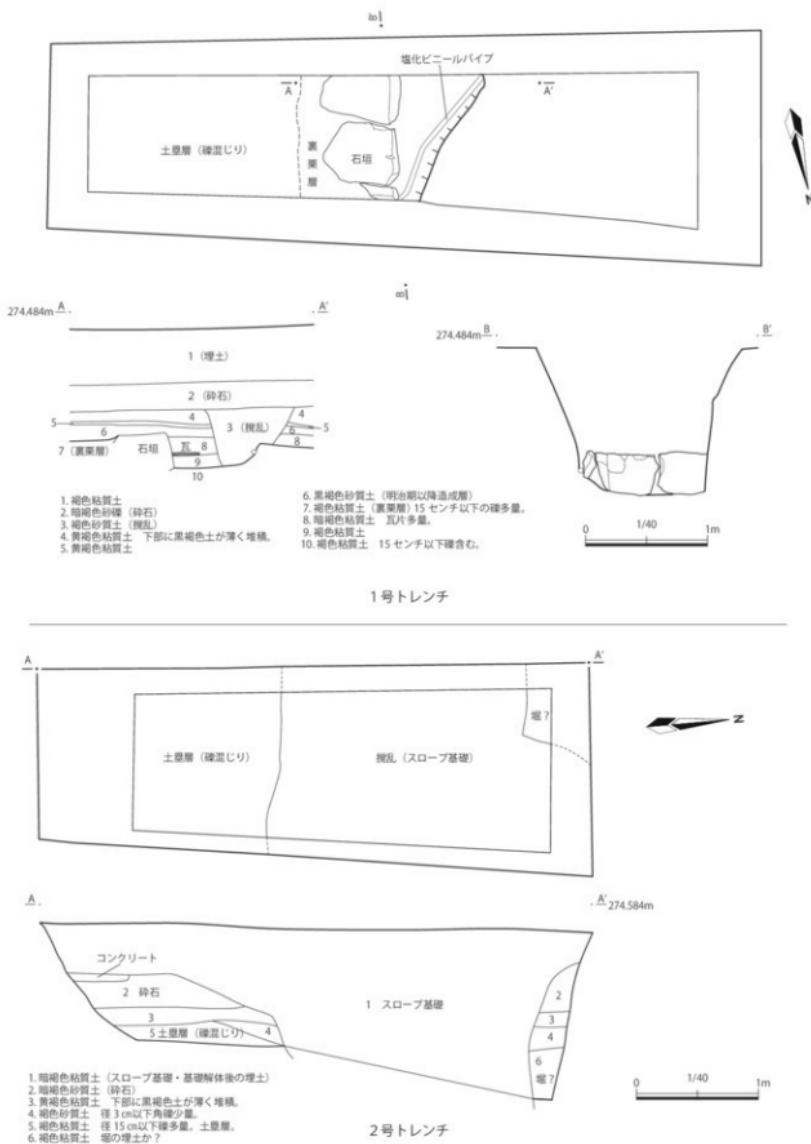
10月28日 3T 裏栗を確認



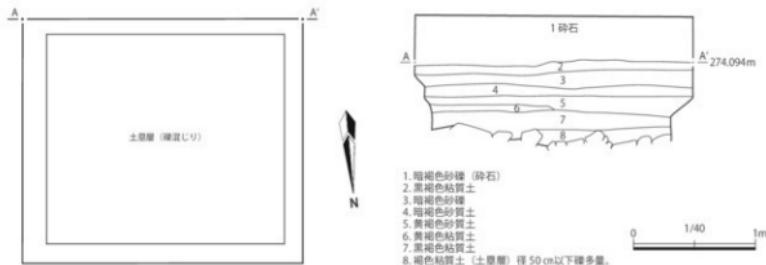
10月29日 4T 土塁を確認



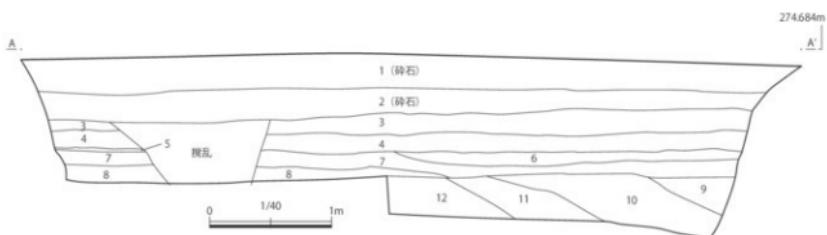
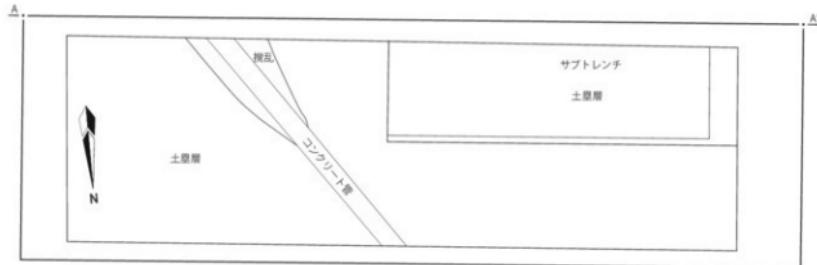
第71図 平成26年度県庁構内構造確認調査 レンチ位置図



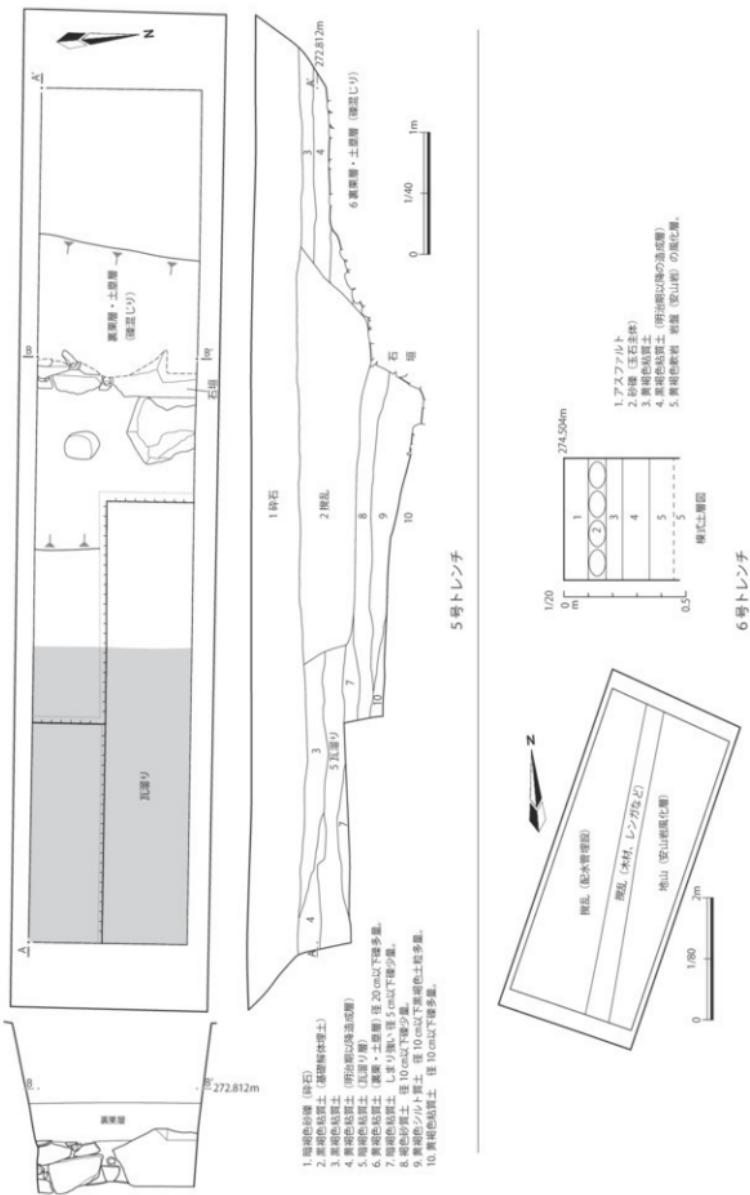
第 72 図 平成 26 年度県庁構内外構整備確認調査 1号トレンチ・2号トレンチ



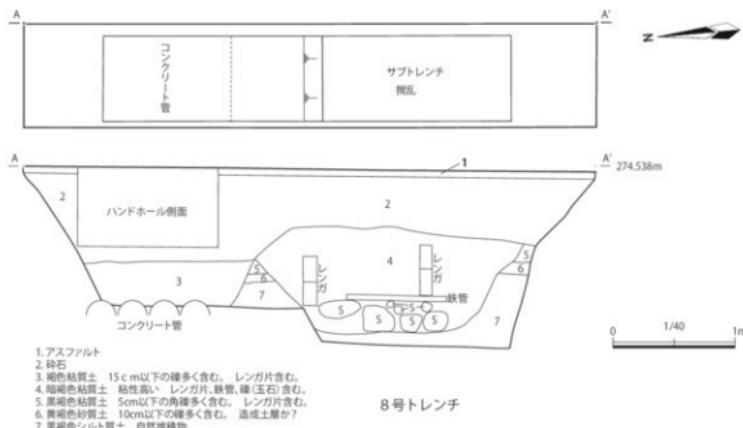
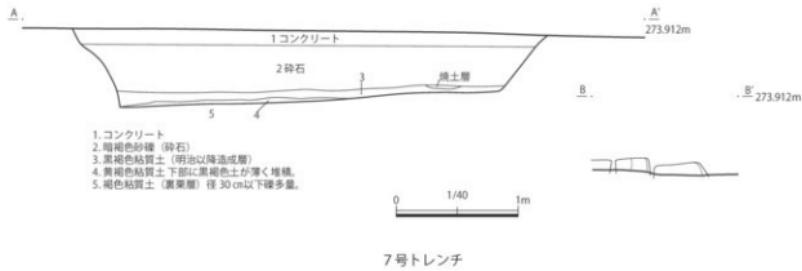
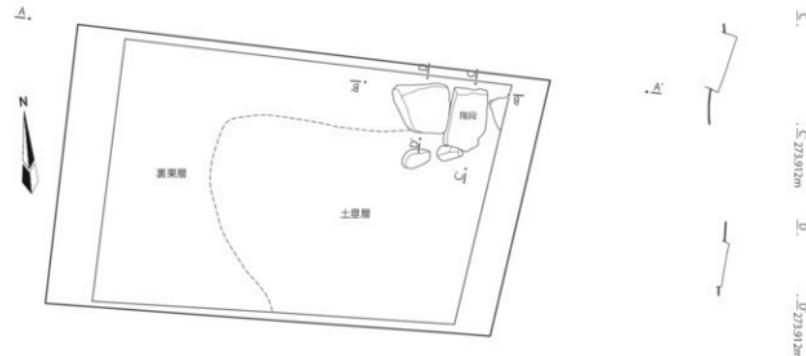
3号トレーンチ



4号トレーンチ



第74図 平成26年度県庁構内外構整備確認調査 5号トレンチ・6号トレンチ



第75図 平成26年度県庁構内外構整備確認調査 7号トレーニング・8号トレーニング

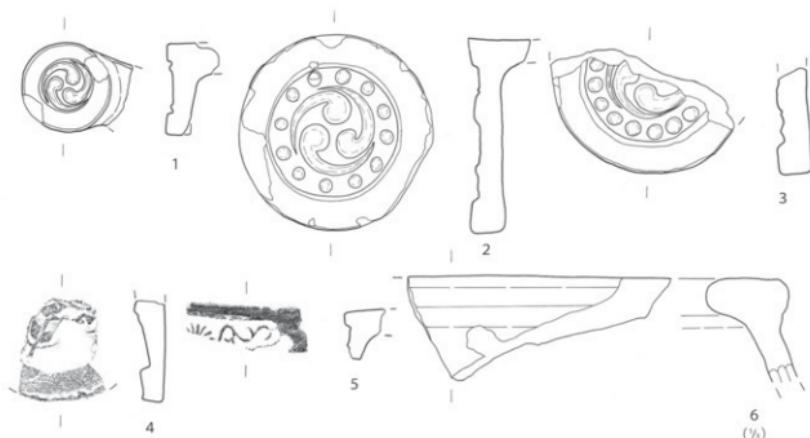


第 76 図 平成 26 年度県庁構内外構整備確認調査 9 号トレッチ

調査結果

楽屋曲輪から清水曲輪間の仕切門脇の石垣根石(1T)や柳門周辺の石垣根石(5T)、階段(7T)、石垣裏栗・土塁(2・3T)などが確認されている。

今回の確認調査とこれまでの調査記録から、県庁構内外構整備工事対象範囲の甲府城跡に関する遺構は、工事実施にあたり、十分な保護層が確保されることを確認し、現地に埋設保存した。



遺物 第30図 外構整備試掘確認調査 II-2)



1



2



3



5



4

写真図版 13 県庁構内外構整備 試掘確認調査 II - 2)

III 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業 試掘調査

1) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（ボイラー室基礎撤去）

III 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業 試掘調査

1) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（ボイラー室基礎撤去）に伴う試掘調査

調査地点：県庁構内別館北側東エリア 調査期間：平成 26 年 3 月 3 日 調査面積：約 2.5m²

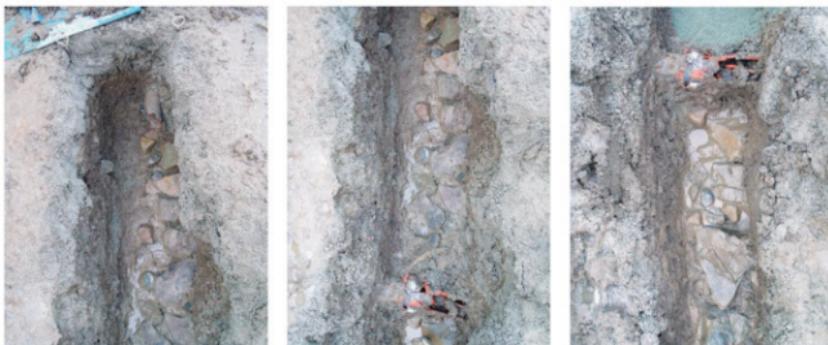
調査担当者：今福利恵・塩谷風季

県庁舎耐震化等整備事業における別館北側東エリアのボイラー室基礎撤去に伴い、掘削予定範囲の試掘調査を平成 26 年 3 月 3 日に実施することとなった。調査予定場所は甲府城跡樂屋曲輪の中心であり、現状は別館北側と自家発電設備の間の別館北側東エリアである。ボイラー室下の基礎を撤去する立会調査時に、基礎工事から外れた擾乱を受けていないと思われる土間状の範囲を確認するものであり、甲府城に関する遺構・遺物の依存状況を確認すべく試掘調査を実施し、写真等による記録を行った（第 77 図）。

別館北側東エリア内の自家発電設備の南側から別館の北側の壁に向けて全長 5m、幅 50cm、地表下 40cm の範囲で試掘調査を行った。雪解け水による影響を緩和するために工事業者が敷いた碎石が地表下 20cm まであり、その下は土層となる。斑状の暗褐色土の擾乱層と玉石の下に土管及びコンクリートの U 字溝が地表下 20cm の擾乱層と瓦が敷き詰められた層を壊して埋設されている。玉石の下の暗褐色土層からは瓦が敷き詰められたように検出し、軒丸瓦や平瓦が出土している。地表下 40cm には 20 ~ 40cm 大の礫が敷かれたように検出した。地表下 40cm から湧水が著しいが、雪解け水の影響もあると思われる。

調査結果

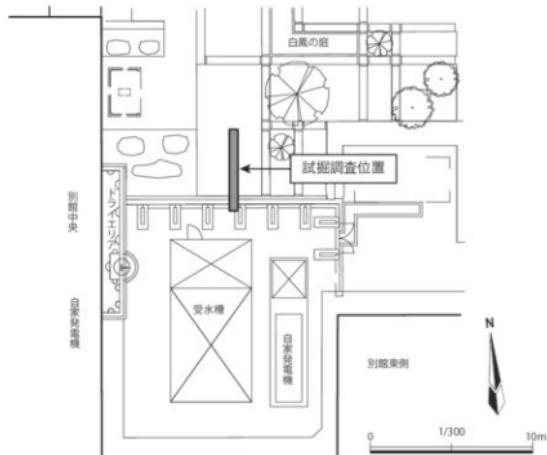
ボイラー室跡の基礎撤去から外れた 土間範囲 11m × 5m には埋蔵文化財が残っていると判断できる。よって周囲の掘削には事前に保護措置が必要となる。



20~40cm 大の礫が敷き詰められた状況を検出

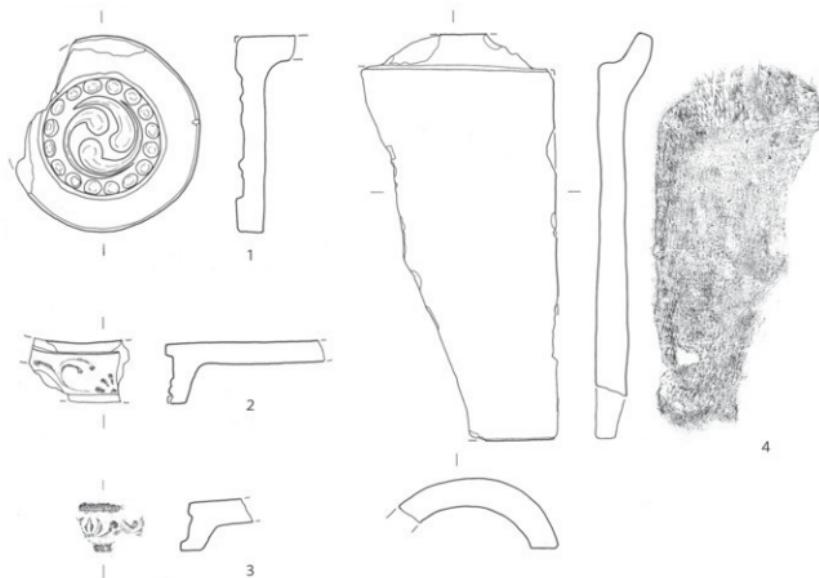


別館改修事業前の建物配置と調査位置



別館改修事業後の建物配置と調査位置

第77図 平成25年度ボイラ室跡確認調査 位置図



遺物 第31図 ポイラー室基礎撤去 III-1)



写真図版 14 ポイラー室基礎撤去 III-1)

IV 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業 立会調査

- 1) 甲府城跡防災新館建設事業
- 2) 県庁構内整備事業
- 3) 県庁構内別館整備事業
- 4) 県庁舎耐震化等整備事業（防災新館東側）
- 5) 県庁舎耐震化等整備事業（本館北東側隅）
- 6) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁東別館）
- 7) 県庁舎耐震化等整備事業（焼却場他撤去）
- 8) 県庁舎耐震化等整備事業（鉄塔他撤去）
- 9) 県庁舎耐震化等整備事業（県議会議事堂東側、北別館南東側）
- 10) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内議事堂南側東エリア）
- 11) 県庁舎耐震化等整備事業（別館北西）
- 12) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内別館北側西エリア）
- 13) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内別館北側東エリア）
- 14) 県庁舎耐震化等整備事業（県警本部車庫撤去工事）
- 15) 県庁舎耐震化等整備事業（旧県東別館既設管撤去工事）
- 16) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内別館北側西エリア）
- 17) 県庁舎耐震化等整備事業（機械設備・電気設備工事）
- 18) 県庁舎耐震化等整備事業（旧ボイラー室地点）
- 19) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内別館北側東エリア）
- 20) 県庁舎耐震化等整備事業（委員会室棟改築工事）
- 21) 県庁舎耐震化等整備事業（別館北側西エリア、別館北側エリア、別館北側東エリア）
- 22) 県庁舎耐震化等整備事業（外構整備工事）
- 23) 県庁舎耐震化等整備事業（外構整備・駐輪場他整備工事）
- 24) 県庁舎耐震化等整備事業（防災新館駐輪場建設工事）
- 25) 県庁舎耐震化等整備事業（北別館南側中央部）
- 26) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁舎別館北西）
- 27) 県庁舎耐震化等整備事業（外構整備工事）
- 28) 県庁舎耐震化等整備事業（玄関スロープ改修工事）
- 29) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内本館前東庭）
- 30) 県庁舎耐震化等整備事業（委員会室棟改築工事）
- 31) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内別館東、北西エリア）
- 32) 県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内本館前東庭）
- 33) 県庁構内外構整備事業（県庁構内各所）

IV 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業 立会調査

1) 甲府城跡防災新館建設事業に伴う立会調査（立会番号 24-01）

調査地点：県庁構内 調査期間：平成24年12月10日、17、18日 調査面積：約11m² 調査担当者：保坂和博

本事業は、山梨県防災新館建設事業に伴い県民会館前交差点付近と平和歩道橋交差点付近の2ヶ所において新設公共雨水枠およびその配管を現歩道下の下水道本管に敷設する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「甲府城跡」の一の堀の範囲内に想定されていることから、管財課と学術文化財課との事前協議に基づき、重機および人力による掘削時に立会調査を実施し、遺構確認と土層観察を行った（第78図）。

県民会館前交差点付近では、長さ約300cm、幅約110cm、深さ約190cmの掘削坑を対象に調査した。土層の堆積状況は、現況地盤面下約105cmまで既設の配管などの敷設に伴う埋土（暗灰黄色粘質土に黒が混入）が確認され、さらに約190cmまで掘り下げたところ、甲府城の堀の覆土（オリーブ黒色粘質土+暗緑色灰色シルト質土に5～10cmの大の礫が多量に混入）と考えられる堆積が確認された。

防災新館前交差点付近では、歩道脇の暗渠を挟んで長さ約240cm、幅約150cm、深さ約200cmの掘削坑を対象に調査を行った。土層の堆積状況は、現歩道（アーケード）部分では歩道敷設に伴う造成層（砂層、碎石層）を現況地盤面下約100cmまで確認し、さらに約200cmまで掘り下げたところ、堀の覆土と考えられる層中に

12月10日立会調査地点（県民会館前交差点付近）



調査地点遠景（南東から）



調査地点近景（南東から）



完掘状況1（南東から）※手前側既設配管検出



完掘状況2（西から）



完掘状況3（西から）



完掘状況4（北西から）

12月17日～18日立会調査地点（防災新館前交差点付近）



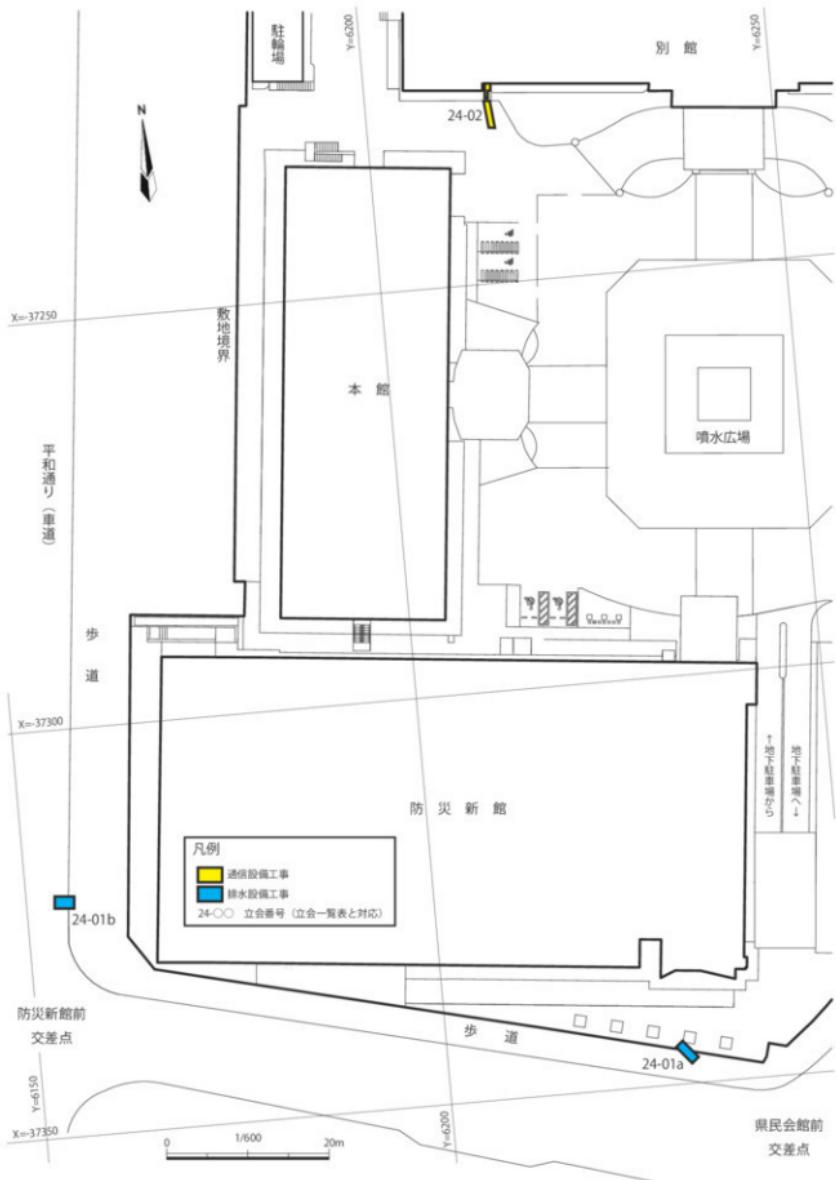
調査地点遠景（西から）



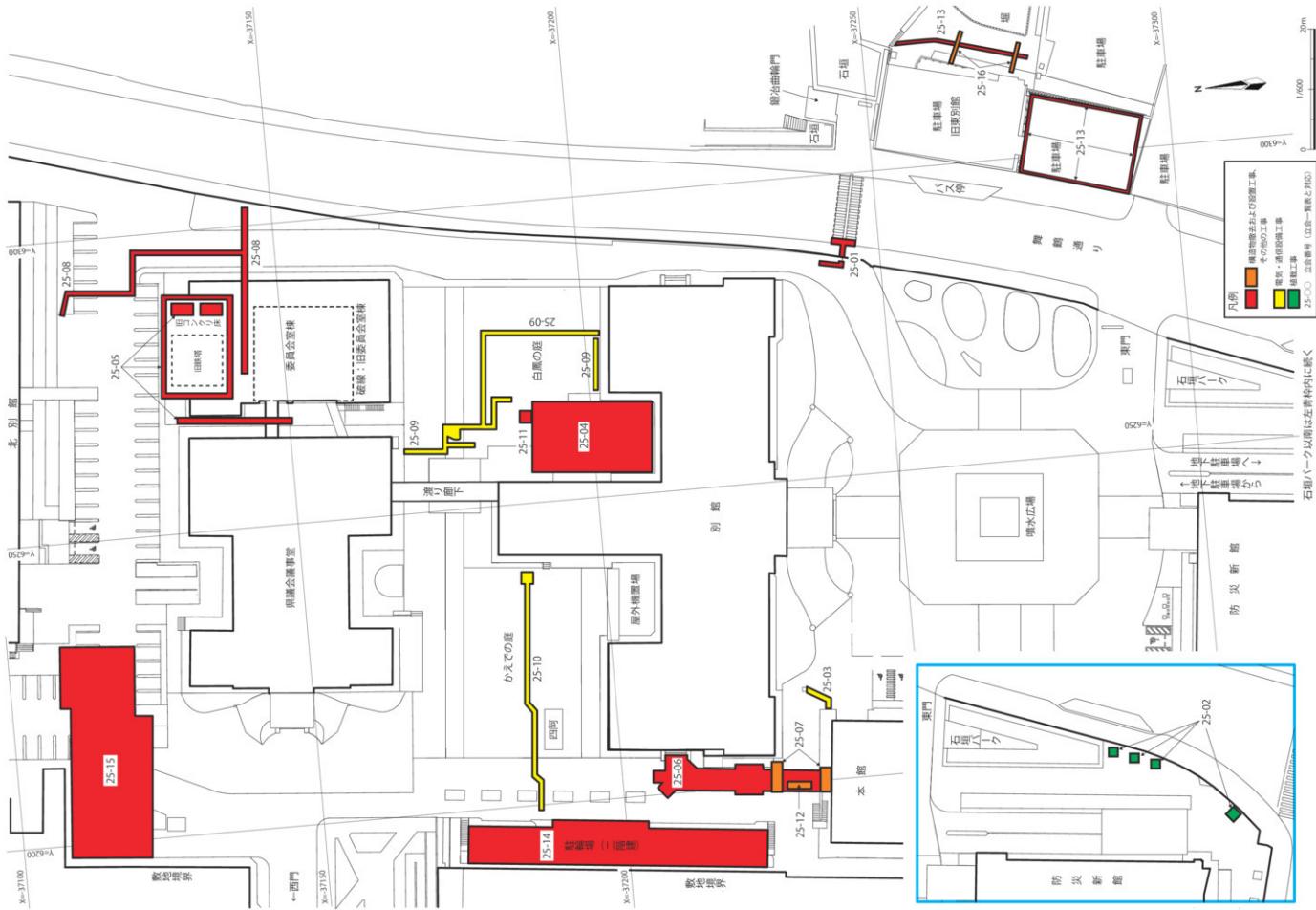
調査地点近景（西から）



旧県民情報プラザ建物跡地側
完掘状況（西から）※建物基礎検出



第 78 図 平成 24 年度立会調査位置図



第79回 平成25年度立会調査位置図



歩道（アーケード）側
掘削作業状況（西から）



歩道（アーケード）側
石材検出状況（西から）



歩道側 石材矢穴確認状況

下水道本管が確認され、江戸期以降の所産と考えられる石臼（上白）1点が出土した。旧県民情報プラザ建物跡部分では、現況地盤面下約180cmまで建物基礎および埋土が確認された。

調査結果

今回の県民会館前交差点付近と平和歩道橋付近の立会調査では、**甲府城の一の堀の覆土**と考えられる堆積が確認されたため、これ以上の掘削を行わないことを確認した上で、工事を進めても差し支えない旨を指示した。

2) 甲府城跡県庁構内整備事業に伴う立会調査（立会番号 24-02）

調査地点：県庁構内 調査期間：平成25年3月9日 調査面積：約11m² 調査担当者：保坂和博

本事業は、県庁構内における埋設配管の経路を増設する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である県指定史跡「甲府城跡」の範囲に含まれることから、県警本部、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの平成24年12月28日に行われた事前協議に基づき実施した（第79図）。

今回の立会調査では、①マンホール側地点（長さ約320cm、幅約75cm、深さ約110cm）と②県庁別館外壁側地点（長さ約200cm、幅45～70cm、深さ20～60cm）の工事掘削範囲において重機および人力による掘削後に遺構確認と土層観察を行った。

マンホール側地点の土層堆積状況は、現地表下約110cmまで掘り下げたところ、第1層（表土：アスファルト約7.5cm）、第2層（埋土：碎石約20cm）が堆積し、一部別館外壁側に第3層（コンクリート基礎約10cm）と第4層（埋土：砂約20cm）、さらに全体的に第5層（盛土：黒褐色土約50cm）、第6層（盛土：にぶい黄褐色土約20cm）、第7層（地山層：黒褐色土約15cm）が確認された。

県庁別館外壁側の土層堆積状況は、現地表下約25～60cm前後まで掘り下げたところ、第1層（表土：コンクリート約10cm）、第2層（埋土：碎石約50cm）が堆積し、その下層に既存の重要通信ケーブル2本が確認された。

調査結果

今回の立会調査では、いずれの地点からも遺構・遺物とともに検出されなかったため、工事を進めても差し支えないと認められる。

なお、県指定有形文化財（建造物）の県庁舎別館の外壁への配管工事は、予定どおりの内容で行われたことを確認している。

3) 甲府城跡県庁構内別館整備事業に伴う立会調査（立会番号 25-01）

調査地点：県庁東側横断歩道 調査期間：平成25年6月14日 調査面積：約7m² 調査担当者：宮里学

当該地点は、江戸時代の絵図によると楽屋曲輪の北東部に該当し、「樂只堂年録」（1704年作図）では遺構皆無の地域であるが、江戸時代後期の絵図には御金蔵や番所などが描かれている地域である。また、これまでの

県庁構内の調査結果から、当該地周辺からは安山岩の岩盤が検出されており、石切り場の可能性があったことにより立会調査を実施した。工事は、幅 100cm 以内で総延長 10m を重機により深度 160cm で掘削が行われた。

調査結果

土層観察では、上層は擾乱の影響を受け、中段では部分的に近世から近代所産の盛土が認められ、下層は堆積土（風化または未固結安山岩）であった。結果として、甲府城に関わる遺構および遺物は検出されなかった。

本工事は、県庁旧館のインフラ整備であり、平成 26 年度に県庁旧館への埋設掘削が実施される予定であり、引き続き対応が必要である（第 79 図）。

4) 甲府城跡県庁耐震化等整備事業（防災新館東側）に伴う立会調査（立会番号 25-02）

調査地点：防災新館東側 調査期間：平成 25 年 6 月 18 日 調査面積：約 10m² (4 地点合計)

調査担当者：宮里学・花形裕

県庁耐震化等整備事業（防災新館東側）におけるシンボルツリー植栽に伴う、植栽予定範囲の掘削立会と調査記録を 4 地点について実施した。1～3 地点についての規模は 150cm × 150cm × 100cm、4 地点では 180cm × 180cm × 100cm である（第 79 図）。



調査エリア全景



2号トレーナー 土層推積状況

調査結果

甲府城に関わる遺構および遺物は検出されなかった。当該地点は江戸時代の絵図によれば甲府城跡南西部に位置する楽屋曲輪の南端に該当する。これまでの発掘調査では、当該地点周辺から石垣遺構や瓦などの遺物が確認された。1～3 地点では中段から粘性土の造成土が検出されたが、4 地点では全体に擾乱の影響を受けており、造成土は確認されなかった。また 1～4 地点の完掘状況を照らし合わせた結果、北から南に向かって擾乱が広がっていることが認められた。



重機による掘削作業



3号トレーナー

5) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査（立会番号 25-03）

調査地点：本館北東側隅 調査期間：平成 25 年 8 月 10 日 調査面積：約 6m²

調査担当者：保坂康夫

防災新館の建設に伴い、電話回線の切り替えをするため、本館と別館の間（本館の守衛室側の出入り口から北東に向かい、別館のマンホールまでの間約 600cm を幅 90cm、深さ 60～70cm の掘削工事が行われた（第 79 図）。

調査結果

調査範囲の中央部で、深さ 80cm から石敷きを確認した。石敷きを構成する礫は、直径 40～20cm の亜円礫で、別館側への広がりを確認した。この石敷きは、甲府城跡関連建物の可能性があると判断される。掘削については石敷きの直上で止め、その上に配管するよう指示し、石敷きの保存処置を執った。

石敷きより本館側については、埋設管、コンクリート掩護壁、H 鋼などで、深度 80cm まではすべて搅乱されていた。なお、土層については、石敷き西壁にて観察したところ、現地表のアスファルト面より 50cm まで碎石層で、その直下に比較的硬質の黒褐色粘質土層があり、石敷きを 30cm ほどの厚さで覆っていた。黒褐色粘質土層の上半部にはスレート細片や漆喰片、針金等が混在していた。

6) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（県庁東別館解体仮設工事）に伴う立会調査（立会番号 25-13）

調査地点：県庁東別館 調査期間：平成 25 年 10 月 29、30 日 調査面積：約 80m² 調査担当者：宮里学

当該地点は、県指定史跡甲府城跡鍛冶曲輪門の南側、県道 31 号甲府山梨線の西側にあたり、県警本部庁舎となっていた県庁東別館である（第 79 図）。

江戸時代の絵図によると栗屋曲輪とその東に描かれる堀の境に位置する。現況では、県指定史跡範囲外であるが、唯一露出した石垣が残存している極めて文化財的価値の高い地点と評価できる。

したがって、県庁東別館解体工事に伴う仮開いの設置工事では近代以降の盛土に 48.6mm の単管パイプをおおよそ 2m 間隔で打設するのみであるが、当該地点の重要性に鑑み立会調査を実施した。

石垣の上部は近代以降の変更と全体が被熱を受け表面剥離等が激しいが、露出部分のうち下部は甲府城築城期の野面積み石垣が残存している。この石垣の前面は堀が埋め立てられ、上面は嵩上げされ駐車場となっている。單管パイプの打設は、いずれも埋め立てまたは嵩上げされた部分のみで実施した。



右側の建物解体



左の写真の中央部分の石垣

調査結果

掘削を伴わないため遺構や遺物の検出はなく、野面積み石垣に打設の影響が生じないよう留意した施工としたが、現状の地形を観察する限り、盛土により遺構が残存している可能性が極めて高いため、今後当該地点での施工には十分注意する必要がある。

7) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（焼却場他撤去）に伴う立会調査（立会番号 25-04）

調査地点：県庁構内焼却場 調査期間：平成 26 年 1 月 21 日～2 月 12 日 調査面積：240m²

調査担当者：今福利恵・網倉邦生・塩谷風季

別館北側の煙突・汽缶室、焼却炉等の撤去に伴い、掘削予定範囲の立会調査を実施することとなった。調査予定場所は甲府城跡楽屋曲輪の東よりであり、現状は県庁舎別館の東側部分のすぐ北側に隣接するところである。原則的に新規の掘削ではなく、既存施設の基礎部分までの撤去を目的とするものであり、甲府城に関する遺構・遺物の依存状況を確認すべく立会調査を実施し、写真等による記録を行った（第 79 図）。

1 月 21 日より 2 月 12 日にかけて既存施設の基礎部分の撤去が断続的に行われた。汽缶室の土間および柱基礎の撤去が行われた。土間直下の地表下 50cm まで玉石があり、その下は土層となる。周囲に柱基礎があり地表下 150cm、基礎周り 200cm × 200cm のベースがありその周囲は搅乱されている。南東隅の基礎は既存電話ケーブルと重なるため撤去していない。搅乱が著しいが、土間中央部の北端から南北 800cm × 東西 300cm は、掘削していないため詳細は明らかでないが埋蔵文化財が依存している可能性がある。基礎周りの搅乱土から瓦、陶磁器、瓶類等の近現代に属するものが出土した。ゴミ置き場、煙突基礎解体では地表下 100cm まで煙突基礎があり、その下が碎石層で 600cm 四方の基礎が確認できたが、撤去せずそのまま埋設することとなった。別館にも近く、深度 100cm 以上は搅乱されているものと思われる。焼却炉基礎撤去は、管路敷設溝が地表下 100cm



汽缶室土間撤去



で南北に走っておりこれをまたぐように設置されていた。柱基礎撤去は地表下 80cm まで達し、その下に瓦屑を確認したが、すべてが近現代のものであった。瓦屑下には黄褐色粘質土、灰褐色粘質土が堆積するが管路溝敷設のための埋土である。管路溝下は玉石があるが、地表下 130cm まで搅乱であることを確認した。

調査結果

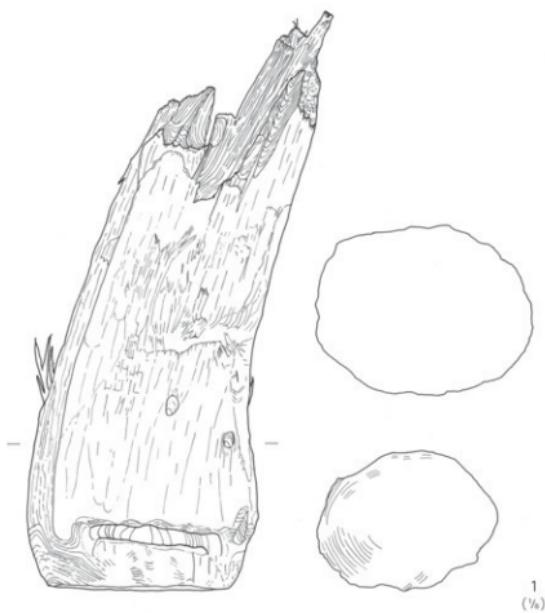
当該地域は汽缶室中央部に埋蔵文化財が残っている可能性があるが、汽缶室周囲は地表下 150cm まで搅乱、



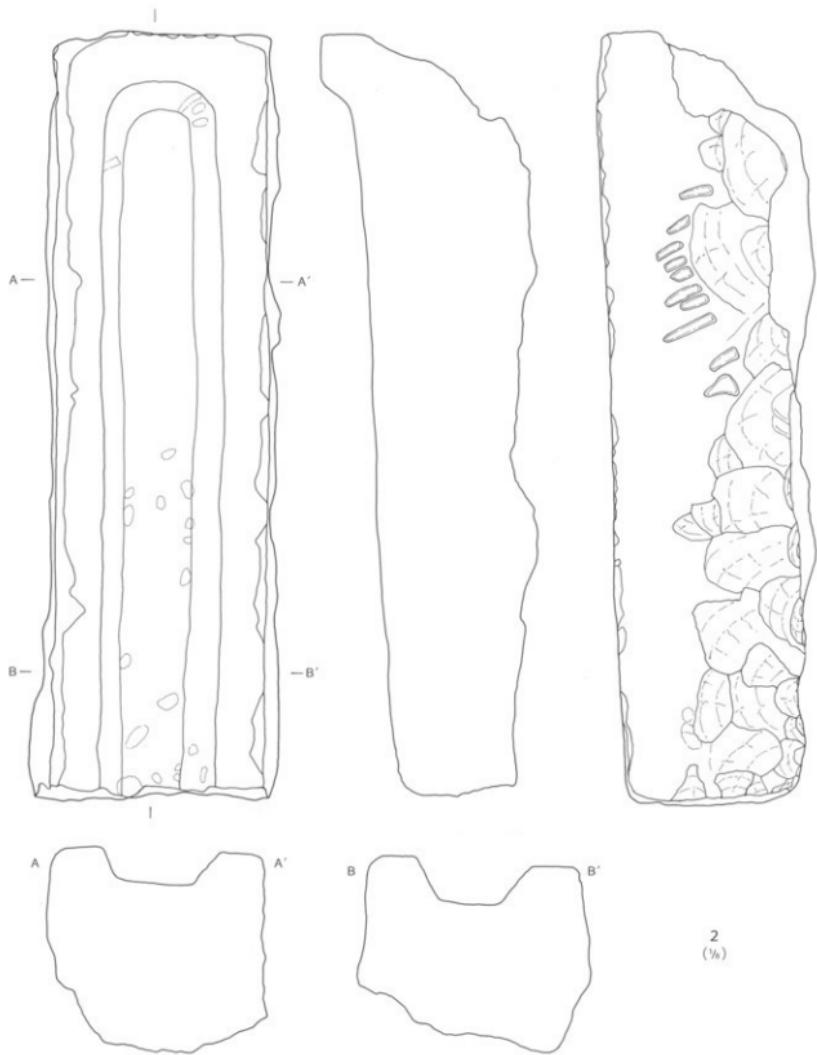
煙突撤去 GL-100cm まで搅乱



焼却炉基礎下の土層



遺物 第32図 焼却場撤去（木製品）IV-7



遺物 第33図 焼却場他撤去（石製品） IV-7

煙突は基礎を残して埋め戻しており、少なくとも 100cm 以上は搅乱、焼却がおよび管路溝は地表下 130cm までは搅乱されている。汽笛室中央部の南北 800cm × 東西 300cm は、汽笛室土間以下の掘削をしておらず確認できていないが、埋蔵文化財が残っている可能性がある。今後、試掘調査等により確認しておく必要がある。ここ以外はすでに搅乱されており 100cm 前後の掘削であれば埋蔵文化財調査は不要となる。

8) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（鉄塔撤去）に伴う立会調査（立会番号 25-05）

調査地点：県議会議事堂東側 調査期間：平成 26 年 1 月 28 日、1 月 31 日 調査面積：約 71m²（対象面積約 71m²）

調査担当者：網倉邦生

議事堂東側の鉄塔等の撤去に伴い、掘削予定範囲の立会調査を実施することになった。工事は新規の構造物を敷設するものではなく、既存施設の撤去を目的とするものであり、甲府城に関する遺構・遺物の遺存状況を確認するため立会調査を行い、写真等による記録措置をとった（第 79 図）。

1 月 28 日に鉄塔周囲の擁壁および東側にある電気設備を設置するためのコンクリート床 2 枚を撤去した。擁壁は南側、東側、北側、西側の順で撤去した。擁壁は地表下 50cm の位置に設置されており、擁壁の下は工事施工時に整地された土が確認された。鉄塔東側のコンクリート床は地表下 40cm まで埋設されていたが、コンクリート床の下は碎石が広がっていた。工事は地表下 210cm の位置にある鉄塔の床基礎（14.5m 角の方形構造物）上面を露出させ、基礎の上に構築された 4 基の柱を撤去する計画であったが、鉄塔の床基礎範囲内は敷設工事施工時に掘削済であるため、調査対象からはずした。

1 月 31 日に鉄塔の西側にある擁壁について、東側の土壤を底面まで掘削し部分的に切断してから撤去するという順序で工事を行った。南側の擁壁脇から掘削したところ、擁壁底面（地表下 150cm）の黒色土層中から近現代の陶磁器片やアワビなどが出土した。黒色土層の広がりは 70cm × 70cm ほどで周囲にも白色土が面上に広がっていた。遺物や土層の出土位置は議事堂地下の擁壁上端と同じ高さであり、旧地表面である可能性が高い。また、掘削地点北端の土層から明治期の磁器片を伴う焼土層が確認され（地表下 60cm）、その上層に碎石層（地表下 50cm）、下層からは粘質土層（地表下 80cm）に掘り込みの可能性がある断面も認められた。これらは遺構に関連する可能性はあるが、粘質土層を除いてはしまりに欠いているため、精査を要する。



1月28日



1月31日 鉄塔西側擁壁解体



1月31日



1月31日



1月28日 土層堆積状況



1月31日 鉄塔西側擁壁撤去

調査結果

鉄塔の埋設基礎造成に伴い、鉄塔を中心とした 14.5m の範囲は、地表下 410cm 以上掘削されている。ただし、鉄塔西側擁壁の北端で複数の土層が検出されていることから、鉄塔北側の掘削工事には注意を要する。また、議事堂東側は、旧地表面が残されている可能性を踏まえ、調査を行う必要がある。

9) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査（立会番号 25-08）

調査地点：県議会議事堂東側、北別館南東側 調査期間：平成 26 年 2 月 11 日 調査面積：約 30m²

調査担当者：塙谷風季

機械設備工事のガス管撤去により議事堂東側から北別館南西側に向かって、埋設されたガス管を撤去するための掘削工事が行われることとなり、その掘削予定範囲の立会調査を実施した。調査予定場所は甲府城跡楽屋曲輪の周辺となる。掘削は議事堂委員会室棟東側から東へ向けて構内道路を通過しドライエリアまでの区間と、構内道路で前記の区間と直行し北へ向けて掘削し、委員会室棟解体工事ヤード北東角を越えたところで西へわずかに掘削し、再び北へ向けてクランクしての北別館スロープ下のガス設備に至る範囲である。立会は既存のガス管の撤去であり、甲府城に関する遺構・遺物の遺存状況を確認すべく立会調査を実施し、写真等による記録を行った。

議事堂委員会室棟東から西のドライエリア間の掘削は全長約 10m 幅 1m で地表下 0.6m までの掘削であり、そこから委員会室棟解体工事ヤード東側の構内道路を直行し北へ全長約 14m 幅 0.8m で地表下 0.5m までの掘削を行った。この区間では排水溝が横断しており、排水溝の下のみ地表下 0.7m まで掘削した。そこから委員会室棟解体工事ヤード北側に沿うように西へ全長約 13m 幅 0.8m で地表下 0.5m まで掘削し、北へ全長 10m 幅 0.8m で地表下 0.5m を掘削し、北別館スロープ下のガス設備まで北西へ向けて全長約 4m 幅 0.7m で地表下 0.6m まで掘削した（第 79 図）。

調査結果

瓦片が埋設管の養生のために埋められた碎石の中から出土しているが、甲府城との関連性は低いと思われる。いずれも埋設管がある既掘されたところであり、2 月 11 日の 1 日で問題なく終了した。

今回の立会は既存の埋設管の撤去であり、新規に掘削した箇所はない。また埋設管除去後に埋設管を養生する碎石下の掘削は実施していない。遺物は瓦片であるがすべて埋設管を養生するための碎石に混入したものであり、甲府城との関連性は低いと思われる。

10) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査（立会番号 25-09）

調査地点：県庁構内議事堂南側東エリア、別館北側エリア 調査期間：平成 26 年 2 月 21 日～2 月 27 日

調査面積：50m² 調査担当者：今福利恵・塙谷風季

機械設備工事の外部埋設先行配管敷設により議事堂南側の東エリアから別館に向かって配水管と仮設配水管を埋設するための掘削工事が行われることとなり、その掘削予定範囲の立会調査を実施した。調査予定場所は甲府城跡楽屋曲輪のほぼ中心地となる。掘削は議事堂南側のドライエリア横から南に向けて掘削し、花壇擁壁を超えたところでわずかに東にクランクして南側へ延びる位置と、別館東棟の北側壁に沿った東西方向の位置の 2 節所である。本館および仮設管とともに新規の掘削であり、甲府城に関する遺構・遺物の遺存状況を確認すべく立会調査を実施し、写真等による記録を行った（第 79・80 図）。

別館東棟の北側沿いの掘削は全長約 20m で地表下 0.8m までの掘削であるが、いずれも埋設管のある既掘されたところであり、2 月 21 日の 1 日で問題なく終了した。当該地域は古い管が多く埋設されており、搅乱が著しい。

議事堂南側の配水管路敷設のための掘削では、甲府城にかかる遺構・遺物の遺存状況がよく、石を並べた水路や多くの瓦等の遺物が出土した。議事堂ドライエリア脇の花壇では、擁壁上端から 0.9m 下に瓦が多く出土した。花壇を出て南にクランクしたところでは、地表下約 0.3m で水路を検出した。水路は幅約 0.4m、深さ約 0.2m で

底面に平瓦がきれいに敷かれており東西方向に伸びていた。そのため管敷設に影響があることからこれを東方向に隣接する既存の情報管路下へ迂回することとした。また水路南側で議事堂ドライエア端部から南へ約15m、地表下0.6mで礫が入った溝状遺構を検出した。これ以下の掘削がないため現状保存とした。当該付近は地表下30～40cmで江戸時代の甲府城に関わる包含層にあたり、瓦が多く出土するなど遺存状況がよいので掘削には埋蔵文化財保護措置が必要である。予定していた管路はここまでであるが、別館改修工事における仮設事務所の配水管埋設のための掘削を引き続き西方向へ延ばして行うこととなった。仮設管路であるため新規掘削となる予定の場所ではなく、平成22年度に委員会室棟仮設基礎のために試掘調査を実施した既掘範囲での掘削とした。掘削深度は約0.4m以下であり南に向かうにつれて浅くなっていく。過去の試掘でコンクリート基礎があったところで除去したところ、直下の地表下0.4mで南北方向の石列を検出した。別館、議事堂渡り廊下壁から東へ11.8mの地点である。石列のすぐ東側は攪乱されているが、西側はオリジナル土層が残っている。これより先は既掘の範囲内の掘削であり、遺存状況は明らかではない。



2月25日



第80図(1) 地点：石組水路の
検出状況（北から）



第80図(1) 地点：石組水路

調査結果

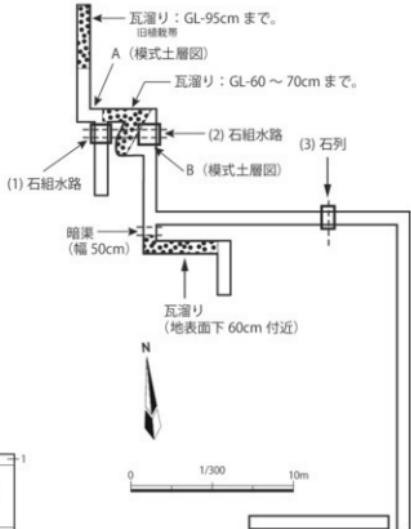
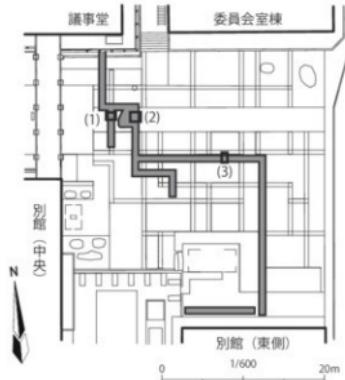
議事堂南側で旧駐車場としていた一帯は地表下0.4m程度で江戸期包含層にあたり、管路による攪乱以外は比較的の遺存状況がよいものと思われ、埋蔵文化財が残っている可能性がある。今後の開発にあたっては注意を要する。今回の立会で見つかった石列を伴う水路等の遺構は、管路を迂回する等により、すべて現地にて砂で養生した上で保存されている。



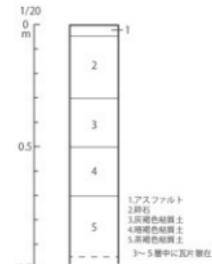
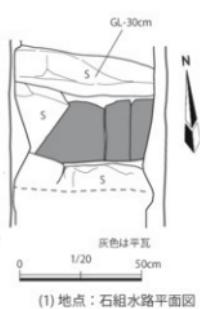
第80図(1) 地点：石組水路の埋設保存



第80図(2) 地点：石組水路

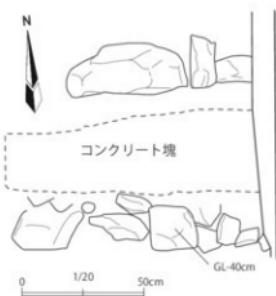


調査位置図

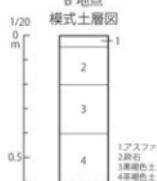


A 地点模式土層図
(1) 石組水路の北側接地点

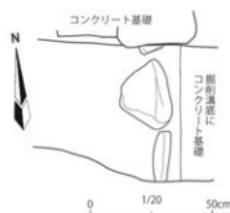
遺構位置図



(2) 地点：石組水路平面図

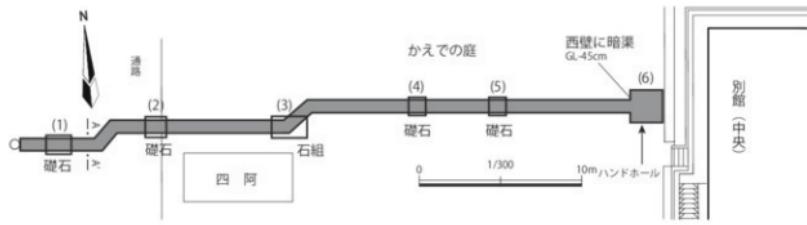


B 地点模式土層図
(2) 石組水路の南側近接地

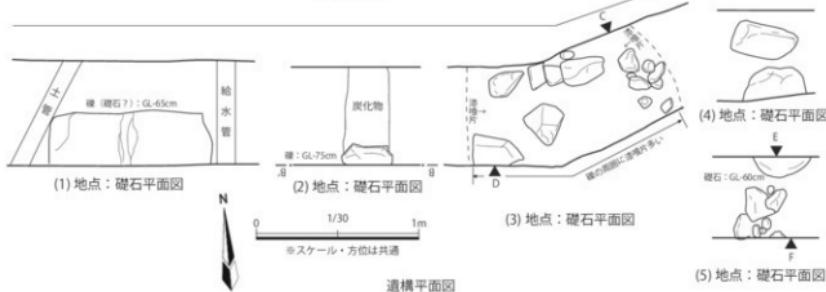


(3) 地点：石列平面図

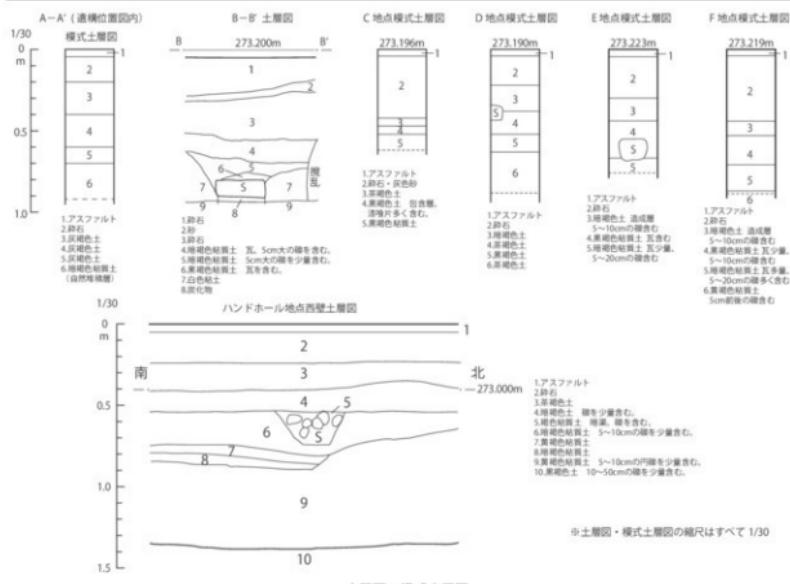
第 80 図 平成 25 年度立会調査 25-09



造構位置図



造構平面図



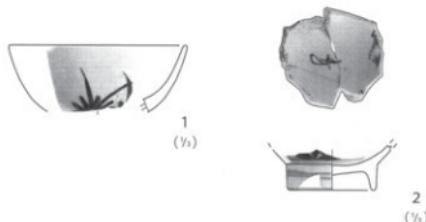
第 81 図 平成 25 年度立会調査 25-10

11) 甲府城跡県庁耐震化等整備事業に伴う立会調査（立会番号 25-10）

調査地点：別館北西 調査期間：平成 26 年 3 月 2 日 調査面積：約 2.16m² (対象面積約 2.16m²)

調査担当者：網倉邦生

別館北西に位置するハンドホールから駐車場を東西に横断して 2 本の配管を埋設する工事は、幅 60cm、深さ 90cm を掘削する計画であったが、埋設物、埋蔵物が検出されたため施工計画の一部を変更し、工事の進捗について写真等による記録措置をとった（第 79・81 図）。



遺物 第 34 図 県庁構内議事堂南側東エリア IV-10)

ハンドホールから 1.1m 東側までケーブル埋設（ケーブル上部で GL - 63cm）やハンドホール敷設のため掘削されていることが把握され、ハンドホールから 2.7m 東側の位置で水道管が検出された（GL - 60cm）。水道管はアスファルト下から掘削され、下に砂、上に砂利が充填されている。また、ハンドホールから 1.7m 東側の地点で北東—南西方向に軸を持つ土管が検出された（GL - 50cm）が、近代のものと判断して掘り下げを継続した。

ハンドホールから 1.7m 東側の地点で大形の礫が検出された（GL - 65cm）。礫は掘削範囲より南側に広がっているため、全体形状は不明であるが、東西方向で 100cm を計る。礫の上部は東側が平坦であるのに対し、西側は傾斜しており、北側の端部は直線的な形状を呈する。礫は遺構に関連する可能性があることから、施工業者と協議したところ、礫の北に縱位置に配管を敷設して工事を進めることになった。工事は、配管経路が屈折する手前のハンドホールから東へ 3.6m 進んだ地点で終了した。



立会地点



第 81 図 (1) 地点：礫検出状況



完掘状況



礫検出状況

調査結果

掘削地点東端で土層観察を行ったところ、GL - 70cmの位置で自然堆積層である暗褐色粘質土が検出された。のことから、調査地点周囲は、配管や水道管の埋設などによる掘削は受けているものの、建造物を敷設する際の大規模掘削は受けないと判断される。今回の調査で検出された礫も含め周辺の工事施工時には、**慎重な調査**が要される。

12) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査（立会番号 25-10）

調査地点：県庁構内別館北側西エリア 調査期間：平成26年3月3日～3月10日 調査面積：約22m²

調査担当者：今福利恵・塩谷風季

電気設備工事の埋設先行配管敷設により議事堂南側の西エリアにおいて、別館中央部から西に向かってエフレックス管を埋設するための掘削工事が行われることとなり、その掘削予定範囲の立会調査を実施した。調査予定場所は甲府城跡楽屋曲輪のほぼ中心地となり、柳沢期には書院のあった場所である。掘削は別館中央部西側の横に200cm×200cm深さ130cmのハンドホールを設置し、そこから西に向けて幅60cm、深さ90cmで掘削していく。新規の掘削であり、甲府城に関する遺構・遺物の遺存状況を確認すべくハンドホール部分は本調査とし、他管路は立会調査として実施し、写真等による記録を行った（第79・81図）。

ハンドホール部分は地表下45cmで碎石下の埋土である暗茶褐色土を掘り抜いたところの暗褐色土上面で止めて人力による精査を行った。若干の瓦片が出土したが遺構は確認されなかった。さらに地表下120cmの黄褐色砂利質土下の暗褐色粘質土で止めて手振りしたが遺構・遺物は見られなかった。調査範囲内の東側2/3は搅乱されていた。西側断面には地表下45cmに礫の入った溝状遺構を確認したが、管路側には延びておらず部分的であった。

管路部分では5ヶ所で礫石と思われる扁平礫を地表下50cmで確認した。東側の2個は約500cm(3箇間分)の間隔でその間には瓦が集中して出土した。さらに4.6m西側では地表下50cmで礫が南北に並んでいるのを検出した。その間300cmでは地表下80～90cmで大量の瓦が出土した。別館中央西壁から約26m、地表下40cm付近で礫がまとまって見られ周囲幅120cmの範囲に細かな漆喰片が散乱しており、壠あるいは壁の痕跡と思われる。その先では地表下85cmで南北方向の礫の入った溝を検出した。また西端部で地表下75cmにて礫の入った溝状遺構を確認した。西端部の既設ハンドホールへの接続では地表下65cmより幅100cmほどの**大型礫**が見られた。

掘削によって確認された礫石、石列等はすべて管路を迂回させて敷設することで原位置での埋設保存とした。保存にあたっては山砂にて養生し遺構正面に埋設シートを敷いたうえで埋め戻した。また西端部は管路埋設が浅くなつたため後日再び迂回路を検討して工事をすることとなつた。

調査結果

議事堂南側で旧議員駐車場としていた一帯は地表下45～50cm程で江戸期包含層にあたり、管路による搅乱以外は比較的遺存状況がよいものと思われ、埋蔵文化財が残っている可能性がある。今後の開発にあたっては注意を要する。今回の立会でみつかった礎石、石列等の遺構は、管路を迂回する等により、すべて現地にて砂で養生した上で保存している。



管路掘削状況



ハンドホール箇所の調査



瓦溜りでの出土状況



礎石と思われる礎



第81図(4) 地点：礎石と瓦溜り



第81図(3) 地点：石列と漆喰片

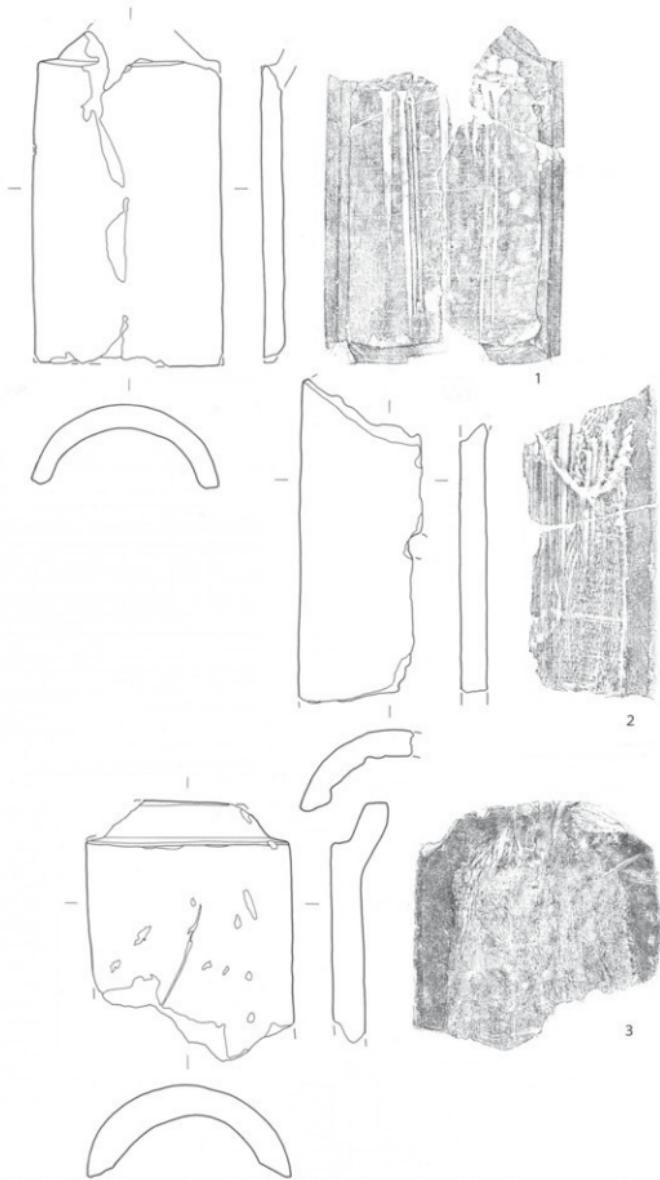


第81図(2) 地点：礎石と思われる礎と溝

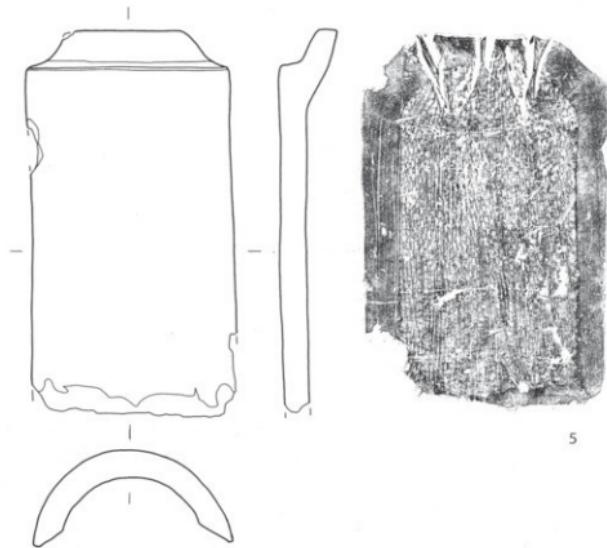
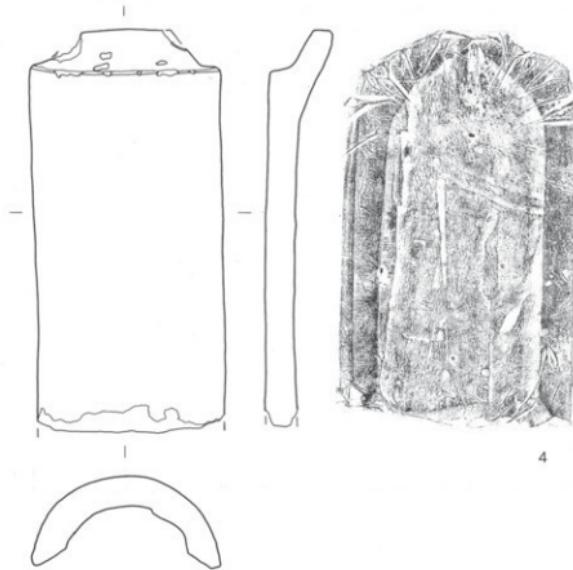


遺構の埋設保存

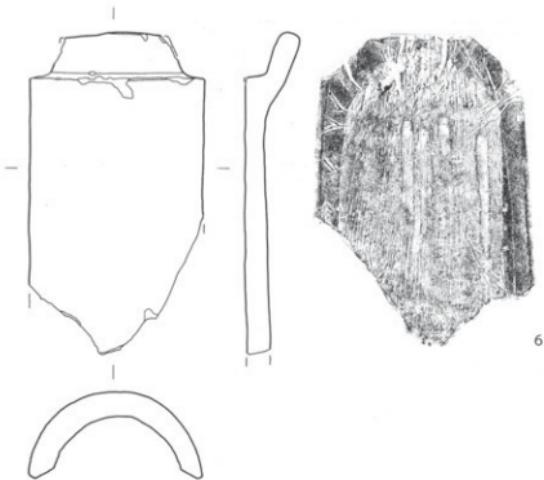




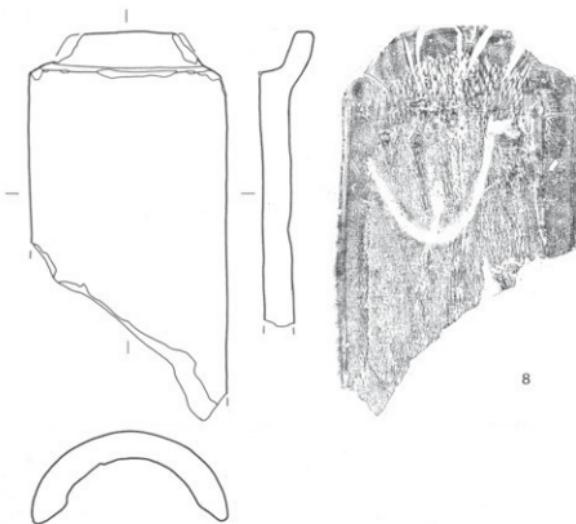
遺物 第35図 県庁構内別館北側西 電気立会 (2号礎石東瓦溜り1、2)、北側西電気立会 (3) IV-12)



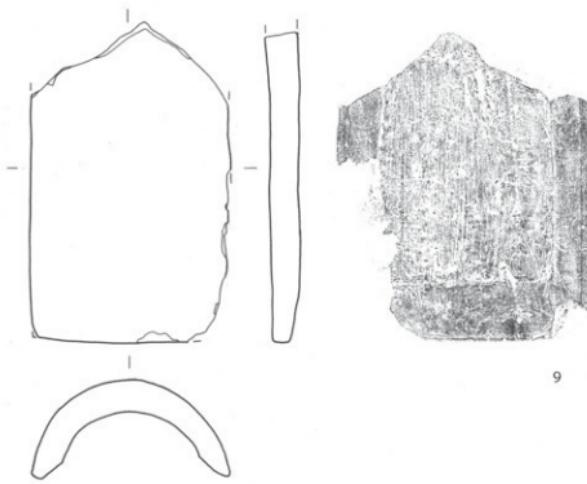
遺物 第36図 県庁構内別館北側西エリア IV-12)



遺物 第37図 県庁構内別館北側西エリア IV-12)



8

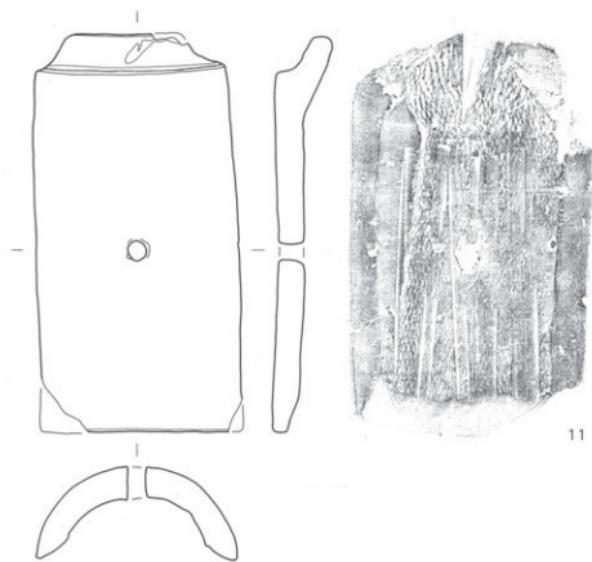


9

遺物 第38図 県庁構内別館北側西エリア IV-12)

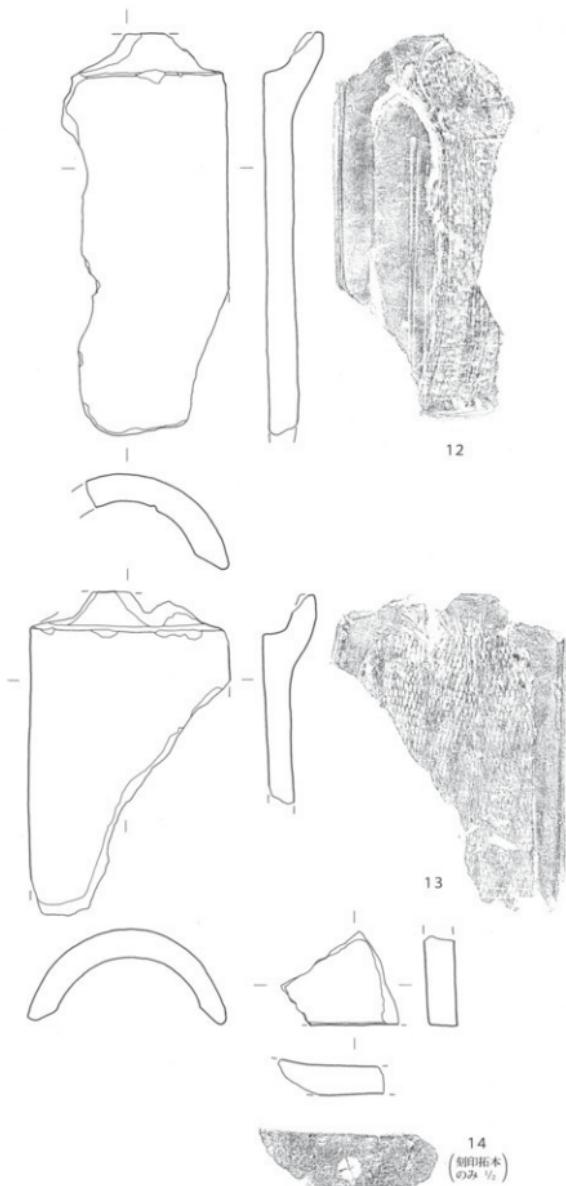


10



11

遺物 第39図 県庁構内別館北側西エリア IV-12)



遺物 第40図 県庁構内別館北側西エリア IV-12)



写真図版 15 県庁構内別館北側西エリア M-12)

13) 甲府城跡県庁耐震化等整備事業に伴う立会調査（立会番号 25-11）

調査地点：県庁構内別館北側東エリア 調査期間：平成 26 年 3 月 4 日 調査面積：約 4m²

調査担当者：塩谷風季

県庁舎耐震化等整備事業における電気設備先行埋設工事により別館北側東エリア内に電気設備（ハンドホール）を埋設するための掘削工事が行われることとなり、その掘削予定範囲の立会調査を実施した。調査予定場所は、甲府城跡楽屋曲輪の中心である。掘削範囲は別館北側東エリアの発電設備の東側に位置し、全長 1.8m 幅 180cm で地表下 110cm まである。工事は既存のガス管の撤去であり、甲府城に関する遺構・遺物の遺存状況を確認しながら調査を実施し、写真等による記録も行った（第 79 図）。

掘削範囲の土層順序および性格としては、既存の電気配管を埋設する際に碎石が入れられた碎石層（1 層）が約 60cm の厚さで、暗褐色土の旧地表面（2 層）が約 10cm の厚さ、暗褐色粘質土に黄色土が斑状に混入する造成層（3 層）が約 20cm の厚さ、白・青色の粘土が斑状に混在する黄褐色粘土層は岩盤の風化層（4 層）で約 20cm の厚さであった。4 層からは湧水が認められ、地表下から約 110cm 以上は掘り下げていない。遺構・遺物は検出されず、3 月 4 日の 1 日で問題なく終了した。

調査結果

今回の立会は既存の埋設管の範囲に重複するように掘削され、新規に掘削した範囲は 1 層の碎石除去後の約 50cm の厚さであるが、遺構・遺物の検出はなかった。

14) 甲府城跡県庁耐震化等整備事業（県警本部車庫撤去工事）に伴う立会調査（立会番号 25-15）

調査地点：県庁構内 調査期間：平成 26 年 3 月 7 日～10 日 調査面積：約 525m² 調査担当者：宮里学

当該地点は、周知の埋蔵文化財附蔵地の甲府城跡の範囲内であり甲府城柳門に比定され、平成 16 年度に隣接地で遺構が確認されているため立会調査を実施した（第 79・82 図）。

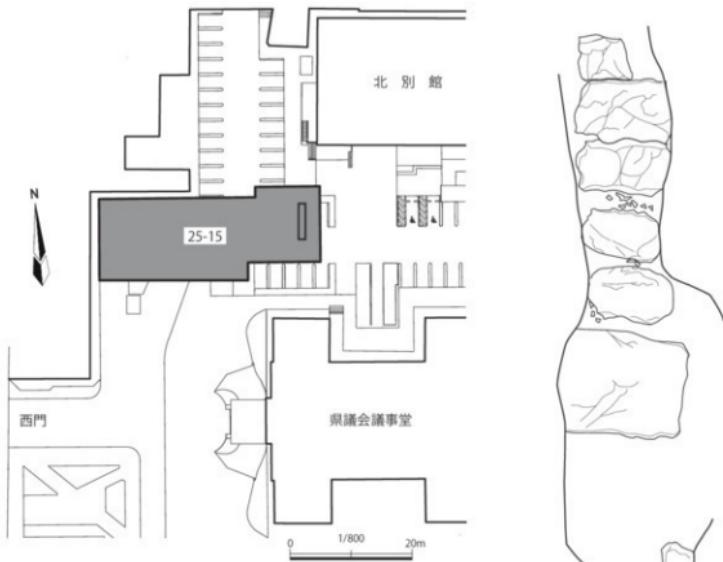
工事対象地全域は、大半がコンクリート基礎および搅乱によって損壊を受けていた。掘削深度 2m 内外の基礎撤去および解体材の積み上げ、仕分け、保管、搬出の作業を同一区画内で実施したため、十分な目視による確認はできなかった。



調査結果

調査区内では、わずかな面積が散在する程度であるが、現況の GL - 40cm 内外で赤色粒子およびカーボン粒を含む安定した褐色土が平面的に観察することができ、近世の造成面の存在を確認した。また、対象地域の東側では、重機により一部損壊を受けたが、溝蓋を作った石組水路が検出された。

石組水路および溝蓋は、安山岩の雑割石を使用している。側壁の石は 2 ～ 3 段で構成され、底部は栗石の配石、溝蓋は厚みなどに規格性が認められた。



調査位置図



第 82 図 平成 25 年度立会調査 25-15

出土品から、江戸時代後期から明治期に機能していた施設と推測される。江戸中期および明治初年の絵図などから、この地点は柳門東面の軒下の側溝の可能性が指摘される。

これらの遺構については、上面にシートで被うとともに確認年度を明記して現地に埋設保存した。

なお、当該地および周辺での掘削を作業する場合には、調査を実施する必要がある。

15) 甲府城下町遺跡県庁舎耐震化等整備事業（旧県庁東別館既設管撤去工事）に伴う立会調査（立会番号 25-16）

調査地点：旧県庁東別館 調査期間：平成 26 年 3 月 8 日 調査面積： 調査担当者：宮里学

当該地点は周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡に該当（旧甲府城内楽屋曲輪）するため、立会調査を実施した。工事は 2 地点で行われ、コンクリートカッター作業による既設配管の撤去作業である。

コンクリート等舗装部分にカッターをいれ、掘削は重機で実施した（第 79 図）。

調査結果

重機による掘削では、埋土からは遺物は検出されなかった。また工事に伴い既設管を確認のうえ、土層や遺構の確認を行なったが既掘範囲のため遺構および遺物は検出されなかった。

なお、引き続き施工に当たり掘削を作業する場合には、あらかじめ連絡調整の上、調査を実施する必要がある。

16) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査（立会番号 26-01）

調査地点：県庁構内別館北側西エリア 調査期間：平成 26 年 4 月 9 日 調査面積：約 6m²

調査担当者：正木季洋、塩谷風季

電気設備工事の埋設先行配管敷設により、議事堂南側の西エリアにおいて別館中央部付近でエフレックス管を埋設するための掘削工事が行われることとなり、その掘削予定範囲の立会調査を実施した。調査予定場所は、甲府城跡楽屋曲輪のほぼ中心地となり、柳沢期には書院があった場所である。掘削は別館の北側に設置されたハンドホールから別館に向けて幅 60cm、深さ 100cm で行われた（第 83 図）。

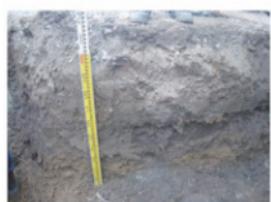
地表下 80cm までは埋土である暗褐色土が堆積し、以下は黄褐色砂利質土層が確認された。遺物は埋土中から瓦が確認されたが、遺構は確認されず、4 月 9 日の 1 日で終了した。

調査結果

今回の工事では遺構は確認されなかったが、地表下 80cm 以下に堆積する黄褐色砂利質土層下に埋蔵文化財が残っている可能性があり、今後、周辺で掘削を行う際は注意が必要となる。



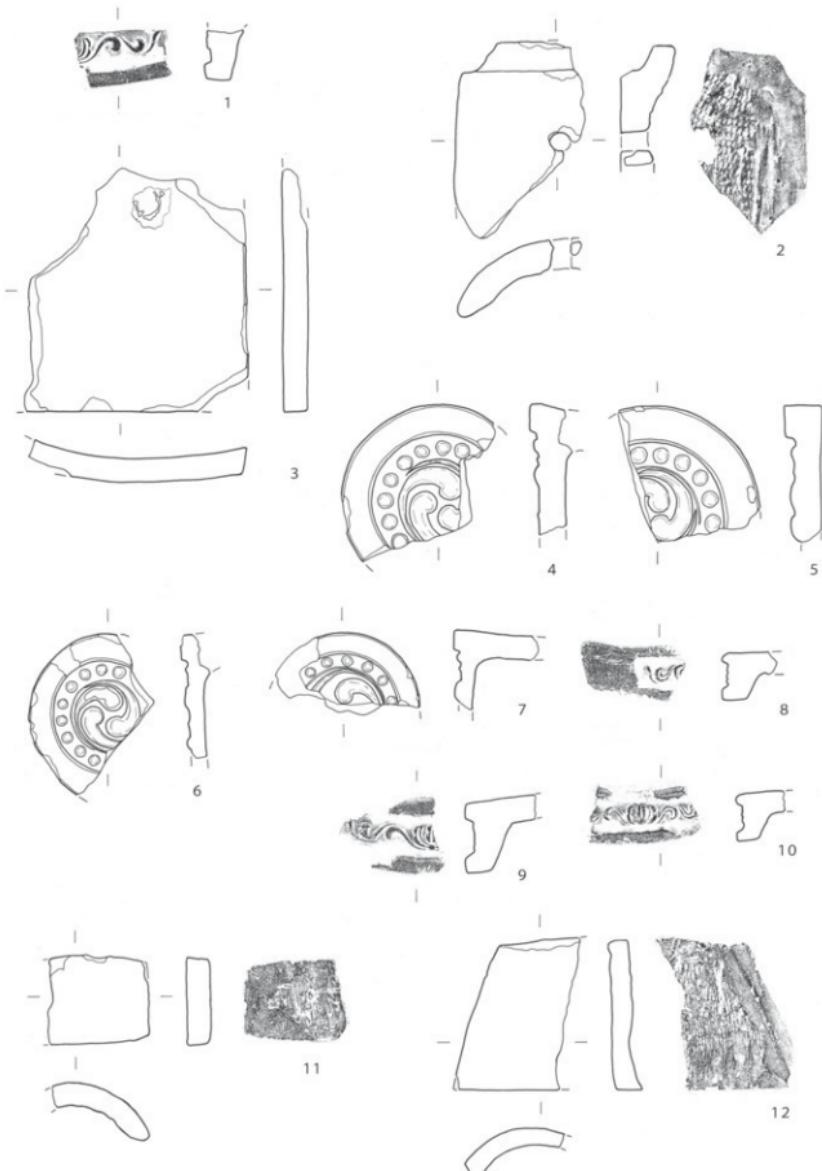
4月9日



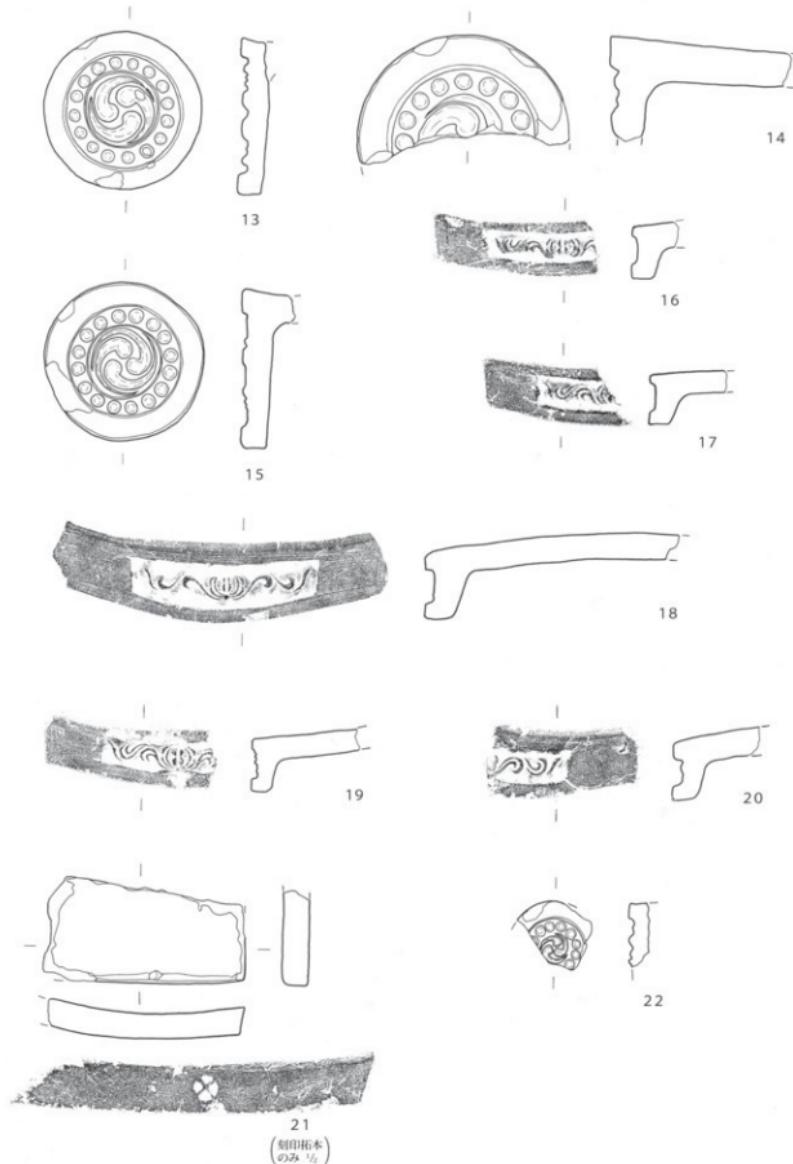
4月9日



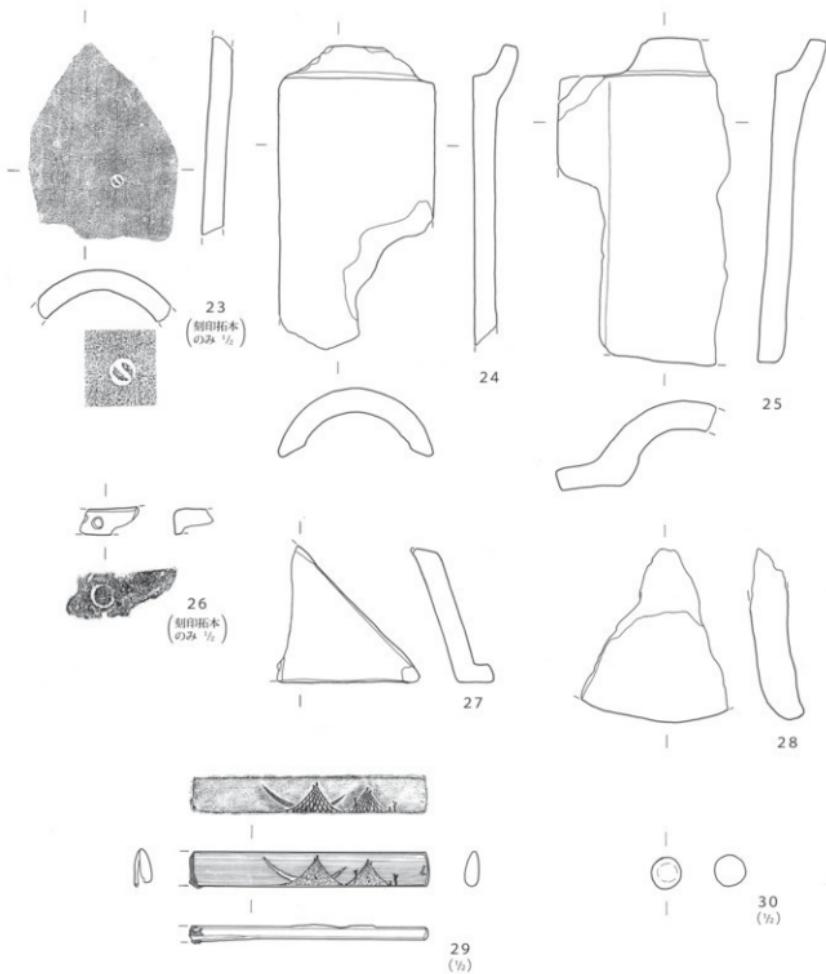
4月9日



遺物 第41図 県庁構内別館北側西エリア N-16)



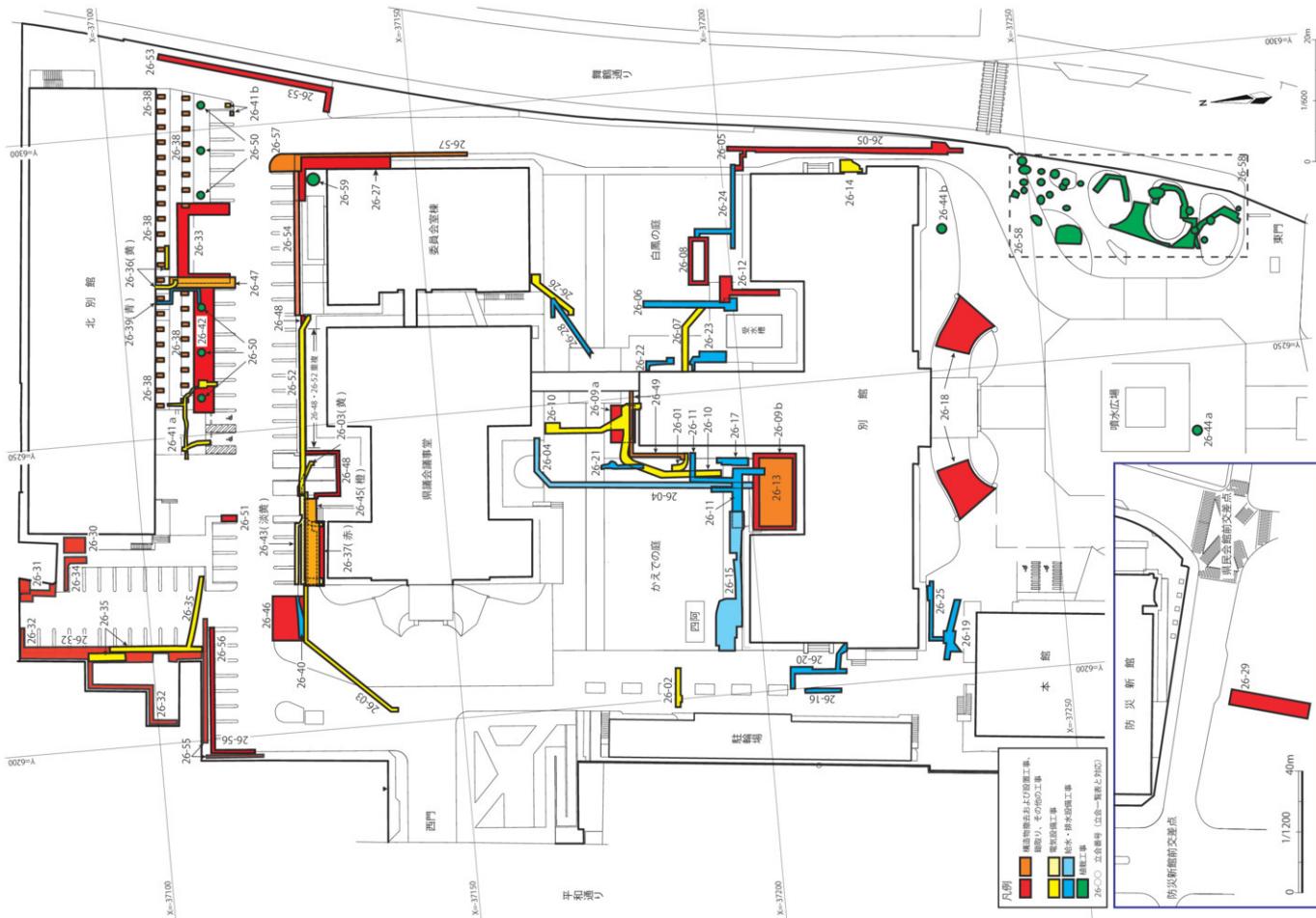
遺物 第42図 県庁構内別館北側西エリア IV-16)



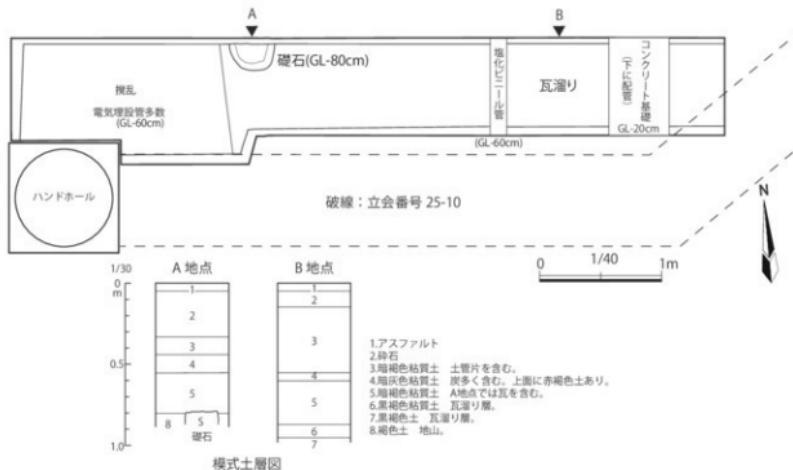
遺物 第43図 県庁構内別館北側西エリア IV-16)



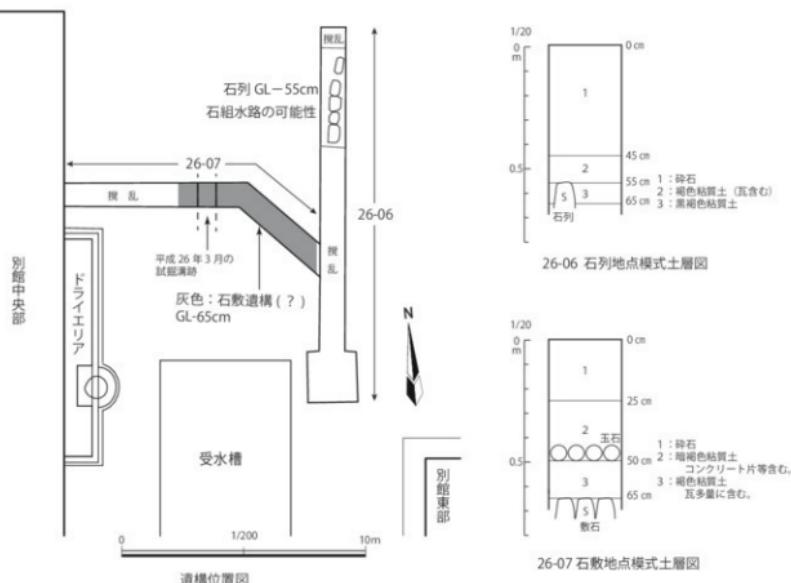
写真図版 16 県庁構内別館北側西エリア N-16)



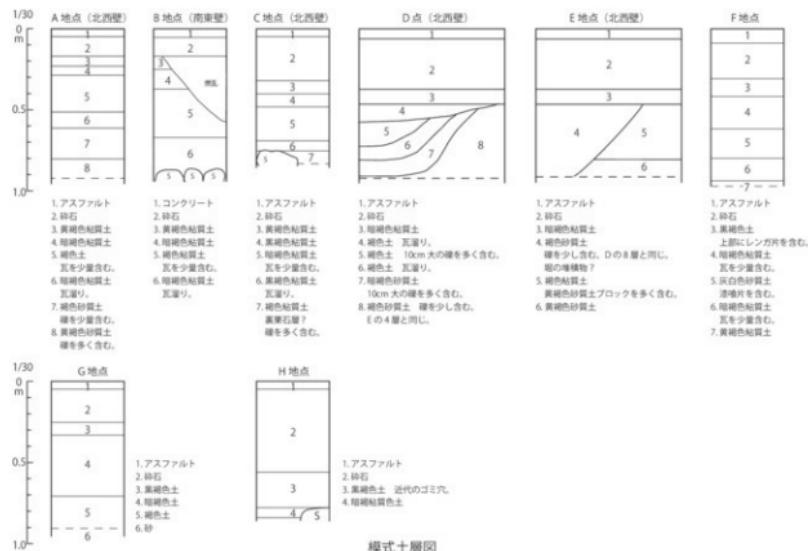
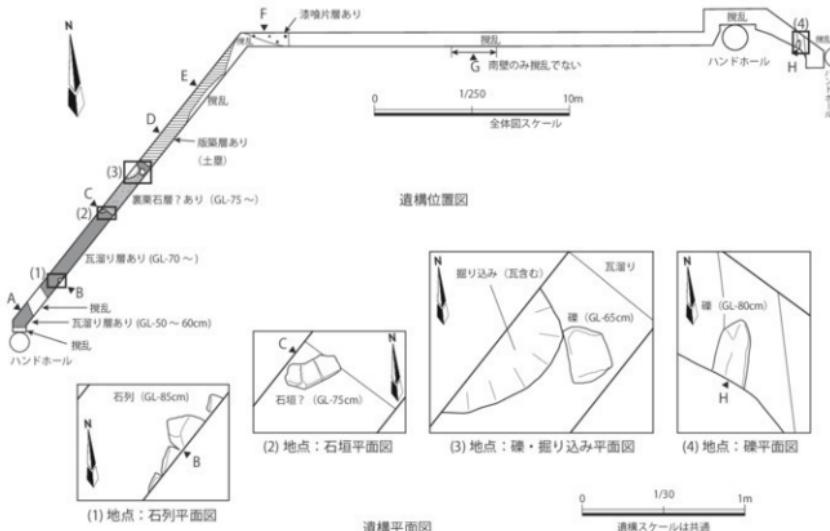
第 83 回 丙戌 26 年度立会課表位置圖



立会調査 26-02



第 84 図 平成 26 年度立会調査 26-02・26-06・26-07



第 85 図 平成 26 年度立会調査 26-03



26



28



30

写真図版 17 県庁構内別館北側西エリア N-16)

17) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査（立会番号 26-05・14）

事業名：①機械設備工事 ②電気設備工事

調査地点：県庁構内別館東側エリア 調査期間：平成26年5月17日～平成27年1月10日 ①平成26年5月17日・18日・29日・12月20日、平成27年1月10日 ②平成26年12月21日 調査面積：①約40m² ②約6m² 調査担当者：正木季洋

機械設備工事および電気設備工事により別館東エリアにおいて立会調査を実施した（第83・86図）。

現地は甲府城跡二の丸及び楽屋曲輪に該当し、二の丸石垣が位置していた地点である。これまでに、平成16年に給水管改修工事、平成17年に情報管理設工事、平成25年度にガス管理設工事の立会調査を実施し、岩盤が確認されている。

調査結果

①機械設備工事では、最も深い掘削は南端部のハンドホール接続部分で、地表下約130cm、管路部分は地表下約60～80cmの掘削が伴う。大半が平成19年度の給水管改修工事の範囲内での掘削であり、地表下50cm前後で岩盤（軟岩層）が検出されるが、それより上部は給水管設設時の擾乱を受けている。

給水管工事による擾乱を受けていない範囲では、部分的に巨礫が検出されており、そのうち南から約17mの地点で確認された巨礫は二の丸石垣推定ライン上に位置し、石垣の根石であった可能性も考えられる。

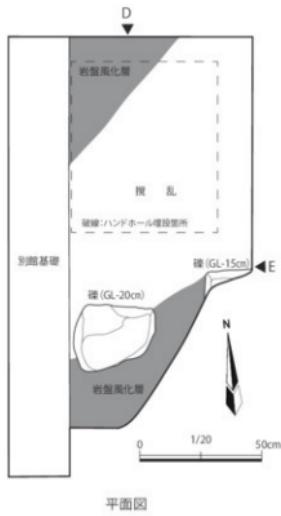
今回確認された巨礫は掘削工事による影響はなく埋設保存されている。

その他の遺構・遺物は確認されていない。

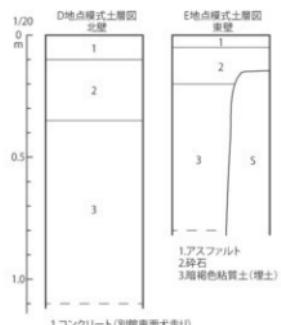
②電気設備工事では、別館への電気設備配管敷設に伴う掘削工事であり、巨礫が2石確認された。巨礫は二の丸石垣推定ライン上にあり、石垣の根石であった可能性も考えられることから、工事計画を変更してハンドホール設置箇所を移動した。巨礫の取扱いは、現地に埋設保存とした。

その他の遺構・遺物は確認されていない。

今回の工事地点においては、二の丸石垣の根石と思われる巨礫が確認されており、今後、当該地点付近における工事を実施する際には注意が必要となる。

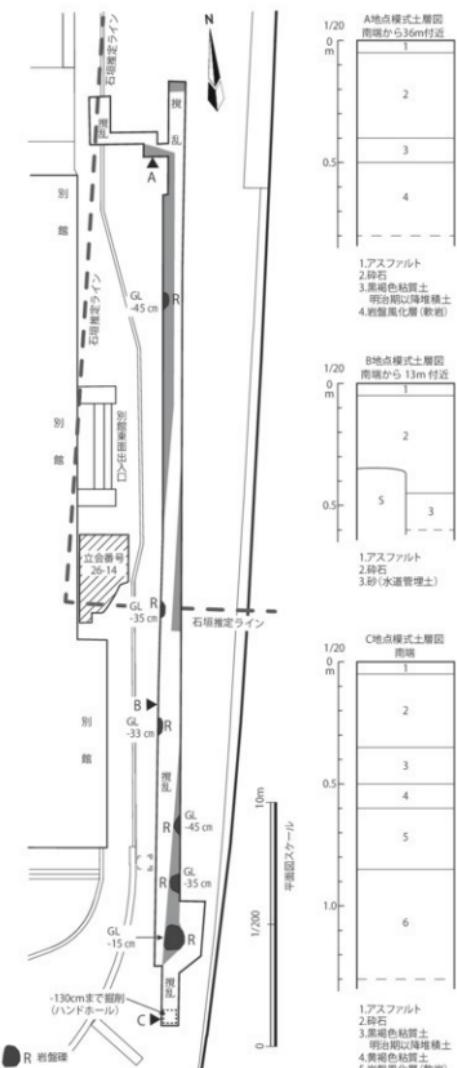


平面図



模式土層図

立会調査26-14



平面図

立会調査26-05

第 86 図 平成 26 年度立会調査 26-05・26-14



5月17日 26-05 調査地点



5月17日 26-05 南端部



5月17日 26-05 岩盤疊検出状況



5月18日 26-05 岩盤疊検出状況



5月18日 26-05 挖削状況



12月21日 26-14 挖削状況



12月21日 26-14 碓検出状況

18) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査（立会番号 26-06・07）

調査地点：県庁構内別館北側東エリア（旧ボイラー室地点） 調査期間：平成26年8月18日・20日

調査面積：約30m² 調査担当者：正木季洋

電気配管・給水管埋設敷設により別館北東部旧ボイラー室付近で掘削工事が行われることとなり、立会調査を実施した。現地は平成26年3月の確認調査により、敷石と思われる遺構が確認されている。調査は自家発電装置東側から受水槽に向けた南北方向に長さ約15m幅約1m、南北方向の掘削溝中程から別館に向けた東西方向に長さ約10m幅約1mで掘削が進められた（第83図）。

調査結果

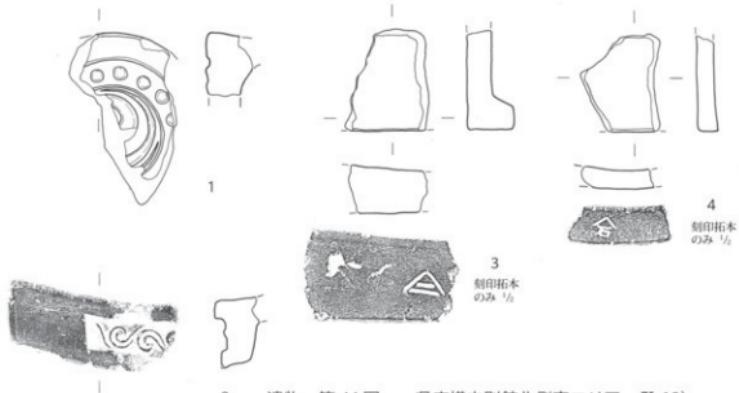
南北掘削溝北部の自家発電装置に隣接する範囲では地表下約55cmの地点で水路と思われる石列を確認した。また東西方向の掘削溝では、南北掘削溝から西へ約6mまでの範囲で、平成26年3月の確認調査により発見された敷石と思われる遺構を、地表下約65cmの地点で確認した。それ以外の範囲は、旧ボイラー室の基礎掘削な

どにより搅乱を受けている状況であった。

今回の工事で確認した石列及び敷石と思われる遺構は、埋設管の深度を変更することにより、すべて現地に保存された。今後、周辺で掘削を行う際は注意が必要となる。



埋設保存の状況 8月18日



2 遺物 第44図 県庁構内別館北側東エリア IV-18)



2



3



4

写真図版 18 県庁構内別館北側東エリア IV-18)

19) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査（立会番号 26-08）

調査地点：県庁構内別館北側東エリア 調査期間：平成 26 年 9 月 2 日・4 日 調査面積：約 11.7m²

調査担当者：久保田健太郎

県庁舎耐震化等整備事業別館改修工事の電気設備工事のため、別館北東部地点で掘削工事が行われることになった。そのため当該地点は甲府城跡の範囲内であり、遺物や遺構が検出される可能性があったことにより立会調査を実施した（第 83 図）。

掘削範囲は既設の地下オイルタンク外周部で、掘削深度は 80cm、掘削幅は 60cm である。

掘削は、遺物・遺構の有無を確認しつつ重機にて行った。調査区の南側、東側、北側、西側の順に掘削し、西側を除く掘削範囲の調査を 9 月 2 日に、西側の調査を 9 月 4 日に終了した。



調査区全景



調査区北側掘削完了状況



調査区南側南壁土層堆積状況



調査区北側北壁土層堆積状況（線内は瓦溜り）

調査結果

調査範囲はほぼ全域が過去の工事等に伴う既掘域であることが確認された。ただし、調査区北側に未擾乱の土層が僅かに確認された。

調査区南側と北側では、セクション面にて土層の堆積状況の観察が可能であった。観察結果は以下のとおりである。

調査範囲北側堆積状況

最下層である明黄色の岩盤風化層の上に暗褐色土が堆積し、それを削平した上で砂礫を主体とする客土が堆積し、アスファルトが舗装されている。暗褐色土中にはレンズ上堆積の瓦溜りや粗砂がみられる。この暗褐色土の堆積時期を示す資料は得られなかった。

岩盤風化層は東よりのみに見られる。中央から西よりにかけて旧地形が窪んでいたものと思われる。瓦溜りを含む暗褐色土は、その窪地状地形に堆積したものと考えられる。

調査範囲南側堆積状況

調査範囲北側に見られたような暗褐色土の堆積層は見られず、岩盤風化層の直上が擾乱層で、その上部に調査範囲北側でも見られた客土が堆積し、最上部がアスファルトで舗装されている。岩盤風化層の直上に堆積した擾乱層からは、コンクリート片、番線、配線等が含まれている。

20) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（委員会室棟改築工事）に伴う立会調査（立会番号 26-26）

調査地点：委員会室棟南西部外部 調査期間：平成 26 年 9 月 4 日 調査面積：約 7m²

調査担当者：正木季洋

県庁舎耐震化等整備事業県議会議事堂委員会室棟改築に伴う電気配管敷設により、委員会室棟南西部で掘削工事が行われることとなり、立会調査を実施した。掘削は委員会室棟南西部にハンドホールを設置し、そこから南西方向にある既存ハンドホールまで、長さ 6 m、幅約 1 m、深さ約 110cm の規模で行われた（第 83 図）。

調査結果

現地は地表下約 85cm の深さよりケーブル管が埋設されており、掘削溝壁面部を除く全域が既掘の範囲内にあることを確認した。掘削溝壁面における土層観察では、岩盤層上部の暗褐色粘質土層（GL - 50 ~ 70cm）中より瓦片を数点確認したが、遺構は確認されなかった。

今回の掘削範囲は既存の掘削範囲であり、遺構の検出はなかったが、周辺には埋蔵文化財が残っている可能性が高く、周囲の掘削には注意が必要である。



9月4日



9月4日

21) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査

事業名：①既存受水槽・電気室基礎解体工事（立会番号 26-09）

②電気設備工事（別館・議事堂間敷設工事）（立会番号 26-10）

③電気設備工事（設備工・U字溝掘削）（立会番号 26-12）

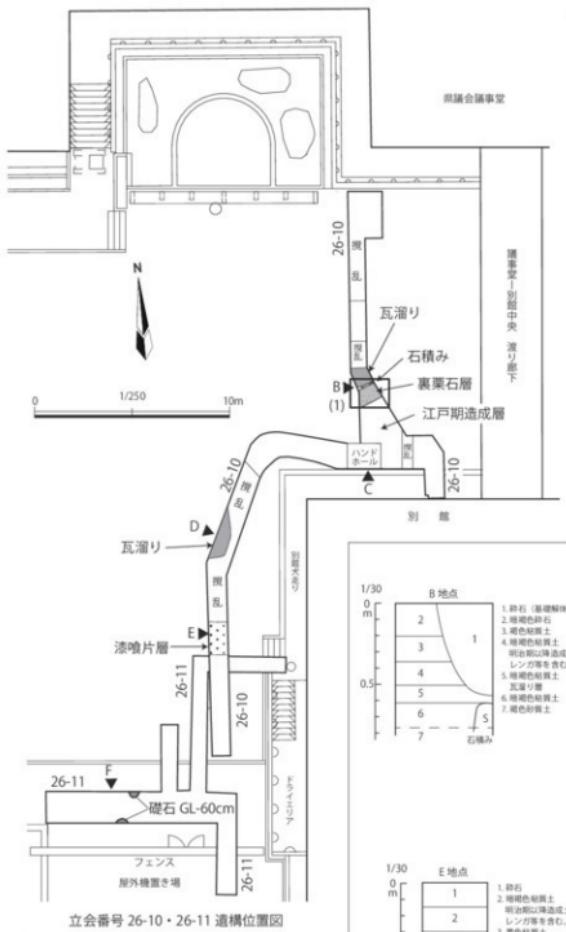
④機械設備工事（給水設備工事）（立会番号 26-11）

⑤機械設備工事（空調設備工事）（立会番号 26-13）

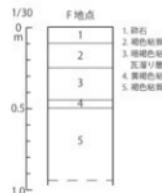
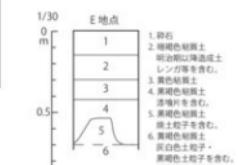
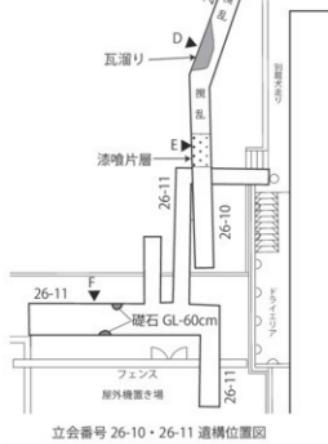
調査地点：①・④・⑤県庁構内別館北側西エリア（旧受水槽付近） ②県庁構内別館北側エリア（別館・議事堂間地点） ③県庁構内別館北側東エリア 調査期間：平成 26 年 10 月 22 日～11 月 12 日 ①平成 26 年 10 月 22 日・24 日・29 日 ②平成 26 年 11 月 4 日～7 日・10 日 ③平成 26 年 11 月 10 日・11 日 ④平成 26 年 11 月 4・5・10 日 ⑤平成 26 年 11 月 12 日 調査面積：①約 100m² ②約 40m² ③約 17m² ④約 35m² ⑤約 57m²

調査担当者：正木季洋・柴田亮平

電気配管・給水管路設設等により別館北西～東エリアにおいて立会調査を実施した。現地は甲府城跡楽屋曲輪に位置し、これまでの調査により、礎石・瓦溜りなどが確認されている（第 83・87 図）。



(1) 地点：石積み平面図・断面図



模式土層図

第 87 図 平成 26 年度立会調査 26-10・26-11



① 10月 22日 受水槽解体



② 11月 5日 石積み確認



③ 11月 5日 埋設保存の状況



④ 11月 10日 電気設備工事箇所



⑤ 11月 10日 給水設備箇所で礎石確認



⑥ 11月 12日 堆積状況

調査結果

①既存受水槽・電気室基礎解体工事については、掘削は基礎コンクリート下の碎石層上面（地表下約40cm）までにとどまっており、遺構・遺物は確認されていない。

②電気設備工事（別館・議事堂間敷設工事）では、旧電気室北側付近において、東西方向に延びる石積み(GL-60cm)が確認された。石積み北側は瓦溜りが、南側は裏栗屑・造成層が堆積している。管路南側では造成土屑の上に漆喰片を含む土屑が確認された。

今回の工事地点は甲府城跡楽屋曲輪の書院があったとされており、石積み・漆喰は書院に関連するものと思われる。石積みは埋設管の設置深度を変更することにより、現地に保存されている。

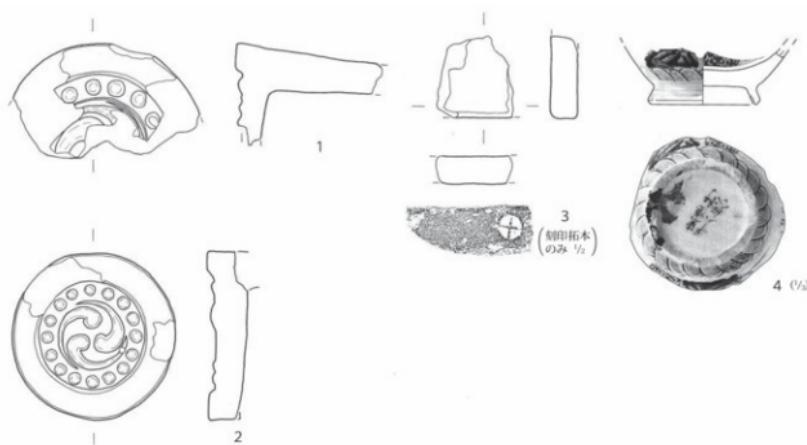
出土品は瓦溜り層を中心に、瓦・磁器片が土嚢袋で5袋である。

③電気設備工事（設備工・U字溝掘削）では、地表下約95cm(一部約120cm)までの掘削であったが、既存埋設管・基礎などの既掘範囲内の掘削であり、遺構は確認されなかった。

④機械設備工事（給水設備工事）では、10月22日に基礎解体を行った旧受水槽の北側、地表下約60cmの地点で礎石と思われる石を2石確認した。礎石は甲府城跡楽屋曲輪の書院に関連するものと思われ、埋設管の設置深度を変更することにより、現地に保存されている。

出土品は瓦溜り層を中心に、瓦・磁器片が土嚢袋で7袋である。

⑤機械設備工事（空調設備工事）では、地表下約30cmの掘削であり、表土・10月22日に基礎解体を行った旧受水槽の基礎撤去後の埋土中の掘削であり、遺構は確認されなかった。出土品は表土・埋土から瓦片が土嚢袋で1袋である。



遺物 第45図 県庁構内別館 北側西エリア IV-21)



写真図版 19 県庁構内別館北側西エリア IV-21)

22) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（外構整備工事）に伴う立会調査

事業名：①防油堤設置

②擁壁設置工事

③管理設工事・既存擁壁撤去・階段設置

④側溝・緑石設置工事

⑤電気設備工事(灯具・埋設管)

調査地点：県庁構内外構整備工事 北別館西側 調査期間：平成26年11月21日～12月12日 ①平成26年11月21日 ②平成26年12月4日 ③平成26年11月21日、12月4日 ④平成26年11月21、28日 ⑤平成26年12月11,12日 調査面積：①約9m² ②約6m² ③約15m² ④約70m² ⑤約36m²

調査担当者：正木季洋

県庁構内外構整備工事により北別館西側において立会調査を実施した。現地は甲府城跡柳門周辺に該当し、平成15年度及び平成26年度の確認調査により柳門周辺の石垣や石段が確認されている（第83図）。

調査結果

①防油堤設置（立会番号 26-30）

掘削は南西端部のハンドホール部分で地表下約 75cm、それ以外は地表下約 20cm の掘削となる。表土及び明治時代以降の埋土中の掘削であり、遺構・遺物は確認されていない。

②擁壁設置工事（立会番号 26-34）

地表下約 40cmまでの表土層中の掘削であり、掘削底面は旧建物基礎コンクリートまたは明治時代以降の埋土（黒褐色粘質土）となる。遺構・遺物は確認されていない。なお、擁壁は今回立会地点以南にも設置されるが、掘削深度が浅くなり、過去の調査により確認された遺構面まで及ばないことから立会不要と判断した。

③管理設工事・既存擁壁撤去・階段設置（立会番号 26-31）

最大深度地表下約 90cm の掘削である。南北方向に延びる石垣の存在が推定されたが、今回の掘削は既存の碎石層中にとどまり、遺構・遺物は確認されていない。

④側溝・縁石設置工事（立会番号 26-32）

側溝は地表下約 52cm、縁石は地表下 25cm の既存の碎石層中の掘削であり、遺構・遺物は確認されない。

⑤電気設備工事（灯具・埋設管）（立会番号 26-35）

灯具部分は地表下約 100cm の掘削を予定していたが、灯具設置予定箇所においては、東西方向の石垣の一部と思われる礫が地表下約 70cm の碎石層下で確認され、設置場所を南側に変更し、礫は埋設保存とした。なお、変更場所において碎石下は搅乱を受けており、遺構・遺物は確認されていない。



①防油堤



④側溝・縁石



⑤灯具・埋設管



③管理設工事

埋設管は地表下約 60～75cm の掘削となる。南北方向の掘削溝中は既存の碎石層中の掘削であり、遺構・遺物は確認されない。東西方向の掘削中央部では地表下約 60cm より、南北石垣の一部と考えられる礫が検出されたが、これ以上の掘削が及ぼないことから現地に埋設保存してある。

なお、東西方向の埋設管は東側にさらに延ばされる計画であるが、掘削深度が浅くなり、かつ既存のオイルタンクが埋設されている範囲であることから、地下遺構に影響が及ばないと判断し、立会を実施していない。

今回の工事地点においては、柳門周辺の石垣・石段が確認されており、今後、当該地点付近における工事を実施する際には注意が必要となる。

23) 甲府城跡県立舍耐震化等整備事業（外構整備工事・駐輪場他整備工事）に伴う立会調査（立会番号 26-38）

調査地点：北別館南側 調査期間：平成 26 年 12 月 3 日～平成 27 年 3 月 10 日 調査面積：約 215m²

調査担当者：正木季洋・長田隆志

県庁構内外構整備工事・駐輪場他整備工事により北別館南側外構整備工事において立会調査を実施した。現地は甲府城跡楽屋曲輪と屋形曲輪・清水曲輪の境に位置し、平成 26 年度中に実施した確認調査により、石垣や土壠層などが地表下約 100cm の深さで確認されている（第 83 図）。

調査結果

今回の工事は、いずれも北別館及び旧北別館スロープ建設時の既掘範囲や明治期以降の造成土中の工事であり、遺構は確認されなかった。なお、既掘範囲の埋土中からは瓦片が出土している。



2月2日 駐輪場

今回の工事では遺構は確認されなかったが、現地には確認調査により石垣等の遺構が検出されているため、周辺で掘削を行う際には注意が必要となる。

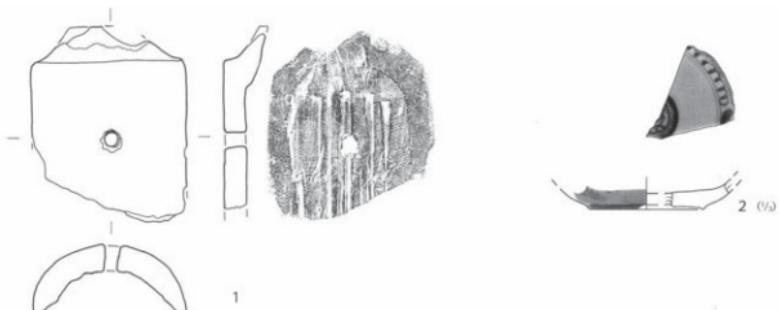


1



2月2日 駐輪場

写真図版 20 外構整備・駐輪場他整備 IV-23)



遺物 第 46 図 外構整備・駐輪場他整備 IV-23)

24) 甲府城下町遺跡県庁舎耐震化等整備事業（防災新館駐輪場建設工事）に伴う立会調査（立会番号 26-29）

調査地点：防災新館駐輪場建設地 調査期間：平成 26 年 12 月 4 日・9 日 調査面積：約 145m²

調査担当者：正木季洋

防災新館駐輪場建設工事による掘削が行われることとなり、その掘削範囲の立会調査を実施した。調査予定場所は甲府城跡楽屋曲輪の南堀の外側、甲府城下町遺跡にあたる（第 83 図）。

調査結果

掘削はアスファルト除去後、約 20cm の深さで敷地全体をすきとり、浸透枠 3 基、駐輪場屋根柱基礎 20 基を設置するために約 100cm 四方×深さ約 60cm の規模で掘削を行った。

浸透枠及び駐輪場屋根基礎の底面には、旧建物の基礎コンクリートがあり、それ以上は碎石が堆積している状況が確認された。

今回の立会調査の対象範囲は、すでに搅乱された状況であり、遺構・遺物は確認されなかった。こうしたことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断される。



12月 4 日



12月 9 日

25) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（外構整備工事）に伴う立会調査（立会番号 26-36）

調査地点：北別館南側中央部 調査期間：平成 26 年 12 月 24 日 調査面積：約 1m² 調査担当者：宮里学
人力による掘削を行い、遺構・遺物の確認を実施した（第 83 図）。

調査結果

掘削範囲はすべて客土（砂礫および粘性土）であり、北別館建物と接することから建設時の掘りしろ部分と判断できる。また、工事に伴い遺構および遺物の確認も行ったが両者ともに確認されなかった。

なお、引き続き施工に当たり掘削を伴う場合には、あらかじめ連絡調整の上、調査を実施する必要がある。

26) 甲府城跡県厅舎耐震化等整備事業に伴う立会調査

調査地点：県厅舎別館北西 調査期間：平成 27 年 1 月 7 日～2 月 18 日 調査面積：約 134m²

調査担当者：正木季洋・長田隆志

県厅舎耐震化等整備事業（別館改修工事）により別館周辺エリアにおいて立会調査を実施した。現地は甲府城跡楽屋曲輪に位置し、これまでの調査により、礎石・瓦溜りなどが確認されている（第 83・88・89 図）。

調査結果

①旧排水設備工事（別館北西エリア：平成 27 年 1 月 7・8・14～16 日）（立会番号 26-15）

給水管及び雨水管の埋設工事である。東部では東西方向の石列（GL - 60cm）と礎石と考えられる砾（GL - 85cm）、中央部では南北方向の石列（GL - 80cm）を確認した他、既存給水管等による既掘範囲以外では瓦溜り（GL - 40～55cm）層を検出した。今回の工事地点は甲府城跡楽屋曲輪の書院があったとされており、石列・礎石等の遺構は書院に関連するものと思われる。

石列・礎石・水路は埋設管の設置位置を変更することにより、現地に保存した。

出土品は瓦溜り層を中心に、瓦・磁器片が土甕袋で 20 袋出土した。

②排水設備工事（別館西エリア：平成 27 年 1 月 14・16 日）（立会番号 26-16）

排水管敷設に伴う掘削工事である。地表下 200cm までの掘削であったが、既存排水管（GL - 150～220cm）による既掘範囲内の掘削であり、遺構は確認されなかった。

③排水設備工事（別館北西エリア：平成 27 年 1 月 20 日）（立会番号 26-17）

排水管敷設に伴う掘削工事である。地表下 200cm までの掘削であったが、別館ドライエリア建設時の既掘範囲内であり、遺構は確認されなかった。

④排水設備工事（別館南西エリア：平成 27 年 1 月 23・26・28 日）（立会番号 26-19）

排水設備工事（排水管及びハンドホール設置）に伴う掘削工事である。GL - 200cm までの掘削であり、中央部北壁より礎石（GL - 80cm）とその上部に瓦溜りを確認した以外は、電気配管・排水管による掘削範囲であった。礎石は甲府城跡楽屋曲輪の書院に関連するものと思われ、現地に保存した。

出土品は瓦溜り層を中心に、瓦・磁器片が土甕袋で 1 袋出土した。

⑤排水設備工事（別館西エリア：平成 27 年 2 月 9 日）（立会番号 26-20）

排水設備工事（排水管設置）に伴う掘削工事である。地表下 50～65cm までの掘削であり、碎石層及び明治時代以降の造成土層中の掘削で遺構は確認されなかった。

出土品は明治時代の造成土中より瓦片が出土した。

⑥排水設備工事（別館北西エリア：平成 27 年 2 月 9・10 日）（立会番号 26-21）

排水設備工事（排水管設置）に伴う掘削工事である。地表下 60～80cm までの掘削であり、南側で瓦溜りが確認された以外は、遺構は確認されなかった。

⑦排水設備工事（別館北西エリア：平成 27 年 2 月 12 日）（立会番号 26-22）

排水設備工事（排水管設置）に伴う掘削工事である。南端部西壁際で礎石（地表下約 45cm）を確認した。礎石は甲府城跡楽屋曲輪の書院に関連するものと思われ、現地に保存した。

⑧排水設備工事（別館北西エリア：平成 27 年 2 月 12 日）（立会番号 26-23）

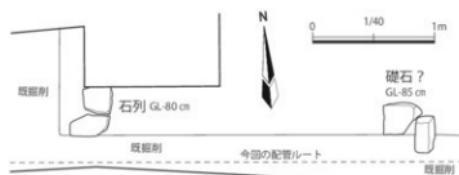
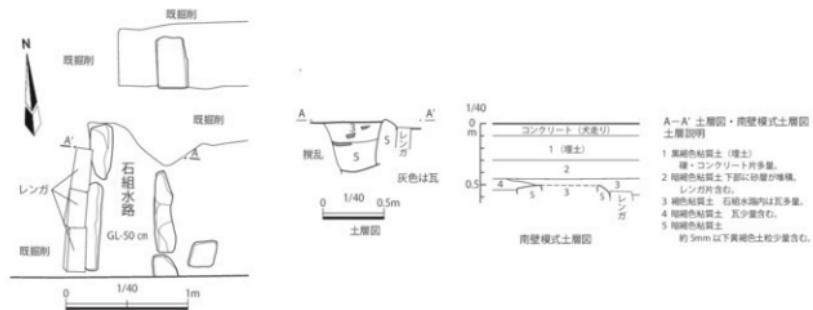
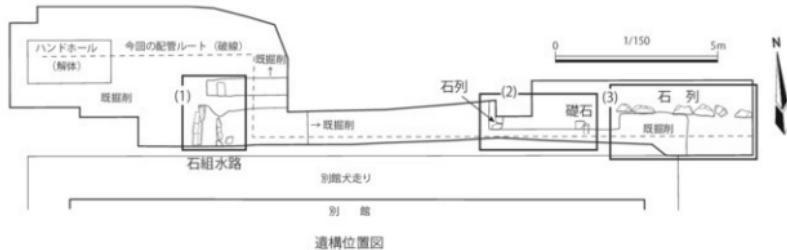
排水設備工事（排水管設置）に伴う掘削工事である。地表下約 50cm までの掘削であったが、別館ドライエリア建設時の既掘範囲内の掘削であり、遺構は確認されなかった。

⑨排水設備工事（別館北西エリア：平成 27 年 2 月 12・14・16 日）（立会番号 26-24）

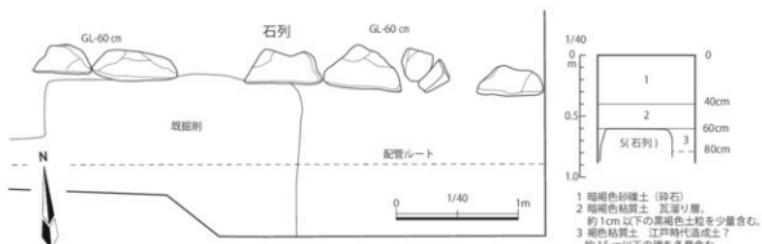
排水設備工事（排水管設置）に伴う掘削工事である。既存ガス管埋設ルート及び旧オイルタンク埋設箇所の既掘範囲内の掘削であり、遺構は確認されなかった。

⑩排水設備工事（別館南西エリア：平成 27 年 2 月 18 日）（立会番号 26-25）

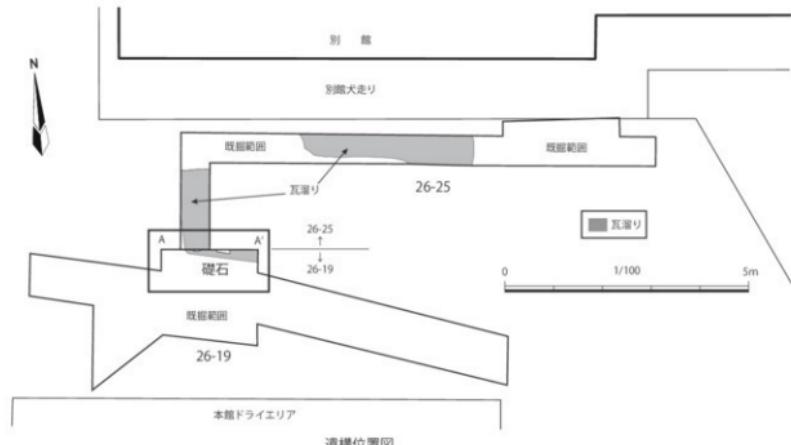
排水整備工事（排水管設置）に伴う掘削工事である。立会④の礎石確認箇所付近から別館に沿って L 字状に掘



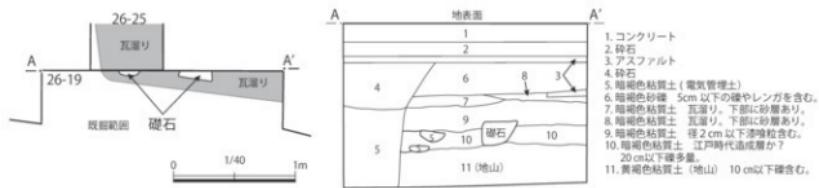
(2) 地点：石列・確石平面図



(3) 地点：石列平面図・模式断面図

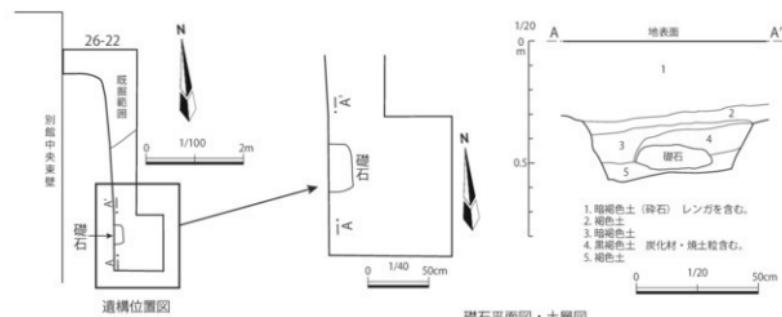


遺構位置図



26-19 確石平面図・土層図

立会調査 26-19・26-25



立金證券 26-22

第89図 平成26年度立会調査 26-19・26-25・26-22

削を行った。部分的に搅乱を受けているが、地表下約55cm付近で瓦溜りを確認した。工事による掘削は瓦溜りまでであり、遺構は確認されなかった。

出土品は瓦溜り層を中心に、瓦片が土嚢袋で4袋出土した。

今回の工事では、埋蔵文化財が確認されており、今後、周辺で掘削を行う際には注意が必要となる。



①1月8日 埋設保存状況



①1月14日 石列の検出



①1月7日 北西給水



①1月15日 水路の検出



①1月14日 石列の埋設保存



①1月16日 水路の埋設保存



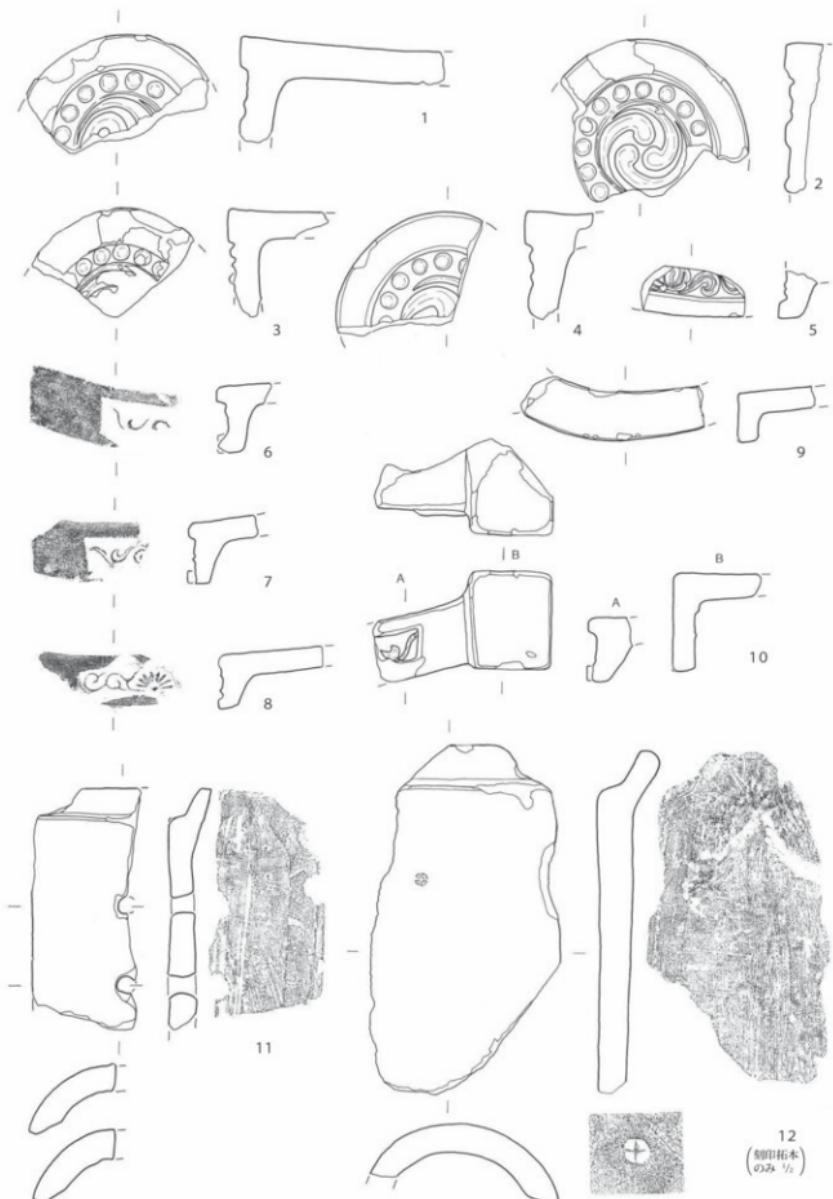
②2月12日



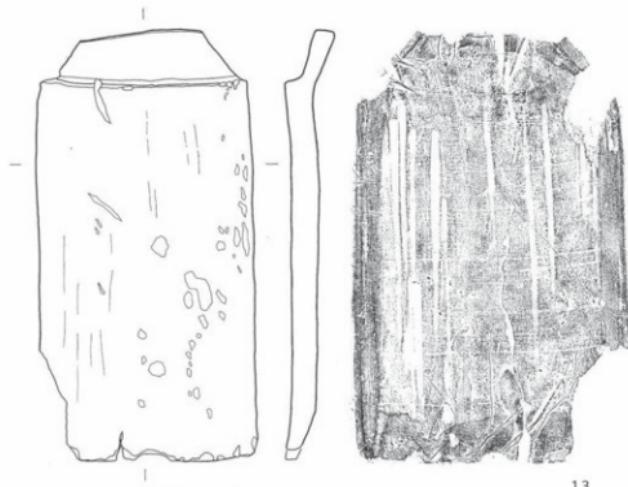
②2月12日 础石の検出



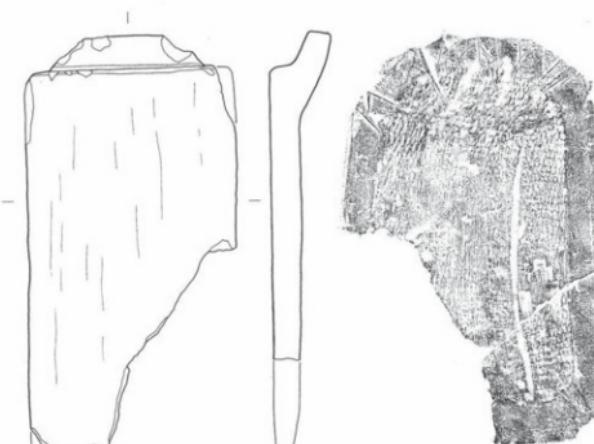
②2月12日



遺物 第47図 県庁舎別館 北西 IV-26)



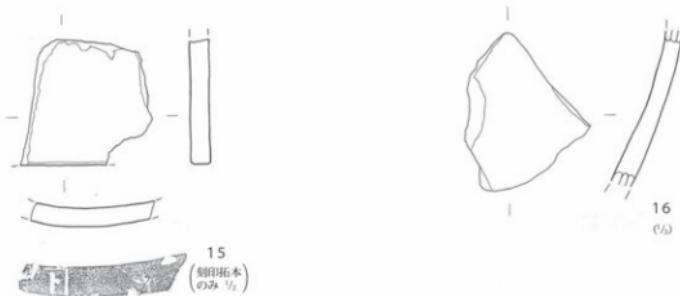
13



14



遺物 第48図 県庁舎別館 北西 IV-26)



遺物 第49図 県庁舍別館 北西 IV-26)



写真図版 21 県庁舍別館北西 IV-26

27) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（外構整備工事）に伴う立会調査（立会番号 26-37～43・45～48・50～57）

調査地点：県庁構内外構整備工事（北別館南） 調査期間：平成 27 年 1 月 9 日～3 月 31 日

調査面積：約 343.4m² 調査担当者：正木季洋・長田隆志

県庁構内外構整備工事により北別館南側、議事堂・委員会室棟北側～東側エリアにおいて立会調査を実施した。現地は甲府城跡楽屋曲輪と屋形曲輪・清水曲輪の境に位置し、平成 26 年度中に実施した確認調査等により、石組水路や石垣、土塁層などが地表下約 100cm の深さで確認されている（第 83 図）。

調査結果

今回の工事は、埋設管等の既掘の範囲あるいは明治期以降の造成土中の工事であり、遺構は確認されなかった。

今回遺構は確認されなかつたが、現地には確認調査により石垣等の遺構が確認されているため、周辺で掘削を行う際は注意が必要となる。



26-53 遺構・遺物なし



26-55 遺構なし・瓦出土



26-37 遺構・遺物なし



26-45 遺構・遺物なし



26-57 遺構・遺物なし



26-43 遺構なし・瓦出土



26-46 遺構なし・瓦出土



26-54 遺構なし・瓦出土

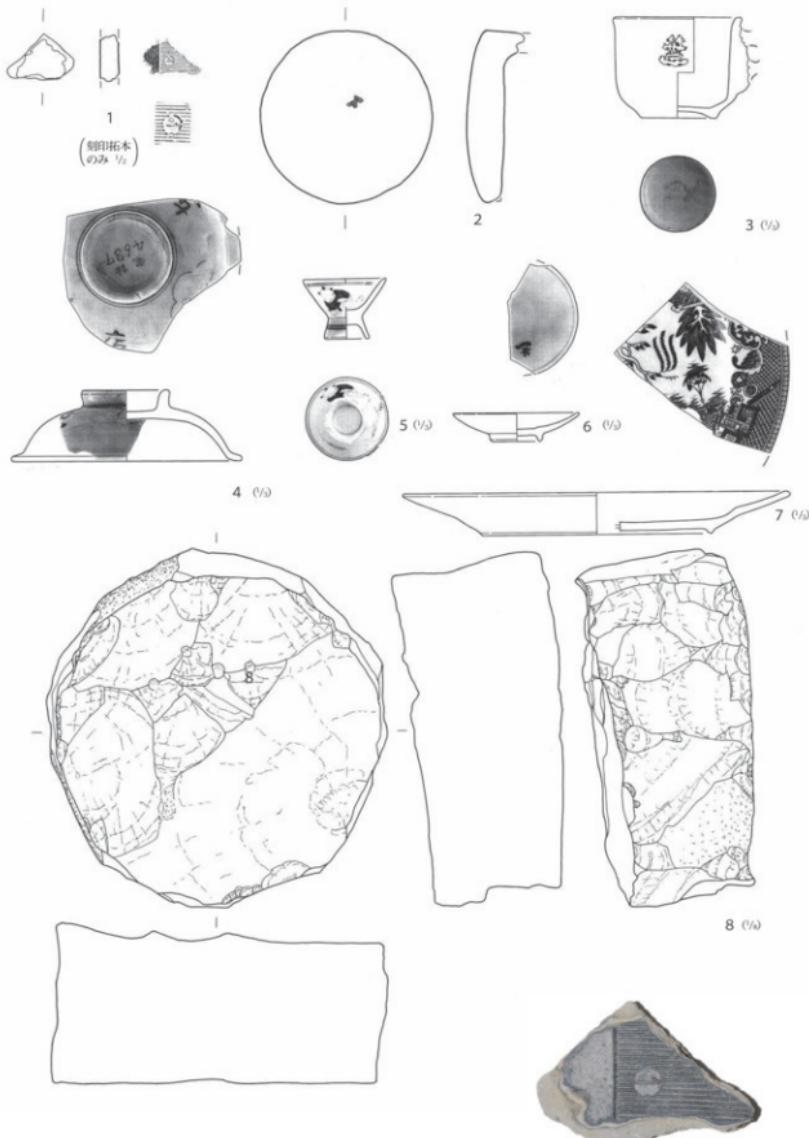


26-54 遺構なし・瓦出土

28) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（玄関スロープ改修工事）に伴う立会調査（立会番号 26-18）

調査地点：県庁構内別館東側エリア 調査期間：平成 27 年 1 月 20 日、2 月 2 日 調査面積：約 100m²

調査担当者：正木季洋



遺物 第50図 県庁構内外構整備 IV-27)

写真図版 22 県庁構内外構整備 IV-27)

県庁舎耐震化等整備事業の内、別館玄関スロープ改修工事により別館南エリアにおいて立会調査を実施した。現地は甲府城跡楽屋曲輪に該当し、楽屋曲輪御殿及び楽屋曲輪区画堀（水路）が位置していた地点である。

調査結果

掘削の最大深度は既設玄関スロープ土間（コンクリート）上面から約40cmとなる。既設スロープ土間（コンクリート）を撤去したところ、コンクリート下に約50cm 大の礫が捨石として埋められており、捨石下部には碎石が敷かれていた。掘削はこの碎石層中にとどまり、遺構・遺物は確認されなかった（第83図）。

今回の工事の対象範囲においては、既存土間設置の際の碎石層中の工事であり、遺構・遺物は確認されなかつたことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないと判断される。ただし、今後、**今回の工事以上**の規模で工事が計画される場合には、改めて調査が必要となる。



1月20日 別館に向かって左側スロープ



2月2日 別館に向かって右側スロープ

29) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（外構整備植栽工事）に伴う立会調査（立会番号 26-44）

調査地点：県庁構内本館前東庭 調査期間：平成27年2月7日・14日 調査面積：約15m²

調査担当者：正木季洋

県庁構内外構整備植栽工事により本館東側築山および別館南エリアにおいて立会調査を実施した。現地は甲府城跡楽屋曲輪に該当し、楽屋曲輪長屋及び楽屋曲輪区画堀（水路）が位置していた地点である。今回の工事は、外構整備工事に伴い移植する樹木の根回し作業であり、樹木の周囲を約100cmまでの掘削となる。現地は盛土がなされていることから、掘削が現況アスファルト舗装面より深くなると想定されるNo65・No85の樹木について立会調査を実施した（第83図）。

調査結果

掘削深度はNo65が45cm、No82が50cmであり、現況アスファルト舗装面より上部の盛土中の掘削であり、遺構・遺物は確認されなかった。

今回の工事の対象範囲においては、現況アスファルト舗装面より上部の盛土中の掘削であり、**遺構・遺物は確認されなかつたこと**から、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないと判断される。ただし、今後、**今回の工事以上**の規模で工事が計画される場合には改めて調査が必要となる。



No65 本館前東庭



No82 別館前

30) 甲府城跡県舎耐震化等整備事業（委員会室棟改築工事）に伴う立会調査

調査地点：県議会議事堂委員会室棟 調査期間：平成 27 年 2 月 27 日、3 月 4・5・10 ①外構工事：2 月 27 日、3 月 10 日②排水設備工事：3 月 4・5 日 調査面積：（全体約 58m²）① 43m² ② 15m² 調査担当者：正木季洋

県議会議事堂委員会室棟改築工事（外構擁壁設置・配水管設置工事）により委員会室棟周辺エリアにおいて立会調査を実施した。現地は甲府城跡築堀曲輪に位置し、平成 24～26 年度までの委員会室棟改築に伴う発掘調査により温泉関連遺構や石組水路などが確認されている（第 83 図）。

調査結果

①外構工事（委員会室棟北東エリア）（立会番号 26-27）

擁壁設置箇所北西部は平成 26 年 4 月の発掘調査（委員会室棟第 3 次調査）により確認された石組水路（H26-1 号溝）が埋設保存されている地点であり、それ以外の箇所は旧鉄塔基礎などによりすでに掘削がおよんでいることから、北東部のみを対象に立会調査を実施した。

北部擁壁は GL - 50cm までの掘削であり、明治期以降造成土層中の掘削にとどまり、遺構は確認されなかった。東側擁壁は GL - 80cm までの掘削であったが、GL - 70cm で H26-1 号溝の保護シートを確認したため、擁壁基礎構造を変更することにより、石組水路を現地に埋設保存した。

②排水設備工事（委員会室棟南西エリア）（立会番号 26-28）

配水管敷設に伴う掘削工事である。地表下約 65～90cm までの掘削であったが、既存配水管等による限掘範囲内での掘削であり、遺構は確認されなかった。

今回の工事では埋蔵文化財が確認されており、今後、周辺で掘削を行う際は注意が必要となる。



② 3月4日



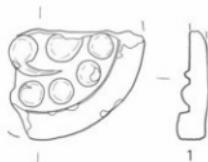
② 3月5日



② 3月5日



① 3月10日 石組水路を確認



1

遺物 第51図
委員会室棟 排水 IV-30) 写真図版 23
委員会室棟改築 IV-30)

31) 甲府城跡県庁耐震化等整備事業（外構整備工事）に伴う立会調査（立会番号 26-49）

調査地点：県庁構内別館北、北西エリア 調査期間：平成27年3月9日 調査面積：約20m²

調査担当者：正木季洋

県庁構内外構整備工事の擁壁設置工事により、別館北西エリアにおいて立会調査を実施した。現地は甲府城跡楽屋曲輪に該当し、楽屋曲輪御殿が位置していた地点である（第83図）。

調査結果

今回の工事は、現状地盤から約40cmの明治時代以降の造成層中までの掘削であり、造成層中より瓦片が出土した以外に遺構・遺物は確認されなかった。

今回の工事の対象範囲においては、造成土層中の工事であり、遺構は確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断される。ただし、今後、今回の工事以上の規模で工事が計画される場合には、改めて調査が必要となる。



3月9日 工事掘削



3月9日 GL - 40cm

32) 甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業（外構整備植栽工事）に伴う立会調査（立会番号 26-58）

調査地点：県庁構内本館前東庭 調査期間：平成 27 年 3 月 18 日～ 20 ・ 25 ～ 27 日 調査面積：約 440m²

調査担当者：正木季洋

現地は甲府城跡築壘屋曲輪に該当し、追手門周辺の石垣等が位置していた地点である（第 83・90 図）。

調査結果

対象エリア北端部の抜根作業により南北方向の石組暗渠（暗渠①）を県庁舎装面より - 40cm の深さから、南西部の抜根作業により東西方向の石組暗渠（暗渠②）を県庁舎装面より - 30cm の深さで確認した。暗渠②は西側を木の根により搅乱を受けている。

中央やや南よりの根回し掘削では、東側歩道面より - 40cm の深さで礫を、南端部の根回し掘削では、県庁東門北隣で、県庁舎装面より + 15cm で石垣と思われる石列を確認した。根回し掘削により確認した礫・石列は江戸時代の絵図との照合により、追手門北側の石垣に関係するものと考えられる。

その他の掘削は、植栽の盛土範囲内の掘削にとどまり、遺構は確認されなかった。

今回の工事の対象範囲においては、甲府城跡追手門の石垣に関係する遺構等が確認されており、今後、当該地点付近における工事を実施する際には注意が必要となる。

なお、今回確認した遺構については現地に土囊などを置き埋設保存した。



3月 18 日 拔根作業



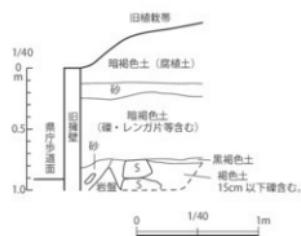
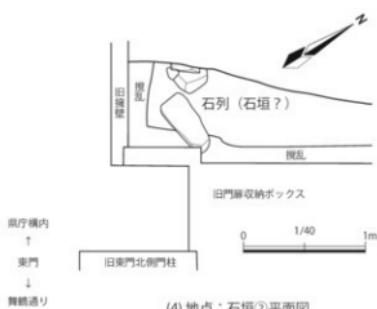
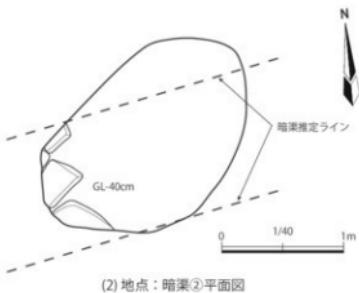
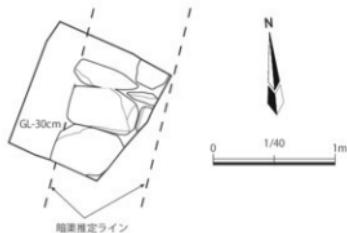
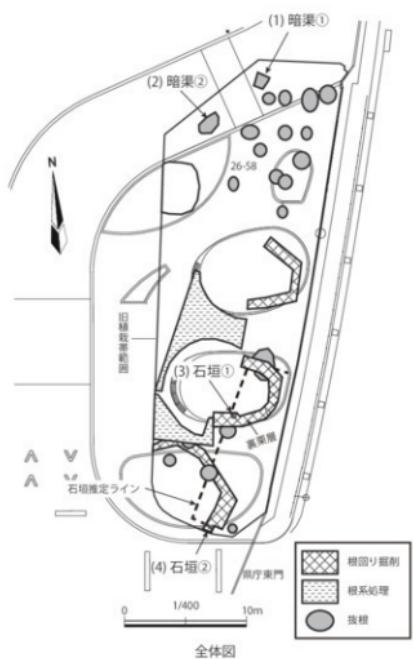
3月 18 日 暗渠の検出



3月 19 日 根回し作業



3月 20 日 根回し作業



第 90 図 平成 26 年度立会調査 26-58



3月26日 植栽南側の隅で石垣石材を検出



3月26日 土嚢を置き、埋設保存

33) 県庁構内外構整備事業（外構整備事業）に伴う立会調査

調査地点：県庁構内各所 調査期間：平成27年4月3日～平成28年3月2日

調査担当者：宮里学・浅川一郎・篠原真史・正木季洋・久保田健太郎・御山亮済・上野桜

昨年度に引き続き県庁構内外構整備事業が行われた。県庁構内は甲府城跡の楽屋曲輪とその周辺に該当するため、掘削を伴う工事に関して昨年度同様に立会調査を実施した。また同時に行われた県民会館の解体に関しても、同地点が甲府城跡の堀と石垣に該当することから同様に立会調査を実施した（第91～101図）。

外構整備事業は、排水溝、擁壁、縁石等の設置や舗装を行う外構整備工事、電気配管の埋設や照明基礎・ハンドホールの設置を行う電気設備工事、給排水管の埋設やハンドホールの設置を行う機械設備工事、樹木の伐採・抜根・植栽及び白鳳石移設を行う植栽工事の4つに分けられる。また、外構整備事業は構内を大きく北側と南側に分けられ、それぞれが細分化されている。

調査は、まず事前に提示された計画図面を基に現地で事業者及び施工業者と協議して工事の概要を把握し、次に、掘削範囲や掘削深度を甲府城絵図や過去の調査事例と照らし合わせて立会調査が必要かどうかを判断した。

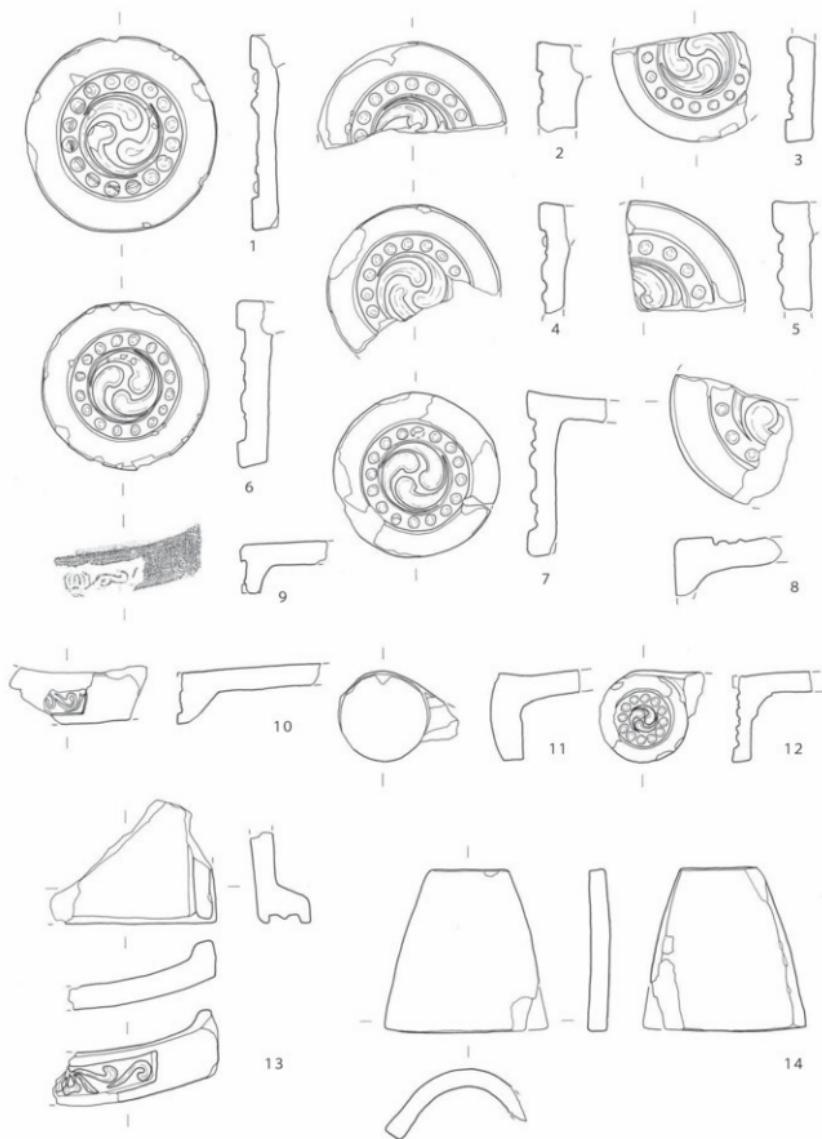
その結果、既掘の範囲や掘削深度が浅く遺構に影響を与えないと判断できる地点の工事は立会調査を省略し、その他の地点の工事のみ立会調査を実施した。

全体的な調査の結果であるが、北側では東部で石垣の裏栗の可能性がある土層と瓦片が検出できたが、明確な遺構は検出されなかった。南側では各所で遺構、遺物（瓦片）が検出された。遺構は安山岩で構成された石垣、礎石、石組水路、石列、石垣背後の土塁、瓦溜りなどであるが、性格が不明な石組や単独の巨礎も検出された。

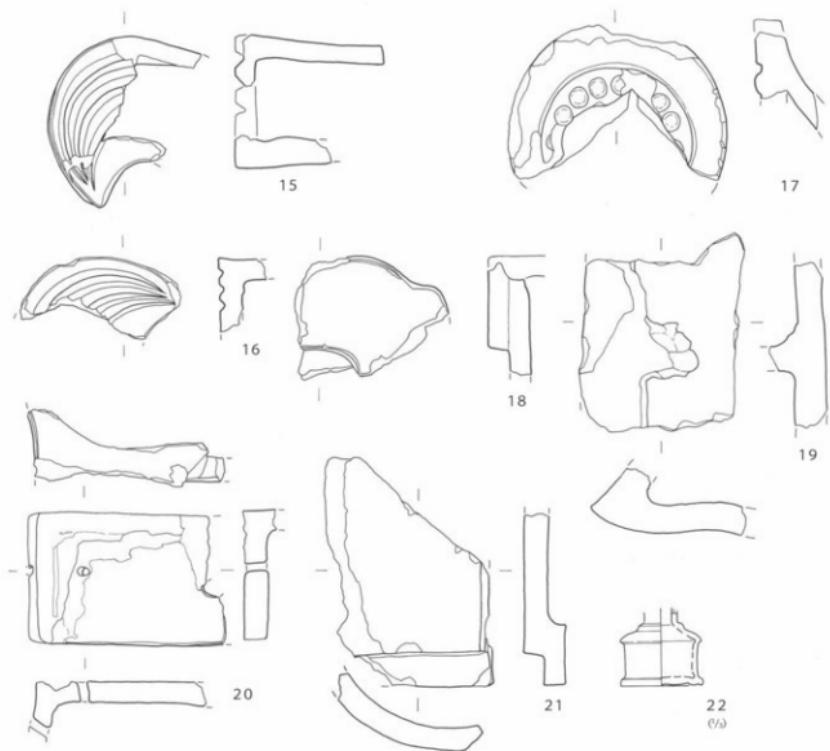
これらの遺構のうち、県庁東門地点で検出された追手門の石垣と礎石、前庭地点で検出された楽屋曲輪内の石垣、西門地点で検出された堀に面した石垣は、重要度が高いことから工事を中断して発掘調査を実施した。その他の遺構は調査・記録し、必要に応じて工事の設計変更を行はずして現地に埋設保存した。また、出土した瓦は回収した。

県民会館の解体は、既掘の範囲内で終了し、遺構・遺物は検出されなかった。

今回の立会調査により、甲府城跡の遺構や遺物は適切に保護し回収した。



遺物 第52図 県庁構内外構整備 IV-33)

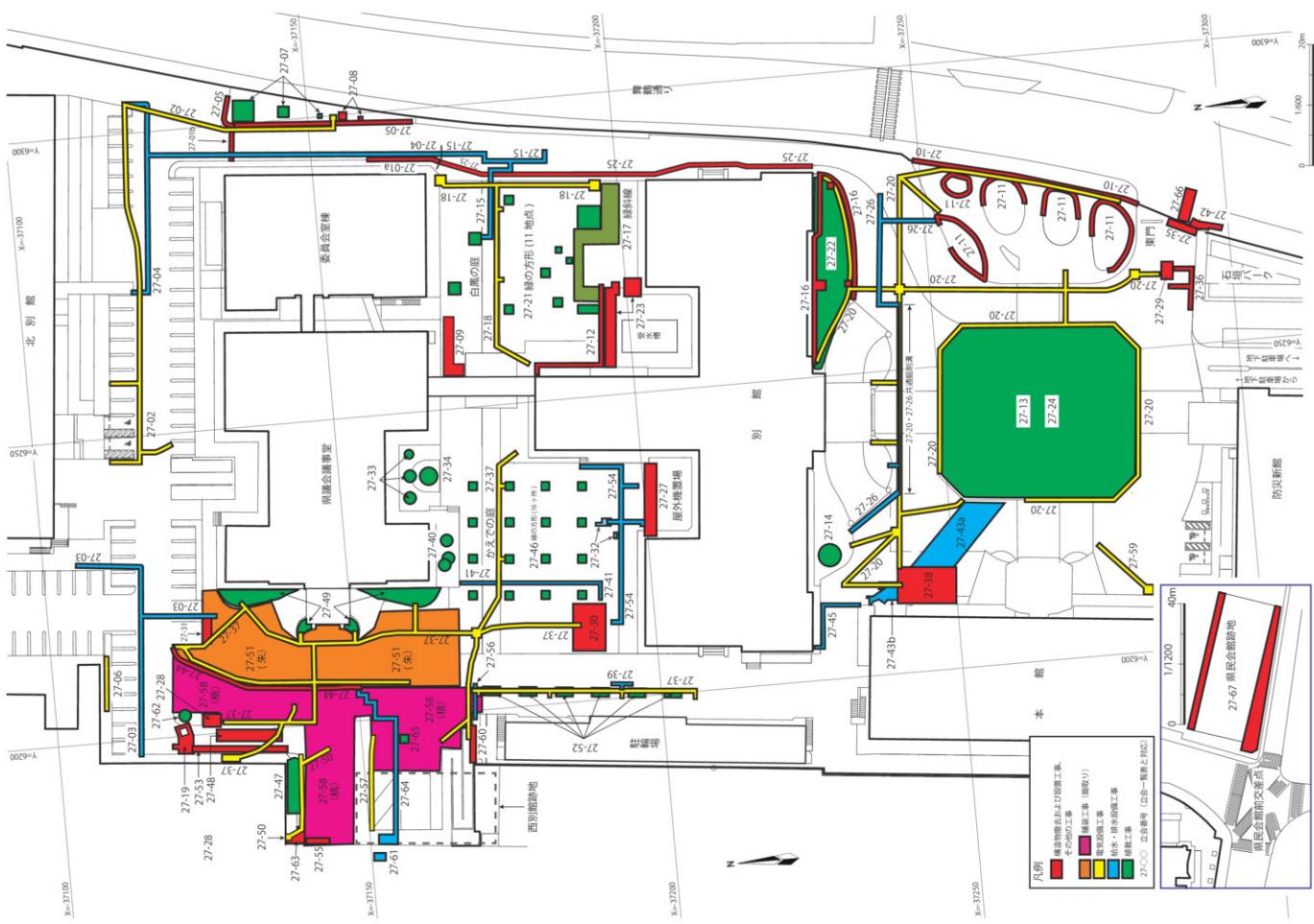


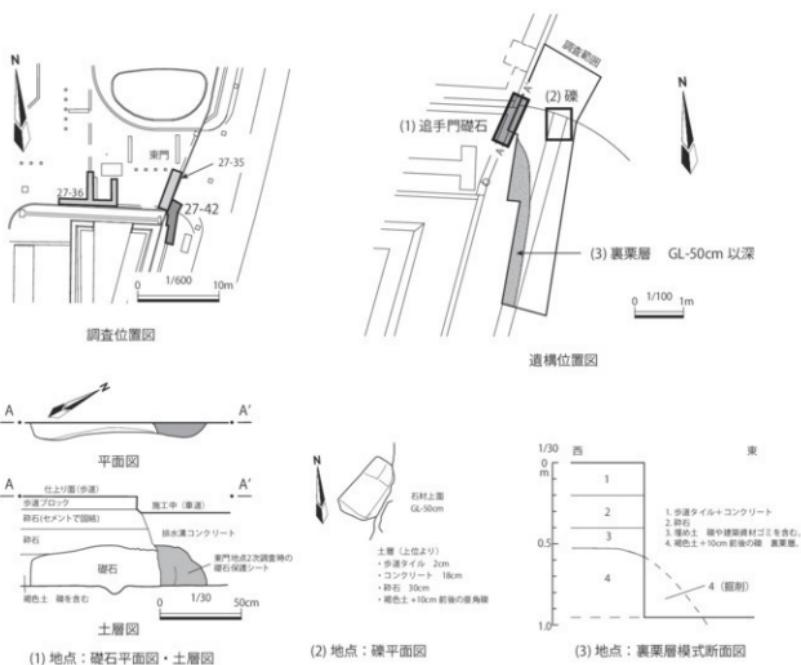
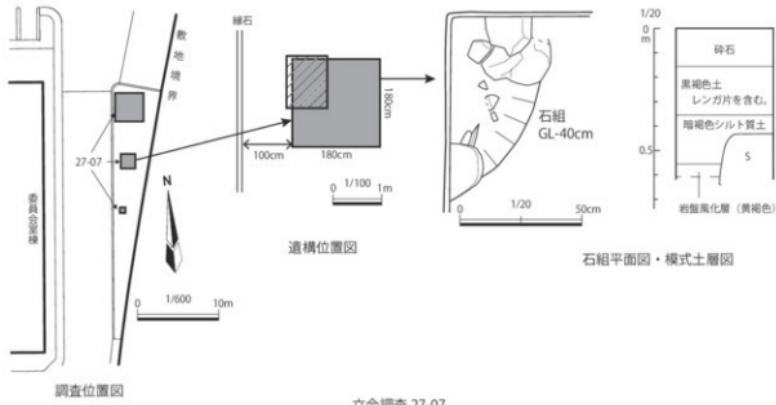
遺物 第53図 県庁構内外構整備 IV-33)



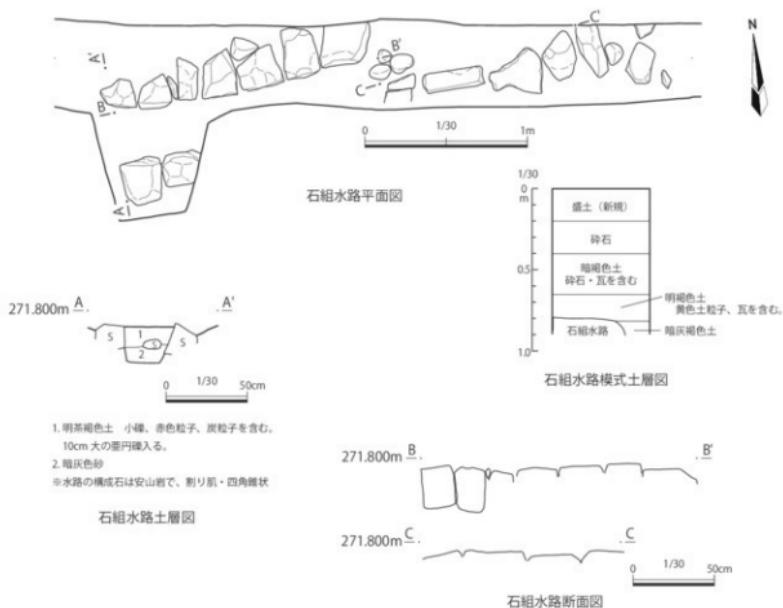
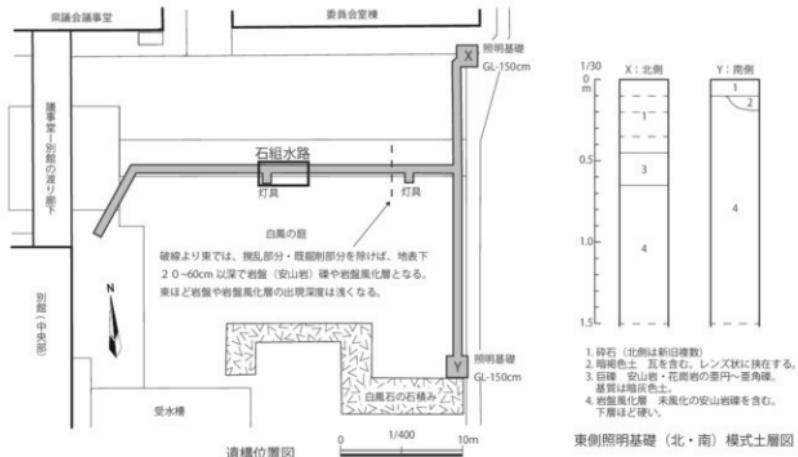
写真図版 24 県庁構内外構整備 IV - 33)

第91図 平成27年度工事調査位置図

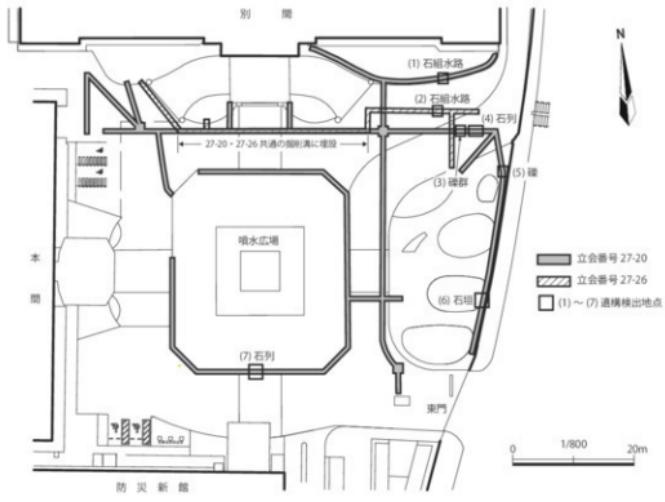




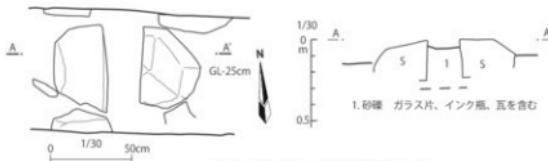
第92図 平成27年度立会調査 27-07・27-42



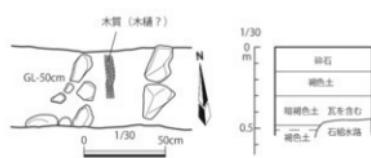
第 93 図 平成 27 年度立会調査 27-18



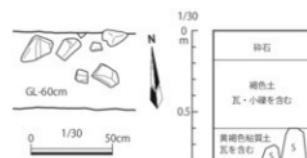
造構位置図



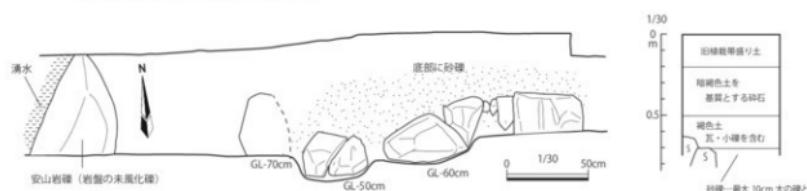
(1) 地点：石組水路平面図・断面図



(2) 地点：石組水路平面図・模式土層図

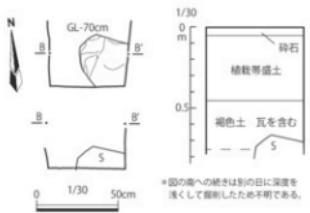


(3) 地点：碓群平面図・模式土層図

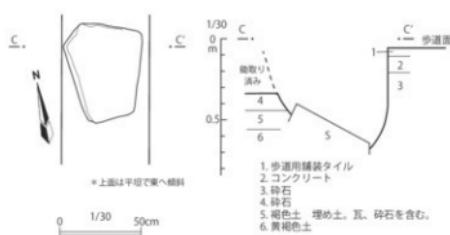


(4) 地点：石列平面図・模式土層図

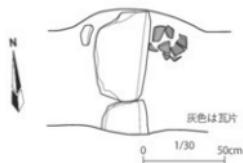
第 94 図 平成 27 年度立会調査 27-20・27-26 (1)



(4) 地点：礫 平面図・断面図・模式土層図

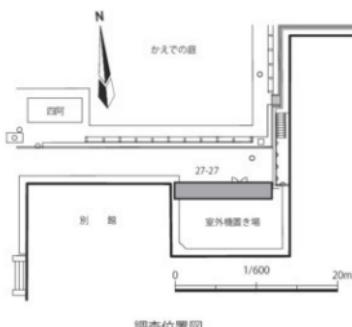


(5) 地点：石垣 断面図・模式断面図



(6) 地点：石列 断面図・東西模式断面図

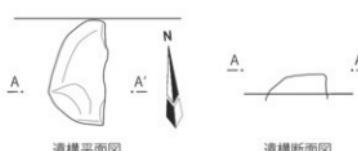
立会調査 27-20



調査位置図



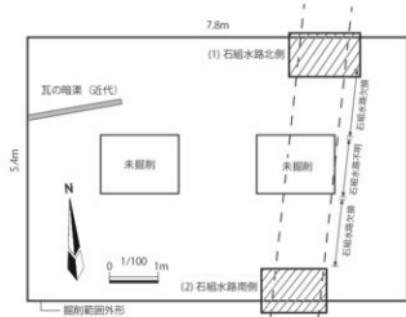
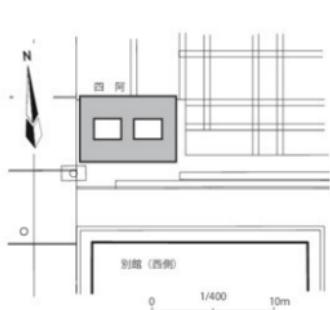
造構位置図



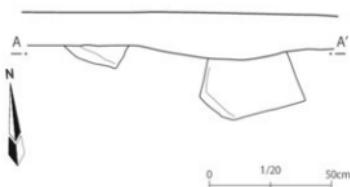
造構断面図

立会調査 27-27

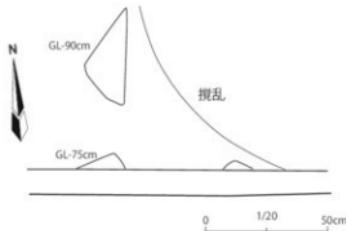
第 95 図 平成 27 年度立会調査 27-20・27-27



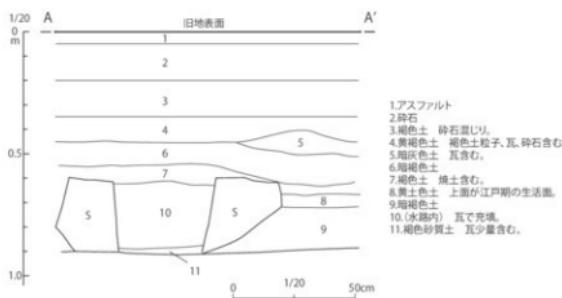
遺構位置図



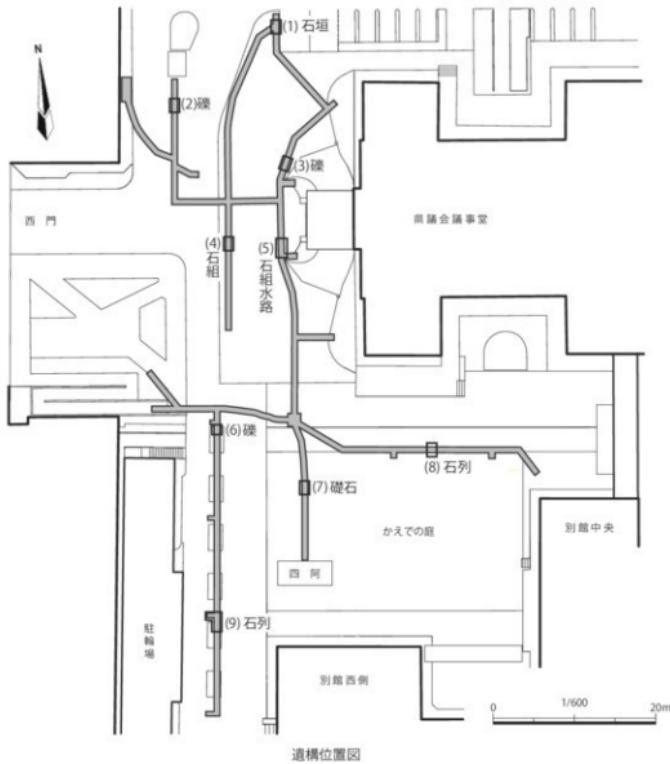
(1) 地点：石組水路北側平面図



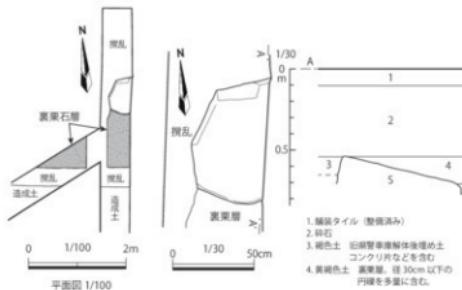
(2) 地点：石組水路南側平面図



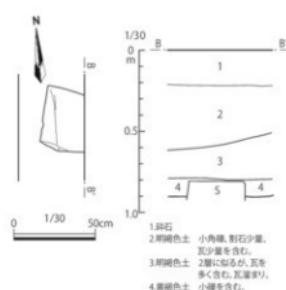
(1) 地点：石組水路北側土層図



遺構位置図

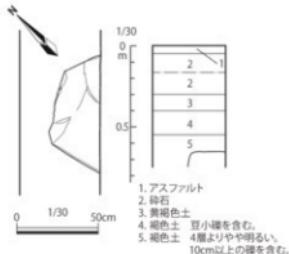


(1) 地点：石垣平面図・土層図

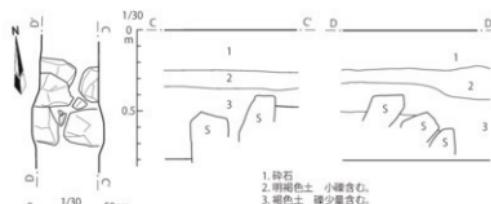


(2) 地点：磁平面図・土層図

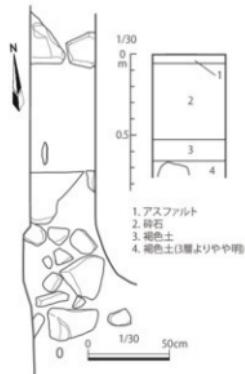
第 97 図 平成 27 年度立会調査 27-37 [1]



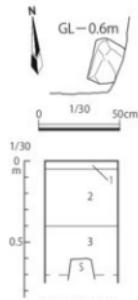
(3) 地点：礎平面図・模式土層図



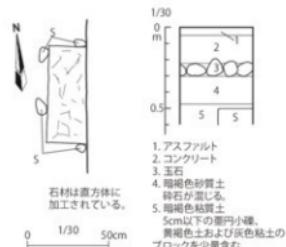
(4) 地点：石組平面図・土層図



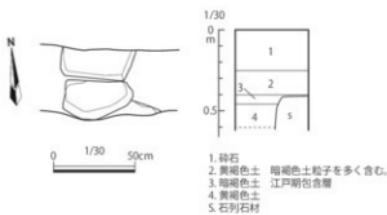
(5) 地点：石組水路等平面図・土層図



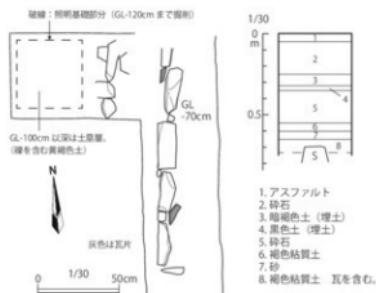
(6) 地点：礎平面図・土層図



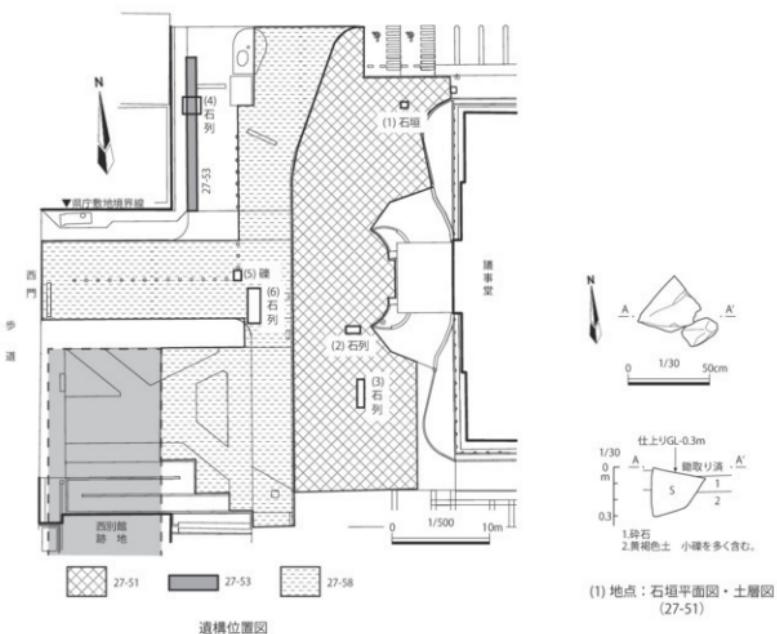
(7) 地点：礎石平面図・土層図



(8) 地点：石列平面図・土層図

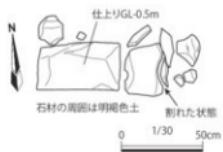


(9) 地点：石列平面図・土層図

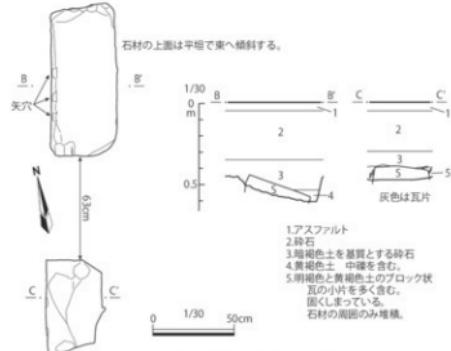


(1) 地点：石垣平面図・土層図
(27-51)

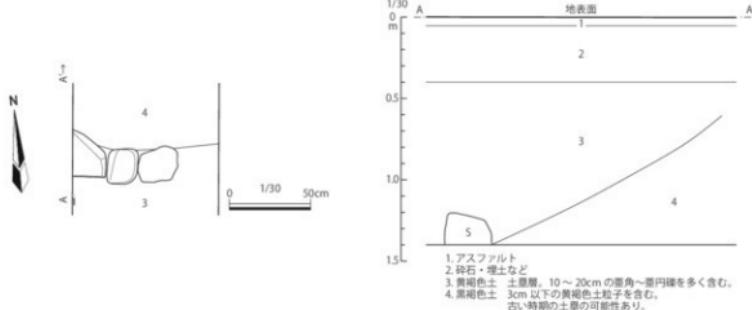
遺構位置図



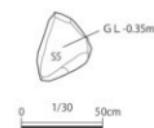
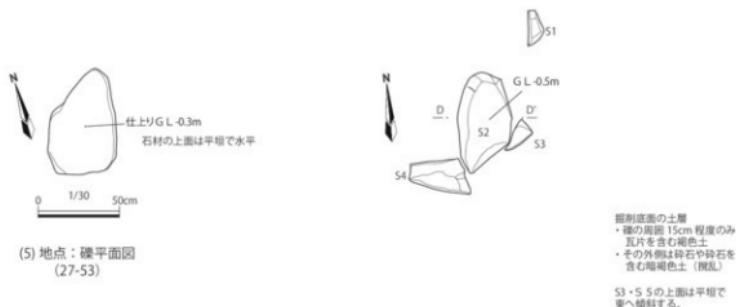
(2) 地点：石垣平面図
(27-51)



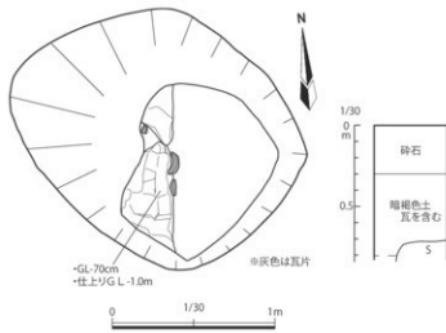
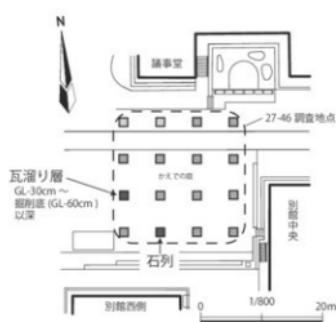
(3) 地点：石列平面図・土層図
(27-51)



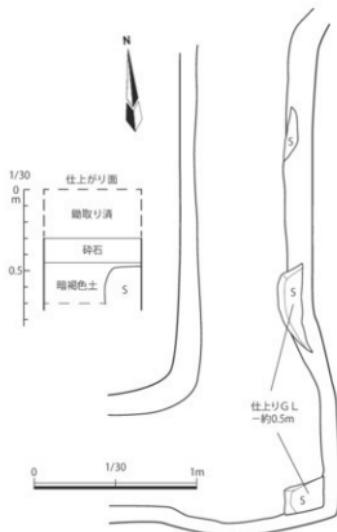
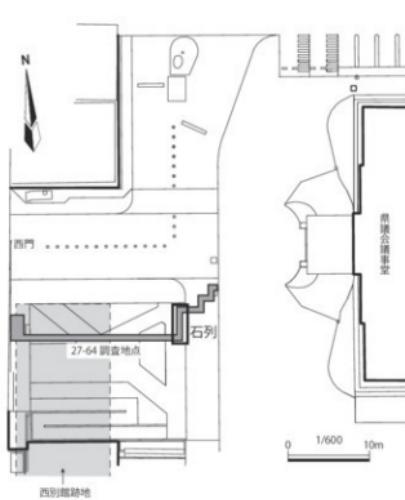
(4) 地点：石列平面図・土層図
(27-53)



(6) 地点：石列平面図 (S1 ~ S5)
(27-53)



立会調査 27-46



立会調査 27-64

第 101 図 平成 27 年度立会調査 27-46・27-64

- 立会調査一覧表
- 遺物觀察表

平成26年度立会調査一覧										
25-06	1-(3-1)	漁船の事業 萬の島漁業組合	漁船の事業 萬の島漁業組合	本航期 26 年 2 月 5 日～8 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 2 月 5 日～8 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 2 月 5 日～8 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 2 月 5 日～8 日	100	1.2	なし
25-07	1-(3-1)	漁船の事業 漁業組合	漁船の事業 漁業組合	本航期 26 年 2 月 8 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 2 月 8 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 2 月 8 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 2 月 8 日	17	0.4	なし
25-08	N-9	漁船の事業 ガス資源管理会	漁船の事業 ガス資源管理会	本航期 26 年 2 月 11 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 2 月 11 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 2 月 11 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 2 月 11 日	30	0.7	なし
25-09	N-10	漁船の事業 配水管・食肉資源管理会	漁船の事業 配水管・食肉資源管理会	本航期 26 年 2 月 21 日～27 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 2 月 21 日～27 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 2 月 21 日～27 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 2 月 21 日～27 日	50	0.8	なし
25-10	N-10	漁船の事業 漁業組合化促進会	漁船の事業 漁業組合化促進会	本航期 26 年 3 月 21 日～10 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 3 月 21 日～10 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 21 日～10 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 21 日～10 日	24	1.3	なし
25-11	N-11	漁船の事業 漁業組合化促進会	漁船の事業 漁業組合化促進会	本航期 26 年 3 月 25 日～15 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 3 月 25 日～15 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 25 日～15 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 25 日～15 日	40	0.5	なし
25-12	N-12	漁船の事業 漁業組合化促進会	漁船の事業 漁業組合化促進会	本航期 26 年 3 月 25 日～15 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 3 月 25 日～15 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 25 日～15 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 25 日～15 日	50～50 m	0.5～0.9	なし
25-13	N-13	漁船の事業 漁業組合化促進会	漁船の事業 漁業組合化促進会	本航期 26 年 3 月 4 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 3 月 4 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 4 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 4 日	4	1.1	なし
25-14	1-(3-2)	漁船の事業 万葉漁業組合	漁船の事業 万葉漁業組合	本航期 26 年 3 月 11 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 3 月 11 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 11 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 11 日	5	1.6	なし
25-15	N-6	万葉漁業組合の監視調査 漁業組合化促進会	万葉漁業組合の監視調査 漁業組合化促進会	本航期 26 年 3 月 11 日～30 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 3 月 11 日～30 日	万葉漁業組合の監視 万葉漁業組合の監視	万葉漁業組合の監視 万葉漁業組合の監視	80	-	なし
25-16	N-14	漁船の事業 漁業組合化促進会	漁船の事業 漁業組合化促進会	本航期 26 年 3 月 11 日～25 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 3 月 11 日～25 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 11 日～25 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 11 日～25 日	216	0.65	なし
25-17	N-15	漁船の事業 東西洋漁業支社高麗漁業会	漁船の事業 東西洋漁業支社高麗漁業会	本航期 26 年 3 月 11 日～25 日	漁船・回船・船体 本航期 26 年 3 月 11 日～25 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 11 日～25 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 3 月 11 日～25 日	216	0.5	なし
25-18	26-01	N-16	漁船の事業 地元漁業者	本航期 26 年 4 月 9 日	正木・船体 本航期 26 年 4 月 9 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 4 月 9 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 4 月 9 日	6	1.0	なし
25-19	26-01	N-16	漁船の事業 地元漁業者	本航期 26 年 4 月 9 日	正木・船体 本航期 26 年 4 月 9 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 4 月 9 日	漁船の運営のための船の組合 本航期 26 年 4 月 9 日	6	1.0	なし

26-15	N-26.1	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 1月7・8・14・16日	正午	漁港西側の北堤入り口より15m （海水水浴場が設けられた場所）は堤防が崩れ、海水が堤防の内側に流れ込む現象（海水浸食）が発生され、堤防は海水による侵食で倒壊する傾向にある。また、海水浸食によって堤防の高さが低下した。	海水水浴場から	52.6	0.80～1.2 (N-7) 有効水深・潮	瓦		
26-16	N-26.2	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 1月14・16日	正午	漁港の西	漁港の西	10.5	2	なし	-	瓦
26-17	N-26.3	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 1月20日	正午・夕方	漁港の北側の海面(アマガシ海岸) (夕方での海面約1.5m)	漁港の北側	100	0.4	なし	-	瓦
26-18	N-2.8	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 1月20日	正午	漁港の南側(タツノイアマガシ海岸)	漁港の南側	5.7	2	なし	-	瓦
26-19	N-26.4	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 1月23・25・28日	正午・夕方	本邦北部と東日本の海岸線	漁港の南側	12.8	2.0	なし	-	瓦
26-20	N-26.5	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 2月9日	正午	漁港の西	漁港の西	13	0.5～0.65	なし	-	瓦
26-21	N-26.6	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 2月9・10日	正午・夕方	漁港の東側(北側の海岸)	漁港の東側	4.8	0.6～0.8	瓦	瓦	
26-22	N-26.7	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 2月12日	正午・夕方	漁港の北側(北側の海岸)	漁港の北側	3.5	0.5	瓦	瓦	
26-23	N-26.8	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 2月12日	正午・夕方	漁港の北側(タツノイアマガシ海岸)	漁港の北側	9.6	0.5	なし	-	瓦
26-25	N-26.9	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 2月18日	正午	漁港の北側(北側の海岸)	漁港の北側	7.7	0.6	瓦	瓦	
26-26	N-2.0	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 9月4日	正午	委員会北側の西	漁港の北側	7	1.1	なし	-	瓦
26-27	N-30.1	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 2月27日	3月10日	委員会北側の東	漁港の北側	43	0.5～0.8 (東京湾東シード)	0.9	なし	瓦
26-28	N-30.2	漁港の防災事務 海水水浴場工事	海水水浴場工事	平成27年 3月4・5日	正午	議事室裏側の西	議事室裏側	15	0.65	なし	-	瓦

		施設の種別	運営者	開業年月日	平成26年	正木	未検定運転の箇所(1) (左側/右側)	運転の外側 左側/右側)	IG	0.2/0.6	なし	-	なし
26-29	N-2-4	外構監視装置 保安装置	東京ガス電機開発部	平成26年	12月4・9日	正木	未検定運転の箇所(1) (左側/右側)	運転の外側 左側/右側)	IG	0.2/0.6	なし	-	なし
		既設施設改修での定期検査でした。											
26-30	N-2-2①	外構監視装置 保安装置	平成26年	11月21日	正木	北側面の外壁窓、 排水溝面積の左側	排水溝面積の左側	9	0.2~0.75	なし	-	なし	なし
		表-1「屋上」の定期検査は終了しました。											
26-31	N-2-2②	外構監視装置 保安装置	CATV販賣・移行機関 雲・設置装置	平成26年	11月21日・12月4日	正木	北側面の外壁窓、 排水溝面積の左側	排水溝面積の左側	15	0.9	なし	-	なし
		表-1「屋上」の定期検査は終了しました。											
26-32	N-2-2④	外構監視装置 保安装置	PC販賣・移行機関 遠洋定期検査	平成26年	11月21日・28日	正木	北側面の外壁 排水溝面積の左側	排水溝面積の左側	70	0.25~0.52	なし	-	なし
		遠洋定期検査での定期検査は終了しました。											
26-33	N-2-3	外構監視装置 保安装置	石油会社の導管装置	平成26年	12月3・4日	正木	北側面の外壁 排水溝面積の左側	排水溝面積の左側	47	0.8	なし	-	なし
		表-1「屋上」の定期検査はより高い位置の高さ内での定期検査でした。高さの適度なためか定期検査を終了しました。											
26-34	N-2-2⑤	外構監視装置 保安装置	極東資源	平成26年	12月4日	正木	北側面の外壁 排水溝面積の左側	排水溝面積の左側	6	0.4	なし	-	なし
		既設施設改修での定期検査は終了しました。											
26-35	N-2-2⑥	外構監視装置 保安装置	a) 電気式監視装置 b) 電気式監視装置	平成26年	12月11日・12日	正木	北側面の外壁 排水溝面積の左側	排水溝面積の左側	36	0.10	石井一義(担当?)	0.6~0.7	なし
		西側の外壁ランク(6.5cm)のドココンリーフなどに小さな黒い目玉が埋め込まれていて、排水溝の外壁面に直接取付けていた。最初は黒い目玉が埋め込まれた後、工事に支障なく定期検査が実施された。他の場所では排水溝が剥離され、工事に支障なく定期検査が実施されました。											
26-36	N-2-5	外構監視装置 保安装置	平成26年	12月24日	翌日	北側面の外壁 排水溝面積の左側	排水溝面積の左側	1	0.75	なし	-	なし	なし
		既設施設改修での定期検査は終了しました。											
26-37	N-2-7	外構監視装置 保安装置	平成27年	1月9日	正木	運営事務部北壁窓	細孔開口	14	0.9	なし	-	なし	なし
		表-1「屋上」の定期検査は終了しました。											
26-38	N-2-7	外構監視装置 保安装置	平成27年	1月13・14・19~21・ 23日、27日	正木・同日	北側面の外壁 排水溝面積	排水溝面積・排水溝 排水溝面積・排水溝	45	0.5~0.6	なし	-	なし	なし
		既設施設改修での定期検査は終了しました。											
26-39	N-2-7	外構監視装置 保安装置	平成27年	1月16日	正木	北側面の外壁から南へ 排水溝面積と排水溝の間 排水溝面積と排水溝の間	排水溝面積と排水溝の間 排水溝面積と排水溝の間	7	0.8	なし	-	なし	なし
		表-1「屋上」の定期検査は終了しました。											
26-40	N-2-7	外構監視装置 保安装置	a) 電気式監視装置 b) 電気式監視装置	平成27年	1月20日	正木	運営事務部の外西 正端	排水溝面積	6	0.5	なし	-	なし
		表-1「屋上」の定期検査は終了しました。表-1「屋上」の定期検査は終了しました。											
26-41	N-2-7	外構監視装置 保安装置	a) 北側面の外壁 b) 北側面の外壁	平成27年	1月21・22日	正木	a) 北側面の外壁 b) 北側面の外壁	排水溝面積	30	0.5~1.2	なし	-	なし
		表-1「屋上」の定期検査は終了しました。表-1「屋上」の定期検査は終了しました。											

26-42	N-27	外構築屋業 内蔵すき場の複合施設	複合施設	平成27年 1月26日	正木	正門側山面の縁	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	60	0.4	なし	-	なし
		道上・壁面剥離(壁上) 壁面での崩壊で斜面で倒した。											
26-43	N-27	外構築屋業 複合施設	複合施設	平成27年 1月28・29日	正木	通事室側の北	正門側・東西軸	正門側・東西軸	12	0.75	なし	-	瓦
		道上・壁面剥離(壁上) 内での崩壊で斜した。壁上から瓦が剥離して落した。											
26-44	N-29	外構築屋業 木工移動施設	木工移動施設	平成27年 [a]2/14 [b]2/14	正木	a)前庭側山面(既設水栓部) b)別棟裏側山面(既設水栓部)	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	15	0.5	なし	-	なし
		前面地は既設の木工移動施設を有するが、空き地にてくぼみを作っていたため、既設施設の低い場所のみ会員登録を行なった。両地点とも最初設置の壁上に崩壊で斜面で倒した。											
26-45	N-27	外構築屋業 瓦屋	瓦屋	平成27年 2月12日	正木	通事室側の北	正門石垣	正門石垣	30	0.25～0.4	なし	-	なし
		道上・壁面剥離(壁上) 内での崩壊で斜した。											
26-46	N-27	外構築屋業 土きり屋	土きり屋	平成27年 2月16日	正木	通事室の西	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	40	0～0.4	なし	-	瓦
		前面および西側で40cm崩壊し、北側にひびき裂となり北側では傾き0となる。面積1m ² 以上あり、その他の面積は0となる。面積1m ² 以上あり、その他の面積は0となる。瓦代は既設の瓦張と型は同じで瓦が剥離した。											
26-47	N-27	外構築屋業 キノン瓦屋	様石設置 キノン瓦屋	平成27年 2月23日	正木	正門側山の西 瓦屋	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	20	0.25	なし	-	瓦
		道上・壁面剥離(壁上) 内での崩壊で斜した。壁上から瓦が剥離して落した。											
26-48	N-27	外構築屋業 複合施設	複合施設	平成27年 2月27日	正木	通事室の北から東側の北	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	40	0.3	なし	-	なし
		正面の壁面で斜した。壁上から瓦が剥離して落した。											
26-49	N-31	外構築屋業 複合工事	複合工事	平成27年 3月9日	正木	別棟山面と壁・西側玄関 (ガスでの瓦張跡)	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	20	0.35	なし	-	なし
		道上・壁面剥離(壁上) 内での崩壊で斜した。											
26-50	N-27	外構築屋業 木工移動施設	木工移動施設	平成27年 3月10日	正木	北側の山の西 軽食喫茶	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	6	0.3～0.5	なし	-	なし
		前方や北点頭倒壊した。沂州へ通じ・壁面剥離(壁上) 内での崩壊で斜した。											
26-51	N-27	外構築屋業 瓦屋アロカ健康施設	瓦屋アロカ健康施設	平成27年 3月10日	正木	北側外側出入口周	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	2.5	0.55	なし	-	なし
		道上・壁面剥離(壁上) 内での崩壊で斜した。											
26-52	N-27	外構築屋業 瓦屋	瓦屋	平成27年 3月11・12日	正木	通事室の北から東側の北	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	34	0.6～0.7	なし	-	瓦・瓦代の瓦器
		道上・壁面剥離(壁上) 内での崩壊で斜した。壁上から瓦が剥離で斜面に倒した。											
26-53	N-27	外構築屋業 瓦屋	瓦屋	平成27年 3月13日	正木	北側の山の東 瓦屋	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	29	0.3	なし	-	なし
		道上・壁面剥離(壁上) 内での崩壊で斜した。											
26-54	N-27	外構築屋業 瓦屋	瓦屋	平成27年 3月16日	正木	委員会会場の北	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	18.4	0.55	なし	-	瓦
		道上・壁面剥離(壁上) 内での崩壊で斜した。壁上から瓦が剥離して落した。											
26-55	N-27	外構築屋業 複合施設	複合施設	平成27年 3月23日	正木	議事堂の北西 航行橋内(既設瓦張)	南北軸・東西軸	南北軸・東西軸	28	0.3	なし	-	瓦
		道上・壁面剥離(壁上) 内での崩壊で斜した。壁上から瓦が剥離して落した。											

26-56	N-27	外構築事業 集会所・印影館	平成27年 3月27日	正木	議事室の上西 新竹橋北西部地区、 新竹橋北西部地区、	新竹橋北西部地区、 新竹橋北西部地区、	29.5	0.55	なし	-	石造物
		議事堂・壁面刷毛工事	平成27年 3月27日	正木	議事堂の上西 新竹橋北西部地区、 新竹橋北西部地区、	議事堂の上西 新竹橋北西部地区、 新竹橋北西部地区、	29.5	0.55	なし	-	石造物
26-57	N-27	外構築事業 壁石・印影館	平成27年 3月27・31日	正木	委員会室・美術室、 議事室	委員会室・美術室、 議事室	52	0.4	なし	-	なし
		議事堂・壁面刷毛工事	平成27年 3月27日	正木	議事堂の上西 新竹橋北西部地区、 新竹橋北西部地区、	議事堂の上西 新竹橋北西部地区、 新竹橋北西部地区、	40	-	石造物(高さ) 石造物(高さ)	-0.15~- -0.4	石造物
26-58	N-32	外構築事業 廻廊の塗装・塗装工事	平成27年 3月18~20・25~27	正木	廻廊の内側の塗装工事、 廻廊の外側の塗装工事	廻廊の内側の塗装工事、 廻廊の外側の塗装工事	40	-	石造物(高さ) 石造物(高さ)	-0.15~- -0.4	石造物
		廻廊の塗装工事	平成27年 3月27日	正木	廻廊の内側の塗装工事、 廻廊の外側の塗装工事	廻廊の内側の塗装工事、 廻廊の外側の塗装工事	40	-	石造物(高さ) 石造物(高さ)	-0.15~- -0.4	石造物
26-59		外構築事業 樹木植生・施設	平成27年 3月30日	正木	委員会室・美術室、 廻廊の内側の塗装工事	委員会室・美術室、 廻廊の内側の塗装工事	8	1.2	なし	-	石造物
		平成26年委員会室・廻廊の内側の塗装工事	平成27年 3月30日	正木	廻廊の内側の塗装工事	廻廊の内側の塗装工事	8	1.2	なし	-	石造物

会員No.	事業名	工事内容	調査日時	調査担当	調査地点	調査位置	調査面積 (㎡)	調査深度 (cm)	調査用具	過場用具 (深さ/m)	桜山道路
27-01	外構築事業 廻廊・排水管設置	平成27年 4月3日	正木・尾川・藤原 委員会室・廻廊	委員会室・廻廊の裏側にない 委員会室・廻廊の裏側にない	19	0.45	なし	-	-	-	なし
	は平成26年度の会員号26-57の廻廊への接続である。ほとんどの壁石、廻廊、廻廊の周囲で塗装が終った。										
27-02	外構築事業 廻廊・排水管設置	平成27年 4月8日9時~16時21分	正木・尾川 委員会室・廻廊の裏側にない	委員会室・廻廊の裏側にない の裏側に排水管を埋設するところ	49	0.6~0.7	なし	-	-	-	なし
	東西ランクはB1D5の廻廊への接続である。南北ランクは廻廊下部で高さ50~60 cmの廻廊敷地が認められた。廻廊下部の廻廊敷地が廻廊下部で高さ50~60 cmの廻廊敷地が認められた。										
27-03	外構築事業 給水管埋設等	平成27年 4月9日	正木	議事室の上西 (旧竹林事務所)	廻廊用具	32.4	0.3~0.7	なし	-	-	なし
	ほぼ全部の廻廊で終った。西側は平成26年度の廻廊合口トレンチ施工に約17m、GL-60cmにて廻廊設置の保護覆土が設けられた。廻廊を設置するため、その場は廻廊深度を廻廊高さ-50cmまでとした。										
27-04	外構築事業 給水管埋設等	平成27年 4月10~20日	正木・尾川 委員会室・廻廊の裏側にない	正羽輪の裏側にない 委員会室・廻廊の裏側にない	57	0.7	なし	-	-	-	なし
	主に廻廊、廻廊、廻廊の裏側を掘削して、廻廊の裏側では計画通りに廻廊が設けられた。廻廊の裏側では計画通りに廻廊が設けられた。廻廊の裏側では計画通りに廻廊が設けられた。										
27-05	外構築事業 壁石設置	平成27年 4月14日	正木	委員会室・廻廊の裏側 の裏側に排水管を埋設するところ	廻廊用具	60	0.3	なし	-	-	なし
	併び、廻廊の裏側の廻廊で終った。										
27-06	外構築事業 廻廊	平成27年 4月14日	尾川	議事室の上西 (旧竹林事務所)	廻廊用具	5.5	0.5~1.1	なし	-	-	なし
	ほとんどが廻廊の裏側で終った。西側は平成26年度の廻廊の裏側に約1mまで廻廊したが、幹石・斜石70cm)の下部の地盤はややコンクリート打下、レンガが力を含む上であった。廻廊から下部が終った。										
27-07	外構築事業 廻廊・排水管設置	平成27年 4月23日	正木・尾川・芦野 委員会室・廻廊の裏側にない	委員会室・廻廊の裏側にない	16	1.6~0.6~2.5	石造物	0.5	なし	-	なし
	南北の廻廊では高さ約60 cmまで廻廊。廻廊の裏側では計画通りに廻廊が設けられた。廻廊の裏側では計画通りに廻廊が設けられた。南北の廻廊では計画通りに廻廊が設けられた。南北の廻廊では計画通りに廻廊が設けられた。										

		外構形態実験	雨樋点頭部屋・雨樋設置	学校記録簿設置	平成27年 4月24日	[晴]	委託点検の結果	「のとくま縦断舗装」 達する日時	3	0.25	なし	-	なし
27.08		外構形態実験	雨樋点頭部屋	雨樋設置	平成27年 4月24日	[晴]	雨樋設置の様	「のとくま縦断舗装」 達する日時	3	0.25	なし	-	なし
27.09		外構形態実験	雨樋設置(ひびき橋)	雨樋設置	平成27年 4月6日	[晴・雲]	雨樋設置箇所の様	雨樋設置箇所の様	18	1.0	K(BD)	0.95	K
27.10	1(3-1)	外構形態実験	雨樋設置	雨樋設置	平成27年 4月7日[晴]~13日 [6]	[晴・雲・霧・雨・曇]	雨門前の雨樋設置箇所より雨樋設置の様子	雨門前の雨樋設置箇所より雨樋設置の様子	30	0.5~0.7	道行(行)前	0.5	K
27.10	1(5-2)	外構形態実験	雨樋設置	雨樋設置	平成27年 [23]11	[晴]	雨門前の雨樋設置の様子	雨門前の雨樋設置の様子	30	0.5~0.7	道行(行)前	0.5	K
27.11	1(3-1)	外構形態実験	雨樋設置	雨樋設置	平成27年 [24]11	[晴]	雨門前の雨樋設置の様子	雨門前の雨樋設置の様子	30	0.5~0.7	道行(行)前	0.5	K
27.11	1(3-2)	外構形態実験	雨樋設置	雨樋設置	平成27年 [25]11	[晴]	雨門前の雨樋設置の様子	雨門前の雨樋設置の様子	30	0.5~0.7	道行(行)前	0.5	K
27.12	R-29	外構形態実験	雨樋設置	雨樋設置	平成27年 4月13日	[晴]	雨門前の雨樋設置の様子	雨門前の雨樋設置の様子	25	0.3~0.7	道行(行)前	-	K
27.13	R-29	外構形態実験	雨樋・軒樋側面(ひだり側)	雨樋設置	平成27年 4月13日[6]	[晴]	本館前面屋根 (晴天)	本館前面屋根 (晴天)	9:30	1.5	なし	-	なし
27.14		外構形態実験	雨樋設置	雨樋設置	平成27年 4月17日	[晴・久留日]	雨門正面の雨樋設置の様子	雨門正面の雨樋設置の様子	9	1.1	なし	-	なし
27.14		外構形態実験	雨樋設置	雨樋設置	平成27年 4月17日	[晴]	雨門正面の雨樋設置の様子	雨門正面の雨樋設置の様子	9	1.1	なし	-	なし
27.15		外構形態実験	軒水貯留装置	軒水貯留装置	平成27年 4月21日	[晴]	委託点検の結果 (晴)	委託点検の結果 (晴)	28	0.7~1.2	なし	-	K
27.16	R-29	外構形態実験	軒水貯留装置(ひだり側)	軒水貯留装置(ひだり側)	平成27年 5月13日[4]	[晴]	雨門正面の雨樋設置の様子	雨門正面の雨樋設置の様子	18	0.35~0.7	道行(行)前	-	なし
27.17		外構形態実験	白壁石材削除	白壁石材削除	平成27年 5月13日[4]	[晴]~[正木]	雨門正面の雨樋設置の様子	雨門正面の雨樋設置の様子	65	0.3~0.8	なし	-	なし
27.18		外構形態実験	雨樋(15 ~ 25cm)の上に7号石を張り雨樋をひいていた。	雨樋(15 ~ 25cm)の上に7号石を張り雨樋をひいていた。	平成27年 5月18日[20]21日	[晴]~[正木]	雨門正面の雨樋設置の様子	雨門正面の雨樋設置の様子	40	0.7~	石垣水路	0.7	K
27.19		外構形態実験	雨水排水設備工事	雨水排水設備工事	平成27年 5月27日	[晴]	雨門正面の雨樋設置の様子	雨門正面の雨樋設置の様子	14	0.8~1.5	上層階	0.4	K

27-57	外構築層 透明白色透波	透明白色透波 透明白色透波	平成27年 11月16日	[窓]	西門多面透波 西門多面透波	西門多面透波・上 西門多面透波・上	西門多面透波・上 西門多面透波・上	14	10～15	なし	-	なし
27-58	外構築層 透波り・透水透波・織 石設置	透波り・透水透波・織 石設置 透波り・透水透波・織 石設置	平成27年 11月24日 11月6～ [窓]・[窓]	正・窓・窓 西門両面透 西門両面透	西門多面透波 西門多面透波	西門多面透波・石 透・上窓	西門多面透波・石 透・上窓	480	0.3～0.7	石窓、透・上窓	0.4～0.6	瓦
27-59	外構築層 透明白色透波	透明白色透波 透明白色透波	平成27年 12月7日	[窓]	透明白色透波 透明白色透波	透明白色透波 透明白色透波	透明白色透波 透明白色透波	8.5	0.71.2	なし	-	瓦
27-60	外構築層 透波り・透水透波	透波り・透水透波	平成28年 1月7日	[窓]	透明白色透波 透明白色透波	透明白色透波・上 透明白色透波・上	透明白色透波・上 透明白色透波・上	12	0.45	なし	-	なし
27-61	外構築層 透明白色透波	透明白色透波 透明白色透波	平成28年 1月8日	[窓]	透明白色透波 透明白色透波	透明白色透波・上 透明白色透波・上	透明白色透波・上 透明白色透波・上	12	1.2	なし	-	なし
27-62	外構築層 透明白色透波	透明白色透波	平成28年 1月26日	[窓]	透明白色透波 透明白色透波	透明白色透波・上 透明白色透波・上	透明白色透波・上 透明白色透波・上	1.5	0.5	なし	-	瓦
27-63	外構築層 透波り	透波り	平成28年 2月27日	[窓]	西門多面透波 西門多面透波	西門多面透波・上 西門多面透波・上	西門多面透波・上 西門多面透波・上	37	0.1～0.2	なし	-	なし
27-64	外構築層 透明白色透波	透明白色透波	平成28年 2月8-9日	[窓]・正・本 西門多面透波	西門多面透波 西門多面透波	西門多面透波・上 透・石窓	西門多面透波・上 透・石窓	13	0.7	石窓・透波	0.4	瓦
27-65	外構築層 透明白色透波	透明白色透波	平成28年 2月16日	[窓]	西門多面透波 西門多面透波	西門多面透波・上 透・石窓	西門多面透波・上 透・石窓	4	0.7	なし	-	なし
27-66	外構築層 透透透透	透透透透	平成28年 3月2日	[窓]	西門多面透波 西門多面透波	西門多面透波・上 透・石窓	西門多面透波・上 透・石窓	8	1.0～1.5	なし	-	なし
27-67	透民会透体 透透透透	透透透透	平成28年 2月3-8日	[窓]	透民会透体 透透透透	透民会透体 透透透透	透民会透体 透透透透	215	1.5	なし	-	なし

遺物類別表

品目 No.	場所・遺物名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	種	文様・区種	面長	面幅	底面厚	備考
1 1	瓦 鮎食	軽平瓦	(10.2)	(16.0)	2.2	-	-	-	-	(5.5)	-	-	-
1 2	瓦 鮎食	鳥食	(5.5)	(8.5)	5.2	-	-	-	-	(12.6)	-	-	-
1 3	ガラス 勾	-	-	-	-	(11.7)	3.0	-	-	-	-	-	-
1 4	瓦 単瓦	勾	(4.2)	(6.0)	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-
1 5	瓦 勾瓦	勾	(7.8)	(6.3)	2.0	(2.0)	-	-	-	-	-	-	鈴田あり
1 6	瓦 勾瓦	勾	(10.1)	(6.0)	1.9	(2.4)	-	-	-	-	-	-	鈴田あり
1 7	瓦 不明	勾	(7.5)	(9.5)	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-
1 8	瓦 勾瓦	勾	(9.1)	(9.6)	(7.3)	-	-	-	-	-	-	-	-
1 9	委員会寄稿 1:1) ~ 1:5)	磁器 斧碗	-	-	-	(2.2)	-	-	-	(3.2)	-	-	塗付
1 10	磁器 盆	盆	-	-	-	3.0	(26.0)	(12.5)	-	-	-	-	塗付
1 11	ガラス 盆	盆	-	-	-	(5.0)	-	6.2	-	-	-	-	-
1 12	瓦 勾瓦	勾	(3.2)	(8.5)	-	-	-	-	(4.7)	-	-	-	左巻三巴
1 13	瓦 勾瓦	勾	(12.0)	-	-	-	-	-	(8.3)	-	-	-	左巻三巴
1 14	瓦 勾瓦	勾	(3.8)	(11.0)	2.5	-	-	-	-	4.5	(2.2)	-	鈴田あり
1 15	ガラス 盆	盆	-	-	-	8.6	2.3	3.8	-	-	-	-	又子がり
1 16	ガラス 瓢	瓢	(5.6)	(6.0)	-	22.0	3.0	6.0	-	-	-	-	-
1 17	石製品 木製品	下鉢	21.4	8.8	最大厚 2.1 最小厚 1.1	1.1	-	-	-	-	-	-	-
2 18	瓦 勾瓦	勾	(9.3)	(16.3)	3.2	-	-	-	(8.8)	-	-	-	-
2 19	瓦 勾瓦	勾	(12.5)	(14.5)	2.0	-	-	-	-	(4.5)	(7.6)	-	-
2 20	磁器 瓢	瓢	-	-	-	(3.0)	-	(4.0)	-	-	-	-	塗付
2 21	瓦 勾瓦	勾	(9.8)	-	-	-	-	-	(9.0)	-	-	-	左巻三巴
2 22	瓦 勾瓦	勾	(8.9)	(16.1)	2.0	-	-	-	(7.9)	-	-	-	左巻三巴
2 23	瓦 不明	勾	(12.8)	(11.0)	4.6	-	-	-	-	-	-	-	-
2 24	瓦 不明	勾	(7.1)	(7.9)	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-
2 25	瓦 勾瓦	勾	(13.2)	(13.5)	2.0	-	-	-	-	4.0	(7.5)	-	鈴田あり
2 26	瓦 勾瓦	勾	(3.7)	(6.6)	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-
2 27	瓦 勾瓦	勾	(12.5)	(16.7)	1.7	-	-	-	-	-	-	-	塗付
2 28	瓦 滲水瓦?	瓦	(9.3)	(11.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 29	瓦 勾瓦	勾	(8.4)	(6.6)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 30	瓦 勾瓦	勾	(8.0)	(9.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 31	瓦 不明	勾	(4.8)	(6.2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 32	磁器 瓢	瓢	-	-	-	(4.6)	-	-	-	-	-	-	塗付
3 33	磁器 瓢	瓢	-	-	-	(3.6)	-	(4.2)	-	-	-	-	塗付
3 34	磁器 瓢	瓢	-	-	-	(3.7)	-	(3.2)	-	-	-	-	塗付
3 35	磁器 酒盃	酒盃	-	-	-	(3.6)	-	(4.2)	-	-	-	-	塗付
3 36	磁器 小鉢	小鉢	-	-	-	(3.8)	5.2	2.2	-	-	-	-	塗付
3 37	磁器 茶器	茶器	-	-	-	1.1	7.0	-	-	-	-	-	塗付、文字あり
3 38	磁器 瓢	瓢	-	-	-	4.7	(8.5)	(3.0)	-	-	-	-	塗付
3 39	磁器 瓢	瓢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

西暦	No.	地點・道頓名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	高さ	口径	底径	径	支脚(足)	曲長	面幅	真周厚	備考
3	40	磁器	碗	-	-	(4.8)	-	(4.2)	-	-	-	-	-	-	染付
3	41	磁器	小鉢	-	-	(8.5)	-	(13.4)	-	-	-	-	-	-	文子あり
3	42	磁器	碗	-	-	(2.7)	-	(4.0)	-	-	-	-	-	-	染付
3	43	磁器会食盤 1.1) ~ 1.5)	磁器	碗	-	(3.5)	(11.0)	-	-	-	-	-	-	-	文子あり
3	44	磁器	盤	(7.7)	6.3	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	左巻巴
3	45	ガラス	瓶	-	-	(3.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	染付
3	46	ガラス	瓶	-	-	7.0	1.8	4.0	-	-	-	-	-	-	文子あり
3	47	石製品	瓶	12.4	6.6	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	文子あり
3	48	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	49	瓦	軒丸瓦	(2.2)	(9.9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	50	瓦	軒丸瓦	(12.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	51	瓦	軒丸瓦	-	-	2.4	8.6	3.9	-	-	-	-	-	-	右巻巴
4	52	瓦	軒丸瓦	-	-	2.3	(9.2)	4.7	-	-	-	-	-	-	染付 左巻三巴
4	53	瓦	軒丸瓦	(14.3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	右巻巴
4	54	瓦	軒丸瓦	(12.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	左巻三巴
4	55	瓦	軒丸瓦	(17.2)	(2.7)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	左巻巴
4	56	土器	甕	(15.6)	1.4	(9.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	2.5
4	57	土器	甕	(6.1)	(3.2)	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	58	瓦	軒丸瓦	(25)	(17.6)	1.8	4.9	-	-	-	-	-	-	-	
4	59	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	60	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	61	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	62	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	63	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	64	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	65	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	66	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	67	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	68	瓦	軒丸瓦	(4.7)	(8.5)	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	69	瓦	軒丸瓦	(8.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	右巻巴
5	70	瓦	軒丸瓦	(2.6)	(12.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	右巻巴
5	71	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	右巻巴
5	72	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	右巻巴
5	73	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	文子あり
5	74	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付
5	75	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付、刻印あり
5	76	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付、刻印あり
5	77	瓦	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	前面に陽刻あり
5	78	瓦	軒平瓦	-	-	(2.7)	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	79	瓦	軒平瓦	(7.6)	(8.7)	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	80	瓦	木製品	下棟	23.1	12.0	最大厚 2.5 最小厚 1.0	-	-	-	-	-	-	-	

No.	No.	地点・道標名	和房・器種	長さ	幅	厚さ	高さ	口径	直径	径	文様区段	面長	面幅	直面厚	備考
7	1	前庭地点 2:1)	瓦 銅鏡(?)	(4.8)	(8.8)	1.7	-	-	7.4	5.2	-	-	-	1.7	右巻 巴, 道珠 12 細田折り
7	2	前庭地点	瓦 瓦	(4.2)	(8.1)	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	
7	3	前庭地点	瓦 瓦	29.9	14.7	1.7	7.0	-	-	-	-	-	-	-	
8	No.	地点・道標名	和房・器種	長さ	幅	厚さ	高さ	口径	直径	径	文様区段	面長	面幅	直面厚	備考
8	1	瓦	和房(?)	(9.7)	(12.2)	1.9	-	-	(9.5)	-	-	-	-	-	(2.1)
8	2	瓦	和房(?)	(11.8)	-	-	-	-	(8.5)	-	-	-	-	-	左巻 巴
8	3	瓦	和房(?)	(6.4)	(9.9)	2.0	-	-	(8.0)	-	-	-	-	-	右巻 巴
8	4	瓦	和房(?)	(17.1)	(13.8)	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	(2.1) 右巻 巴
8	5	瓦	和房(?)	-	13.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(2.2) 右巻 巴
8	6	前庭地点 2:2)	瓦 瓦	(8.4)	(12.3)	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	左巻 巴, 道珠 16
8	7	瓦	瓦	28.5	13.2	1.8	5.9	-	-	-	-	-	-	-	-
8	8	瓦	瓦	23.4	21.6	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	9	瓦	瓦	(23.2)	12.6	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	10	瓦	瓦	-	-	6.0	10.4	-	-	-	-	-	-	-	染付
8	11	瓦	瓦	-	-	6.8	10.9	-	-	-	-	-	-	-	染付
9	12	瓦	瓦	26.1	13.4	1.8	6.2	-	-	-	-	-	-	-	-
9	13	瓦	瓦	-	-	4.3	8.2	-	-	-	-	-	-	-	染付
9	14	瓦	瓦	-	-	4.9	8.3	-	-	-	-	-	-	-	染付
9	15	瓦	瓦	-	-	(4.0)	(10.9)	-	-	-	-	-	-	-	染付
9	16	瓦	瓦	-	-	5.4	(10.6)	(4.2)	-	-	-	-	-	-	染付
9	17	瓦	瓦	-	-	(19.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	染付
9	18	瓦	瓦	-	-	1.8	10.5	5.5	-	-	-	-	-	-	染付
9	19	瓦	瓦	-	-	3.5	(14.0)	9.2	-	-	-	-	-	-	染付
9	20	瓦	瓦	-	-	2.9	6.8	2.4	-	-	-	-	-	-	染付
9	21	瓦	瓦	-	-	2.3	12.5	6.6	-	-	-	-	-	-	染付
9	22	瓦	瓦	-	-	5.2	18.6	-	-	-	-	-	-	-	染付
9	23	瓦	瓦	-	-	2.6	9.3	3.6	-	-	-	-	-	-	文子彌力
9	24	瓦	瓦	-	-	1.7	17.2	15.3	-	-	-	-	-	-	染付, 文子彌力
10	25	瓦	和房(?)	(17.5)	13.7	1.8	(5.8)	-	12.9	9.6	-	-	-	-	左巻 巴, 道珠 16
10	26	瓦	和房(?)	(7.3)	(3.5)	2.0	-	-	14.0	9.9	-	-	-	-	左巻 巴, 道珠 16
10	27	瓦	和房(?)	(12.5)	(3.4)	2.2	-	-	-	13.5	9.8	-	-	-	左巻 巴, 道珠 16
10	28	瓦	和房(?)	(9.5)	(17.7)	-	-	-	(9.4)	-	-	-	-	-	左巻 巴, 道珠 16
10	29	瓦	和房(?)	29.2	14.2	2.3	6.5	-	13.8	9.6	-	-	-	-	左巻 巴, 道珠 16
10	30	瓦	和房(?)	(4.4)	(11.6)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	31	瓦	和房(?)	-	(10.9)	-	-	-	7.9	5.4	-	-	-	-	左巻 巴
10	32	瓦	和房(?)	(4.3)	(3.8)	2.0	-	-	(3.4)	(6.4)	-	-	-	-	
11	33	瓦	和房(?)	28.6	13.7	2.2	6.4	-	13.5	10.3	-	-	-	-	右巻 巴, 道珠 16
11	34	瓦	和房(?)	-	14.4	-	-	-	(9.3)	10.0	-	-	-	-	右巻 巴, 道珠 16
11	35	瓦	和房(?)	-	16.0	-	-	-	(10.1)	11.3	-	-	-	-	右巻 巴, 道珠 16
11	36	瓦	和房(?)	26.8	13.1	2.0	5.7	-	-	-	-	-	-	-	
11	37	瓦	和房(?)	(8.6)	14.2	2.2	-	-	(7.0)	10.0	-	-	-	-	左巻 巴
11	38	瓦	和房(?)	(6.6)	13.0	2.0	-	-	(6.9)	9.8	-	-	-	-	左巻 巴

No.	No.	地点・道駅名	相馬・郡種	長さ	幅	厚さ	高さ	口径	直径	支輪(径)	面長	面幅	底厚	備考
11	39	仙台地点 2-2	瓦 平瓦	丸瓦 (18.9)	26.0	1.30	2.0	5.5	-	-	-	-	-	
12	40	仙台地点	瓦 平瓦	平瓦 (25.2)	20.6	1.9	-	-	-	-	-	-	-	
12	41		瓦 平瓦	平瓦 (15.2)	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	細目あり
12	42		瓦 平瓦	平瓦 (10.0)	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	細目あり
12	43		瓦 平瓦	平瓦 (16.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
12	44		瓦 平瓦	平瓦 (12.8)	3.0	(10.4)	-	-	-	-	-	-	-	
12	45		瓦 平瓦	平瓦 (10.4)	-	(4.3)	-	-	-	-	-	-	-	染付
12	46		瓦 平瓦	平瓦 (12.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付
12	47		瓦 平瓦	平瓦 (12.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付 文字あり
12	48		瓦 平瓦	平瓦 (12.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付
12	49		瓦 平瓦	平瓦 (12.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付
12	50		瓦 平瓦	平瓦 (12.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付
12	51		瓦 平瓦	平瓦 (10.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
12	52		瓦 平瓦	平瓦 (12.1)	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	
12	53		瓦 平瓦	平瓦 (21.2)	2.0	6.0	-	-	-	-	-	-	-	
13	54		瓦 平瓦	平瓦 (14.8)	2.5	8.6	-	-	-	-	-	-	-	
13	55		瓦 平瓦	平瓦 (16.0)	-	4.4	(10.7)	4.2	-	-	-	-	-	染付
13	56		瓦 平瓦	平瓦 (16.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8 左側=巴
13	57		瓦 平瓦	平瓦 (17.0)	-	(10.4)	-	-	-	-	-	-	-	
13	58		瓦 平瓦	平瓦 (14.0)	A 1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	
13	59		瓦 平瓦	平瓦 (9.9)	B 2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	右側=巴, 滲頭 12
13	60		瓦 平瓦	平瓦 (5.4)	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	右側=巴, 滲頭 15
13	61		瓦 平瓦	平瓦 (5.4)	10.2	2.0	-	-	-	-	-	-	-	左側=巴, 滲頭 12
13	62		瓦 平瓦	平瓦 (6.4)	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
13	63		瓦 平瓦	平瓦 (9.1)	(2.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	右側=巴, 滲頭 16
13	64		瓦 平瓦	平瓦 (11.1)	(6.0)	(8.3)	-	-	-	-	-	-	-	
14	65		瓦 平瓦	平瓦 (24.6)	-	(10.6)	-	-	-	-	-	-	-	
14	66		瓦 平瓦	平瓦 (16.3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付 文字あり
14	67		瓦 平瓦	平瓦 (5.9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
14	68		瓦 平瓦	平瓦 (15.6)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3 左側=巴
14	69		瓦 平瓦	平瓦 (17.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4 左側=巴
14	70		瓦 平瓦	平瓦 (14.7)	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	左側=巴
14	71		瓦 平瓦	平瓦 (16.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	左側=巴
14	72		瓦 平瓦	平瓦 (15.7)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	左側=巴
14	73		瓦 平瓦	平瓦 (15.4)	2.5	-	-	-	-	-	-	-	-	左側=巴
14	74		瓦 平瓦	平瓦 (17.9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	左側=巴
14	75		瓦 平瓦	平瓦 (5.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	左側=巴, 滲頭 16
15	76		瓦 平瓦	平瓦 (5.5)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	左側=巴, 滲頭 16
15	77		瓦 平瓦	平瓦 (10.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	左側=巴
15	78		瓦 平瓦	平瓦 (16.6)	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	左側=巴
15	79		瓦 平瓦	平瓦 (13.5)	2.0	7.2	-	-	-	-	-	-	-	細目あり
15	80		瓦 平瓦	平瓦 (5.5)	(11.1)	2.0	-	-	-	-	-	-	-	
15	81		瓦 平瓦	平瓦 (11.3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

No.	No.	地点・道駅名	横幅・幅	長さ	幅	厚さ	高さ	口径	直径	支間(往復)	面積	床厚	備考	
15	82	前庭地點 2.2)	丸瓦	丸瓦	(31.0)	(15.6)	2.2	7.4	-	-	-	-	-	
16	83		丸瓦	丸瓦	33.7	17.3	2.5	7.7	-	-	-	-	-	
16	84	"	丸瓦	丸瓦	(13.9)	(11.3)	2.0	6.5	-	-	-	-	-	
16	85	"	丸瓦	丸瓦	(26.7)	15.0	2.2	7.1	-	-	-	-	-	
17	86	"	丸瓦	丸瓦	(31.2)	17.2	2.3	7.6	-	-	-	-	-	
17	87	"	丸瓦	丸瓦	(24.4)	(15.7)	2.1	7.3	-	-	-	-	-	
17	88	"	丸瓦	丸瓦	(17.8)	(10.7)	2.1	6.6	-	-	-	-	-	
17	89	"	丸瓦	丸瓦	(11.3)	(7.6)	2.1	4.6	-	-	-	-	-	
18	90	"	丸瓦	丸瓦	(16.3)	17.0	2.3	7.8	-	-	-	-	-	
18	91	"	丸瓦	丸瓦	(21.2)	17.1	2.4	7.7	-	-	-	-	-	
18	92	"	丸瓦	丸瓦	(31.4)	(14.8)	2.8	8.3	-	-	-	-	-	
19	93	"	丸瓦	丸瓦	(21.2)	15.0	2.2	6.8	-	-	-	-	-	
19	94	"	平瓦	平瓦	(2.9)	(7.6)	1.9	-	-	-	-	-	-	
19	95	"	平瓦	平瓦	(4.5)	(5.9)	2.0	-	-	-	-	-	-	
19	96	"	平瓦	平瓦	(3.9)	(6.3)	2.3	-	-	-	-	-	-	
19	97	"	平瓦	平瓦	(9.7)	(14.2)	2.2	-	-	-	-	-	-	
19	98	"	平瓦	平瓦	(7.6)	(12.3)	2.1	-	-	-	-	-	-	
19	99	"	平瓦	平瓦	(19.5)	(19.6)	2.1	-	-	-	-	-	-	
19	100	"	平瓦	平瓦	(14.6)	(18.2)	2.1	-	-	-	-	-	-	
20	101	"	平瓦	平瓦	31.0	(17.6)	2.3	-	-	-	-	-	-	
20	102	"	平瓦	平瓦	(23.7)	(23.6)	2.3	-	-	-	-	-	-	
20	103	"	平瓦	平瓦	(31.6)	(17.7)	2.3	-	-	-	-	-	-	
20	104	"	瓦	陶り瓦	(15.1)	(5.8)	3.5	-	-	-	-	-	-	
20	105	"	瓦	陶り瓦	(6.8)	(6.4)	2.5	(8.5)	8.0	-	-	-	-	
20	106	"	瓦	陶り瓦	(4.5)	(3.6)	2.2	(11.3)	-	-	-	-	-	
20	107	"	瓦	不明	(16.2)	(13.1)	2.1	-	-	-	-	-	-	
21	108	"	瓦	その他	(14.3)	(8.8)	2.1	-	-	-	-	-	-	
21	109	"	瓦	その他	(12.7)	(11.9)	2.4	-	-	-	-	-	-	
21	110	"	瓦	平瓦	(4.5)	(6.7)	2.0	-	-	-	-	-	-	
21	111	"	瓦	平瓦	(11.4)	(9.9)	1.9	-	-	-	-	-	-	
21	112	"	瓦	新丸瓦	(9.1)	(7.9)	2.9	-	-	(9.0)	(12.6)	-	(3.4)	
21	113	"	瓦	新丸瓦	(14.2)	(21.4)	A 1.7	-	7.7	-	3.7	(9.1)	1.4	左急 巴
21	114	"	瓦	平瓦	(11.7)	(12.1)	B 1.6	-	-	-	-	-	-	左急 巴
21	115	"	瓦	丸瓦	(7.5)	(16.6)	2.6	-	-	-	-	-	-	左急 巴
22	0	"	木橋	側板	(11.8)	5	1	-	-	-	-	-	-	-
22	1	"	木橋	側板	(12)	(4.5)	1	-	-	-	-	-	-	-
22	2	"	木橋	側板	(10.3)	6	1	-	-	-	-	-	-	-
22	3	"	木橋	側板	(10.5)	6.5	1	-	-	-	-	-	-	-
22	4	"	木橋	側板	(10)	(5)	(0.8)	-	-	-	-	-	-	-
22	5	"	木橋	側板	(14.5)	(5.9)	(0.8)	-	-	-	-	-	-	-
23	6	"	木橋	側板	(16.5)	10.5	(0.8)	1	-	-	-	-	-	-
			木橋	側板	(20)	5	1.1	-	-	-	-	-	-	-

番号	No.	地点・遺物名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様区段	面長	面幅	直通厚	備考
23	7	木桶	側板	(17.5)	(8)	1								
23	8	木桶	側板	(15)	(3)	(0.8)								
23	9	木桶	側板	(18)	(5)	1								
24	10	木桶	側板	(14)	1.3	1								
24	11	木桶	側板	(21)	8	1								
24	12	木桶	側板	(12)	8	1								
24	13	木桶	側板	(11.5)	(3)	(0.8)								
24	14	木桶	側板	(11.3)	(4.5)	(0.7)								
24	15	木桶	側板	(13)	12.5	1								
25	16	木桶	底板	(12)	(5)	1								
						2.5							40	

番号	No.	地点・遺物名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様区段	面長	面幅	直通厚	備考
26	1	真	軒丸瓦	-	(17.0)	-	-	-	-					
26	2	真	平瓦	(7.4)	(9.2)	1.7	-	-	-				3.0	
26	3	真	平瓦	(9.2)	(9.0)	1.8	-	-	-					
26	4	真	平瓦	(5.3)	(6.9)	1.7	-	-	-					
26	5	真	杯	-	(5.6)	1.6	(1.3)	-	-					
26	6	磁器	碗	-	-	5.0	(11.7)	(4.0)	-					

番号	No.	地点・遺物名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様区段	面長	面幅	直通厚	備考
27	1	真	軒平瓦	(4.7)	(9.5)	1.9	-	-	-				(4.3)	(8.2)
27	2	真	軒平瓦	-	(12.2)	1.8	-	-	-				(3.3)	(5.0)
27	3	真	圓器	-	-	(8.9)	-	-	-				-	
27	4	真	軒平瓦	-	(12.1)	-	-	-	-				-	
27	5	真	軒平瓦	(4.6)	(14.9)	2.4	-	-	-				5.4	(7.2)
27	6	真	軒平瓦	(8.1)	(8.1)	2.4	-	-	-				4.8	(6.5)
27	7	木製品	不明	(125.6)	9.6	3.6	-	-	-				-	-

番号	No.	地点・遺物名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様区段	面長	面幅	直通厚	備考
28	1	真	軒平瓦	(5.5)	(11.3)	2.2	-	-	-				5.2	(5.8)
28	2	真	軒平瓦	(7.0)	(8.7)	2.0	-	-	-				3.7	(7.2)
28	3	東門周辺 5.1) ~ 5.2)	平瓦	(6.3)	(7.5)	(1.6)	-	-	-				-	
28	4	ガラス	瓶	-	-	-	-	-	-				-	
28	5	白陶器	瓶	7.7	6.1	-	1.5	-	-				-	
28	6	圓器	不明	6.4	3.5	-	0.6	-	-				-	

番号	No.	地点・遺物名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様区段	面長	面幅	直通厚	備考
29	1	春日列島 II 1)	磁器	碗	-	-	(3.0)	-	4.0	-	-	-	-	染付

地名	No.	地点・遺構名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様・区段	面長	面幅	直面厚	備考
	30. 1	瓦	軒瓦(?)	(3.7)	(9.4)	-	-	-	7.4	-	-	-	(1.3)	左巻巴
	30. 2	瓦	軒瓦(?)	(4.8)	(15.8)	2.3	-	-	16.1	11.2	-	-	2.9	左巻巴, 滲灰
	30. 3	瓦	軒瓦(?)	-	(15.2)	(2.5)	-	-	(8.7)	(11.5)	-	-	2.9	左巻巴
	30. 4	瓦	軒瓦(?) (表?)	-	(8.3)	(1.6)	-	-	-	(5.6)	-	-	1.8	窓の跡
	30. 5	瓦	軒瓦(?)	(3.3)	(10.6)	2.1	-	-	-	(8.2)	-	-	-	-
	30. 6	土器	不明	-	(16.2)	1.8	(6.4)	-	-	-	-	-	-	-

地名	No.	地点・遺構名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様・区段	面長	面幅	直面厚	備考
31. 1	瓦	軒瓦(?)	(4.9)	15.0	2.3	-	-	-	16.2	10.3	-	-	2.3	左巻巴, 滲灰
31. 2	瓦	軒瓦(?)	(12.6)	1.6	-	-	-	-	(4.9)	(8.0)	-	-	-	-
31. 3	瓦	軒瓦(?)	(4.3)	(7.8)	2.0	-	-	-	4.0	-	-	-	1.7	-
31. 4	瓦	丸瓦	(30.0)	(16.0)	2.7	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-

地名	No.	地点・遺構名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様・区段	面長	面幅	直面厚	備考
32. 1	木製品	不明	(95.2)	(34.4)	(28.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33. 2	n	石製品	不明	124.8	A 36.4 B 38.4	A 26.8 B 21.2	-	-	-	-	-	-	-	-
地名	No.	地点・遺構名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様・区段	面長	面幅	直面厚	備考
34. 1	瓦	軒瓦(?)	磁器	碗	-	-	-	(2.5)	-	(5.1)	-	-	-	染付
34. 2	瓦	軒瓦(?)	磁器	碗	-	-	-	(4.1)	(10.7)	-	-	-	-	朱付、文字あり

地名	No.	地点・遺構名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様・区段	面長	面幅	直面厚	備考
35. 1	瓦	軒瓦(?)	丸瓦	(28.0)	15.9	1.8	-	-	7.0	-	-	-	-	-
35. 2	瓦	軒瓦(?)	丸瓦	(27.1)	(10.5)	2.2	6.8	-	-	-	-	-	-	-
35. 3	瓦	軒瓦(?)	丸瓦	(21.8)	17.4	2.7	7.7	-	-	-	-	-	-	-
36. 4	瓦	丸瓦	丸瓦	(33.0)	16.1	2.4	7.5	-	-	-	-	-	-	-
36. 5	n	瓦	丸瓦	(31.5)	16.5	2.2	8.0	-	-	-	-	-	-	-
37. 6	n	瓦	丸瓦	(26.3)	14.5	1.8	7.1	-	-	-	-	-	-	-
37. 7	n	瓦	丸瓦	(33.3)	16.2	2.3	8.0	-	-	-	-	-	-	-
38. 8	n	瓦	丸瓦	31.9	16.0	2.3	7.5	-	-	-	-	-	-	-
38. 9	n	瓦	丸瓦	26.3	16.3	2.6	7.9	-	-	-	-	-	-	-
39. 10	n	瓦	丸瓦	33.2	17.1	2.2	7.8	-	-	-	-	-	-	-
39. 11	n	瓦	丸瓦	32.6	16.7	2.2	7.6	-	-	-	-	-	-	-
40. 12	n	瓦	丸瓦	33.0	13.6	2.3	8.0	-	-	-	-	-	-	-
40. 13	n	瓦	丸瓦	26.5	16.4	2.4	7.6	-	-	-	-	-	-	-
40. 14	n	瓦	平瓦	(77)	(9.6)	2.5	2.8	-	-	-	-	-	-	細目あり

地名	No.	地点・遺構名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様・区段	面長	面幅	直面厚	備考
41. 1	瓦	軒瓦(?)	軒瓦(?)	-	(8.6)	-	-	-	-	(4.1)	(7.2)	-	-	-

路線	No.	地点・道標名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様(区段)	面長	面幅	底面厚	備考
	41 2	丸瓦	丸瓦	(16.0)	(0.6)	2.4	6.2	-	-	-	-	-	-	-
	41 3	平瓦	平瓦	(19.9)	(17.8)	2.1	3.5	-	-	-	-	-	-	-
	41 4	瓦	単丸瓦	-	(12.0)	-	-	-	-	(10.7)	-	-	-	(2.5)
	41 5	瓦	単丸瓦	-	-	-	-	-	-	(11.3)	-	-	-	(2.6)
	41 6	瓦	単丸瓦	-	(10.5)	-	-	-	-	(10.2)	9.5	-	-	(1.6)
	41 7	瓦 (16)	瓦	単丸瓦	-	-	-	-	-	(6.6)	-	-	-	(2.5)
	41 8	瓦	単丸瓦	-	(8.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	41 9	瓦	単半瓦	-	(0.7)	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	41 10	瓦	単半瓦	-	(0.9)	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	41 11	瓦	輪窓瓦	(7.2)	(8.3)	2.0	4.8	-	-	-	-	-	-	-
	41 12	瓦	輪窓瓦	(12.2)	(10.2)	1.6	3.8	-	-	-	-	-	-	-
	42 13	瓦	単丸瓦	-	12.9	-	-	-	-	-	12.8	9.8	-	-
	42 14	瓦	単丸瓦	(14.8)	(17.5)	3.2	-	-	-	(8.6)	-	-	-	(2.8)
	42 15	瓦	単丸瓦	-	13.2	2.3	-	-	-	13.1	9.1	-	-	2.2
	42 16	瓦	単半瓦	-	(13.8)	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	42 17	瓦	単半瓦	-	(12.2)	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	42 18	瓦	単半瓦	(20.7)	(28.2)	2.2	3.6	-	-	-	-	-	-	-
	42 19	瓦	単半瓦	(8.8)	(15.1)	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-
	42 20	瓦	単半瓦	(7.2)	(12.4)	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	42 21	瓦	平瓦	(7.7)	(16.6)	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-
	42 22	瓦	単丸瓦	(1.5)	(6.2)	-	-	-	-	(5.2)	-	-	-	-
	43 23	瓦	丸瓦	(16.9)	(10.8)	1.8	(4.1)	-	-	-	-	-	-	(1.6)
	43 24	瓦	丸瓦	(24.9)	(12.8)	1.9	5.2	-	-	-	-	-	-	-
	43 25	瓦	丸瓦	(26.8)	(14.0)	2.4	7.5	-	-	-	-	-	-	-
	43 26	瓦 (16)	平瓦	(3.2)	(4.9)	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	43 27	瓦	谷半瓦	(10.9)	(11.7)	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-
	43 28	瓦	その他の 金剛輪瓦	(14.1)	(11.8)	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-
	43 29	瓦	金剛輪瓦	(1.4)	(0.9)	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-
	43 30	瓦	金剛輪瓦	(1.3)	(1.2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

路線	No.	地点・道標名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	口径	底径	径	文様(区段)	面長	面幅	底面厚	備考
	44 1	瓦 (16)	単丸瓦	(12.0)	(15.3)	3.1	-	-	-	(8.4)	-	-	-	-
	44 2	瓦 (16)	単丸瓦	(2.4)	13.6	-	-	-	-	13.7	9.0	-	-	2.3
	44 3	瓦 (16)	単丸瓦	(6.7)	(6.3)	2.2	-	-	-	(5.0)	-	-	-	(5.5)
	44 4	瓦 (16)	磁器	-	-	(3.5)	-	-	-	(6.2)	-	-	-	3.7
	45 1	瓦 (16)	単丸瓦	(2.6)	(0.1)	(2.8)	-	-	-	-	-	-	-	-
	45 2	瓦 (21)	単半瓦	(3.6)	(14.4)	(2.6)	-	-	-	-	-	-	-	-
	45 3	瓦 (21)	単半瓦	(8.3)	(6.9)	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	45 4	瓦 (21)	輪窓瓦	(8.0)	(6.5)	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-

番号	No.	地点・通称名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	高さ	口径	底径	径	文様・口径	曲長	面幅	底周	備考
46	1	外輪輪鉢輪同地盤	碗形・器種	丸瓦	丸瓦	(15.9)	(12.3)	1.8	5.2	-	-	5.0	(11.7)	(4.0)	-
46	2	N. 23)	磁器	皿	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付

番号	No.	地点・通称名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	高さ	口径	底径	径	文様・口径	曲長	面幅	底周	備考
47	1	瓦	軽丸瓦	(16.6)	(15.0)	(2.5)	-	-	-	-	-	-	(8.6)	-	(2.7)
47	2	瓦	軽丸瓦	(3.0)	(15.6)	-	-	-	-	-	-	(12.2)	-	-	(2.2)
47	3	瓦	軽丸瓦	(8.3)	(13.2)	(2.1)	-	-	-	-	-	(8.7)	-	-	(2.2)
47	4	瓦	軽丸瓦	(5.5)	(14.9)	-	-	-	-	-	-	(8.8)	-	-	(2.6)
47	5	瓦	軽丸瓦	-	(8.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
47	6	瓦	軽平瓦	-	(8.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
47	7	皇行合切削北向 N-26)	瓦	軽平瓦	(4.4)	(12.6)	(1.6)	-	-	-	-	-	-	-	5.4 (6.3)
47	8	瓦	軽平瓦	(5.2)	(10.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.0 (5.3)
47	9	瓦	軽平瓦	(8.4)	(12.1)	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4 (8.6)
47	10	瓦	軽丸瓦	(6.3)	(15.1)	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	3.9
47	11	瓦	軽丸瓦	A 3.5	(14.7)	(2.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	A 5.2 (4.0)
47	12	瓦	丸瓦	B 7.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B 8.0
47	13	瓦	丸瓦	(19.7)	(9.8)	2.0	(6.0)	-	-	-	-	-	-	-	-
48	14	瓦	丸瓦	(28.6)	(15.5)	2.8	6.5	-	-	-	-	-	-	-	細目あり
48	15	瓦	丸瓦	(35.3)	(18.0)	2.2	7.8	-	-	-	-	-	-	-	-
49	16	瓦	丸瓦	(34.2)	(17.2)	2.5	7.8	-	-	-	-	-	-	-	-
49	17	瓦	平瓦	(10.3)	(10.8)	1.6	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
49	18	土器	甕	-	-	(7.7)	1.2	(9.5)	-	-	-	-	-	-	-

番号	No.	地点・通称名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	高さ	口径	底径	径	文様・口径	曲長	面幅	底周	備考
50	1	瓦	平瓦	(3.8)	(5.5)	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	鶴田山
50	2	瓦	軽丸瓦	(7)	(3.4)	1.42	1.7	-	-	-	-	-	-	-	文子あり
50	3	瓦	軽丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	文子あり
50	4	瓦	磁器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付 文子あり
50	5	瓦	磁器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付 文子あり
50	6	瓦	磁器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	文子あり
50	7	瓦	陶器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	染付
50	8	石製品	石臼	?	58.0	56.0	24.0	-	-	-	-	-	-	-	未完成

番号	No.	地点・通称名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	高さ	口径	底径	径	文様・口径	曲長	面幅	底周	備考
51	1	委員会室壁掛水 N-30)	瓦	軽丸瓦	-	(11.0)	-	-	-	-	-	(8.8)	-	-	2.3 左巻三巴

路線 No.	地点・道標名	種別・路種	長さ 幅	厚さ 幅	高さ 幅	U活 幅	底活 幅	径 支間(×径)	曲長	面幅	底面厚	備考
36.												
52. 1	外輪船場 N' 33)	軽丸瓦	~	15.7	~	~	~	16.0	11.0	~	2.3	左巻三巴、漁床 16
52. 2		軽丸瓦	(2.7)	(15.5)	~	~	~	(7.4)	(10.6)	~	(3.2)	右巻三巴
52. 3		軽丸瓦	~	(11.4)	~	~	~	(8.7)	~	~	2.4	右巻三巴
路線 No.	地点・道標名	種別・路種	長さ 幅	厚さ 幅	高さ 幅	U活 幅	底活 幅	径 支間(×径)	曲長	面幅	底面厚	備考
52. 4		軽丸瓦	(2.4)	(14.3)	~	~	~	(7.2)	(10.0)	~	~	(2.0)
52. 5		軽丸瓦	(3.0)	(9.7)	~	~	~	(9.0)	~	~	~	(2.7)
52. 6		軽丸瓦	(2.2)	13.8	~	~	~	13.7	9.3	~	~	2.4
52. 7		軽丸瓦	(6.6)	13.7	2.0	~	~	13.6	9.5	~	~	2.3
52. 8	外輪船場 N' 33)	軽丸瓦	(4.7)	~	~	~	~	(8.7)	~	~	~	左巻三巴
52. 9		軽丸瓦	(7.2)	(12.5)	1.8	~	~	~	~	4.0	(7.3)	~
52. 10	航行標内各所	軽丸瓦	(11.8)	(11.3)	1.8	~	~	~	~	4.1	(3.5)	~
52. 11		軽丸瓦	(7.2)	(9.9)	1.9	~	~	(7.0)	~	~	~	(1.7)
52. 12		軽丸瓦	(6.6)	(8.6)	1.6	~	~	(7.1)	5.0	~	~	1.6
52. 13		軽丸瓦	(7.4)	(13.7)	1.7	~	~	(8.6)	4.4	~	~	~
52. 14		軽丸瓦	13.4	(12.7)	1.6	(5.8)	~	~	~	~	~	~
53. 15		軽丸瓦	12.2	12.6	2.4	14.0	~	~	~	~	~	~
53. 16		軽丸瓦	3.9	13.2	1.7	6.8	~	~	~	~	~	~
53. 17		馬込	(5.2)	(18.0)	(4.3)	~	~	(5.5)	(12.9)	~	~	~
53. 18		馬込	(3.5)	(12.7)	(3.5)	(10.2)	~	~	~	~	~	~
53. 19		馬込瓦?	(16.4)	(13.6)	2.8	(5.5)	~	~	~	~	~	~
53. 20		馬込	(11.0)	(16.0)	1.7	(3.8)	~	~	~	~	~	~
53. 21		ガラス	(18.7)	(15.7)	3.5	(6.3)	~	~	~	~	~	~
53. 22		ガラス	~	~	(4.8)	~	~	~	5.0	~	~	~

第4章 自然化学分析

甲府城跡県庁舎耐震化等整備事業防災新館北側エリア①から出土した骨について

エリア①で確認された金属が穿たれた骨について、その性格を調べるためにパリノ・サーヴェイ株式会社へ委託を行った。その結果は以下のとおりである。

甲府城跡（防災新館北側）出土骨の同定

はじめに

本報告では、甲府城跡（防災新館北側）の発掘調査の際に確認された戦災によるとみられる焼土や廃材からなる堆積層より出土した骨片について、種類や部位等に関わる検討を行った。

1. 試料

試料は、同一個体とされる大型の骨片および骨片が混じる土壌（No.1 エリア① 遺構外）など計4袋からなる。これらの出土骨は、出土時より脆弱であったため未洗浄・未注記のまま保管されており、若干湿った状態にある。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、一般工作用接着剤で接合を行う。試料を肉眼で観察し、種類および部位を同定する。

3. 結果および考察

分析に供された骨片は、大形の破片のほかは細片～微細片が多く、完全な復元には至らなかった。部分的に復元することができた出土骨は、長さ39cm、幅4cm、厚さ2.5cmを測り、哺乳類の肋骨と判断される。種類の特定には至らないが、出土骨の大きさから大型の哺乳類と推定される。

出土骨は、肋骨頭側を切断し、胸骨端側を利用した加工品と考えられる。表面には削痕等の加工痕はみられないが、切断箇所から2cm程度の部分には幅約1cm弱の溝と金属片が確認できる（図版1;a）。また、切断箇所から約23cmの部分には酸化鉄の沈着が認められる（図版1;b）。形状から刀鞘等としての利用も想定されるが、詳細な用途については同様の類例の確認等による検討が望まれる。

図版1 出土骨



1. 大型哺乳類 肋骨(エリア① 遺構外; No.1)

甲府城跡（渡り廊下地点）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、甲府城跡（渡り廊下地点）に確認された土塁造成層の年代の検討を目的として、同層中より出土した木材を対象に放射性炭素年代測定を実施した。また、出土木材については、試料の履歴（樹種）や木材利用に関する資料を作成するため、併せて樹種同定も実施した。

1. 試料

試料は、土塁造成層とされる2号トレンチの16層から出土した木材1点（試料No.1）である。試料No.1は、残存径2.5～3cmを測る芯持丸木状を呈する木材である。なお、本試料には樹皮等が確認できなかったことから、残存する年輪の最外部を含む3～4年分に相当する木片を採取し、放射性炭素年代測定および樹種同定に供した。

2. 分析方法

（1）放射性炭素年代測定

測定試料に土壤や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C（30分）850°C（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma; 68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0.1（Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 7.0.1のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は $\sigma \cdot 2\sigma$ （ σ は統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲）の値を示す。また、表中の相対比は、 $\sigma \cdot 2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。なお、較正された暦年値は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

（2）樹種同定

試料を観察した後、剃刀を用いて木片（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）

で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Richter 他（2006）を参考にする。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

木材の同位体効果による補正を行った測定年代（補正年代）は 160 ± 20 yrBP を示す。また、暦年較正結果（ 1σ ）は calAD 1,671 - calAD 1,943 である（表 1、図 1）。

(2) 樹種同定

放射性炭素年代測定に供した木材（2号トレンチ 16 層 試料No.1）は、針葉樹のヒノキ科に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・ヒノキ科 (Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-10 細胞高。

表1. 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料	測定年代 (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正結果				相対比	測定機関 CodeNo.
				cal AD 1,671 -	cal AD 1,688	cal BP	279 -		
2号トレンチ 16層 試料No.1 木材(ヒノキ科)	160 ± 20	-24.92 ± 0.52	158 ± 24	cal AD 1,730 -	cal AD 1,779	cal BP	220 -	171	0.532
				cal AD 1,799 -	cal AD 1,809	cal BP	151 -	141	0.114
				cal AD 1,926 -	cal AD 1,943	cal BP	24 -	7	0.179
				cal AD 1,666 -	cal AD 1,696	cal BP	284 -	252	0.172
				cal AD 1,722 -	cal AD 1,784	cal BP	228 -	166	0.418
				cal AD 1,795 -	cal AD 1,817	cal BP	155 -	133	0.112
				cal AD 1,833 -	cal AD 1,879	cal BP	117 -	71	0.104
				cal AD 1,916 -	cal AD 1,950	cal BP	34 -	0	0.194

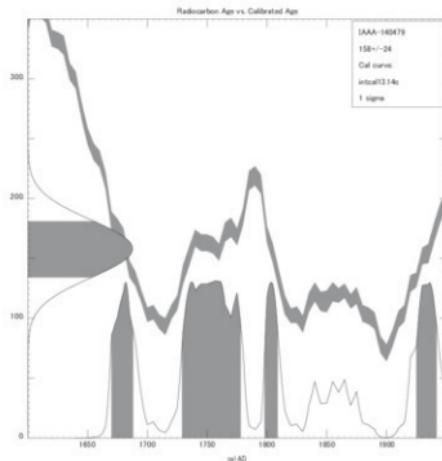


図1. 暦年較正結果（ 1σ ）

4. 考察

甲府城跡（渡り廊下地点）の土塁造成層と考えられる2号トレンチの16層より出土した芯持丸木を呈する木材（試料No.1；径2.5～3cm）の較正曆年代（1σ）はcalAD 1,671 - calAD 1,943であり、江戸時代前期から後期および近代以降に相当する。この結果を参考とすると、測定対象とされた木材は少なくとも江戸時代以降の試料と推定され、とくに江戸時代中期頃に相当する曆年代範囲の相対比が高いことが窺える。

また、測定に供した木材の樹種は、針葉樹のヒノキ科に同定された。ヒノキ科は、ヒノキ、サワラ、アスナロ等の有用材が含まれ、これらはいずれも木理が直通で割裂性や耐水性が高いという材質を有する。周辺における調査事例では、甲府城下町遺跡の江戸時代後半の井戸の桶や釣瓶、箸、箋、人形等にヒノキ、富士見一丁目遺跡の近世以降とされる杭材にヒノキやサワラが確認されている（伊東・山田,2012）。今回の試料には特徴的な形状や加工が認められなかったため本来の用途等の検討には至らないが、上記した周辺遺跡におけるヒノキ科の利用状況等を考慮すると、利用木材の残材や端材等に由来する可能性も考えられる。

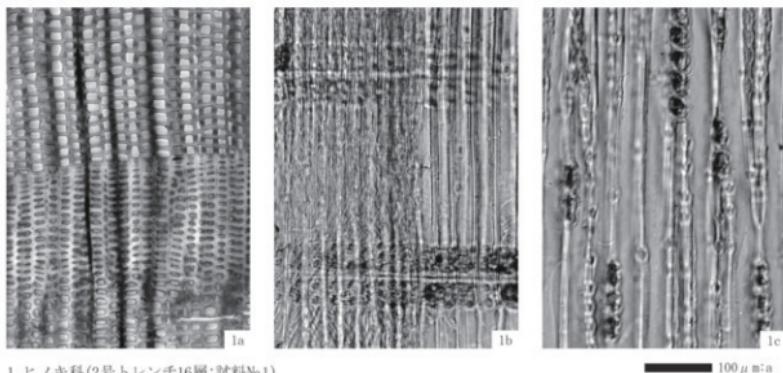
引用文献

伊東隆夫・山田昌久（編）,2012,木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社,449p.

Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘（日本語版監修）,海青社,70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.,2004,IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.

図版1 木材



1. ヒノキ科(2号トレンチ16層; 試料No.1)

a:木口, b:柾目, c:板目

甲府城跡（県庁構内前庭地点）出土木製品の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、山梨県県構内の外構整備工事に伴なう確認調査で出土した木製品の樹種および木材利用に関する資料の作成を目的として、樹種同定を実施した。分析に供された木製品は、県庁構内の前庭地点から出土した木桶（埋桶）であり、甲府城築屋曲輪と城内とを境する石垣の東側（城内側）に沿って検出された石組水路の南端部より確認されている。

1. 試料

試料は、1号石組水路の南端部より出土した木桶（埋桶）であり、板材（側板）と底板の計17点（№0～15、№なし）からなる。本分析では、各試料の肉眼観察などから同一の分類群の可能性が高いと推定されたことから、全点を対象として調査を行った。

なお、分析に供した試料には、1試料中に2～3点の破片からなる部材が認められた。このうち、明らかに接合する個体を除き、その判断が困難な部材や木釘によって連結された底板についてはそれぞれに仮名称を付し、分析対象としている。試料の詳細は、同定結果とともに表1に記したので参照されたい。

2. 分析方法

各木製品の木取りを観察した後、剃刀を用いて木口（横断面）・柵目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Richter 他（2006）を参考にする。

3. 結果

木桶（埋桶）の各部材は、全て針葉樹のスギに同定された（表1）。以下に解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

表1. 樹種同定結果

出土点 資料名	連番	№	部位	仮名称	計測値(cm)				本取り	樹種	備考
					長さ	幅	直径	厚さ			
1号石組水路 南端部 木桶(埋桶)	1	0	板材		11.8	8			1板目	スギ	
	2	1	板材	a	10.3	6			1板目	スギ	
				b	12	4.5			1板目	スギ	
	3	2	板材		10.5	6.5			1板目	スギ	
	4	3	板材		10	5		0.8	1板目	スギ	
	5	4	板材		14.5	5.5		0.5	1板目	スギ	
	6	5	板材		16.5	10.5		0.8	1板目	スギ	
	7	6	板材	a	21	10.5			1板目	スギ	
				b	29	5			1.1通板	スギ	
	8	7	板材	a	17.5	8			1板目	スギ	
				b	15	3		0.8	1板目	スギ	
	9	8	板材		18	5			1板目	スギ	
	10	9	板材		14	13			1板目	スギ	
	11	10	板材		21	8			1板目	スギ	
	12	11	板材	a	12	6			1板目	スギ	
				b	11.5	1.5		0.8	1板目	スギ	同番号aと接合
	13	12	板材		11.3	4.5		0.7	1板目	スギ	
	14	13	板材		7	2		0.5	1板目	スギ	最大破片
	15	14	板材		13	12.5			1板目	スギ	
	16	15	板材		12	5			1板目	スギ	
	17	-	底板	a				40	2.5	板目	スギ
				b						板目	スギ

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

4. 考察

1号石組水路より出土した木桶（埋桶）は、調査所見によれば、底板の周りに板材（側板）が1周廻るように出土していたとされている。各部材の観察および樹種同定の結果、板材・底板は板目板を主体としており、すべて針葉樹のスギが利用されていることが確認された。スギは、扇状地扁端や谷沿いなどの比較的水分の多い土地に生育する常緑高木であり、木材の材質は木理が通直で割裂性や耐水性が比較的高いとされている。木桶の出土状況などを考慮すると、加工性が高く、耐水性のある木材の選択が推測される。

なお、甲府城跡および甲府城下町遺跡では、これまでにも施設材や器具材などの木製品を対象とした調査事例が蓄積されている。これらの結果によれば、容器としての桶についてはスギの利用が認められるものの、全体ではヒノキの利用が多い。また、スギの利用状況についてみると、樽蓋、箱、曲物、加工材などに確認され、この他、モミ属やツガ属などの針葉樹も板材を中心に利用が認められている（伊東・山田,2012）。

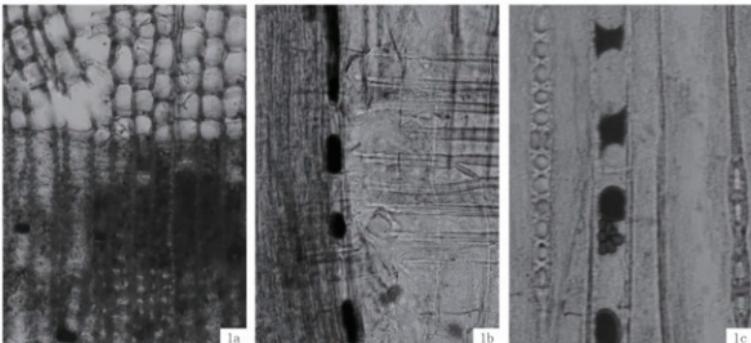
<引用文献>

伊東隆夫・山田昌久（編）,2012,木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社,449p.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz L. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘（日本語版監修）,海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz L and Gasson P.E.,2004,IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .

島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.

図版1 木材



1. スギ(連番15:No.14)
a:木口,b:極目,c:板目

第5章　まとめ

1-1～1-5) 委員会室棟で確認された石敷き遺構について、第3章1-3)で「江戸時代の絵図との照合では湯が出る場所にほぼ一致し」と説明した。そこで、その絵図についてであるが、金沢市立玉川図書館津田文庫蔵の『諸国居城之図集』の中の「甲州府中城図」に極めて重要な記載を見ることができる。それは、四角に囲まれた図と「湯出ル」の記載である。

記載されているその場所は、甲府城内の楽屋曲輪内の北東に位置し、長方形に囲まれた箇所である。「湯出ル」の記載が温泉であるかどうかは別として、湯が出ていたであろう事は事実であり、明らかに「水」と区別しているものと思われる。

その湯であるが、季節によっては湯の温度によって湯気が見られたことであろう。低い温度であっても冬場であれば、周りの気温が湯よりも低ければ湯気は発生する。また夏場で湯気が発生していたならば、かなり湯の温度が高かったことを意味する。

県指定史跡 甲府城跡（下巻）（山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第222集）に掲載されている史IV-3-1-2の絵図（「甲斐国府中城図」池田家文庫（岡山大学附属図書館））では「水湯」という記載が見える。

また『甲斐国志』の中に次のような記載がある。「亦市中ニモ間々蒸氣ノ湧ク処アルハ・・・・・・」、この文中の蒸氣が気になるところである。「市中ニモ」とのことであるが、この表現は「他の場所に蒸氣の湧くところがあつて」市中ニモ湧く処があつたと解釈することができる。

湯が「温かい」というよりもむしろ、もう少し温度が高かったように受け止められ、現在の感覚と相違があるのかもしれないが、この記述が夏場であればそれなりの温度があったことは想像される。

そして『裏見寒話』では、「楽屋曲輪御門前の水道に温泉あり」と記述されている。水の道の箇所に温泉があつたと考えられる。

さて、石敷き遺構についてであるが、第28図(p49)から南北に長辺を持つ四角形を呈している。長辺は、南西(図面の左下)に位置している大型の礫があり、この礫のほぼ中央あたりからポイントであるb'まで約6.1m、短辺は、南西のb'から東へ約3.4mで、礫で構成されている列の外法の計測値である。残存する石列は低く、委員会室棟の建物などにより擾乱は著しいものの、礫に残された黒色変色帯a-a'の石敷き内で認められた帯はほぼ水平を保ち、この帯の上端部を手がかりに推定した深さは10cm前後で、石列の上端部からでは24cm前後の深さを有する。

仮に、この黒色変色帯が「湯」によってもたらされた結果とするならば、石列の高さはさほど高くなかったとも言える。現在で云うならば「足湯」程度のものと想定される。

H25石列3.4は、石敷き遺構の壁を構成する礫である。確認された礫は、石敷きの南東部のコーナー部に残されており、小口面を内側に向けて設置され、大形の礫は一段、小ぶりの礫は二段積みにされランク状を呈しているが、上部は擾乱を受けているためその高さは不明である。

石敷きの底面(第28図p49)については、平坦な礫を使用している。H25-1号溝は、石敷き遺構の北東から南西方向につくられ、南西には大型の礫が存在したため礫に沿って掘削されている。溝の深さは10～20cm、幅は30cm前後を測る。この溝を挟んで石敷きは東と西に分断される。底面は擾乱を受けている箇所もあるが、全体を見通した場合、東より西の方がやや大きな礫を使用しているように見受けられる。礫は小さめのものから30～60cmの大き目のものを配置している。

埋設保存を前提としているため、石敷きの礫をはずしての調査は実施していないが、周辺(第28図p49)では岩盤が見受けられることから、この岩盤の上に礫を敷いているものと判断される。

H26-1号溝は調査区北東部に位置し、北東から延びてきた溝は緩やかに曲線を描いて西側に向きを変えその後は擾乱を受け壊される。溝の構造は第34図(p55)E-E'、F-F'、G-G'のとおり、溝の底に礫を据え、その礫の上に

長手に礫を積み側壁を構成している。溝の幅は 25 ~ 40cm、深さは 20 ~ 30cm である。溝を構成する礫は自然石を使用し、ほとんど加工を伴わないことから江戸時代前期の構築物と考えられる。

2-1) 前庭地点であるが、もともとこの場所には川を模した水棲や巨石などを設置した築山があった。幸いなことに盛土がなされていたことから、遺構の上部は壊されたりしていたが下部はよく残されていた。

残されていた遺構は石垣と水路（第 44 図 p80）である。石垣は土塀と思われる遺構を挟んだ東面と西面で確認された。石垣の裏には栗石が幅約 1m で入れられている。特に東面の石垣の脇には水路が設置されており、南端部では木桶が埋められていた（第 47 図 p83）。この木桶の周辺は、非常に締まりを有し硬化していたことから、この部分については水路の底と考えられる。これより北側については埋設保存の関係もあり掘削は行わなかった。水路の北側（p72 の写真下から 2 段目の左）では、底近くから後世に廃棄された木製品や瓦などが出土した。

木桶であるが、出土状況からみると周辺を締め固めてから桶が入る大きさに掘削し、そして水路に設置する高さで桶を加工して据えたものと思われる。桶の上端部は長い期間の中で朽ち果てたものと思われるが、水路ということもあり比較的良好に残されていた。

木桶の底板の直径は 40cm、側板の長さは 7 ~ 21cm である。それぞれの側板の幅は一定ではないが、およそ 8.4cm 前後であろう。また側板の厚さは 1cm と思われ、底板は 2.5cm である。桶の樹種は、全て杉材である。

木桶の用途であるが、はっきりとしたことはいえないが、現在の溜め舟のような役割であった可能性も考えられる。瓦溜りは 3箇所で確認され、2 号瓦溜りの周辺では当時の生活面であろうか硬化面が確認された。

3-1) 本館一別館間渡り廊下については、西側にある駐輪場の調査（平成 24 年度山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 295 集）で地盤造成層が西から東へ傾斜する版築層（第 59 図 p120）が確認されている。今回の調査においても、この版築層が東へ落ち込んでいくことが確認され、現地表から 120cm まで下がりさらに造成層は落ち込んでいくものと思われる。D-D' では、造成層が現地表から 140cm まで確認された。

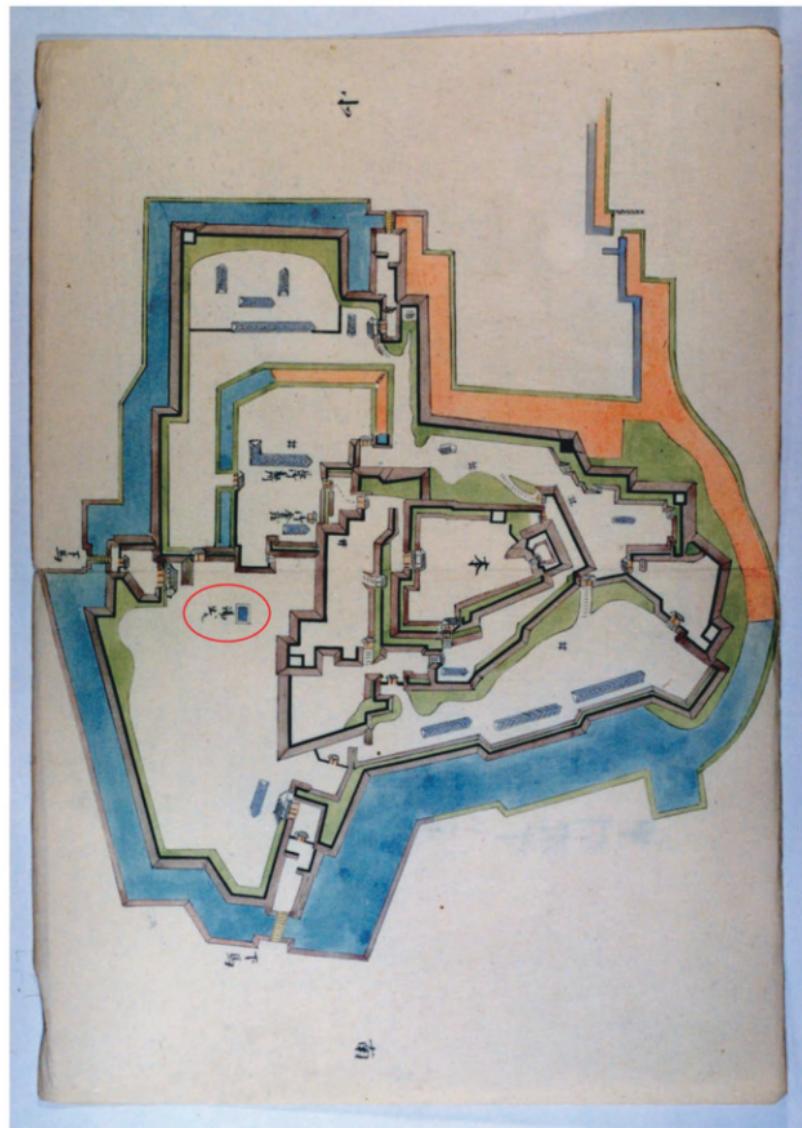
5-2) 県庁構内東門周辺での調査について、現在の東門の場所は、明治時代の初め頃まで甲府城追手門が存在していた場所である。調査の結果、大形の礎石には長方形のホゾ穴と軸摺穴が確認（第 67 図 p137）されたが、石材が割られていたことから当時の礎石の位置が若干動いている可能性はあるものの、ほぼ定位置と考えられる。

また、周辺の調査により門に隣接する石垣も確認された。舞鶴陸橋の建設などによりこの周辺は掘削が行われ残存している可能性は低いと考えられていたが、石垣等基礎部分はかろうじて破壊を免れていた。

6) 西門周辺の調査は、現在の県庁西門を中心として実施された。西門では、石垣を作った土塁の調査で、人跡付近と考えられる。石垣のコーナー部は確認されなかったが、裏栗石の状況や構築石材が 2 段確認（第 69 図 p139）されており高さも 150cm あることからこの石垣がさらに北へ伸び、発見される可能性がある。

このように、県庁構内の各所で立会調査、確認調査および本調査を実施してきた。甲府城内で進められてきた各事業では、石垣や石列、水路などが確認され、その都度設計変更を行なうながら遺構をシートで覆い保護保存を実施してきた。中には遺構が確認されなかった箇所もあるが、築城当時の造成面や生活面の存在を探し知ることのできる場所もある。

県庁構内耐震化等整備事業は、平成 24 年度から平成 27 年度にかけて実施され、27 年度をもって一旦落ち着くこととなる。県庁構内は、平成 13 年度から 17 年度の間に数々の事業が行われ、それぞれ調査を実施し報告してきたところである。そして、今回の報告と併せて県庁構内の楽屋曲輪内をはじめとし、屋形曲輪、追手門、清水曲輪の一部について確認された遺構の保護保存を行ってきた。今後は、絵図と残された遺構とを比較しながらいつの時代の遺構なのかを検討していく時なのであろう。



絵画に描かれた旧甲府城内楽屋曲輪の温泉、○の部分に「湯出ル」の文字あり
『諸国居城之図集』のうち「甲州府中城図」(金沢市立玉川図書館津田文庫蔵)

報告書抄録

ふりがな	こうふじょうあと								
書名	甲府城跡								
副題	県庁舎耐震化等整備事業に伴う確認調査、発掘調査および立会調査								
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書								
シリーズ番号	第313集								
著者名	浅川一郎・三田村美彦・山本茂樹（各事業担当者については、文中に記載）								
発行者	山梨県教育委員会・山梨県総務部								
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター								
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016								
発行年月日	2017年3月17日								
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系 北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積		
所取遺跡	所在地	市町村	遺跡番号						
こうふじょう あと	やまなしけん こうふし まるのうち いっちょうめ	19201	253	35° 39° 50	138° 34° 06	H24年5/28 ～H25年 1/21 H25 年4/22～ H26年3/4 H26年4/9 ～H27年 3/18 H27 年4月～ H28年3月	県庁舎耐震 化等整備事 業による		
甲府城跡	山梨県甲府市丸の内一 丁目6-1								
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
甲府城跡	城郭	近世	・石敷造構・水路・石垣 ・礎石	瓦・陶磁器	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉施設に関係する石敷造構 ・豪居曲輪内の石垣 ・追手門の礎石と石垣 ・排水施設 				
要約	<p>山梨県は、甲府城跡の城内の楽屋曲輪と屋形曲輪の一部、そして清水曲輪の一部に建設されているため、開発事業の内容によって立会調査や確認調査、そして発掘調査を実施してきた。委員会室棟の改築事業では、絵図に描かれている温泉施設に関連する遺構や、それに伴う水路などが確認された。</p> <p>県庁前庭地點では、土刷に沿って水路が確認され、水路の端には木橋が埋設されていた。</p> <p>また、渡り廊下の建設事業では、楽屋曲輪の西の内堀の土塁の造成面が東に傾斜を持っていることが確認された。広い面積の調査であったことにより、近現代の擾乱はあったもののかなり築城当時の遺構が残されており、その遺構を保護保存を行いながら調査を進めた。</p>								

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第313集

甲府城跡

県庁舎耐震化等整備事業に伴う確認調査、発掘調査および立会調査

印刷日 2017(平成29年)3月8日

発行日 2017(平成29年)3月17日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

TEL (055) 266-3016 FAX (055) 266-3882

発行 山梨県教育委員会 山梨県総務部

印刷 株式会社 峠南堂印刷所

